

第八項 前各項ノ外衛生上障害アリト認めタルトキハ其ノ事項
火葬場

- 第一項 地種及構造
 - 第二項 人家ノ風上ニ位スル地ニ非サルヤ
 - 第三項 人家ハ連櫛市狀ヲ爲スカ將タ散點シ居ルヤ
 - 第四項 近傍特ニ風下ニ位スル地ニ人民輻輳ノ場所ナキヤ否ヤ
 - 第五項 前各項ノ外墓地第一項乃至第八項ハ火葬場ニモ適用ス
- 傳染病者ノ死屍埋葬地並排泄物等埋没ノ調査モ前各項ニ準ス

墓地並火葬場管理人配置方ノ件

明治十八年四月
乙第五四號達

本年二月甲第八號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付テハ同規則第十條ニ依リ墓地並火葬場管理人配置方左ノ通心得ヘシ

- 一 墓地管理人ハ一町村二名以上戸長ニ於テ適宜撰定スヘシ
- 一 火葬場管理人ハ其持主ニ於テ適宜相定メ届出テシムヘシ但町村共同ノ火葬場ニ係ルモノハ墓地管理人ヲシテ之ヲ兼シムルモ妨ケナシ

墓地修理保護ニ關スル件

明治三十三年六月
示令第七〇號

墓地ハ常ニ清潔ヲ旨トシ其境界ノ如キモ判然區劃ヲ明ニシ置クヘキ管ノ處現今ノ實況タル多クハ荒草蔓蕪ノ裡ニ没却セラレ殆ント其區域ヲ知ルニ由

〔山梨縣〕

墳墓發掘人骨採拾取締方ノ件

明治三十五年三月
訓示第二六號

近來墳墓ヲ發掘シテ人骨ヲ採拾シ若クハ遺棄セラレタル人骨ヲ蒐集シテ製藥者又ハ藥種商等ニ販賣スルモノ有之趣キ右ハ容易ナラサル事體ニ付將來墓地及火葬場管理者ノ監督ヲ嚴重ナラシムルハ勿論常ニ墓地及火葬場ノ取締ヲ周密ナラシメ若シ違法ノ者アルトキハ假借ナク處分シ不都合ナカラシムル措置置スヘシ

〔山梨縣〕

死産ノ埋、火葬認許證ニ特別番號ヲ附セシムル件

明治三十三年六月二十七日
内務省訓令第二十一號

墓地及埋葬取締規則ニ依リ死産ニ關シ埋火葬認許證ヲ與フルトキハ其順序ニ從ヒ特別ニ番號ヲ附スヘシ

共葬墓地ハ共有地ヲ用ユヘキ件

明治十八年五月
乙第五九號

共葬墓地ハ一町村一ヶ所ニ限リ設置スヘキ管ニ候處實際ノ便宜上不得巳モノハ一町村内ノ一部落又ハ數部落ノ墓葬ニ充ツル爲メ數ヶ所ニ設置スルヲ許スト雖モ墓地及埋葬取締規則第三條ノ通總テ其町村ノ共葬墓地タルヘキ

ナク甚シキハ墓標ノ轉倒散亂シタルモノ往々有之不體裁ノ狀見ルニ忍ヒス右ハ各警察署長分署長ニ於テ個人ノ墓地ニ係ルモノハ其持主ニ共葬墓地ニ係ルモノハ其管理者ニ説諭シ相當ノ保護修理ヲ加ヘ候様注意セラレヘシ

墓地修理保護監督ニ關スル件

明治三十五年七月
訓示第九二號

墓地取締法ニ付テハ既ニ訓示セシ處アリシカ現狀ヲ觀ルニ掃除修理ヲ怠リ其ノ境界ノ如キモ亦判然區劃ヲ爲サス多クハ荒草蔓蕪ノ裡ニ没却セラレ甚シキニ至リテハ墓標ノ轉倒散亂シタルモノ等有之外觀上不體裁ノ狀見ルニ忍ヒス付テハ自今一層嚴格ニ監査ヲ行ヒ個人墓地ニ係ルモノハ其持主ニ共葬墓地ニ係ルモノハ其管理者ニ説諭ヲ加ヘテ宜シク其ノ實行ヲ期スヘシ

火葬場取締方ノ件

明治三十八年九月
衛發第二一三號

火葬場ニ於テ死體燒却ノ委託ヲ受ケ火葬ヲ執行スル際同場附屬ノ人夫力勤ニ火葬籠ヲ開キテ衣類等ヲ窃取シ及死體ヲ損傷シタルノ事實アリ如此ハ單リ風紀ヲ害スルノ甚シキノミナラス復タ其ノ死體ニシテ各種傳染性疾患ニ關係スルモノナルニ於テハ其ノ衛生上ニ及ホス危害モ亦測ルヘカラサル儀ニ有之候如斯陋習ハ往々社會ノ裏面ニ伏在スルモノナルヲ聞ヘモ有之就テハ爾後一層火葬場ノ取締ヲ嚴重ニシ此等陋習ヲ根絶セシムル様其筋ヨリ通牒有之候條以上ノ不都合無之様充分御取締相成度依命此段及通牒候也

ニ付該地所ハ即チ町村共有地ニ相定ムル儀ト心得ヘシ
有此旨相達候事但從前一部落若クハ數部落共ニシテ地券下付シタル分モ之アラハ此際書換下付スヘク候條書換方可申出事

寺院境內檀家共葬墓地ノ件

明治十八年四月
甲第三三號布達

寺院舊境內ニ係ル從前檀家共葬ノ墓地及ヒ寺院單用墓地ニシテ官有地第三種ニ屬スルモノハ自今民有地第二種ニ編入シ檀家共葬墓地ハ地元町村ノ共有トシ寺院單用ニ係ル墓地ハ其寺院ノ所有トシテ下渡スヘシ但地元町村ニ下渡ス墓地ニシテ從前檀家ノ故ヲ以テ他町村ノ者埋葬シ來リタルモノハ其慣行ニ從ヒ今後仍ホ埋葬スルヲ得ルト雖トモ地元町村ノ規定ニ從ヒ墓地ニ關スル相當ノ費額ヲ納付スヘシ

傳染病ノ死屍普通火葬場ニテ火葬方ニ關スル件

明治二十六年三月
山梨縣訓令第七號

傳染病死屍ノ火葬ハ普通火葬場ニ於テ執行シ妨ケ無之ニ付テハ別ニ傳染病火葬場ノ必要無之候條自今假令該病屍死火葬ノ目的ヲ以テ設置スルモノト雖トモ單ニ火葬場トシテ許可ヲ受ケヘシ但從前設置シタル傳染病死屍火

葬場ハ爾來普通火葬場トスヘシ

●傳染病ノ死屍其他埋却場設置方ノ件

明治十八年九月 乙第一〇二號

明治十四年本縣乙第五十號達相廢條自今傳染病者ノ死屍埋却場並排泄物汚穢物燒棄埋却場設置之儀ハ左ノ通相心得ヘシ

- 一 傳染病者死屍埋却場ハ普通ノ墓地ト各別ニ設置スルヲ要ス但シ土地ノ模樣ニ依リ已ムヲ得サルモノハ普通墓地ヲ區別シテ之ニ充ルヲ得
- 一 排泄物汚穢物ノ埋却場ハ傳染病死屍ヲ埋却場内ニ區別ヲ立テ設置スヘシ但土地ノ模樣ニ依リ已ムヲ得サルモノハ別ニ之ヲ設ケルヲ得
- 一 前各項ニ依リ墓地及排泄物汚穢物ノ埋却場ヲ新設セントストキハ本年甲第八號布達墓地及埋却場取締規則第二條ニ依リ取調ヘ縣廳ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ其在來ノ普通墓地ヲ區別シテ傳染病者死屍ノ埋却場ニ充テ及ヒ傳染病者死屍埋却場ヲ區別シテ排泄物ノ埋却場ニ充ツルモノハ何出テ認可ヲ受ケヘシ
- 一 傳染病者死屍火葬ハ普通火葬場ニ於テスヘシ

●胞衣及產汚物取締規則

明治二十九年五月 山梨縣令第十九號

第一條 胞衣及產汚物ハ人家、飲用井戸飲用水路ヲ距ル二十間以内ノ地ニ於テ埋却又ハ燒却スヘカラス

〔山梨警〕

第二條 胞衣及產汚物ノ埋却ハ深サ三尺以上タルヘシ

第三條 胞衣及產汚物取扱營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ヘ願出許可ヲ受ケヘシ但營業者ニアラサルモ共同ノ埋却場又ハ燒却場ヲ設ケントストルモノ亦同シ

一 埋却場又ハ燒却場ノ位置及人家、飲用井戸、飲用水路道路ヘノ距離

二 埋却場及取扱方法

三 地種目及段別

四 第一項ノ狀況ヲ見ルヘキ圖面

第四條 第三條ノ埋却場又ハ燒却場ハ人家、飲用井戸及ヒ飲用水路ヲ距ル六十間以上タルヘシ

第五條 本則第一條乃至第三條ニ違背シタルモノハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

●胞衣及產汚物埋納等ノ際實地檢査ノ件

明治二十年五月 示令第三〇號

明治二十九年五月縣令第十九號胞衣及產汚物取締規則第三條ノ出願者アリタルトキハ實地檢査ノ上意見ヲ付シ進達スヘシ

●胞衣及產汚物埋納等ノ際實地檢査ノ件

大正十四年十一月 警訓第三七號

爾今胞衣及產汚物埋納場又ハ燒却場ヲ設置セムトスルモノアル場合ハ規則

〔山梨警〕

第二條 斃獸ハ燒却又ハ埋却スベシ但シ肥料ニ供セムトスルモノハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケベシ

第三條 牛馬羊豚ノ屍體ヲ燒却又ハ埋却セムトスルトキハ所轄警察官署ニ届出ツベシ

第四條 斃獸ノ届出及處分ハ其ノ畜主又ハ管理人ニ於テ之ヲ爲スベシ但シ畜主管理人ナキトキハ所在地ノ市町村長ニ於テ處分スベシ

第五條 斃獸ノ燒却埋却斃獸捨場ニ於テ爲スベシ

第六條 其ノ皮ヲ剥取リ又ハ支解セムトスルトキ亦同ジ

第六條 埋却ノ深サハ牛馬羊豚ノ如キ形體ノ大ナルモノハ四尺以上其ノ小ナルモノハ二尺以上トスベシ

第七條 埋却シタル斃獸ハ之ヲ發掘スルコトヲ得ズ

第八條 斃獸捨場ヲ設ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケベシ

一 地名字番號段別

二 公道鐵道線河川及飲用水人家ノ距離ヲ記シタル圖面

第九條 斃獸捨場ハ公道鐵道線河川及飲用水ヲ離隔スルコト三十間以上人家ヲ離隔スルコト六十間以上ニアラザレバ設置スルコトヲ許サズ

第十條 斃獸捨場ハ常ニ不潔ナラザル様掃除スベシ

第十一條 斃獸捨場ハ其ノ區域ヲ明カニシ目標ヲ建ツベシ

第十二條 本則第二條第三條第五條乃至第七條ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

第十三條 從前設置シタル斃獸捨場ニシテ本則第九條ニ抵觸スルモノハ明治三十三年十二月一日以後ハ無効トス

附則

●胞衣及產汚物埋納場又ハ燒却場設置ニ關スル件

明治二十九年七月 訓第一五七號

胞衣及產汚物ハ土地ニ依リ家屋ノ敷地内又ハ附近ニ埋納スル習慣アリ元來是等ノ不潔物ヲ人家附近ニ埋沒スルカ如キハ衛生上特ニ排斥スヘキ弊習ナリトス故ニ本年五月縣令第十九號ヲ以テ胞衣及產汚物取締規則ヲ發布シ其第一條ニ於テ埋納又ハ燒却スル事ヲ禁シタリ然ルニ土地ニ依リテハ個人ノ埋納場トシテハ適當ノ場所少ナク殊ニ取扱營業者モ無之趣キニ付可成町村若クハ區ノ共用ノ埋納場又ハ燒却場ヲ設置セシムル様勸誘スヘシ

●斃獸及斃獸捨場取締規則

明治三十三年六月 山梨縣令第二十五號

改正 大正一三年四月縣令第九號
第一條 家畜ニシテ外傷不慮ノ災害ニ因リ又ハ傳染病ニアラサル疾病ニ罹リ斃死シタルトキハ本則ニ依ルヘシ

●斃獸届出ニ診斷書又ハ檢案書等 添付ニ關スル件

大正十三年五月
衛發第二〇四號

本年四月三日縣令第八號ヲ以テ家畜傳染病豫防法施行細則公布セラレ同則第五條ニ於テ牛馬羊豚等斃死届出ニハ獸醫ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添付セシムルヲ原則ト爲シ居ルモ同則但書中警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ必要ナシト認メ診斷書又ハ檢案書省略ノ場合ハ左ノ通心得取扱上遺算ナキヲ期セラルヘシ

左記

- 一 外傷不慮ノ災害ニシテ死因明確ナルモノ
- 二 獸醫ノ診療ヲ受ケ居リ病名判明ナルモノ
- 三 其ノ他病名判明シ傳染病ノ疑ナキモノト認メタルモノ

●斃獸届出ニ診斷書又ハ檢案書等 添付ニ關スル件

大正十五年三月
衛發第九五號

首標ノ件ニ關シテハ大正十三年五月三十日付衛發第二〇四號ヲ以テ取扱方指示シタルモ爾今當分ノ間傳染病ノ疑アルモノ若ハ發生ノ際ヲ除ク外家畜傳染病豫防法施行細則第五條但書ニ依リ診斷書又ハ檢案書ヲ省略シ差支ナキニ付適當ニ取扱ヲ爲スヘシ

〔山梨警〕

●老死或ハ尋常病死ノ禽獸ハ其皮 ヲ剥取及肉骨ヲ培養ニ用フルヲ 許ス

明治六年三月
太政官布達第七十六號

病死禽獸ヲ食料ノタメ致賣買候ハ兼テ嚴禁ニ候處天然老死或ハ尋常ノ斃死ニ候モノハ皮剥取骨肉等田圃ノ培養ニ相用候儀不苦候條於各地方右辨別厚ク可致注意候事
但流行病死ノモノハ煙棄勿論ニ候事

●人家稠密ノ地ニ於テ牛豚類豕養 ヲ禁ス

明治六年五月十五日
太政官布達第六十三號

方今牛豚類ノ牧畜盛行ハ候所温暑ノ時ニ於テハ其ノ臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラス近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ醸シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ豕養ノ儀堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布告到達ノ日ヨリ三十五日以内ニ於テ郊外便宜ノ地ニ立退養可致事

但東京府下朱引内ハ假令草野空間ノ地ト雖トモ豕養不相成候尤乳汁搾取ノタメ豕養ハ被差許候得共不潔臭穢ノ儀モ有之候ヘハ詮議ノ上可令取拂

〔山梨警〕

●人家稠密ノ地ニ於テ牛豚類豕養 ヲ禁ス

明治七年一月九日
大藏省布達第三號

昨明治六年第六十三號ヲ以テ公布相成候趣者專人心保護之タメ市街等人家稠密之地ニ而豕養ヲ制限候管ニ候條山僻邑等ハ實地適宜ニ斟酌可致此旨相達候事

●山梨縣警察犯處罰令第二條第十 四號ノ許可標準

明治四十二年四月
山梨縣訓令甲第二十三號

多量ノ蛹ハ左ノ距離以内ニ於テ日光ニ乾燥スルコトヲ許可スヘカラス
一 人家稠密ノ地ニ在テハ人家ヲ距ル二百間
二 鐵道停車場、學校、病院、傳染病院、隔離病舎ヲ距ル二百間
三 公道飲用水ヲ距ル三十間
乾燥セサル多量ノ蛹ハ前項第一號第二號ノ距離以内ニ於テ貯藏ヲ許可スヘカラス

第七章 防疫

● 傳染病豫防法

明治三十年四月一日
法律第三十六號

改正 明治三十八年三月法律第五十六號、大正一二年四月第三二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル傳染病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

傳染病豫防法

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ「コレラ」、赤痢(疫痢ヲ含ム)、腸「チフス」、「バラチフス」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、「ザフテリア」、流行性腦脊髄膜炎及「エスト」ヲ謂フ

前項ニ掲グルル病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ前項ニ依リ指定スル傳染病ニ對シ命令ヲ以テ此ノ法律ノ一部ヲ限リ適用シ又ハ地域ヲ限リ此ノ法律ノ全部ヲ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條 此ノ法律ハ「コレラ」及「エスト」ノ疑似症ニ對シ之ヲ適用ス
「コレラ」及「エスト」以外ノ傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ命令ノ規定ニ從ヒ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條ノ二 傳染病ノ病原體保有者ハ此ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者ニ對シ此ノ法律中傳染病患者ニ關スル規定ニシテ適用シ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ
前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戸主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貨席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ
前項ノ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘキ義務者ニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシムヘシ

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病舎ニ隔離シ其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得
第八條ノ二 傳染病患者ハ業態上病舎傳播ノ虞アル業務ニ従事スルコトヲ得ス

前項ノ業務ノ範圍ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條 傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經テ内ニ埋葬スルコトヲ得

第十三條 傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得但シ特別ノ事由ニ因リ必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戸主、首長、管理人又ハ代理人ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第八十三條町村制第六十九條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

得ス但シ之方爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得
船舶汽車電車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車電車中ニ傳染病患者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス在監人出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ
前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車電車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

〔山梨管〕

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得
一 健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト
二 市街村落ノ全部若ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離スルコト
三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト
四 古著、襪、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若ハ爲サシムルコト
五 傳染病傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ其ノ飲食物ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若ハ爲サシムルコト
六 汽車、船舶、製造所若ハ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ雇入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト
七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、厠園ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト
八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠族、昆蟲等ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

第十九條 第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部ニ對シ家用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其ノ停止期間家用水ノ供給ヲ爲スヘシ

第二十條 諸官廳及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス
一 豫防委員ニ關スル諸費
二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費
三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費

若ハ停止スルコト
九 鼠族、昆蟲等ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト
第二十條 諸官廳及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ
第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス
一 豫防委員ニ關スル諸費
二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費
三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費

- 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費
- 五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料
- 六 第八條ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費及交通遮斷、隔離ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費
- 七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費
- 八 市町村ニ於テ施行スル鼠族、昆蟲等ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費
- 九 第十七條ノ二ニ依レル家用ノ供給ニ關スル諸費
- 十 第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金
- 其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費
- 第二十二條 左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
 - 一 第十八條ニ關スル諸費
 - 二 手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費
 - 三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費、交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關スル諸費
 - 四 前各號ノ外此ノ法律ニ依リ地方長官ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費
- 其ノ他道府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費
- 第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得
- 市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費

〔山梨管〕

- 用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得
- 第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ補助スヘシ
- 第二十五條 國庫ハ勅令ノ規定ニ從ヒ第二十二條第二十四條ノ北海道地方費又ハ府縣費ノ支出ニ對シ其ノ六分一乃至三分一ヲ補助スルモノトス
- 第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルニ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ時限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得
- 私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セザルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス
- 第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施設スヘキ事項ヲ施設セス若ハ之ヲ施設スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ施設シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施設シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徴スルコトヲ得
- 私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セザルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス
- 第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徴ニ關シ不服アル私人ハ訴訟法ニ依リ訴訟スルコトヲ得

〔山梨管〕

日ヨリ廢止ス

●傳染病豫防法第二十五條ノ規定ニ依ル國庫補助ニ關スル件

大正十一年九月三十日
勅令第四百二十一號

- 一 「コレラ」及「ペスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル費用
 - 三分ノ一
 - 三分ノ一
 - 六分ノ一
 - 二 其ノ他ノ諸費
- 本令ハ大正十一年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十一年十月一日ヨリ施行)

- 第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十一條 第四條、第五條、第八條ノ二、第九條、第十條、第十一條第一項、第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 附則
- 第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セザル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三十三條 海外諸港並朝鮮臺灣及樺太ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
- 第三十六條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ

● 傳染病豫防法施行規則

大正十一年九月三十日
內務省令第二十四號

改正 大正一五年內務省令第一六號、昭和二年第二號、三年第一四號
傳染病豫防法施行規則左ノ通定ム

第一章 傳染病發生ノ通報及届出

- 第一條 地方長官傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ內務大臣ニ報告シ且交通密接ノ地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト認ムル者ニ通知スヘシ
- 第二條 地方長官ハ傳染病豫防法第一條第一項ニ掲タル十病ノ外同法ニ依リ豫防方法ヲ施行スルノ必要アリト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シ且傳染病豫防法中其ノ適用スヘキ規定及同法ヲ適用スヘキ地域ニ關スル意見ヲ付シ內務大臣ニ報告スヘシ
- 第三條 傳染病豫防法第三條及第四條ノ届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタル場合ニ於テ其ノ患者又ハ死體ニ關シ既ニ傳染病豫防法第三條ノ届出アリタルコトヲ知リタルトキハ同一事項ニ付更ニ同條ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス其ノ轉歸ノ場合亦同シ
- 第五條 警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル事實アルコトヲ知リタルトキハ互ニ通知スヘシ

- 第六條 地方長官「コレラ」及「ベスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用スル場合ニ於テハ其ノ傳染病ニ對シ適用セラルル傳染病豫防法ノ規定ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第七條 地方長官「コレラ」及「ベスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法第二條第二項及前條ニ依リ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用シタルトキハ內務大臣ニ報告スヘシ其ノ適用ヲ止メタルトキ亦同シ
- 第八條 傳染病ノ病原體保有者又ハ其ノ保護者ハ地方長官ニ對シ其ノ病原體ノ有無ニ關シ檢査ヲ請求スルコトヲ得
- 第九條 「コレラ」、「チフス」及流行性腦脊髄膜炎ノ病原體保有者ニ在リテハ二十四時間以上、赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ノ病原體保有者ニ在リテハ四十八時間以上ノ間隔ヲ置キ採取シタル檢査材料ニ付細菌學的檢査ヲ行ヒ引續キ二回以上病原體ノ存在ヲ證明セサル場合ニ於テ病原體消失シタルモノト看做ス
- 第十條 檢査材料ハ「コレラ」及赤痢ニ付テハ尿、腸「チフス」及「バラチフス」ニ付テハ尿、腸「チフス」及「バラチフス」ノ病原體保有者ニシテ前條ニノ粘液トス
- 第十一條 赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ノ病原體保有者ニシテ前條ニ

該當スルモノハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 便所ハ成ルヘク之ヲ專用トシ上圖ノ都度便池ニ消毒藥ヲ投入スルコト
- 二 便所ノ手洗水ニハ消毒藥ヲ用ウルコト
- 三 便器ハ使用ノ都度之ヲ消毒スルコト
- 四 尿尿ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒スルコト
- 「チフス」及流行性腦脊髄膜炎ノ病原體保有者ニシテ前條ニ該當スルモノハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 食器、手拭、衣類、寝具、溼掛、玩具等ハ之ヲ專用トシ衣類、寝具ハ時々日光ニ曝スコト
 - 二 鼻汁、唾痰ノ附著シタル布片、紙片其ノ他鼻汁、唾痰ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト
 - 三 劇場、寄席、活動寫眞館等興行場其ノ他多衆ノ集合スル場所ニ立入ラサルコト
- 病原體保有者ノ保護者ハ病原體保有者ヲシテ前二項ノ事項ヲ遵守セシムヘシ
- 第十二條 「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者其ノ居住ノ場所ヲ他ニ移サントスルトキハ病原體保有者又ハ其ノ保護者ニ於テ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ届出ヲ受ケタル吏員ハ病原體保有者ノ移轉スヘキ地ノ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ通知スヘシ
- 第十三條 第八條第十一條第三項及前條ニ於テ保護者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ
 - 一 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ未成年者若ハ禁治產者ノ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ戶主ノ後見人
 - 二 教育、監護又ハ備使ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ寄寓セシムル者又ハ其

ノ法定代理人

- 第十三條 清潔方法及消毒方法ノ施行
 - 第十四條 市町村長及豫防委員傳染病患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルコトヲ知リタルトキハ速ニ其ノ家ニ付清潔方法及消毒方法ヲ施行セシムヘシ
 - 第十五條 傳染病豫防法第十一條第一項ノ消毒方法及同法第十九條第七號又ハ第九號ニ依リ地方長官ノ命シタル傳染病豫防上必要ナル事項ハ市町村長及豫防委員ニ於テ之ヲ施行セシムヘシ
 - 第十六條 傳染病豫防法第二十六條第一項ニ依ル清潔方法及消毒方法ハ市町村長及豫防委員ニ於テ之ヲ施行スヘシ
- 第十四條 清潔方法
 - 一 「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ニ付テハ井戸側、井戸流、臺所流、下水溝、汚水溜、便所、芥溜等ニ就キ不潔ナル場所ヲ掃除シ必要アル場合ニ於テハ其ノ修理及井戸液ヲ爲シ且蠅ノ驅除及蠅ノ發生シ易キ場所ノ掃除ヲ行フコト
 - 二 痘瘡、猩紅熱、「チフス」及流行性腦脊髄膜炎ニ付テハ衣類、寝具、玩具、疊、敷物等ヲ清潔ニスルコト
 - 三 發疹「チフス」ニ付テハ虱ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寝具等虱ノ棲息シ易キ物件ヲ清潔ニスルコト
 - 四 「ベスト」ニ付テハ鼠族、蛋及南京蟲ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寝具、疊、敷物、床下等蛋及南京蟲ノ棲息シ易キ物件及場所ヲ清潔ニシ及掃除スルコト
 - 五 室内ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト
- 第十五條 前項ノ清潔方法ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ除クノ外消毒方法ノ施行ヲ了リ

第十八條 前後以外ノ場合ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ

- 一 宅地及家屋ノ内外ヲ掃除スルコト
- 二 室内ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト
- 三 疊、敷物等ヲ日光ニ曝スルコト
- 四 床下ハ換氣ヲ充分ニシ濕潤者シキモノハ乾燥セル土砂ノ類ヲ撤布スルコト
- 五 汚水停留ノ場所又ハ濕潤著シキ場所ハ之ヲ埋メ又ハ排水ヲ充分ニスルコト
- 六 前各號ノ外特別ノ必要アルトキハ前條第一項第一號乃至第四號ニ準シ處置スルコト

第十九條 清潔方法ヲ施行スル場合ニ於テハ置ニ消毒藥ヲ撒布スヘカラ

傳染病ノ流行ニ際シ溝渠ヲ掃除スル場合ニ於テ必要アルトキハ燻製石灰末、普通石灰又ハ「クロール」石灰水ヲ以テ消毒シタル後淺深スヘシ

第二十條 清潔方法ヲ施行シ因リ生シタル汚泥、塵芥ノ類ハ適當ノ運搬器具ニ入レ一定ノ場所ニ投棄シ又ハ焼却スヘシ

第五章 消毒方法

第二十一條 消毒方法ハ左ノ四種トス

- 一 焼却
 - 二 蒸気消毒
 - 三 煮沸消毒
 - 四 藥物消毒
- 第二十二條 蒸気消毒ニハ流通蒸気ヲ用キ成ルヘク消毒器内ノ空氣ヲ排除シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ
蒸気消毒ヲ施行セムトスルトキハ左ノ事項ニ注意スヘシ

消毒ニ因リ褐色ノ炭アルモノハ蒸気消毒ヲ避ケ他物ニ染色ノ虞アルモノハ他物ト混シ蒸気消毒ヲ行ハサルコト
衣類ハ襟ノ袖又ハ衣囊ヲ檢査シ爆發又ハ發火シ易キ物件アルトキハ之ヲ取出スコト

第二十三條 煮沸消毒ハ消毒スヘキ物件ヲ全部水ニ浸漬シ沸騰後三十分間以上煮沸スヘシ

第二十四條 藥物消毒ニ用ウヘキ藥品其ノ製法及用法左ノ如シ

- 一 石炭酸水 防疫用石炭酸三
石炭酸水ヲ製スルニハ定量ノ防疫用石炭酸ニ少量ノ湯又ハ水ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツツ徐々ニ水ヲ注キ定量ニ至ラシムヘシ
- 二 「クレゾール」水 三分水九十七分
「クレゾール」水ヲ製スルニハ定量ノ「クレゾール」石鹼液ニ定量ノ水ヲ加フヘシ
- 三 「クレゾール」水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スヘシ
昇水水 昇水一分、普通食
昇水水ヲ製スルニハ定量ノ昇水及普通食鹽ヲ定量ノ水ニ溶解シ又ハ昇水鏡(鏡中昇水〇、五)ヲ一錠ニ付水約五百「グラム」ノ割合ニ溶解スヘシ
- 四 昇水水ハ金屬製ニ非サル容器ニ之ヲ貯藏シ其ノ昇水鏡ヲ用キサルモノハ「スカレット」、「フクシンス」其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘ著色シ別シ易カラシムルコトヲ要ス
- 燻製石灰 少量ノ水ヲ注ケ熱
燻製石灰 燻製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ

内務大臣ノ指定シタル藥品ニシテ傳染病研究所ノ檢定ニ合格シタルモノ又ハ之ヲ原料トシテ傳染病研究所ノ指示スル製法ニ從ヒ調製シタル藥品ハ傳染病研究所ノ指示スル所ニ從ヒ之ヲ前項各號ノ藥品ニ代用スルコトヲ得

第二十五條 「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノノ概ネ左ノ如シ

- 一 尿、吐瀉物及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
- 二 死體
- 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
- 四 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
- 五 患者ノ用ニ供シタル飲食器具、患者ノ飲食物殘渣等
- 六 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
- 七 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
- 八 便所、便池、手洗鉢等
- 九 臺所、臺所器具、井戸、水槽等
- 十 芥瀉、下水溝等
- 十一 痘瘡及猩紅熱ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノノ概ネ左ノ如シ
鼻汁、唾痰、膿汁、痲皮、落屑及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
- 十二 死體
- 十三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
- 十四 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
- 十五 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
- 十六 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
- 十七 發疹「チフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノノ概ネ左ノ如シ
鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
- 十八 死體
- 十九 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
- 二十 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等

燻製石灰末ヲ製スルニハ用ニ臨ミ燻製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲スヘシ

- 一 燻製石灰末 燻製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スヘシ
- 二 燻製石灰末 燻製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スヘシ
- 三 燻製石灰末 燻製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スヘシ
- 四 燻製石灰末 燻製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スヘシ
- 五 燻製石灰末 燻製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スヘシ
- 六 燻製石灰末 燻製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スヘシ
- 七 燻製石灰末 燻製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スヘシ

第二十一條 消毒方法ハ左ノ四種トス

- 一 焼却
- 二 蒸気消毒
- 三 煮沸消毒
- 四 藥物消毒

- 一 消毒器内又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「ホルマリン」四十「グラム」以上ヲ噴霧セシメ又ハ「ホルムアルデヒド」四十「グラム」以上ヲ噴霧セシメ又ハ「ホルムアルデヒド」四十「グラム」以上ヲ發生セシメ同時ニ約百「グラム」以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ
- 二 物件ノ内部ニ至ル迄消毒スルノ必要アルモノニハ真空裝置ニ依ルニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス
- 三 真空裝置ニ依ル消毒時間ハ其ノ裝置ニ依リ之ヲ定ムヘシ
氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒器内又ハ土藏造、洋風建物、船舶、汽車等ニシテ戸扉、窓孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス

- 五 病室ノ疊、敷物等
 - 「アフトリア」及流行性腦脊髄膜炎ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概テ左ノ如シ
 - 一 鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
 - 二 患者ノ用ニ供シタル衣類、寢具等
 - 三 看護人及其ノ用ニ供シタル衣類、寢具等
 - 四 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍、玩具等
 - 五 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
 - 「ベスト」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概テ左ノ如シ
 - 一 血液、鼻汁、唾痰、膿汁及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
 - 二 死體
 - 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
 - 四 看護人其ノ他病室ニ接觸シタル者及其ノ用ニ供シタル衣類、寢具等
 - 五 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
 - 六 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
 - 七 鼠ノ棲息、交通スル場所
- 第二十六條** 消毒方法ノ應用概テ左ノ如シ
- 一 患者
 - 患者ハ治癒シタルトキ入浴セシメ衣類ヲ更メシムヘシ但シ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代フルコトヲ妨ケス
 - 入浴ニ使用シタル水ノ消毒ハ第十二條ニ依ル
 - 二 死體
 - 死體ヲ棺ニ斂ムルニハ其ノ衣類ニ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ヲ充分撒布シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ニ浸漬シタル布片ヲ以テ死體ヲ包ミ又ハ棺内ニ普通石炭酸水ヲ填ツヘシ
 - 三 尿尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物
 - 尿尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ同容量ノ石炭酸水若ハ「クレゾール」水、其ノ容量ノ三十分ノ一以上ノ燻製石灰末又ハ其ノ容量ノ五

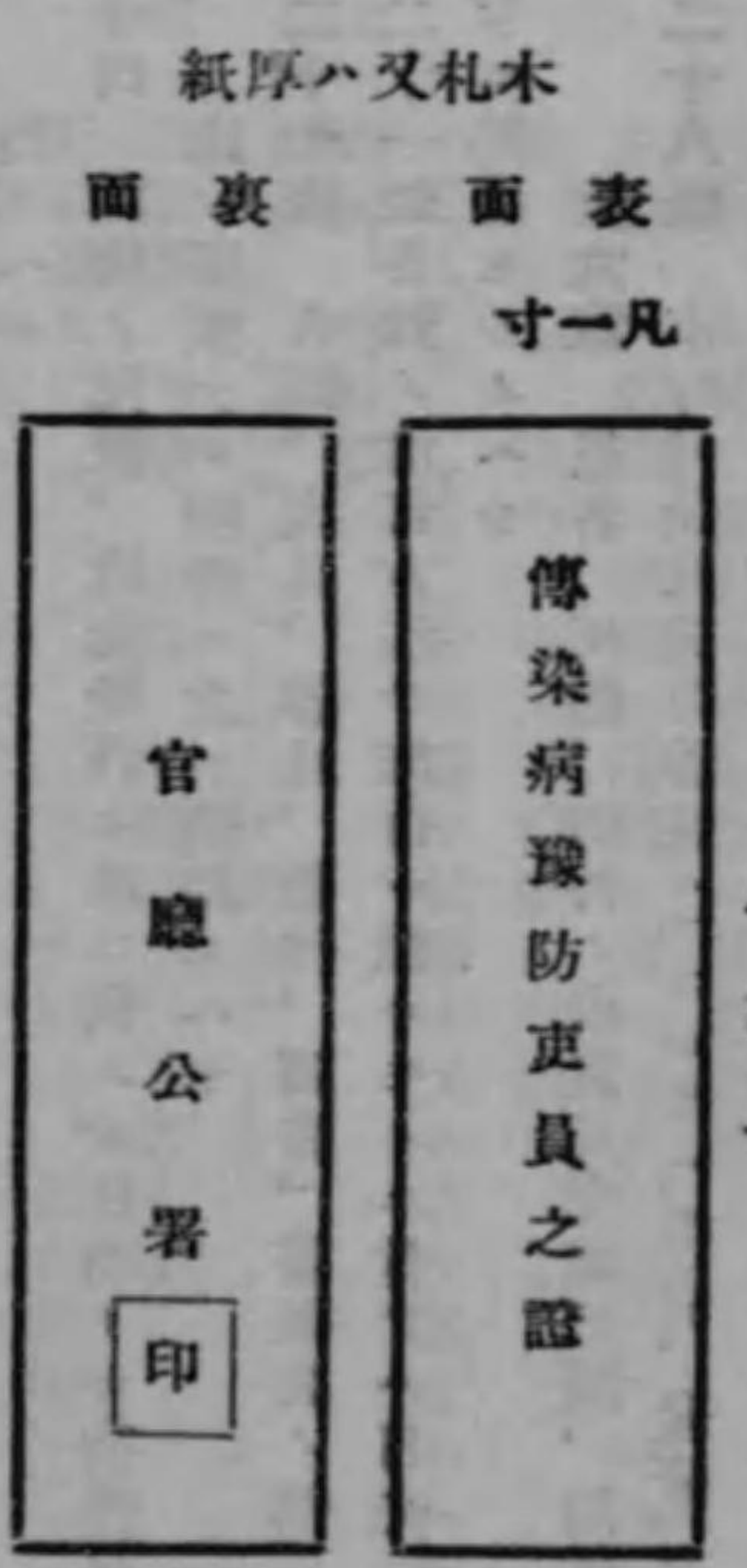
- 分ノ一以上ノ石灰乳若ハ「クロール」石灰水ヲ加ヘ充分攪拌シタル後二時間以上放置シ又ハ之ヲ煮沸シ若ハ燒却スヘシ
- 昇汞水及「フォルマリン」水ハ本條ノ消毒ニ適セス
- 四 病室ニ接觸シタル者
- 看護人、患者ノ家人、消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物等ノ運搬ニ從事シタル者其ノ他病室ニ接觸シタル者ハ時々又ハ其ノ都度手足ヲ消毒シ入浴スヘシ
- 手足ノ消毒ニハ石炭酸水、「クレゾール」水又ハ昇汞水ヲ使用スヘシ
- 衣類、寢具、敷物、布片等
- 五 蒸氣消毒若ハ煮沸消毒ヲ行ヒ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ニ二時間以上浸漬シ又ハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ
- 絹布、毛織物、綿、綿入蒲團、羽蒲團等ハ成ルヘク蒸氣消毒ヲ行ヒ又ハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ
- 六 患者、死體、病室汚染物件ノ運搬器具
- 患者、死體又ハ病室汚染物件若ハ汚染ノ疑アル物件ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、車等ハ使用ノ都度石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ又ハ之ヲ撒布スヘシ
- 七 圖書、書類等
- 「フォルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ
- 八 硝子器、陶器、磁器、鍍製品、竹木製品等
- 石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水、石灰乳若ハ「フォルマリン」水ニ浸漬シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ汽熱ニ堪フルモノニ付テハ蒸氣消毒若ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ

- 飲食器具、玩具、金屬製品等ノ消毒ニハ昇汞水ヲ使用スヘカラス
- 革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護膜製品、「セルロイド」製品、護膜製品、糊附品、膠附品、紙製品、毛皮、象牙、藍甲、角等
- 石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ若ハ之ヲ撒布シ又ハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ
- 蒸氣消毒及煮沸消毒ハ本條ノ消毒ニ適セス
- 十 室内各部
- 石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スヘシ但シ密閉シ得ヘキ場合ニ於テハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スルコトヲ得
- 十一 便所、芥溜、溝渠等
- 便所ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ便池、肥料溜等ニハ燻製石灰末、石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ注キ充分攪拌スヘシ但シ尿尿ハ消毒後一週間ヲ經過スルニ非サレハ肥料ニ供スルコトヲ得ス
- 芥溜及土地ニハ石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ、溝渠ニハ燻製石灰末、石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ注キ塵芥ハ之ヲ燒却スヘシ
- 燻製石灰末ハ乾燥セル場所ノ消毒ニ適セス
- 十二 井戸、水槽、汚水等
- 井戸、水槽、汚水等ニハ水量ノ五十分ノ一ノ燻製石灰ヲ乳狀ト爲シタルモノ若ハ水量ノ五十分ノ一ノ「クロール」石灰水ヲ投入シ充分攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リ熱蒸氣ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ
- 昇汞水ハ飲料水ニ滲透スルノ虞アル場所ノ消毒ニ之ヲ使用スヘカラス
- 十三 船舶、汽車、電車等

- 船室又ハ車室内部ノ消毒ハ第十條ニ準スヘシ
- 船底水ニハ其ノ容量ノ二百分ノ一ノ燻製石灰末又ハ其ノ容量ノ二千分ノ一ノ「クロール」石灰水ヲ加ヘ二十四時間ヲ經過シタル後之ヲ排出スヘシ
- 十四 動物ノ死體、消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキ物件又ハ消毒費用ニ比シ廉價ナル物件ハ之ヲ燒却スヘシ
- 第二十七條 衣類、寢具、器具、敷物、圖書、書類其ノ他ノ物件ニシテ第二十一條各號ノ消毒方法ヲ施行シ難キモノニ付テハ日光ニ曝シ又ハ大氣中ニ乾燥セシムヘシ
- 第六章 患者、死體、物件ノ處置及交通遮斷、隔離
- 第二十八條 市町村長及豫防委員ハ「コレラ」、痘瘡、發疹「チフス」又ハ「ペスト」ノ患者アリタル場合ニ於テハ特別ノ事由アルモノヲ除クノ外之ヲ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシムヘシ其ノ他ノ傳染病患者アリタル場合ニ於テ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキ亦同シ
- 第二十九條 警察官吏及檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ「コレラ」、發疹「チフス」又ハ「ペスト」ニ限り左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得
- 一 患者アル間及患者ヲ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメタル後又ハ患者轉歸ノ後消毒方法ノ施行ヲ了ル迄其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト
- 二 前號ノ外傳染病汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ノ消毒方法ノ施行ヲ了ル迄其ノ交通ヲ遮斷スルコト
- 三 前二號ノ家ノ居住者其ノ他傳染病汚染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「コレラ」ニ付テハ五日以内、發疹「チフス」ニ付テハ十四日以内、「ペスト」ニ付テハ十日以内隔離所又ハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト
- 四 交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者ヲ發生シ其ノ他傳染病汚染シ又ハ

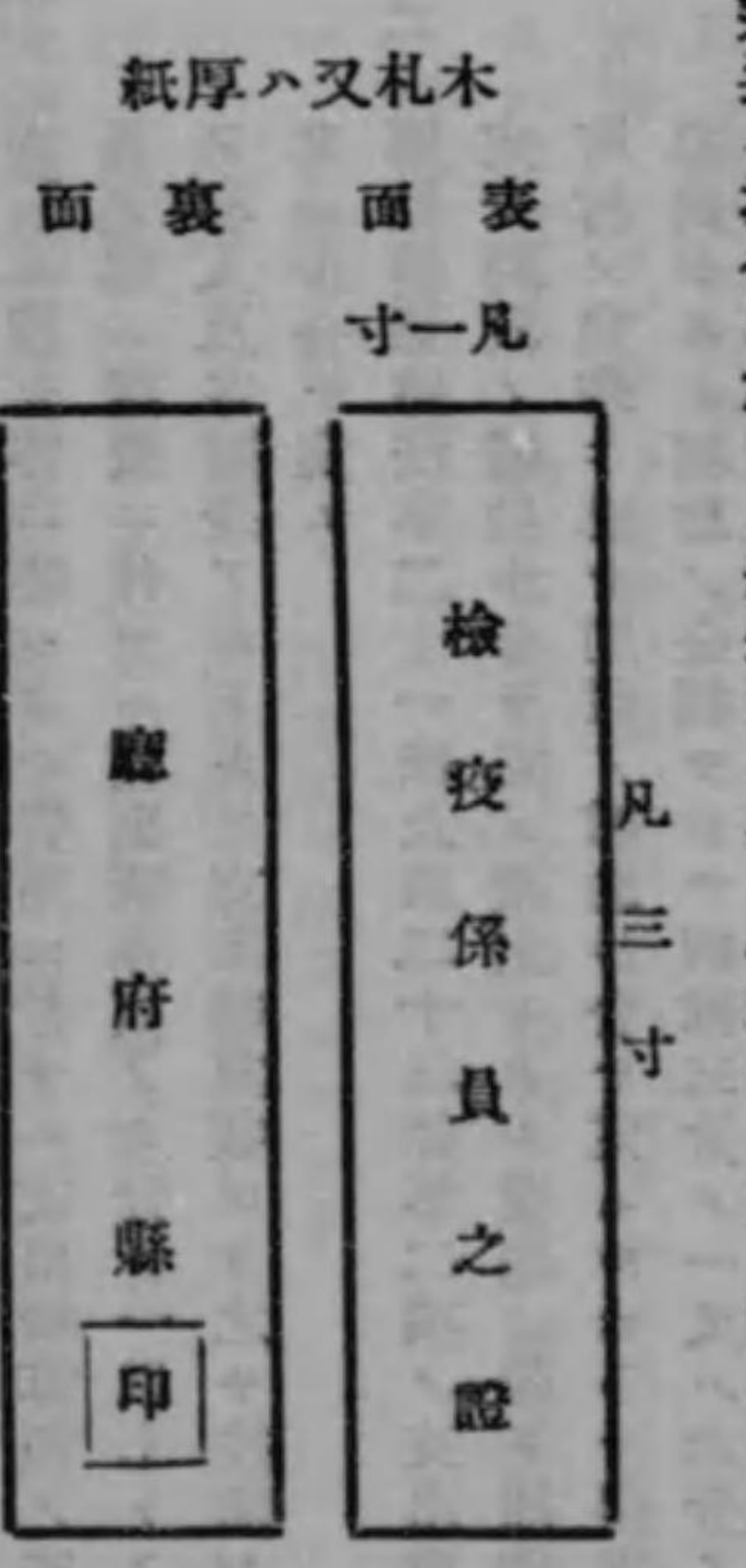
汚染ノ疑アル事實アルトキハ更ニ本條ニ依リ處置スルコト
 市町村長及豫防委員ハ警察官吏及檢疫委員ノ指示ヲ承ケ前項ノ交通遮斷
 又ハ隔離ニ關スル事務ニ從事スヘシ
 傳染病豫防法第十九條第二號ニ依リ地方長官ニ於テ施行スル交通遮斷又
 ハ隔離ハ前二項ニ準シテ行フヘシ
 第三十條 市町村立ノ傳染病院、隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食費、藥價
 ナ徵收スルコトヲ得
 第三十一條 傳染病豫防法第八條ノ二第二項ノ業務ノ範圍左ノ如シ
 一 菓子、餅、煮染、豆腐、氷雪、肉、乳、魚介、蔬菜、果實其ノ他直
 ニ飲食ニ供シ得ヘキ物ノ製造、販賣、調製又ハ取扱ニ直接從事スル
 業務
 二 旅店、下宿屋、寄宿舎、合宿所其ノ他多衆ノ宿泊スル場所及貸座敷、
 料理店、飲食店、理髮店、其ノ他客ノ來集テ目的トスル場所ニ於ケ
 ル從業者、看護婦、鍼灸師按摩師營業者、藝妓、娼妓、酌婦其ノ
 他直接客ニ接スル業務
 三 劇場、寄席、活動寫眞館等興行場其ノ他多衆ノ集合スル場所ニ於テ
 直接多衆ニ接スル業務
 所轄警察署長ハ特別ノ事由ニ因リ傳染病傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ
 限リ條件ヲ附シ赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ノ患者ニ對シ前項第二
 號及第三號ノ業務、猩紅熱、「サフチア」及流行性腦脊髄膜炎ノ患者ニ
 對シ前項第一號ノ業務ニ從事スルコトヲ許可スルコトヲ得
 第三十二條 左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏、市町村長、
 檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ
 一 傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サムトス
 ルトキ

二 傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件
 ナ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌セムトスルコト
 三 傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間
 内ニ埋葬セムトスルコト
 前項第一號ノ場合ニ於テ其ノ認可ヲ爲シタル吏員ハ患者又ハ死體ヲ移ス
 ヘキ地ノ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ通知スヘシ
 第三十三條 傳染病豫防法第十三條ノ死體及家屋其ノ他ニ對シテハ市町村
 長又ハ豫防委員ニ於テ消毒其ノ他相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ
 第七章 傳染病豫防吏員
 第三十四條 警察官吏、衛生官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ於
 テ傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ル
 ヘク日出後日没前ニ於テナスヘシ其ノ戸主、首長、管理人又ハ代理人ニ示
 スヘキ證票左ノ如シ
 凡三寸



第三十六條 檢疫委員ノ職務章程ハ地方長官之ヲ定ム
 第三十七條 地方長官ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一號
 ノ健康診察及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ檢査ヲ行ハシムルコトヲ得
 第三十八條 第十四條第十五條第十六條第二十八條及第三十三條ノ場合ニ
 於テハ警察官吏、衛生官吏及檢疫委員ハ市町村長及豫防委員ニ指示シ其
 ノ事務ニ從事スヘシ
 第八章 船舶、汽車、電車ノ檢疫
 第三十九條 地方長官船舶、汽車、電車ノ檢疫ヲ施行セムトスルトキハ檢
 疫スヘキ傳染病、檢疫ノ目的地、檢疫ヲ施行スル場所及檢疫開始ノ期日
 ナ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 地方長官檢疫ヲ開始セムトスルトキハ前項ノ事項ヲ告示シ且交通密接ノ
 地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト認ムル者ニ通知スヘシ其ノ廢止ノ場
 合亦同シ
 地方長官前項ノ告示ヲ爲シタルトキハ内務大臣ニ報告スヘシ
 第二項ノ通知ヲ受ケタル地方長官其ノ事項ヲ告示スヘシ
 第四十條 檢疫ノ目的地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ檢疫ヲ施行スル場所ニ來
 ル船舶ハ檢疫ヲ受ケ許可ヲ得タル後ニ非サレハ他ニ進航シ、陸地又ハ他
 船ト交通シ、船客、乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス
 第四十一條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶及停留中ノ船舶
 ハ前掲其ノ他見易キ場所ニ黃旗ヲ掲ケ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ
 之ヲ下スコトヲ得ス
 第四十二條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶其ノ他傳染病毒
 ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル船舶ニ對シテハ檢疫係員ニ於テ消毒方法又ハ
 鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ其ノ船舶ヲ適當
 ノ場所ニ停留シ船客、乗組員ヲ隔離所、船中其ノ他適當ノ場所ニ停留ス
 ルコトヲ得

第二十九條第一項第三號及第四號ノ隔離ニ關スル規定ハ前項ノ停留ニ之
 ナ準用ス
 檢疫係員ハ船舶ヲシテ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行セシムル
 コトヲ得
 檢疫係員ニ於テ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行スル場合ニ於テ
 ハ船長其ノ他ノ乗組員ヲシテ補助セシメ又ハ器具、藥品等ヲ供給セシム
 ルコトヲ得
 第四十三條 停留中ノ船客、乗組員ハ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他
 ト交通シ又ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス
 停留ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ニ移轉ス
 ルコトヲ得ス
 第四十四條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ハ檢疫係員ニ於テ市町村
 立ノ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメ死體ハ消毒其ノ他
 適當ノ處置ヲ爲スヘシ
 第四十五條 第四十二條第一項ノ處分ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ檢
 疫係員ハ船舶ヲシテ其ノ場所ニ回航セシムルコトヲ得
 第四十六條 檢疫係員傳染病豫防法第十八條第二項ニ依リ無償ニテ船舶ニ
 乗込ム場合ニ於テハ船長又ハ其ノ代理人ニ左ノ證票ヲ示スヘシ
 凡三寸



第四十七條 船舶ノ檢疫施行中檢疫ノ目的地以外ノ地ヨリ檢疫ヲ施行スル場所ニ來ル船舶ニ檢疫スヘキ傳染病ノ患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルトキハ前七條ノ規定ヲ準用ス

第四十八條 第四十二條第四十三條第一項第四十四條第四十六條及第四十七條ハ汽車、電車ノ檢疫ニ之ヲ準用ス但シ第四十二條第一項中船舶ノ停留ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

第九章 手當金及補助

第四十九條 地方長官傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依リ傳染病毒ニ汚染シタル建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用セムトスルトキハ建物及土地ノ所有者又ハ管理者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ交付スヘキ手當金額ハ地方長官ニ於テ三人以上ノ評價人ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ市町村長ニ通知スヘシ

第五十條

市町村長地方長官ヨリ手當金額決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ建物所在ノ市町村番地及手當金額ヲ所有者及建物ニ關シ權利ヲ有スル者ニ通知シ且一月以上ノ期間公告スヘシ

前項ノ公告期間ヲ經過シタルトキハ市町村長ハ速ニ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ但シ其ノ期間内ニ建物ニ關シ權利ヲ有スル者ノ申請アリタルトキハ期日ヲ指定シ手當金ノ交付ヲ延期スルコトヲ得

第五十一條

地方長官ハ左ノ各號ニ從ヒ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ交付スヘキ補助ニ關スル規則ヲ定ムヘシ

一 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出額ニ對シ北海道

地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ補助スル歩合ハ「コレラ」及「ハエスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル費用ニ付テハ支出精算額ノ三分ノ一以上、其ノ他ノ諸費ニ付テハ支出精算額ノ六分ノ一以上トス但シ支出ニ伴フ收入及寄附金アルトキハ支出精算額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ對シ其ノ歩合ヲ定ム

傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出中特ニ費途ヲ指定シ別段ノ補助歩合ヲ定メ指シタル費途ニ限リ補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應ジ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但シ本號ニ依リ算出シタル補助ノ金額ヲシテ前號三分ノ一又ハ六分ノ一ヲ下ラシムルコトヲ得ス

〔山梨警〕

町村制ヲ施行セサル地ニ關シ傳染病豫防法中町村ニ關スル規定ヲ準用シ難キ場合及本令ノ規定ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

附則

明治三十年五月

內務省令第十一號傳染病豫防法施行規則、明治三十年五月五拓殖務省令第四號、傳染病豫防委員及檢疫委員設置規程、明治三十年五月五拓殖務省令第十三號、明治三十年五月五拓殖務省令第六號、檢疫委員設置規則、明治三十年七月

十年七月

內務省令第十八號、汽車檢疫規則、船舶檢疫規則、明治三十年八月拓殖務省令第九號、明治三十一年三月內務省令第四號及傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

本令ハ大正十一年

法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十一年十月一日ヨリ施行)

●傳染病豫防法施行細則

大正十二年四月 山梨縣令第二十四號

改正 大正一十五年六月縣令第六一號

第一條 傳染病豫防法第三條ノ届出ハ左記事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ便宜口頭ヲ以テ届出タルコトヲ得

一 發生届出事項

(一) 患者、死者又ハ病原體保有者ノ住所居所、氏名、職業、年齢

豫防ニ關シ特ニ要シタル費用ニ付テハ支出精算額ノ三分ノ一以上、其ノ他ノ諸費ニ付テハ支出精算額ノ六分ノ一以上トス但シ支出ニ伴フ收入及寄附金アルトキハ支出精算額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ對シ其ノ歩合ヲ定ム

二 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出中特ニ費途ヲ指定シ別段ノ補助歩合ヲ定メ指シタル費途ニ限リ補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應ジ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但シ本號ニ依リ算出シタル補助ノ金額ヲシテ前號三分ノ一又ハ六分ノ一ヲ下ラシムルコトヲ得ス

三 支出ニ伴フ收入及寄附金ヲ控除シタル一會計年度ノ支出精算額五十圓未滿ナルトキハ補助セサルコトヲ得

四 補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但シ金額ニ換算スヘシ

五 市町村ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シ補助スルコトヲ得

第十章 雜則

第五十二條 傳染病豫防法第二條第十八條第十九條第十九條ノ二及本令第一條第二條第八條第十條第三十一條第三十九條ノ地方長官ノ職務並傳染病豫防法及本令ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ但シ傳染病豫防法第十八條第三項但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條

地方長官ハ東京府ニ於テハ警視總監及東京府知事トス

第五十四條

傳染病豫防法又ハ本令ノ規定ニシテ其ノ準用又ハ適用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道及沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

男女別

(一) 病名(病原體保有者ニ付テハ病原體名)
(二) 發病年月日
(三) 初診年月日
(四) 診斷又ハ檢案年月日時
(五) 轉歸届出事項

轉歸届出事項

(一) 住所、氏名
(二) 病名
(三) 轉歸種別
(四) 主要症狀消滅年月日
(五) 轉歸年月日時

第二條

傳染病豫防法施行規則第八條ニ依リ病原體有無ニ關シ檢査ヲ請求セムトスル者ハ市町村長ニ申出ツヘシ

第三條

市町村長ハ其ノ市町村内ノ宅地家屋ノ所有者又ハ占有者ヲシテ毎年四月一日ヨリ七月十日迄ノ期間内ニ於テ蠅ノ發生ヲ防止スル方法及清潔方法ヲ施行セシムヘシ

第四條

市町村長ハ前條ノ期日ヲ定メタルトキハ施行期日七日前ニ所轄警察官署長ニ通報スヘシ

第五條

「コレラ」、赤痢、腸「チフス」、「バラチフス」ノ患者又ハ死者アリタル附近各戸ニ於テハ市町村長又ハ警察官吏、檢疫委員ノ指示ニ從ヒ左ノ消毒方法ヲ施行スヘシ

一 上園ノ都度便池ニ消毒薬ヲ投入スルコト

二 便所ノ手洗水ニハ消毒薬ヲ用フルコト
三 尿尿ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒スルコト

第六條

自宅治療患者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 消毒方法ヲ施行スヘシ

二 便所ノ手洗水ニハ消毒薬ヲ用フルコト
三 尿尿ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒スルコト

第六條

自宅治療患者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 病室ニハ醫師看護人ノ外交通セサルコト但シ當該吏員ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限リニ在ラス
- 二 病室外適當ノ場所ニ消毒所ヲ設ケ消毒藥其ノ他必要ナル器具ヲ備ヘ病室ニ出入シタルモノ又ハ病室ニ汚染シタル物件等ニ對シ嚴重消毒方法ヲ行フコト
- 三 患者ニ供シタル食物ノ殘餘又ハ吐瀉物若ハ病室内ノ塵埃等ハ一定ノ器物ニ納メ消毒スルコト
- 四 病室内ノ物品ハ消毒ヲ行フニ非サレバ他ニ移サハルコト
- 五 前各號ノ外當該官吏ノ指示スル事項
- 第七條 「コレラ」以外ノ傳染病患者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシムヘシ
 - 一 患者ヲ隔離スヘキ別室ヲ有セサルトキ
 - 二 主治醫ナキトキ
 - 三 當該吏員ニ於テ適當ト認ムル專用ノ看護人ナキトキ
 - 四 消毒器具並消毒藥等必要ナル物品ヲ準備シ能ハサルトキ
 - 五 自宅治療患家ニシテ前條ノ事項ヲ遵守セサルトキ
 - 六 前各號ノ外當該吏員ニ於テ自宅治療ヲ不適當ト認ムルトキ
- 第八條 許可ヲ得テ土葬ヲ爲ストキハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
 - 一 死體ハ嚴重消毒ヲ施シ藥ヲ爲シタル處ニ收メ覆蓋ヲ爲シ松脂ノ類ヲ以テ密閉スルコト
 - 二 掘穴ノ深サハ九尺以上マルコト
- 第九條 市町村ニ於テハ市町村醫ヲ置キ傳染病豫防上醫務ニ當ラシメ其ノ氏名及手當額ヲ知事ニ届出シヘシ但シ特別ノ事情アル町村ニ於テハ知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ置カサルコトヲ得
- 第十條 市町村ハ左ノ消毒器具ヲ設備スヘシ

〔山梨警〕

- 一 蒸汽消毒器
 - 二 煮沸消毒器
 - 三 消毒衣
 - 四 秤量器
 - 五 液量器
 - 六 消毒用刷毛
 - 七 患者運搬器
 - 八 石灰乳用器
 - 九 糞便消毒器
 - 一〇 汚物運搬器
 - 一一 手洗針
 - 一二 噴霧器
 - 一三 其ノ他必要ナル器具藥品
- 第十一條 市町村長ハ左ノ場合ニ於テハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ通報シ市町村醫ヲシテ健康診断ヲ爲サシムヘシ
- 一 市町村ニ於テ傳染病發生ノ虞アルトキ
 - 二 傳染病ノ疑アル患者又ハ死者アルトキ
 - 三 二人以上ノ醫師ニ於テ診断ヲ異ニスルトキ又ハ醫師ノ診断ニ疑アルトキ
- 第十二條 警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ前條各號ノ事項ヲ認知シタルトキハ市町村長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ
- 附則
明治三十年十月山梨縣令第四十二號傳染病豫防法施行細則及明治四十年四月山梨縣令第三十號清濁方法施行規則ハ之ヲ廢止ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●傳染病豫防法並同法施行細則取

扱手續

大正十二年四月 山梨縣訓令甲第十四號

〔山梨警〕

- 改正 昭和七年八月訓令甲第一二號
- 第一條 傳染病豫防法施行規則第五條ノ報告及同條ノ通報ハ附錄第一號様式ニ依ルヘシ
- 第二條 警察官署長ハ其ノ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ其ノ狀況ヲ當該ニ報告スルノ外隣接地警察官署ニ通知スヘシ
- 第三條 警察官署及郡市町村ニ於テハ附錄第二號様式ニ依リ傳染病患者臺帳ヲ設ケヘシ
- 第四條 市町村長ハ左ノ區別ニ依リ検査材料ヲ採取シ附錄第三號様式ニ依リ検査請求書ヲ添附シ細菌検査所ニ送付シ検査ヲ受ケヘシ
 - 一 「コレラ」ニ付テハ患者、家族及之ト密接ノ關係ヲ有スル者
 - 二 「コレラ」以外ノ傳染病ニ在リテハ主要症狀消退後一週日以内ノ者家族及特ニ必要アリト認ムル者
 - 三 細則第二條ニ依リ申出アリタルトキ前項ノ場合ニ於テハ警察官吏ハ規則第三十八條細則第十一條ニ依リ其ノ事務ニ從事スヘシ
- 第五條 傳染病患者其ノ他ノ細菌検査ヲ請求セムトスル場合ハ左ノ各號ニ依リ検査材料ノ取扱ヲ爲スヘシ
 - 一 検査材料ノ容器ハ可成硝子製ノ圓壺ニシテ密栓(キルク)ヲ施スヘシ止ムヲ得ス竹筒ヲ用フルトキハ木栓ヲ用ヒ綿類ヲ使用セサルコト
 - 二 検査材料ノ量ハ尿ハ梅干大、尿ハ二三勺其ノ他ノ材料ハ可檢シ得ル量ヲ採取シ其ノ際材料ヲ紙ニテ包ミ或ハ消毒藥ノ内部ニ混入セサル様注意スルコト
 - 三 検査材料ト検査請求書ハ同時ニ到着スル様送付スルコト但シ二回以

- 上ニ涉ルモノニ對シテモ必ス請求書ヲ添付スルコト
 - 四 検査材料ハ必ス採取後直ニ送付シ検査材料容器ニハ住所氏名ヲ明確ニ墨書シ検査請求書ト照合誤謬ナキコトヲ期スルコト
 - 第六條 規則第三十二條ニ依リ認可申請書ニ對シテハ左ノ事項ヲ調査シ都合ナキ場合ニ限リ之ヲ認可シ附錄第四號様式ノ認可書ヲ交附スヘシ
 - 一 患者若ハ死者ノ移轉ニ付テハ
 - (イ) 移轉スルモ病症ニ支障ナシト認メタル醫師ノ診斷書アルコト
 - (ロ) 看護人若ハ附添人ヲ有スルコト
 - (ハ) 病毒散蔓ノ虞ナキ設備ヲ爲スコト
 - (ニ) 死者ハ細則第八條第一項第一號該當ノ裝置ヲ要スルコト
 - 二 病毒ニ汚染ノ疑アル物件ノ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌ニ付テハ
 - (イ) 消毒濟ノ物件タルコト
 - (ロ) 洗滌及遺棄セムトスル場所ハ飲用水ニ病毒滲透ノ虞ナキ場所タルコト
 - 三 死體ノ埋葬ニ付テハ
 - 死亡診斷書ニ假死ノ虞ナキヲ證記スルモノ
 - 第七條 細則第九條ニ依リ認可ヲ與フル場合ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
 - 一 町村醫ヲ置キ難キ事情アルコト
 - 二 豫防上醫師ニ差支ナキ設備アルコト
- 附則
明治四十年三月訓示第十號傳染病患者發生轉歸報告様式ノ件ハ之ヲ廢止ス

取締ヲ要セサルモノト解スル向アリ此レ全ク誤解ニシテ此等ノ中ニハ病原體保有者トシテ取締ヲ要スル者ナキニ在ラス即チ病原體保有者ナリヤ否ヲ決定スルカ爲ナリ而シテ之カ實施ノ效果トシテ患者ハ引續キ二回以上陰性(規則第九條第一項參照)タルコトヲ證明セラレタル場合ニ全ク身體ノ自由ヲ拘束セラレ、コトナク又經濟上ニ於テモ多大ノ利益アリ

- 尙家族及之ト密接ノ關係アル者並ニ特ニ必要ナル者ニ對シテハ病原體保有者檢査ハ勿論其ノ陰蔽ヲ防止シ彼此必要ナルカ爲メナリ
規則第十條ノ期間外ノ病原體保有者(隔離ヲ開放セラレタル保菌者並ニ健康保菌者)ニ對シテノ事項ヲ取締ルコト
(イ) 法第八條ノ二ニヨリ規則第三十一條參照ノ上業態上病毒傳播ノ虞アル業務ニ從事セシメサルコト
(ロ) 規則第十一條ノ事項ヲ遵守セシムルコト
(ハ) 規則第十二條ヲ實行セシメ又ハ實行スルコト
三 規則第五條ノ指示ヲナシ之カ實行ヲ督勵スルコト

● 傳染病豫防ニ關スル件

明治四十一年五月 梨衛發第一五八號

傳染病ノ初發患者ヲ迅速發見シ以テ病毒ヲ一局部ニ制遏スヘキ件ハ從來屢々指示相成居リ候ニ付時節柄々御配慮中トハ被存候ヘ共當分ノ内各受持巡查ヲシテ一層其視察ヲ嚴密ナラシムルノ必要可有之ト存候間左記方法ニ依リ受持區内ノ健康狀態ヲ報告セシムル様御取計相成度依命此段及通牒候也

(山梨管)

- 一 受持區内疾患患者ハ其疾病ノ何タルヲ問ハス別紙様式ニ依リ毎十日目ニ報告セシムルコト但シ六月一日ヨリ起算ス
一 患者發見ノ方法ハ學校生徒ノ休校、工場ニ於ケル男女工ノ缺勤調査、檢病ノ戸口調査、衛生組合員ノ申告、醫師ノ通知等其方法ノ何タルヲ問ハスト雖モ頻繁患者ニ臨檢シ爲メニ患者並ニ主治醫ノ感情ヲモ害スルカ如キコトハ努メテ之レヲ避ケシムルコト
一 受持巡查ノ報告セル患者ニシテ疑ハシキトキハ監督者自ラ實地ニ就キ調査シ先ツ以テ主治醫ニ糾シ主治醫ナキトキハ村醫ヲシテ檢診セシメ尙疑ハシキトキハ檢疫醫ノ差遣ヲ請求スルコト

(別表)

Table with columns: 病名, 自月, 至月, 日, 日, 日間健康狀態觀察表, 發病, 轉歸, 區別, 住, 所, 氏, 名

● 健康狀態視察報告方ノ件

明治四十一年十二月 梨衛發第三三七號

本年五月梨衛發第一五八號依命通牒ニ係ル健康狀態視察ノ件ハ毎年十二月ヨリ翌年五月ニ至ルノ間ハ素ヨリ各署内衛生狀態如何ニ職由スヘシト雖モ先ツ普通通シテハ各受持署ヨリ定期報告セシムルニ不及ト被存候條可然御取扱相成度依命此段及通牒候也

(山梨管)

● 傳染病院隔離病舎隔離所設置及設備管理規程

大正十三年九月一日 山梨縣令第二十七號

傳染病院、隔離病舎、隔離所設置及設備管理規程左ノ通之ヲ定ム

- 第一條 市町村ハ傳染病院又ハ隔離病舎ヲ設置スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ數町村共同シテ設置スルコトヲ得
第二條 町村ハ附近傳染病舎ヲ有スル公私立病院ヲ知事ノ認可ヲ受ケ前條ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ代用スルコトヲ得
前項ノ認可申請書ニハ院主ノ承諾書ヲ添付スヘシ
第三條 市町村ニ於テ傳染病院又ハ隔離病舎ヲ建設セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
一 建設地名、番地、地目、坪數
二 建物位置、坪數並各建物ノ距離及建物ノ模様ヲ見ルヘキ平面圖(百分ノ一)
三 立面圖(百分ノ一)斷面圖詳細(二十分ノ一)
四 構造仕樣書及設計書
五 建設費、收支豫算書
五 工事落成期日
第四條 傳染病院及隔離病舎ノ位置ハ左ノ各號ニ據ルヘシ
一 敷地ハ高燥ニシテ患者輸送ノ便ヲ圖リ部落ニ遠隔セサルコト
二 工場、劇場其ノ他喧噪ナル場所及河川、下水路、墓地、火葬場ニ接近セサルコト
三 風水害ノ虞ナキ地タルコト

第五條 傳染病院及隔離病舎ハ左ノ設備ヲ爲スヘシ但シ止ムヲ得サル事情アルトキハ隔離病舎ハ之ニ依ラサルコトヲ得

- 一 事務室、醫務室、調劑室、應接室、小使室、炊事場、浴場、便所
二 病室、看護婦室、看護人室、炊事場、消毒夫室、消毒所、浴場、便所
三 汚物溜、汚水溜
四 屍室
五 物置
六 井戸
七 汚物燒却場
病室ハ恢復期患者室、重症患者室、輕症患者室ニ消毒所ハ未消毒物置場、消毒室、洗濯所、既消毒物置場ニ區別シ前項第一號、第二號及第四號ノ建物ハ各別棟トシ第二號中浴室及便所ハ看護婦用及患者用ニ區別スヘシ
第六條 傳染病院及隔離病舎ノ構造ハ左ノ各號ニ據ルヘシ
一 病室ハ平屋建トシ南向若ハ東南向トシ室ノ内外側壁ハ總テ板張ト爲シ消毒及洗滌ニ便ナラシムルコト
二 病室ノ前方ニ引障子ヲ隔テ幅三尺以上ノ椽ヲ附シ其ノ外端ニ沿フテ兩戸ヲ設ケ後方ハ床上一尺五寸ニ於テ高サ三尺室ニ相當スル窓ヲ設ケ引障子ヲ附シ兩戸ヲ設ケルコト
三 床ノ高サハ地上二尺以上トシ厚サ八分以上ノ板ニテ張リ詰メ天井ノ高サハ床上一尺以上トスルコト
四 床下ノ地盤ハ「コンクリート」又ハ漆喰敷トナシ適當ノ勾配ヲ附シテ溝ヲ設ケ汚水溜ニ通スル施設ヲ爲シ床下ハ見透ス様設備スルコト
五 病室後方ノ窓下ニ幅一尺五寸高サ窓ニ連スル引戸口ヲ有スル戸欄ヲ附シ便器又ハ汚物容器ノ置場トシ且ツ外部ヨリ取扱ヲ爲スニ便ナル装置ヲ爲スコト

- 六 炊事場及浴場ハ「コンクリート」石敷又ハ漆喰敷ト爲スコト
- 七 汚物溜及汚水溜ハ適當ノ位置ニ不滲透質ノモノニテ設ケ消毒ニ便ナラシムルコト
- 八 病室ト病室又ハ病室ト事務室ト相對シテ建物ヲ建設スル場合ハ各三間以上ヲ距ツルコト
- 九 病室ノ面積ハ患者一名ニ付一坪半以上トスルコト
- 十 屍室ハ構内ノ一隅ニ設ケ成ルヘク患者ノ目ニ觸レサル場所ニ置クコト
- 十一 便所ハ不滲透質ノモノニテ構造シ其ノ周邊ハ適當ノ勾配ヲ附シ厚サ五寸以上ノ「コンクリート」塗ト爲スコト
- 十二 井戸ハ成ルヘク便所及病室ト距離アル場所ニ設ケ内部ハ地上水ノ浸入セサル様設備シ汲水器ハポンプ装置トナシ蓋ヲ設ケヘシ流シ場ハ「コンクリート」又ハ煉瓦ヲ以テ一寸以上ノ勾配ヲ附シ周圍ノ縁幅及平面ヨリノ高サハ四寸以上トシ下水抜ハ「コンクリート」ニテ溝ヲ設ケ若ハ土管ヲ使用シ適當ノ場所ニ誘導セシムヘシ但シ土管ノ場合ハ誘出口ニ鐵製ノ網蓋ヲ附スヘシ
- 第七條 敷地ノ周圍ニハ木柵又ハ適當ノ圍障ヲ設ケヘシ但シ雨水ノ溜溜セサル設備ヲ爲スヘシ
- 第八條 傳染病院及隔離病舎ニハ左ノ物品ヲ備付クヘシ
 - 一 治療上消毒上必要ナル器具、藥品
 - 二 職員其ノ他外來者用ニ供スル消毒衣、患者及附添人ニ要スル寢具、食器、火鉢等
- 第九條 病室ニハ寢臺ヲ用フヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ止ムヲ得サル場合ハ疊ヲ用フルコトヲ得
- 第十條 傳染病院及隔離病舎ニハ日誌、病症日誌、吏員出勤簿、雇人名簿

〔山梨縣〕

- 及需用品購入簿ヲ備付クヘシ但シ病症日誌ニハ患者入院年月日、住所、氏名、年齢、處方、病歴、退院年月日等ヲ記載スヘシ
- 第十一條 健康者ノ隔離所ハ便宜適當ノ家屋ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 第十二條 隔離所ニハ左ノ建物ヲ設備スヘシ
 - 一 隔離室及之ニ附屬スル炊事場、便所、浴場
 - 二 事務室及之ニ附屬スル炊事場、便所
- 第十三條 隔離所ニハ第十條ニ準シ必要ノ簿冊ヲ備付クヘシ
- 第十四條 傳染病院及隔離病舎ニハ左ノ職員ヲ置クヘシ但シ隔離病舎ニハ
 - 一 院長 一人
 - 二 醫師 患者三十人迄一人、以上之ニ準ス
 - 三 調劑員 患者五十人迄一人、以上之ニ準ス
 - 四 事務員 若干人
 - 五 看護婦 患者八人迄一人、以上之ニ準ス
 - 六 小使、炊夫、消毒夫 若干人
- 前項第五號ノ看護婦ヲ充ス能ハサルトキハ患者ト同一傳染病ヲ經過シ免疫中ニアル者ヲ看護人トシテ看護婦ノ指揮ヲ受ケ看護ニ從事セシムルヲ得
- 第十五條 市町村長ハ前條ノ職員ニ關スル職務細則ヲ定ムヘシ
- 第十六條 醫師、調劑員又ハ事務員中ヨリ主任者ヲ定メ消毒ノコトヲ擔當セシメ尙醫員ヲシテ患者ノ飲食物ノ監督等ヲ爲サシムヘシ
- 第十七條 飲食物ノ容器、吐瀉物等ノ受器ニハ適當ノ覆蓋ヲ設ケヘシ
- 第十八條 病室ニ入ラムトスル者ハ消毒衣ヲ著用シ病室退出トキハ之ヲ

〔山梨縣〕

- 脱シ手足ヲ消毒スヘシ
- 第十九條 患者ノ被服、寢具類及病室用ノ器具物品ハ消毒方法ヲ行ヒタル後ニ非サレハ外部ヘ搬出スルコトヲ得
- 第二十條 看護人、患者、附添人、消毒人ノ衣服及病室用衣其ノ他院内ノ器具、物品ハ時々消毒シ食器類ハ煮沸ノ上使用スヘシ
- 第二十一條 患者ノ排泄物、分泌物其ノ他ノ汚物、紙片布片等ノ類ハ相當器物ニ收メ其ノ都度消毒ノ上毎日焼却スヘシ
- 第二十二條 患者ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ事情止ムヲ得スト認ムル場合ニ限リ許可スヘシ但シ病室内ニ於テハ飲食ヲ禁シ退出ノ際消毒ヲ行ハシムヘシ
- 第二十三條 患者ニ物品ヲ贈ラムトスル者アルトキハ妨ナキ限り之ヲ許可スルコトヲ得
- 第二十四條 患者ニハ止ムヲ得サル場合ノ外附添人ヲ附スルコトヲ得
- 第二十五條 患者ノ容體危篤ニ陥ル虞アルトキハ速ニ患者ニ通報スヘシ
- 第二十六條 死亡者アリタルトキハ相當消毒ノ上直ニ屍室ニ移シ然ル後火葬ノ手續ヲ爲サシムヘシ
- 第二十七條 埋葬若ハ燒却ノ爲死屍其ノ他ノ汚穢物ヲ他ニ搬出セムトスルトキハ當該吏員ニ於テ消毒ヲ行ハシムヘシ患者運搬ノ爲來院シタル人夫及運搬器具ニ付亦同シ
- 第二十八條 塵芥其ノ他ノ不用品ハ燒却シ病室及便所ハ毎日藥品ヲ以テ消毒スヘシ
- 第二十九條 健康者ヲ隔離所ヘ移シタルトキハ市町村ハ該所ニ事務員、小使等ヲ置キ出入リヲ取締リ且隔離人ノ外部ニ對スル處用ヲ辨セシムヘシ
- 第三十條 隔離シタル健康者ハ醫師ヲシテ毎日一回以上診察セシメ傳染病ノ徴候ヲ顯シタルトキハ速ニ相當ノ處置ヲ爲スヘシ
- 第三十一條 市町村長又ハ豫防委員ハ時々傳染病院隔離病舎隔離所ヲ巡視シ諸般ノ事務ヲ處理スヘシ
- 第三十二條 市町村ハ傳染病院隔離病舎ヲ開業ノ醫師ニ貸與シ經營セシム

●傳染病院隔離病舎隔離所設置及設備管理規程施行手續

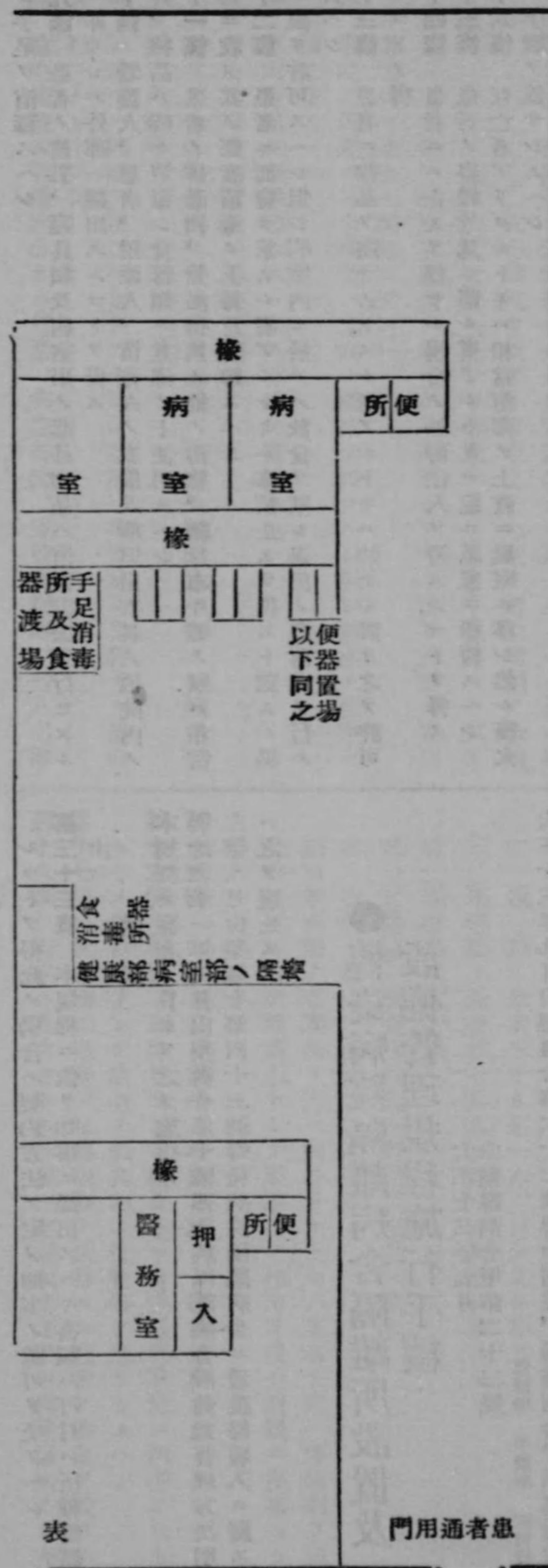
大正十三年九月 山梨縣訓令甲第二十三號

山梨縣訓令甲第二十三號

- ルコトヲ得此ノ場合ハ契約方法ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三十三條 本規程ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ町村ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ
- 附則
 - 本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 - 明治三十一年三月山梨縣令第十號傳染病隔離病舎設備並管理方法明治三十三年八月山梨縣令第四十三號傳染病院隔離病舎ニ看護婦雇入ニ關スル規程ハ之ヲ廢止ス
- 大正十三年九月山梨縣令第二十七號傳染病院、隔離病舎、隔離所設置及設備管理規程施行手續左ノ通之ヲ定ム
 - 第一條 傳染病院、隔離病舎、隔離所、設置及設備管理規程施行手續ニ規程ト稱スノ傳染病院又ハ隔離病舎ノ設備ハ甲號及乙號圖面ヲ標準トシテ建設スヘシ
 - 第二條 規程第五條ノ隔離病舎ニ在リテハ事務室ト應接室、醫務室ト調劑室、小使室ト炊事場ヲ各合併シ又ハ應接室、醫務室、調劑室ハ便宜省略スルコトヲ得
 - 第三條 傳染病院及隔離病舎ヲ開始シタルトキハ外部ノ用件ハ事務員ニ於テ受付外部ヨリ蓋ニ病舎ニ出入セシムヘカラス
 - 第四條 規程第五條第一項第二號ノ各室ニ屬スル器具物品ハ同第一號各室用ノモノト交換使用ヲナスヘカラス但シ止ヲ得サル場合ハ消毒ノ上使用

- スルコトヲ得
- 第五條 食器消毒所ハ規程第五條第一項第一號第二號ノ建物ノ中間トシ置キニ交通セサル一定ノ場所ニ煮沸釜ヲ備ヘ消毒セシムヘシ
- 第六條 傳染病院及隔離病舎ヲ開始シタルトキハ規程第五條第一項第一號第二號ノ建物ノ中間ノ通路若クハ廊下ニ交通者ノ手足ヲ消毒セシムル設備ヲナスヘシ
- 第七條 患者ノ出入又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ノ運搬ハ患者通用門ヨリ其ノ他ハ表門ヨリ出入セシムヘシ
- 第八條 蒸氣消毒器ハ完全ノモノヲ設備スヘシ
- 第九條 用水容器ハ飲用水ト雜用水ト區別シタル木札ヲ附シテ使用セシム

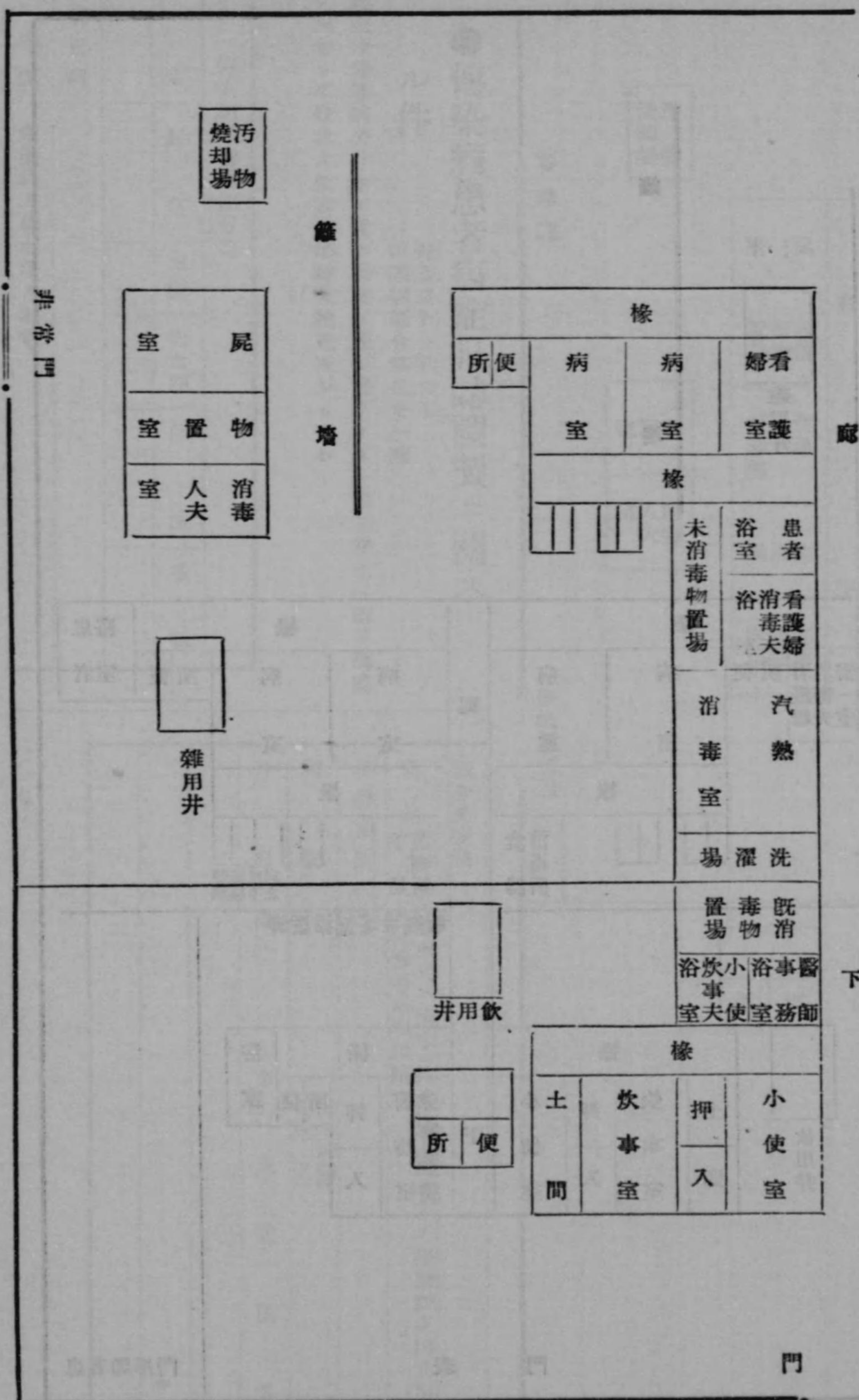
- 第十條 規程第十條吏員出勤簿ノ外醫師看護婦等ノ出勤簿ヲ調製スヘシ
- 第十一條 規程第二條、第三條、第三十二條ノ認可申請アリタルトキハ所轄警察署長ハ意見ヲ附シ進達スヘシ
- 第十二條 汚物焼却場ハ屋蓋ヲ設ケ雨天ト雖燒却ニ支障ナキ設備ヲナスヘシ
- 附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十四年二月訓令第一號隔離病舎設備標準ハ之ヲ廢止ス



〔山梨警〕

表

患者通用門



〔山梨警〕

●傳染病豫防事務所ニ於ケル諸帳簿調製様式ニ關スル件

明治三十一年七月 山梨縣訓令第二十三號

改正 明治四三年一月訓令第二號 傳染病患者發生シタル各町村ニ在リテハ別紙様式ニ準シ諸帳簿ヲ調製シ豫防事務ヲ整理セシムヘシ

(日誌)

- 明治三十年 月 日
- 一 本日何々傳染病豫防事務所ヲ開始セリ
 - 一 本日患者何人ヲ病舎ニ收容セリ
 - 一 午前(後) 時 分何々村字番戸何某新ニ入舎セリ
 - 一 午前(後) 時 分檢診ノ際付添人何某ニ病毒感染シタルコトヲ發見セリ
 - 一 午前(後) 時 分檢疫委員何某巡檢セラレ何々ノ事ヲ指示セラレタリ

備考

本様式ハ只一例ヲ示セルニ過キス苟モ當日ノ重ナル事項ハ總テ明瞭ニ記載スヘシ

(吏員出勤簿)

出勤簿用紙ヲ用ユ	豫防委員	何	何	某	某
同	上	何	々	何	々

備考 本簿ヲ作り豫防委員其ノ他町村當該吏員ノ氏名並其ノ勤務シタルトキハ其ノ日ノ欄内ニ認印スヘシ

〔山梨警〕

●郵便物包裝規則(抄録)

明治四十二年十月二十七日 逓信省令第五十號

- 改正 大正四年八月逓信省令第三三號、五年一月第五九號、昭和二年三月第一五號
- 第二條 郵便物ハ其ノ運送距離、容積、重量及内品ノ性質等ニ應シ摩擦、壓迫、動搖、乾燥、浸濕等ニ耐ヘ内容ヲ保護シ且他ニ損傷ヲ與ヘサル様適當ニ之ヲ包裝スヘシ
 - 第四條 小包郵便物ハ強靱ナル紙若ハ布ノ類ヲ以テ之ヲ包ミ又ハ箱若ハ罐等ニ入レ毀損セサル様包裝スヘシ但シ品質形狀ニ依リ其ノ儘第二條ノ目的ヲ達シ得ヘキモノハ適當ニ之ヲ結束シ其ノ他ノ包裝ヲ省略スルコトヲ妨ケス
 - 同一郵便區市内ニ發着スル價格表記以外ノ小包郵便物ニシテ取扱上差支ナキモノハ適當ニ之ヲ結束シ其ノ他ノ包裝ヲ省略スルコトヲ得
 - 數箇連接シタル郵便區市内ハ前項ノ同一郵便區市内ト看做ス
 - 第九條 流動體又ハ熔融若ハ潮解シ易キ物及臭氣ヲ發スヘキ物件ハ之ヲ罐又ハ罐ニ入レ樹脂又ハ錫蠟ノ類ヲ以テ密閉シ更ニ之ヲ適當ノ箱ニ藏ムヘシ
 - 容易ニ溶解又ハ潮解セサルモ尚熔融若ハ潮解シ又ハ他物ヲ浸潤スヘキ虞アル物件ハ防水布又ハ澁紙ノ類ヲ以テ適當ニ之ヲ包裝スヘシ
 - 第十一條 生活セル病原菌及病原菌含有ノ疑アル検査材料ハ官公署、官許ヲ受ケタル細菌検査所、醫師、獸醫又ハ特別ノ規定ニ依リ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ニ限り前各條ニ依ルノ外尙左記各號ノ包裝ヲ爲シ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得
 - 一 少許ノ分量ヲ一定ノ硝子壺、硝子管又ハ竹筒ニ納メ護謄栓ヲ施シ蓋帽ヲ以テ該栓ヲ固定シ又ハ管口ヲ熔閉シ内容ノ漏出ヲ防クコト

(醫師看護婦出勤簿)

備考

前ニ同シ

(豫防委員成績表) 削除

(現金受拂簿)

年月日	摘要	受	拂	残
		圓	圓	圓

醫師 氏 名

備考

本様式ハ傳染病豫防事務所ニ於テ直チニ支拂ヲ爲ス場合ニ設クヘキ帳簿ナリ故ニ此場合ニ於テハ豫メ豫防事務所ニ於テ支拂フヘキ經費ノ種類ヲ定メ之ニ對スル費用ノ假拂ヲ受ケ其ノ收支ヲ記帳スルモノトス 決算ニ際シ假拂金ノ殘餘ハ戻入ヲ爲スヘキモノトス 殘額ノ計算ハ一日毎ニ爲スモノトス

(需用品購入簿)

購入年月日	名稱	數量	金額	購入ノ事由	備考
			圓		

備考 藥品ト其ノ他ノモノトハ口譯ヲ爲スヘシ

〔山梨警〕

●市町村傳染病豫防費補助規程

大正十二年七月 山梨縣令第三十五號

- 第一條 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出額ニ對シテハ左ノ各號ニ依リ市町村ニ補助金ヲ交付ス但シ支出ニ伴フ收入及寄附金アルトキハ支出精算額ヨリ之ヲ控除シテ歩合ヲ定ム
- 一 市町村ノ支出額一戸ニ付一圓地租一圓ニ付二十錢ノ率ヲ以テ算出シタル合計金額ニ至ル迄ハ「コレラ」及「ベスト」以外ノ傳染病ノ費用ニ對シテハ十二分ノ二
- 二 市町村ノ支出額一戸ニ付二圓地租一圓ニ付四十錢ノ率ヲ以テ算出シタル合計金額ニ至ル迄ハ「コレラ」及「ベスト」及「その他」ノ傳染病ノ費用ニ對シテハ十二分ノ四、五
- 三 市町村ノ支出額一戸ニ付三圓地租一圓ニ付六十錢ノ率ヲ以テ算出シタル合計金額ニ至ル迄ハ「コレラ」及「ベスト」ノ費用ニ對シテハ十二分ノ八其ノ他ノ傳染病ノ費用ニ對シテハ十二分ノ七、二五
- 四 第三號ノ合計金額ヲ超過シタル部分、「コレラ」及「ベスト」ノ費用ニ

科 目	領收年月日	金額	事由	住所氏名
二 食費藥價	月 日 年		何某	何某
三 死體燒却	月 日 年		薪、明細記入	何某
傳染病院(又ハ隔離舍)費			薪、明細記入	何某
一 給料			薪、明細記入	何某
一 醫師給料	月 日 年		病院(病舍)往診何日何村	何某
二 調劑員給料	月 日 年		病院(病舍)往診何日何村	何某
三 看護婦給料	月 日 年		病院(病舍)往診何日何村	何某
四 事務員給料	月 日 年		病院(病舍)往診何日何村	何某
二 雜給			同	何某
一 旅費	月 日 年		看護婦往復各何圓、醫師、調劑員何々	何某
二 備人料	月 日 年		消毒人夫何月何日何村	何某
三 需用費			何日迄延何人何圓一人	何某
一 備品	月 日 年		傳染病豫防疫備品ノ例ニ依ル	何某
二 消耗品	月 日 年		同 消耗品ノ例ニ依ル	何某

〔山梨管〕

科 目	領收年月日	金額	事由	住所氏名
三 消毒品費	月 日 年		同 消毒藥品ノ例ニ依ル	何某
四 賄費	月 日 年		職員宿直何夜分何圓一何村	何某
五 點燈費	月 日 年		何々詳細	何某
六 病舍敷地	月 日 年		何坪、年何圓	何某
七 雜費	月 日 年		何物件借入レ何日間一何村	何某
四 諸費			牛乳、白米、鶏卵ノ個數金額單價患者藥價(患者別)詳細	何某
一 食費藥價	月 日 年		傳染病豫防疫死體燒却費ノ例ニ依ル	何某
二 死體燒却	月 日 年		費ノ例ニ依ル	何某
五 修繕費			同	何某
一 建物修繕	月 日 年		何々處修繕職工何人金何圓一人一日金何圓、何村	何某
六 建築費			同	何某
一 敷地買取	月 日 年		敷地何百坪一坪金何圓	何某
二 整地費	月 日 年		敷地何百坪地均一坪ニ付何錢此金何十圓石積何坪一坪何圓此代金何十圓	何某
三 建築費	月 日 年		何々	何某

右之通相違無之候也

大正 年 月 日

知事宛

何郡(市)町村長

何

某團

〔山梨管〕

(第三號)

科 目	領收年月日	金額	事由	住所氏名
代執行追徴金	月 日 年		清潔方法、消毒方法ニ要シタル人夫何人分此金何程、消毒藥何々何程此金何程	何某
患者食費	月 日 年		患者何某在舍何日間一日一人ニ付金何程	何某
患者藥價	月 日 年		同	何某
寄附金	月 日 年		何々	何某
雜收入	月 日 年		何々	何某
合計	同		何々	何某

右之通相違無之候也

年 月 日

第七編 衛生

第七章 防疫

参照

知事宛

何郡(市)町村長

何

某團

(第四號)

科 目	領收年月日	金額	事由	住所氏名
一 戶數	何百戸		明治何年度何郡市町村戸數地租患者數取調書	
一 地租	金何程		同	
一 傳染病患者	赤痢何人		何々何人	

右之通相違無之候也

年 月 日

何郡(市)町村長

何

某團

第五條 療治料ハ命令ノ定ムル區別ニ依リ一日三圓以内ヲ給ス
 給助料ハ遺族扶助料ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ給ス
 弔祭料ハ月給一ヶ月分又ハ日給三十日分ニ相當スル金額ヲ給ス其給料ヲ
 受ケサル者ニ在リテハ本屬長官適宜之ヲ給ス
 第六條 手當金ハ國庫支辨ノ事務ニ從事スル者ニ在リテハ國庫ノ負擔トシ
 府縣費支辨ノ事務ニ從事スル者ニ在リテハ府縣ノ負擔トス
 第七條 地方長官ハ市區町村ニ指示シ本法ノ規定ニ準シ其傳染病豫防救治
 ニ從事スル者ノ手當金支給ニ關スル規定ヲ設ケシムルコトヲ得

(別表)

等級	給月	遺族扶助料
一 等	二百圓以上	千圓
二 等	百六十圓以上	九百圓
三 等	百三十圓以上	八百圓
四 等	百圓以上	七百圓
五 等	八十圓以上	六百圓
六 等	七十圓以上	五百圓
七 等	六十圓以上	四百五十圓
八 等	五十圓以上	四百圓
九 等	四十圓以上	三百五十圓
十 等	三十圓以上	三百圓

(山梨警)

●傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ
手當金支給規程

明治三十三年六月
山梨縣令第三十一號

改正 大正一四年七月縣令第二七號
 市町村ハ明治三十三年法律第三十號ニ準シ傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ
 手當金支給ニ關スル條例ヲ設ケ明治三十三年七月一日ヨリ施行スヘシ但給
 料ヲ受ケサル者ノ手當金ハ別表範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

十一 等	二十圓以上	二百五十圓
十二 等	十圓以上	二百圓
十三 等	十圓未滿	百圓

職名	療治料	給助料	弔祭料	遺族扶助料
名譽職	一日一圓以	遺族扶助料ノ二分	弔祭料	遺族扶助料
町村長	上二圓以內	ノ一ニ相當金額		
同助役	同	同		
委員	同	同		
防役	同	同		

●傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ
手當金支給標準ノ件

明治三十三年七月
衛生第六九八號

本年六月縣令第三十一號ヲ以テ市町村ニ於テ傳染病豫防救治ニ從事スルモ
 ノ、手當金支給ニ關スル規程ヲ設ケヘキ旨指示相成候處概ネ左記標準ニ依
 リ規定セシメラレ候様致度依命此段及通譯候也

第一條 市町村吏員委員及使丁ニシテ傳染病豫防救治ニ從事スルモノ公務
 ニ依リ病毒ニ感染シ又ハ之レカ原因ニテ死亡シタルトキハ本則ニ依リ手
 當金ヲ給ス

第二條 手當金ハ左ノ四種トス

- 一 療治料
- 二 給助料
- 三 弔祭料
- 四 遺族扶助料

第三條 病毒ニ感染シタルモノニハ療治料ヲ給ス感染者治愈シタルトキハ
 給助料ヲ給ス死亡シタルトキハ其遺族ニ弔祭料及遺族扶助料ヲ給ス遺族
 ナキモノハ葬儀ヲ行フモノニ弔祭料ヲ給ス遺族中遺族扶助料ヲ受ケヘキ
 モノ、順位ハ官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル但療治料ハ發病當日ヨリ轉歸屆
 出ノ日迄之レヲ給ス

第四條 名譽職町村吏員及ヒ委員ニ支給スヘキ手當金ハ甲號表ニ依ル(三
 十三年縣令第三十一號ニ依リ其町村ニ於テ定メラレタル表ヲ甲號表ト
 ス)
 有給市(町)(村)吏員及使丁ニ支給スヘキ給助料ハ遺族扶助料ノ二分ノ一
 ニ相當スル金額トス弔祭料ハ月給一ヶ月分又ハ日給三十日分ニ相當スル

(山梨警)

●防疫ニ關スル件

明治四十二年六月
梨衛發第一六二號

金額トシ療治料及遺族扶助料ノ金額ハ乙號表ニ依ル(名譽職町村吏員ノ
 額ニ準シ其ノ町村之レヲ定ム)

赤痢、腸「チアス」患者取扱方ニ關シ各都市醫師會會長ト別紙ノ通協定致置
 候處警察官吏ト醫師會會長ニ於テ能ク意思疎通シ協定事項ヲ圓滿ニ遂行セハ
 防疫上得ル處不撻ト被認候條實行方法ニ關シテハ更ニ醫師會會長ト商議ヲ遂
 クル等該協定ニ依リ益々防疫ノ效果ヲ收ムル様努力セララルヘシ
 右及指示候也

赤痢腸チアス患者取扱協定事項

- 一 左ノ患者ヲ診察シタルトキハ注意患者トシテ速ニ患者所在地ノ警察官
 署若ハ巡查駐在所派出所ヘ通告スルコト其ノ全治シタルトキ亦同シ
- (イ) 下痢症患者ニシテ後日或ハ赤痢ニ變症セムトスルモノ感アルモ
 (ロ) 熱性病患者ニシテ或ハ腸チアストナラムトスルモノ感アルモ
- 一 前項注意患者ニ對シテハ主治醫ヨリ自家消毒ノ方法ヲ諭示スルコト
- 一 注意患者ハ可成適當ト認ムル別室ニ隔離シ看護人ヲ定メ家族親戚等ノ
 來訪ヲ謝絶セシムル様注意ヲ與フルコト
- 一 前二項ヲ遵守スルト否トハ萬一傳染病トナリタル場合ニ於テ自宅治療
 及改法豫防法第七條適當ノ場所ニ入ラシムヘキ許否ニ影響スル旨ヲ嚴
 示シ實行ヲ計ルコト
- 一 注意患者ノ通告ハ口頭又ハ適宜ノ用紙ニ患者ノ住所氏名年齢發病月日
 主治醫ノ氏名ヲ記シ若シ警察官ノ臨檢又ハ檢疫醫ノ檢診ヲ必要トスル

- 一 場合ハ其ノ旨ヲ附記スルコト
- 一 通告ヲ受ケタル患者ニシテ警察官ニ於テ病症ヲ知悉スルノ必要アルトキハ直接患者ニ就カス主治醫ヨリ之ヲ聞取ルコト
- 一 通告ハ患者ハ勿論一般ニ對シテモ出來得ル限リ秘密ニ取扱フコト
- 一 前各項ニ依リ經過ヲ注視シ赤痢又ハ赤痢疑似症若ハ腸チアス又ハ腸チアス疑似症ト決定シタルトキハ直ニ正式ノ届出ヲナスコト
- 一 警察官吏ニ於テ患者消毒ヲ行フ場合ハ可成主治醫ノ立會若ハ意見ヲ徵スヘキヲ以テ傳染病患者ト診定シタル場合ハ主治醫ハ消毒方法ヲ記シ之ヲ家人ニ交付スルコト
- 一 自宅治療ヲ許可スル場合ニハ可成主治醫ノ意見ヲ徵スルコト
- 一 傳染病院隔離病舎ノ主治醫ハ眞性患者ト疑似患者トノ病室ノ區分ニ留意シ疑似症者ノ眞性ニ變症セシトキハ遲滞ナク届出ヲ爲スコト
- 一 傳染病患者ノ治療ニ付テハ患者並ニ其ノ家人等ニ豫告スル以前ニ警察官吏ニ通報スルコト
- 一 傳染病類似症ヲ診斷シ又ハ死體ヲ檢案シ消毒ヲ要スト認メタルトキハ家人ニ指示シ一面其ノ住所氏名又診定病名ヲ警察官吏ニ通報スルコト但シ本項ノ場合ハ可成立會決診ノ方法ニ據ルヲ可トス
- 一 衛生講話會等ノ開催ニ付警察官吏又ハ市町村長ヨリ出席講演ヲ求メラレタル場合ハ努メテ出席シ又學校醫ハ學生ニ對シ時々衛生講話ヲ行フコト
- 一 警察官吏ト協定シ菌攜帶者並菌保有期限ヲ出來得ル限リ調査スルコト
- 一 前項調査ニ要スル經費ハ可成市町村又ハ患者家ヲシテ負擔セシムルコト

〔山梨警〕

●防疫ニ關シ各時期ニ於ケル處置ノ概要

大正十年七月 山梨縣訓令甲第三十二號

- 防疫ニ關シテハ從來幾多指示セル處ナルモ今回之カ統一ノ要ヲ認メ茲ニ各種傳染病ニ對スル一般處置ノ概要ヲ左ノ通定メタリ職ヲ防疫事務ニ従事スル者ハ能ク斯ノ方針ニ準據シ以テ豫防制遏ノ目的ヲ達セムコトヲ期スヘシ
- 明治三十五年四月訓令甲第三十號明治三十三年七月訓令第二十三號明治四十年六月訓令第二十七號ハ之ヲ廢止ス
- 第一期 準備ニ關スル處置
- 一 郡長警察署長ハ互ニ協議ヲ遂ケ市町村吏員豫防委員駐在巡查ヲ最寄ノ場所ニ召集シ左ノ事項ヲ協議講習シ及之カ實地演習ヲ爲スコト
 - 一 消毒藥ノ溶解法使用法並應用
 - 一 消毒器具ノ使用法並應用
 - 一 豫防注射施行ニ關スル注意事項
 - 一 病舎傳染路調査ニ關スル注意事項
 - 一 患者死者ノ取扱手續
 - 一 傳染病院隔離病舎ノ取締方法
 - 一 隱蔽患者發見ノ手段
 - 一 其ノ他必要ノ事項
 - 一 一般衛生思想普及涵養ニ努ムルコト
 - 一 市町村ハ豫防委員ニ充ツヘキ醫師及傳染病院隔離病舎ノ醫員ヲ豫定シ置クコト
 - 一 用水改良ヲ促スト同時ニ既設ノ分ニ對シテハ維持經營ニ努メシムルコト

〔山梨警〕

- 一 傳染病院、代用傳染病院、隔離病舎ヲ設置シ若ハ之カ設置ヲ勸誘シ既設ノ分ニ對シテハ修理改善ヲ加ヘ同時ニ之カ利用方法ヲ講スルコト
- 一 傳染病院、代用傳染病院、隔離病舎ナキ町村ハ之ニ充用スヘキ家屋ヲ豫定シ置クコト
- 一 醫療用若ハ消毒用藥品器具機械ノ類ハ應急ノ處置ヲナシ得ル標準備シ置クコト
- 一 一般ニ清潔保持ノ方法ヲ講スルコト
- 一 檢疫委員警察官吏又ハ郡吏ハ其ノ部内ヲ巡回シ市町村ニ於ケル各般設備ノ整齊ヲ監査シ完備ヲ期スルコト
- 一 警察官吏ハ檢病ノ戸口調査ヲ勵行スルコト
- 一 檢疫委員警察官吏郡吏ハ衛生組合ノ規約實行ヲ監視シ適當ニ指導スルコト
- 一 市町村ハ「コレラ」、腸「チアス」、「バラチアス」豫防トシテ可成患者發生前臨機豫防注射ヲ勸誘施行スルコト
- 一 市町村ハ蠅ノ發生期前ニ衛生組合、青年團等ノ活動ヲ促シ五〇—一〇〇倍ノ石油乳劑ヲ溝渠、便所、厩、塵埃溜等ニ撒布セシムルコト
- 一 警察官吏ハ注意患者ノ通報ニ對シテハ其ノ罹病期間ヲ査察シ適法ノ措置ヲ取ルコト
- 一 第二期 初發ニ際スル處置
- 一 傳染病患者發生届ハ適法ニ診斷サレタルヤ否ヤヲ精査スルコト、轉歸ノ時亦同シ
- 一 患者發生ニ際シテハ傳染病院、代用傳染病院、隔離病舎ニ隔離シ一週一回附近部落ノ健康診斷ヲナシ隔日檢病ノ戸口調査ヲ行ヒ發病ノ原因及傳染路ヲ査察シ之カ遮斷ノ方法ヲ講スルコト

三 自宅治療許可標準

- 一 發病當初ヨリ主治醫ノ注意ニヨリ完全ニ豫防消毒法ヲ執行シ家族傳染ハ勿論病毒散蔓ノ虞ナキモノ
- 一 防疫上適當ト認ムル隔離室ヲ有シ看護婦ヲ雇入得ルモノ
- 一 相當ノ衛生思想ヲ有シ主治醫及警察官吏豫防委員檢疫委員ノ指令命令ヲ遵守スルモノ
- 一 自宅治療ヲ許可シタルモノニ對シテハ明治四十三年九月衛衛第二八三號腸室扶斯私自宅治療患者ノ注意ヲ嚴行セシメ不充分ト認ムルトキハ自宅治療ヲ取消スコト
- 一 發病地ニハ檢疫委員警察官吏又ハ郡吏ヲ派遣シ懇口ニ市町村吏員ヲ教導指示シ各般ノ處置ニ遺漏ナカラシムルコト
- 一 市町村ハ「コレラ」、腸チアス、バラチアス」豫防注射ヲ勵行スルコト
- 一 衛生組合ヲシテ其ノ規約ヲ勵行セシムルコト
- 一 市町村長ハ「コレラ」、赤痢、腸「チアス」、患者又ハ死者アリタル家及其ノ豫防區域内各戸ノ便池ニハ傳染病豫防法第五條ノ清潔方法消毒方法ノ施行ヲ了リタル後「コレラ」、赤痢ニアリテハ七日間腸「チアス」、「バラチアス」ニアリテハ十四日間一日一回石灰乳ヲ灌カシムルコト
- 一 患者治療後ト雖モ上圖ノ都度虎列刺、赤痢ニアリテハ十四日間腸「チアス」、「バラチアス」ニアリテハ三週間石灰乳ヲ灌カシムルコト
- 一 市町村其ノ他ニ於テ豫防注射又ハ徑口免疫劑ノ投與ヲ爲シタルトキハ警察署長ハ左表ニ依リ報告スヘシ但シ個人ニ於テ爲シタル分ハ之ヲ報告スルニ及ハス

豫防注射及徑口免疫劑投與報告

施行者名	前三年ニ於ケル豫防ラ目的トスル傳染病患者發生數		豫防注射徑口免疫劑ノ區別	施行區域及其戸數、人口	施行人員		同上ノ内完了人員	計	施行月日	開始	終了
	男	女			男	女					
考											
備											

記載例

- (一) 施行者名欄ニハ市町村名又ハ衛生組合名等ヲ記載スルコト
- (二) 豫防注射徑口免疫劑ニハ「腸チフス」豫防注射、疫痢徑口免疫劑等ト記載スルコト
- (三) 備考欄ニハ強度ノ反應アリタル者ノ數豫防注射ヲナシ又ハ徑口免疫劑ヲ服用セル爲メ發病セリト誤解セラレルカ如キ者アラハ其ノ狀況ヲ記載スルコト
- 第三期 流行時ニ於ケル處置
- 一 検査委員警察官吏又ハ郡吏ハ常ニ巡回監督ヲ密ニシ市町村吏員又ハ豫防委員等ノ教導指示ニ怠ラサルコト
- 二 貧民患者救治ノ周到ヲ計ルコト

〔山梨警〕

三 検査委員警察官吏又ハ郡吏ハ常ニ傳染病院、代用傳染病院、隔離病舎、自宅治療家ヲ巡視監督シ常ニ治療上取扱上其ノ他各般ノ處置ニ注意シ缺遺ナカラシムルコト

●赤痢疑似症ニ關スル件

明治四十二年六月
山梨縣令第七十四號
赤痢病流行ノ虞アルヲ以テ該病ノ疑似症ニ對シテハ明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法ノ全部ヲ適用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●發疹「チフス」疑似症ニ關スル件

大正三年四月
山梨縣令第十三號
發疹室扶斯流行ノ虞アルヲ以テ該病ノ疑似症ニ對シテハ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法ノ全部ヲ適用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●腸「チフス」疑似症ニ關スル件

大正五年九月
山梨縣令第二十三號
傳染病豫防法第二條ニ依リ腸室扶斯疑似症ニ對シ同法第三條、第五條、第三十條、第三十一條ヲ適用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔山梨警〕

●流行性腦脊髄膜炎疑似症ニ關スル件

大正八年五月
山梨縣令第二十九號
流行性腦脊髄膜炎流行ノ虞アルヲ以テ該病ノ疑似症ニ對シテハ明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法ノ全部ヲ適用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●痘瘡疑似症ニ關スル件

大正十五年三月
山梨縣令第六號
痘瘡流行ノ虞アルヲ以テ該病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法第二條第二項ニ依リ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法ノ全部ヲ適用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●赤痢豫防ニ關スル件

明治三十八年七月
山梨縣令第三十一號
赤痢病豫防上必要ト認ムルヲ以テ明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法第十九條第一號及同年五月内務省令第十一號傳染病豫防法規則第十條ニ依リ當分ノ内市町村ノ醫師ヲシテ健康診断及屍體檢案ヲ行ハシム
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●赤痢病患者自宅治療許可標準

明治四十年六月七日
訓示第二十七號

赤痢病患者自宅治療許可標準左ノ通り定ム
明治三十九年六月内示第七號ハ廢止ス

自宅治療許可標準

- 一 發病當時ヨリ主治醫ノ注意ニ依リ完全ニ豫防消毒法ヲ執行シ家族傳染ハ勿論病毒散蔓ノ虞ナキモノ
- 二 防疫上適當ト認ムル隔離室ヲ有シ看護婦ヲ雇入レ得ルモノ
- 三 相當ノ衛生思想ヲ有シ主治醫及警察官吏豫防委員ノ指示命令ヲ遵守スルモノ

以上各號ヲ具備シ防疫上支障ナシト認ムルモノ

●赤痢病患者自宅治療許可標準ノ件

明治四十年六月
梨衛發第一〇六號
本日訓示第二十七號ヲ以テ赤痢病患者自宅治療許可標準改正相成候處右ハ從來ノ實驗ニ鑑ミ患者隱蔽ノ弊ヲ除キ流行ノ禍根ヲ刈除スルニハ可成強制ノ手段ヲ避ケ其欲スル所ノ治療ニ任セシメ以テ病毒ノ撲滅ヲ期スル方大局ニ於テ好結果ヲ得ラルヘシトノ旨趣ニ有之候間可然御了承満足ナル效果ヲ收メシムル様御配慮相成度依命此段及通牒候也

●赤痢病患者自宅治療ノ件

明治四十年六月
梨衛發第一〇八號
今般訓示第二十七號ヲ以テ赤痢病患者自宅治療許可標準ヲ被定候處許可ニ付テハ稟議ヲ要セサルモ取消ノ必要ヲ生シタル場合ハ其都度稟議ノ上御處置相成候様御取計相成度依命此段及通牒候也

赤痢病患者取扱方ニ關スル件

明治四十年六月
梨衛發第一一號

赤痢病患者自宅治療許可標準別紙ノ通り各警察署長分署長へ通達致置候右ハ從來ノ實験ニ鑑ミ患者隠蔽ノ弊ヲ除キ流行ノ禍根ヲ刈除スルニハ可成強制ノ手段ヲ避ケ其欲スル處ノ治療ニ任セシメ以テ病毒ノ撲滅ヲ期スル方大局ニ於テ好結果ヲ得ラルヘシトノ旨趣ニ基キタル儀ニ有之候間可然御了承該旨趣ニ則リ御取扱ノ上満足ナル效果ヲ收メシムル様御配慮相成度依命此段及通牒候也

(別紙略ス)

赤痢豫防ニ關スル件

明治四十年二月
梨衛收第七八〇號ノ一

赤痢病豫防ニ關シテハ傳染病豫防法發布以來交通遮斷ヲ嚴行スルノ方針ヲ執リ來リ候處爾來各地方ノ病況ニ鑑ミ又豫防方策ノ進歩ニ就テ考察スルニ特別ノ場合ヲ除ク外最早之ヲ施行スルノ必要無之ト被認候間傳染病豫防法施行規則第六條第一號乃至第三號ノ處分ヲ之ヲ廢止セラレ候方寧口大局ノ防疫上利益可有之ト被存候間爾後右ノ方針ニ依リ措置スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候ニ付右ニ依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也

柿ノ熟否鑑別法

明治四十年九月
梨衛發第五六號

柿ノ熟否ニ關スル鑑別法左記ノ通りニ候條右ニ依リ相當御取締相成度依命此段及通牒候也

〔山梨警〕

嘔吐又ハ下痢患者届出方ノ件

大正元年十一月
山梨縣令第十八號

柿ノ外皮ハ鮮青色ヲ呈スルトモ既ニ完熟セルモノアリ故ニ單ニ其色合ニノミ據リ判定シ難シ果實ニ疵付クスシテ判知セシニハ外皮ニ附着スル白粉ノ状態ニ據ルヲ便トス即チ外皮ニ白粉ヲ殘スモノハ概ネ未熟ニシテ滋味アリ白粉ノ全ク去リタルモノハ概ネ熟期ニ達シ居リテ甘キモノナリ若シ果實ニ疵付クルヲ得ル場合ニハ舌ニヨリテモ亦眼識(乾澀)ヲ以テ判全容易ナリ

醫師ニシテ嘔吐又ハ下痢アル患者ヲ診察シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏市町村長檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ

市町村長又ハ豫防委員ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ速ニ警察官吏ニ通報スヘシ

本令第一項ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

傳染病患者ノ刑事被告人タル場合ノ取扱方ニ關スル件

明治三十八年七月
三七宮甲第一六號

拘留狀ヲ執行シタル刑事被告人ハ裁判所所在地ニ監獄ナキ場合ニ於テノミ之ヲ警察署内ノ留置場ニ拘禁スルコトヲ得ルト雖モ監獄アル場合ニ於テハ其健康者タルト疾病者タルトヲ問ハス之ヲ監獄ニ送致セサルヘカラサル儀

〔山梨警〕

警察官都市町村區吏員心得

- 第一條 ベスト患者發生ノ萌アルトキハ其市町村ニ於テ左ノ豫防法ヲ施行スルコトヲ要ス
- 一 患者ニ接近セル各戸ニ大掃除ヲ爲シ家什疊建具等ヲ日光空氣ニ曝ス
 - 二 芥溜ヲ掃除シ其塵芥ハ成ルヘク燒却スルコト但シ燒却シ得サル場合ハ石灰乳ヲ撒布シテ無害ノ場所ニ棄却スルコト
 - 三 下水ニハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌スルコト
 - 四 破損セル井戸及ヒ下水ハ之ヲ改修スルコト
 - 五 一般ニ清潔法ヲ施行スルコト
 - 六 公私便所ニハ日々石灰乳ヲ撒布スルコト
 - 七 患者死者アルヲ速ニ知得スヘキ方法ヲ設ケルコト
 - 八 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト
 - 九 貧困者ノ病ニ罹リタル際速ニ醫療ヲ受ケ易カラシムルコト
 - 一〇 避病院若クハ隔離病舎ヲ設置シ本病又ハ疑似患者アリシ際速ニ隔離スルコト
 - 一一 患者ハ勿論其他タリトモ病家ニ近接シタル家屋ニシテ不潔狹隘等病毒傳播ノ虞アルトキハ狀況ヲ鑑ミ其部分ノ交通ヲ遮斷スルコト
 - 一二 交通遮斷中ノ家ニ於ケル日用品買入其他ノ用務ハ近隣ノモノ又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト
 - 一三 患者治療若クハ死亡シ又ハ避病院ニ隔離シタル時ヨリ一週間ヲ經ルモ新患者ヲ發生セサルトキハ遮斷ヲ解除スルコト
 - 一四 患者恢復期ノ後消毒法ヲ行ヒ入浴換衣スルモ身體ニ創傷アリテ血液膿汁等ヲ排泄スルモノハ猶ホ一ヶ月間健康者ト交通セシメサルコト

ベスト豫防法

明治二十九年四月
山梨縣訓令第十一號

本病感染ノ行路ハ主トシテ身體ノ創傷ヨリシ又呼吸器及消化器ヨリモ來タルコトアルニ似タリ而シテ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ患部ヨリ排泄スル血液、膿汁中ニ含マルモノニシテ其一タヒ貧民部落ノ如キ不潔汚穢ノ場所ニ侵入スルハ忽チ散蔓傳播ノ勢ヒヲ逞フスルモノナレハ本病ノ蔓延ヲ豫防セントスルニハ速ニ患者ト健康者トヲ隔離シ患者ニ接シタル衣類其他汚染セルモノノ消毒ヲ嚴重ニシ土地家屋ノ清潔ヲ力メ病毒ノ未タ蔓延セサルニ先シ一小局部ニ撲滅セシムルヲ要ス

- 一五 患者死亡シタルトキハ其死屍ヲ速ニ火葬スルコト但シ已ヲ得サル事情アリテ火葬シ能ハサルトキハ十分消毒法ヲ施行シタル後埋葬スルコト
- 一六 看病人ハ健全ニシテ身體中創傷ナク特ニ手及指頭等ニハ肝臟腫ノ如キ微傷タリトモ無キモノヲ撰ヒ爪ハ常ニ銕ミ取り爪間ニ污垢ナキ様注意セシムルコト
- 一七 看護人患者ヲ離レ消毒換衣ノ後タリトモ一週間ハ他ノ健康者ト交通セシメサルコト
- 一八 衛生組合アル町村ニ於テハ該組長ヨリ豫防法ヲ各戸ニ説示セシムルコト

第二條 前條ノ場合ニ於テハ郡市町村區吏員醫師等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ヲ擔當セシムルヲ要ス

各自由心傳

- 第三條 ベスト患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス
 - 一 患者ハ速ニ避難院又ハ隔離病舎ニ移シテ治療セシムルコト
 - 二 患者ヲ入院又ハ入舎セシムルコト能ハサル場合ニハ病室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
 - 三 病室ハ清潔ニ掃除シ成ルヘク家什ヲ置カサル様取片附ケ空氣ノ流通ヲ良クスルコト
 - 四 患者ノ痰唾鼻汁其他身體ニ創傷アリテ其部分ヨリ排泄スル血液膿汁ヲ拭ヒタル紙片布片等ハ覆蓋ヲ有スル容器ニ取藏メ其都度消毒藥ヲ灌キ置キ更ニ燒却スルコト
 - 五 患者用ノ便器ニハ覆蓋ヲ具ヘ且ツ汚濁ノ虞ナキモノヲ撰ミ使用ノ後ニハ糞便ト同量ノ石炭乳ヲ投シ消毒スヘシ
 - 六 患者ノ上リタル便所ニハ糞便ト同量ノ石炭乳ヲ灌キ爾後患者ノ上ル

〔山梨警〕

●ベスト豫防ニ關スル件

明治三十八年五月 調示第三二號

急性病患者及死者ニ就テハ其ノ發病前後ノ病況發病ノ原因交通ノ關係職業等詳細調査ヲ遂ケ其都度報告スヘシ

●コレラ豫防ニ關スル件

大正五年九月 山梨縣告示第二號

去ル七月横濱入港ノ布哇丸ガ「コレラ」病ヲ輸入シテ以來全國海岸線ニ接スル各府縣ニ蔓延シ今陸路ニ依リ其他府縣ニ浸入益々猖獗ヲ極メント殊ニ本縣ト交通上密接ナル關係ヲ有スル東京神奈川愛知ノ各府縣ニハ本病ノ劇增スル傾向アリ然ルニ經濟界ノ狀況ハ稀ニ見ルノ順調ニシテ農作物又豐饒恰モ秋季食慾亢進スルノ際多數群集シ豐饒祭等各所ニ催サレ暴飲暴食ノ機會ヲ生スルノ憂ナキヲ保セシ現ニ最近本縣ニ於テハ腐敗飲食物等ニ起因スル中毒患者續發スルアリ此際各自自重シテ攝生ニ努メ「コレラ」病襲來ニ對スル自衛的豫防策ヲ講スルニアラサレハ前途甚々寒心ニ堪ヘサルモノアリ依テ左ニ其ノ疾病ノ大略ヲ記シ併セテ之レカ豫防法ヲ示サントス各自ハ宜シク警戒ヲ怠ルヘカラス

第一 「コレラ」病ノ性質

「コレラ」病ヲ發スル原因物ハ微弱ノ植物體ニ屬スル微ノ類ニシテ「コンマ」形ノ細菌ナリ若シ「コレラ」菌ガ人體ノ腸中ニ入ルトキハ腸内ニ於テ最モ能ク生育シ好シテ子孫ヲ繁殖スルモノニシテ短時間ニシテ一個ノ細菌ヨリ數億萬ヲ増生スルヲ得ヘシ

「コレラ」菌ノ抵抗力

- 七 患者ノ用ヒタル衣服臥具敷物飲食器其他看護人ノ衣服等總テ患者ノ患部ヨリ排泄スル汚汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ適當ノ容器ニ取藏メ消毒藥ヲ灌キ置キ更ニ消毒法ヲ行フコト但シ再ヒ使用セサルモ差支ヘナキモノハ成ルヘク燒却スルコト
- 八 患者ノ患部ヨリ排泄スル汚汁及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ハ汚汁等ニ汚病セサル様注意スルコト
- 九 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ患部ヨリ排泄スル汚汁等ニ觸レサル様注意シ且ツ其汚汁及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ二十倍ノ石炭酸水ニテ手ヲ洗フコト
- 一〇 病室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラス

第四條 ベスト患者發生シタルトキハ病家近傍ノ各家ハ共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者アル家ト交通ヲ爲サ、ルコト
- 二 芥瀉ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流汚濁ヲ防キ且ツ井戸及ヒ下水溝ノ破損セル部分ハ速ニ改修スルコト
- 三 病家ノ用ユル井戸他家ニ於テ共用セサルコト但シ已ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用ユルコト
- 四 飲食物ハ成ルヘク熱煮シテ用ユルコト
- 五 身體ニ創傷アルモノハ石炭酸水ヲ以テ時々其部分ヲ洗滌シ創面ノ癒著ヲ謀ルト共ニ病毒ノ侵入ヲ防グニ注意スルコト
- 六 家屋ヲ掃除シ家什疊建具等ハ能ク日光空氣ニ曝スルコト
- 七 衣服臥具等ハ能ク日光空氣ニ曝露シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト
- 八 家屋内ニ鼠アルトキハ直ニ之ヲ燒却スルコト

〔山梨警〕

「コレラ」菌ノ抵抗ハ微弱ニシテ高熱乾燥殺菌劑及酸類ニヨリ容易ニ死滅ス下水中ニ二十七時間生存シ寒冷ニ對シテハ抵抗力却テ大ナリ之レ「コレラ」病カ冬ヲ通シテ翌年ニ流行スル所以ナリ〇下十六度ニ於テ五十七日間生存ス八十度ニテハ五分間ニシテ死ス日光及乾燥ニ遭ハハ一時間ニシテ滅ス殺菌劑ニ對シテハ甚々弱ク二百乃至三萬倍ノ昇汞ニテ五分乃至十分ニシテ死ス百倍ノ石炭酸ニテ五分間一萬倍鹽酸及硫酸液ニテ數秒時ニシテ死滅ス水中ニハ永ク生存シ數週或ハ數ヶ月間生存スルコトアリ生水ノ危險ハコトニ存ス

液體食物嗜好物ニ於テハ永ク生存ス牛乳中ニ一二日間生存百倍ノ茶ハ八日間二十五倍ノ茶ハ一時間葡萄酒中ニテハ五乃至二十分間ビール中ニハ三時間生存ス菓實及野菜等ハ乾燥スレハ速ニ死ス魚介類ノ間隙中ニハ永ク生存ス「コレラ」菌人體内ニ入レハ一日二日若クハ三日位ニシテ其ノ細菌ノ毒ニ中テラレ米汁様ノ乳色下痢トナリ又嘔吐ヲ起シ次テ皮膚ハ弾力性ヲ失ヒ皺襞ヲ生シ口渴シ聲音ハ嘶嘎ス手足ハ冷却スルニ拘ハラズ灼熱感アリ眼ハ四ミ顔面手足ノ血液ハ滯リテ蒼白トナリ膀胱痙攣ヲ發シ尿利ハ止マリ尿搏極メテ細ク危險ノ容態ヲ呈スルニ至ル人之レヲ「コレラ」病ト稱ス

平生攝生ニ注意シ腸胃健全ナルモノニシテ「コレラ」菌ニ對スル豫防消毒上ノ覺悟ヲ有スル者ハ假令「コレラ」流行スルトモ罹リ難ク若シ犯サル、モ死亡スルコト稀ナリ徒ラニ恐怖スルハ犯サレ易ク死亡シ易シ「コレラ」病ニ罹レハ一二日後百人中六〇乃至七〇人迄ハ死亡ス殊ニ今回ノ「コレラ」病ハ前年ヨリモ死亡數多キハ注意スヘキコトナリ

第二 傳染ノ狀況

【一】「コレラ」菌ノ出現

「コレラ」菌ハ患者ノ腸中ニノミ棲住シ其他ノ臟器血清中ニアラス隨ツテ體

外ニ出ツルニハ必ス糞便ト共ニ肛門ヨリス然レトモ往々患者ノ吐物ニ混シテ排出サル、コトアリ

【一】「コレラ」菌カ健康者ニ侵入スル部位
吐瀉物ト共ニ體外ニ出テタル「コレラ」菌ハ食物其他諸種ノ機會ニ於テ必ス口ヨリ胃中ニ嚥下サル、モノニシテ決シテ呼吸ニヨリ若クハ皮膚ヨリ侵入スルモノニアラス

【三】 傳染ノ徑路

「コレラ」菌カ健康者ノ口腔ニ入ルニハ必ス媒介者ヲ要ス此媒介者ニ直接媒介者ト間接媒介者トノ別アリ

甲 直接媒介者

直接媒介者トハ「コレラ」患者若クハ「コレラ」病者ニ直接シテ媒介スル者ヲ云ヒ例之患者ノ吐瀉物又ハ之ニ汚染シタル物品ヲ取扱ヒタルモノ自體ノ消毒ヲ怠リ其汚レタル手指ヲ不知不識嘗ムルカ又ハ其手ヲ以テ飲食物飲食器具等ヲ取扱ヒタルカ爲病者ノ口腔ニ達スル機會ヲ得タル時ノ如キ是ナリ

乙 間接媒介者

間接媒介者トハ患者ニ直接セサルモ其吐瀉物ヲ諸種ノ徑路ヲ以テ遠キ健康者ニ媒介スル者ヲ云ヒ例之吐瀉物ニ汚レタル水及飲食物病者ヲ運搬スル蠅等之ナリ

爰ニ最モ注意スヘキ要件ハ一見健康ノ如ク見ユル人ニシテ其糞便中ニ「コレラ」菌ヲ保有スル場合アリ傳染病ノ散蔓スルハ多クハ此者ニ依リテ來ル即チ一度「コレラ」病ニ罹リ若クハ天然ニ本病ニ犯サレサル體質ヲ有スル者ハ「コレラ」菌ノ浸入ヲ受ケルモ發病セシテ常ニ糞便中ニ「コレラ」菌ヲ排泄ス故ニ「コレラ」流行時ニアリテハ患者周圍ノ健康者ノ糞便モ常ニ山梨縣細菌検査所ニ送付シ検査ヲ受ケルハ傳染病豫防上最モ必要ナルコトナリ(同所ハ傳染病豫防上無料検査ノ制アリ)

【山梨縣】

【山梨縣】

ノ清潔ヲ旨トシ蠅ノ驅除ヲ講スルト同時ニ飲食物ニハ蠅帳ヲ被フヘシ
ハ 上水道水ヲ使用シ然ラサレハ飲雜用水ハ一旦煮沸セルモノヲ用ユヘシ

患者ノ吐瀉物竝ニ其汚染物ノ取扱ニ缺點アリテ飲用水又ハ使用水ノ病毒ニ浸染サル、事アリ之ニヨリ大流行成セルハ往々見ル所ナリ故ニ飲用ニ供スルト雜用ニ供スルトヲ問ハス一旦煮沸シテ使用セサルヘカラス之ニ反シ上水ハ病毒ニ浸淫サル、恐レナキヲ以テ生水ヲ飲ミ之ヲ使用スルニ於テ煮沸スルノ煩ナシ

【三】 「コレラ」菌ノ浸入ヲ避ケルコト

流行地ニアルモノ若クハ流行地ニ已テ得ス交通セルモノハ自身ノ周圍ハ凡テ「コレラ」菌ニ迫ラレタルモノト覺悟シテ「コレラ」菌浸入門戸タル口ニ附クモノ口ヲ通りテ人體内ニ入ルモノニ對シ一々綿密ナル注意ヲ拂ヒ過ツテ死地ニ陥ルノ憾ナカラント期スヘキナリ

【一】 飲食物ヲ煮沸

飲食物ハ生活上缺クヘカササル要素ニシテ又必ス口ヲ通過セサレハナラス然レトモ「コレラ」流行時ニ當リ萬一病毒混入センカ危險ハ茲ニ因ス假令「コレラ」流行セサルモ遠ク海岸地方ニ流行スル場合ハ患者ノ吐瀉物ニ依リ汚サレタル海水ニ棲息スル魚介類ハ最モ危險ナルモノナリ鹽水ハ「コレラ」菌ヲ殺スモノニアラスシテ寧ろ繁殖スルモノナリ故ニ流行地方ニアリテハ河トナク海トナク魚介類ノ捕獲ヲ禁スルモ萬一ヲ怖ル、ヲ以テ是等輸入魚介類ハ煮若クハ燒クニアラサレハ食スヘカラス

【二】 手ノ消毒

手若クハ足ハ最モ病毒ニ汚染シ易ク然カモ飲食物ヲ口ニ達セシムルニハ手ノ勤キヲ要スルハ勿論ナリ如何ニ飲食物ヲ無害ニスルコトヲ得ルモ手ニシテ病毒ニ汚染センカ危險ハ忽チ口中ニ迫ル飲食物飲食器具ヲ取扱フ者ハ殊

第三 豫防法

叙上傳染狀況ノ概要ヲ知ルヲ得タリ而シテ之レカ豫防策トシテハ第一吐瀉物中ノ「コレラ」病原タル「コレラ」菌ノ滅殺第二傳染徑路ノ斷絶第三病毒侵入ノ防止若シ誤テ病毒侵入スルアルモ之レニ抵抗シ得ヘキ體力ノ養成是ナリ

【一】 「コレラ」菌ノ滅殺

「コレラ」菌延ノ源泉ハ患者ノ吐瀉物ナルヲ以テ「コレラ」菌ヲ滅殺セントセハ「コレラ」患者若クハ一見健康ノ如ク見ユル「コレラ」菌保有者ヲ早期ニ發見シ之レヲ健康者ト隔離シ其排泄物ニ對シ直チニ之レヲ消毒スルニアリ(吐瀉物ト同量ノ石灰ヲ混シ攪拌ス)衣類其他ノ汚染物ニシテ燒却シ得ラレ、モノハ燒却スルヲ最モ良トス其他藥物消毒煮沸蒸氣消毒等凡テ當該吏員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ消毒ス之等消毒ノ困難ナル場合ニ於テ日光消毒ヲ行フコトアリ然レトモ本法ハ物ノ表面ノミニニ於テハ偉大ナル消毒ノ效力ヲ有スルモ其深部ニ及ホス能ハサルノ憾アリ注意スルヲ要ス

【二】 傳染病徑路ノ斷絶

傳染病徑路即チ「コレラ」媒介者ヲ途絶スルノ方法ハ
イ 「コレラ」流行地ニ交通スルヲ見合スヘシ
「コレラ」流行地ニ交通スルハ「コレラ」感染ノ機會ヲ多カラシメ且自身感染セサルモ其病者ヲ攜帶傳播スルノ危險アルヲ以テ止ムヲ得サル場合ノ外流行地ニ交通セサルヲ良トス此場合ニ於テハ手ト飲食物ニ注意スルヲ要ス

ロ 蠅ノ發生ヲ防キ之レヲ驅除スヘシ

蠅ハ不潔ノ所ニ發生シ不潔物竝ニ飲食物ニ留マリ殊ニ好シテ「コレラ」患者ノ吐瀉物ニ附クヲ以テ其際「コレラ」蠅ヲ腋尖若クハ羽翼等ニ附著シ更ニ飲食物ニ飛ヒ來リ細菌ヲ移植スルコトアリ故ニ溝渠ハ勿論家屋

ニ深甚ナル注意ヲ拂フヲ要ス即チ食前若クハ飲食物ヲ取扱フ前後ハ手ヲ洗フハ最モ好キ習慣ナリ流行時ニ於テハ消毒藥ヲ以テ洗滌スルハ最モ良ナリ洗滌シタル水ハ又危險ナキニアラス宜シク溜ニ棄ツヘシ

【三】 飲食器具ニ注意スヘシ

手ヲ消毒シ飲食物ヲ無害ナラシムルモ其ノ容器ニシテ「コレラ」菌附着センカ一ヲ得テ十ヲ失フ道理ナリ故ニ飲食器具ハ煮沸シ之ヲ使用スヘシ

【四】 「コレラ」菌ニ對スル人體ノ防禦力ヲ養フヘキコト

健康人ハ「コレラ」ニ對スル自然防禦裝置ヲ具フ胃腸之ナリ胃中ニハ胃液ト稱シ鹽酸ヲ含有セル液體ヲ分泌シ一方ニ食物ヲ消化シ一方ニ消毒作用ヲ營爲ス即チ飲食物ト共ニ胃中ニ入り來リテ細菌ヲ滅殺スル效能ヲ有ス依ツテ其防禦裝置ノ完全ニ保タシメシカ爲メ左ノ要件アリ

一 暴飲暴食ニ不消化物ノ食用ヲ禁ス

口渴ヲ訴フレハ煮沸水ヲ飲ムヘク三度ノ食事ハ平常ノ如クスヘク間食ハ害アリテ益ナシ假令好物ナリト雖トモ過食スレハ胃ノ消化力消毒力ヲ防キ腐敗醱酵ヲ成シ自然ノ防禦裝置タル胃ヲ害シ腸ヲ害ス此際飲食物ニ「コレラ」菌ノ混入セルモノヲ嚥下シタリトセンカ忽チ「コレラ」病ニ犯サル、ノ危險アリ殊ニ最近腐敗飲食物ニ起因スル急性胃腸加答兒患者ヲ續發スルハ大ニ戒心セサルヘカササルコト、ス
夜間障子ヲ開放シ裸體ニテ就寝スルハ寢冷ヲ來シ爲ニ胃腸ニ障害ヲ來シ下痢スルコトアリ必ス腹巻ヲ用ユヘシ

二 豫防接種

種痘ヲ行ヘハ天然痘ニ罹ラサル如ク「コレラ」流行時ニ於テ「コレラ」菌カ人體ニ入ラサル前ニ「コレラ」菌ヲ無害トナシタルモノヲ人體ニ接種スレハ假令「コレラ」菌ノ浸襲ヲ受ケルモ「コレラ」病ヲ發スルニ至ラス又萬一「コレラ」病ニ感染スルモ輕易ニ經過スルノ利アリ

コレラ豫防ニ關スル件

大正九年七月
山梨縣告諭第三號

本年四月以來臺灣各地ニ「コレラ」病發生シ漸次猖獗ヲ極メツ、アリシカ内地ニ於テモ六月六日突如神戸港ニ發生シ猛烈ナル勢ヲ以テ同縣下ヲ初メ廣島、香川、福岡、大阪、京都、長崎、愛媛、山口、大分、奈良、和歌山、三重、高知、熊本、佐賀、岡山、富山、徳島ノ諸府縣下ニ蔓延シ最近ニ至リ神奈川縣及東京市ニ發生スルニ至ル初發以來僅々一ヶ月ニシテ患者一千名以上ニ達ス之ヲ從來ノ例ニ徵スルニ發生ノ時期著シク早キヲ以テ季節ノ關係上其ノ蔓延ノ度測リ知ルヘカラス本縣ニ於テハ幸ヒ未ダ病毒ノ浸襲ヲ蒙ラズト雖其病毒ハ何時侵入スヤモ計ラレス殊ニ東京神奈川ニ本縣ト交通其他密接ノ關係アリ洵ニ憂慮ニ堪ヘス故ニ之ヲ豫防ニ關シテハ官民協力一致シテ事ニ當リ隣保相戒メ左記ノ事項ニ注意シ専ラ自衛豫防ニ努ムヘシ

注意事項

- 一 虎列刺流行地ヨリ來リシ者及流行地ヨリ移入シタル食品ニ對シテハ充分注意スルコト
- 一 虎列刺流行地ヘノ旅行ハナルヘク之ヲ避ケ止ムヲ得サル場合ハ豫防注射ヲ受ケ且ツ行先ニ於テハ飲食物其他ニ充分注意スルコト
- 一 食物ハ必ス煮熟シタルモノヲ採リ特ニ胃腸ヲ傷フ虞アル飲食物(氷水其他不消化物)ハコレヲ避ケルコト
- 一 飲用水ハ素ヨリ雑用水ト雖モ善良ナル水ヲ撰ヒ成ルヘク煮沸シテ用ユルコト
- 一 常ニ清潔ヲ旨トシ食前手指ヲ洗フコト
- 一 蠅ハ病毒ヲ傳播スルナレハ其ノ驅除ニ努メ飲食物ニハ必ス適當ナル被蓋ヲ用フルコト

〔山梨警〕

腸室扶私豫防ニ關スル件

明治四十二年九月
梨衛發第二八三號

腸室扶私豫防ニ關シ這般告諭ヲ發セラレタルニ付テハ該告諭ノ趣旨ヲ一般ニ周知セシメ尙腸室扶私自宅治療患者ニ對シテハ別紙注意事項ヲ指示シテ之カ實行ニ努メ以テ防疫上遺漏ナキヲ期セラレヘシ

腸室扶私自宅治療患者ノ注意

- 一 自宅ニ於テ腸室扶私患者ヲ治療スルニ當リ豫防上ノ注意疎カナルトキハ他ノ家人ニ傳染シ益々不幸ヲ重ムル恐アルニ依リ患者ニ居ル者ハ宜シク醫師及當局者ノ指示ニ遵ヒ嚴重ナル消毒ヲ實行シ豫防ニ努メ以テ後日ノ悔ナキヲ期スルコト肝要ナリ
- 一 病室ト定メラレタル部屋ニハ患者治療上日常必要ナル物品ノミヲ備ヘ置キ決シテ之等ノ物品ヲ他室ニ持行キ又ハ健康者用ト混同セサルコト
- 二 病室專用トシテ必ス備ヘ置クヘキモノハ食器、布巾、雜巾、箒、便器、消毒藥、藥品撒布器、手拭等ナリ
- 三 總テ一旦病室内ニ持入レタルモノハ消毒ノ上ニアラサレハ病室外ニ持出サ、ルコト
- 四 患者ニ用ヒタル食器ハ總テ熱湯内ニ入レ消毒シタル後湯又ハ水ニテ充

〔山梨警〕

分洗フヘキコト

- 五 患者ニ用ヒタル食器ハ家人用ノ炊事場ニテ洗フヘカラス必特別ノ場所又ハ病室内適當ノ場所ニテ洗フヘキコト
- 六 看病人ニ關スルコト
- 七 看病人ハ必看護衣(可成白衣)ヲ著用スヘキコト
- 八 看病人ニシテ食事、入浴、便所行等止ヲ得スシテ病室外ニ出ツルトキハ看護衣及足袋其ノ他履物ヲ脱キ去リ手足ヲ消毒スヘキコト
- 九 看病人ハ病室外ノ物品ヲ取扱ハヌ様ニスヘキコト
- 一〇 看病人ハ看護作業ハ勿論食器ノ洗滌、排泄物ノ處置等總テ患者ニ關スル取扱ヒテ他人ニ委セサルコト
- 一〇 患者飲食物取扱ニ關スルコト
- 一〇 病室外ニ於テ調理シタル飲食物ヲ容器ノ儘病室ニ運ヒ入ルヘカラス必病室内備付ノ食器ニ内容ノミヲ移シ入ルヘシ殊ニ他ヨリ配達サル、牛乳瓶ノ如キ最此注意ヲ要ス
- 一〇 汚物及汚染シタル物品ノ取扱ニ關スルコト
- 一一 糞便其ノ他排泄物ハ當局者ノ承認ヲ得タル一定ノ容器ヲ備ヘ置キテ之ニ入レ適量ノ消毒藥ヲ同時ニ混入シ覆蓋ニテ密閉スヘキコト
- 一二 排泄物以外ノ汚水、廢物等モ前項ニ依リ措置スヘキコト
- 一二 寢卷夜具等ヲ取更ユルトキハ其ノ汚染シタルモノハ之ヲ一纏メトナシ病室ノ一部ニ置キ當局者ノ差圖ヲ待ツヘキコト
- 一三 家人ノ注意ニ關スルコト
- 一三 家人ハ煮熟セサルモノヲ飲食スルコトナク汲ミ置キノ水ヲ用キルコトナク井水ハ一旦沸騰セシメタルモノニアラサレハ飲マサル等一般豫防方法ニ注意スルハ勿論少シニテモ身體ニ異常ヲ感シタルトキハ直ニ醫師ノ診斷ヲ受クヘキコト

流行性腦脊髄膜炎豫防ノ件

明治三十八年三月
山梨縣告諭第三號

東京府東京市ニ於テ本年九月以來流行性腦脊髄膜炎及其ノ疑アル患者發生シ本月十三日迄ニ既ニ四十二名(内死亡二十一名)ノ多キニ及ヒ益々蔓延ノ兆ヲ呈シ尚神奈川縣橫濱市ニ於テモ本病ノ疑アル患者發生スルニ至レリ本縣ハ彼ノ地ト交通頻繁ナルヲ以テ此際縣民ハ不時ノ侵襲ニ備フル周密ナル衛生上ノ注意ヲ要ス仍テ衣食住ノ清潔並ニ感冒ノ豫防ニ留意スヘキハ勿論苟クモ惡感、發熱、眩暈、脚氣、頭痛、頭部ノ疼痛、強直、痙攣、抽搐、半身痲痺、言語障害、人事不省等ノ症候ヲ呈スル者ハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケ該症ノ疑アル患者ハ相當ノ豫防消毒ヲ爲シ直チニ他ノ健康者トノ隔離ヲ行フ等周到ナル各自ノ注意ニ依リテ不測ノ災害ニ陥ラサル様深ク警戒スヘシ

ヂフテリア病血清治療施行ノ件

明治三十四年十二月
衛第二一四四號

實布の里亞病患者ハ既往五ヶ年間ニ於テ一千三百三名ノ發生ヲ見内死者五百八十一名アリ即チ是等憐ムヘキ兒童ノ百人中四十四人強ハ之カ父兄ニ於テ血清治療方法ノ效果アルコトヲ知ラサルカ若クハ血清治療ノ偉功アルコトヲ知ルモ實力ノ堪ヘサル等ノ爲ニ其ノ利澤ニ浴スルヲ得シテ是ノ如ク多クノ死亡者ヲ見ルニ至リ遺憾少ナカラサルヲ以テ今般長官ヨリ普ク告諭相成リタル次第ニ有之候該病患者ニシテ始メヨリ時期ヲ失フコトナク本療治ヲ施スニ於テ八九〇%マテハ治療スルモノナル事今日ニ在テ疑ヲ容レサル事實ニ有之就テハ各町村ニ於テ町村醫ヲシテ豫メ處要量ノ血清ヲ購入セ

〔山梨警〕

シメ置キ一切公費ヲ以テ治療ヲ爲サシムルカ又町村醫ヲシテ一時治療ヲ爲サシメ血清ノ價格ハ之レヲ患者ヨリ徵收スルカ若クハ醫師ノ血清治療ヲ爲ス場合ニ多少ノ補助ヲ與ヘテ可成廉價ニ治療ヲ受ケシムル等適當ノ方法ヲ設ケ以テ何人モ能ク時期ヲ誤ラス迅速且容易ニ血清ヲ受ケルヲ得セシムル様町村長ニ訓示相成該病ノ豫防救治ニ勉メシメラレ度此段及通牒候也

ヂフテリア病豫防心得ニ關スル

明治三十八年三月
山梨縣告諭第三號

縣下ニ於ケル實扶的里亞病(格魯布ヲ含ム)ハ本年初發以來今日ニ至ル迄患者六十八人ニ及ヒ猶益々蔓延セントスル狀況アリ而シテ此ノ患者中血清治療ヲ行ヒシ者六十一人内全治二十七人死亡二十四人其療法ヲ施サ、リシ者七人内全治二人死亡五人ヲ出セリ如斯血清治療ヲ施シタル者ニシテ尙且多數ノ死亡者ヲ出セルハ想フニ其治療ノ期ヲ失シタルニ起因スル者ナルヘシ本病ハ其初期ニ於テ血清治療ヲ施行セハ奏功顯著ニシテ十中ノ八九ハ其死ヲ免ル、ニ至ルヘシ時下恰モ餘寒ノ候加フルニ全縣下ヲ通シテ流行性感冒症ノ流行シツ、アリ此疾病ハ本病感染ノ誘因ヲ爲スヘキヲ以テ各自宜シク本病ノ豫防ニ努メ萬一感染ノ不幸ヲ見ルニ至ラハ期ヲ逸セス血清ノ治療ヲ請ケ不測ノ被害ニ陥ラサル様警戒スヘシ今左ニ其心得ノ大要ヲ示ス克ク之ヲ恪守シ以テ本病ノ撲滅ニ注意スヘシ

一 實扶的里亞病ハ小兒ニ最モ感染シ易シ然レトモ大人ニモ感染スルコト稀ナラス

一 初期ノ容體ハ熱ノ高キアリ低キアリ咽喉ノ痛ムモ痛マサルモアリ咳嗽ノ發スルモアリ發セサルモアリテ素人ハ勿論醫師トテモ通常ノ風邪通常ノ咽喉加答兒ト判別シ難キモノナリ

〔山梨警〕

一 スヘシ
一 消毒藥ハ二十倍ノ石炭酸水ヲ用フヘシ

- 一 病勢少シク進ンテ吠ルカ如キ聲ノ嘎レタル咳ヲ發スルカ又ハ咽喉ニ疼痛ヲ感スルカ(乳兒ノ如キハ之ヲ訴フルコトナシ)又ハ咽ニ灰白色物ヲ生スルニ至ラハ素人ニテモ略ホ其實扶的里亞病ナルコトヲ察知スルヲ得ヘシ
- 一 呼吸困難ヲ感シ來ラハ重症ニ陥リタル徵候ニシテ危險ニ迫リタルモノナリ
- 一 本病ハ極メテ危險ナレトモ現今ハ幸ニシテ「實扶的里亞治療血清」ト云フ藥アリテ初期ニ之ヲ用フレハ十二八九ハ死ヲ免カル而シテ呼吸困難ヲ感スルニ至リテモ猶過半ハ能ク其效ヲ奏ス若シ此ノ血清ヲ用キス他ノ古來ノ藥ヲ用フレハ死ヲ免カル、モノ極メテ稀ナリ
- 一 特ニ本病ハ初期カ大切ナレハ風邪又ハ普通ノ咽喉病ト心得テ手後レヲ爲スヘカラス必ス速カニ且ツ毎日醫師ノ診察ヲ受ケヘシ本病ハ病勢急劇ニシテタニ確診シ難キ者ニテモ翌朝ニ至リ重症ニ陥ル例尠カラサレハナリ
- 一 既ニ實扶的里亞病ト確定スルトキハ勿論其疑ハシキ場合ニテモ速カニ血清治療ヲ受ケヘシ
- 一 不幸ニシテ一家内一人ノ患者發生シタルトキハ他ノ小兒ヲ親戚又ハ小兒ナキ家ニ隔離スヘシ否ラサレハ健康兒ニ豫防血清注射ヲ施スヘシ血清ハ畜ニ病ヲ治療スルノミナラス豫防ノ效アレハナリ
- 一 他家ノ小兒ハ勿論大人タリトモ可成患者ニ入ルヲ避ケヘシ又患者ノモノモ可成他家ニ出入ヲ遠慮スヘシ本病ハ出入スル其ノ人ニハ傳染セスシテ其人ヲ介シテ他ノ小兒ニ傳染スルコトアルカ故ナリ
- 一 患者ノ口腔液鼻液其他寢具布片衣服器具及病室並ニ塵埃等ハ傳染ノ媒介トナルヲ以テ總テ消毒スヘシ
- 一 患者ハ勿論其寢アル場合ハ唾壺ヲ設備シ唾液痰等之ニ略出セシメ消毒

痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則

明治三十六年六月二十四日
內務省令第五號

改正 大正三年二月內務省令第二七號
痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則左ノ通定ム

痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則

- 第一條 痘苗、血清其他細菌學的豫防治療品ヲ製造又ハ輸入若ハ移入シテ販賣セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シテ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 製造所ノ名稱及位置
 - 二 製造品ノ種類、製造ノ方法、有効期限、販賣價格
 - 三 製造所ノ建物畜舎ノ構造、敷地ノ坪數及圖面
 - 四 所長及主任技術者ノ氏名履歷
 前項ノ認可ヲ受ケタル後前各號ノ事項ニ變更ヲ要ストキハ更ニ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 地方長官ハ必要ト認ムルトキハ本則ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第三條 本則施行ノ際痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ製造スルモノハ本則施行ノ日ヨリ四箇月以内ニ本則ニ據リ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 本則ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス
- 第五條 本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ施行ス
- 第六條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

〔山梨管〕

「デフテリア」血清並其ノ製品、製劑及破傷風血清並其ノ製品、製劑檢定規程

大正四年十月十三日
內務省令第十二號

「デフテリア」血清並其ノ製品、製劑及破傷風血清並其ノ製品、製劑檢定規程左ノ通定ム

- 第一條 「デフテリア」血清若ハ其ノ製品、製劑又ハ破傷風血清若ハ其ノ製品、製劑ヲ製造又ハ輸入移入シテ販賣セムトスル者ハ其ノ製造品、輸入品又ハ移入品ノ發賣前本令ノ規定ニ依リ檢定ヲ受クヘシ
- 第二條 「デフテリア」血清若ハ其ノ製品、製劑又ハ破傷風血清若ハ其ノ製品、製劑ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ製造者、輸入者又ハ移入者ノ氏名、血清又ハ其ノ製品、製劑ノ種類及其ノ數量、表記スヘキ一立方「センチメートル」(乾燥狀)ノモノニ在リテハ「グラム」中ノ免疫單位數、試驗年月日、血清又ハ其ノ製品、製劑番號及販賣スヘキ小分豫定邊數ヲ具シ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ依リテハ警視總監)ヲ經テ傳染病研究所ニ出願スヘシ
- 第三條 檢定ヲ受ケムトスル血清又ハ其ノ製品、製劑ハ封印ヲ爲スニ適當ナル容器ニ收メ血清又ハ其ノ製品、製劑ノ種類、其ノ數量、一立方「センチメートル」(乾燥狀)ノモノニ在リテハ「グラム」中ノ免疫單位數、試驗年月日及血清又ハ其ノ製品、製劑番號ヲ記入シタル標紙ヲ貼付スヘシ
- 第四條 地方長官第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ當該吏員ヲ派遣シテ其ノ監視ノ下ニ出願者ヲシテ前條ノ容器中ヨリ血清又ハ其ノ製品、製劑番號毎ニ左記數量ノ試驗品ヲ採取セシメ其ノ容器ニハ出願者名、血清又ハ

〔山梨管〕

- 其ノ製品、製劑ノ種類、一立方「センチメートル」(乾燥狀)ノモノニ在リテハ「グラム」中ノ免疫單位數、試驗年月日及血清又ハ其ノ製品、製劑番號ヲ記入シタル標紙ヲ貼付セシムヘシ
- 液體「デフテリア」血清又ハ其ノ製品、製劑ハ三十立方「センチメートル」
- 液體破傷風血清又ハ其ノ製品、製劑ハ十五立方「センチメートル」
- 乾燥狀ノモノハ三「グラム」
- 當該吏員ハ前條ノ容器及試驗品容器ニ封印ヲ爲スヘシ
- 第五條 地方長官ハ直ニ前條ノ試驗品ヲ願書ト共ニ傳染病研究所ニ送付スヘシ
- 第六條 第四條ノ數量ニテ檢定上不足ヲ生シタルトキハ傳染病研究所ハ其ノ所要數量ヲ地方長官ニ通知スヘシ
- 第七條 地方長官ハ第四條及第五條ノ手續ニ準シ前項數量ノ試驗品ヲ直ニ傳染病研究所ニ送付スヘシ
- 第八條 傳染病研究所試驗品ヲ受理シタルトキハ藥局方ニ記載スルモノニ付テハ其ノ所定ニ適合スルヤ否ヤヲ、藥局方ニ記載セサルモノニ付テハ左ノ事項ヲ遲滞ナク檢定スヘシ
 - 一 出願者ノ申告セル表記スヘキ免疫單位數ヲ有スルコト
 - 二 血清ノ製品、製劑(乾燥狀)ノモノニ在リテハ其ノ一分ヲ十分ノ石炭酸水百分ニ溶解シタルモノニ溶解シタルモノヲ寒天培養基ニ好氣性及嫌氣性培養ヲ行ヒ無菌ナルコト
 - 三 「デフテリア」血清ノ製品、製劑(乾燥狀)ノモノニ在リテハ其ノ一分ヲ十分ノ滅菌水中ニ溶解シタルモノノ十立方「センチメートル」ヲ約二百五十「グラム」ノ體重ヲ有スル「モルモット」ノ皮下ニ注射シ之ヲ致死セシメサルコト

- 血清ノ製品、製劑(乾燥狀)ノモノニ在リテハ其ノ一分ヲ十分ノ滅菌水中ニ溶解シタルモノノノ蛋白質含有量ハ「キールダール」法ニ依リ百分中十分以下ナルコト
- 免疫單位ノ算出法ハ「デフテリア」血清ノ製品、製劑ニ在リテハ「エールリヒ」法ニ破傷風血清ノ製品、製劑ニ在リテハ「ペーリンゲ」法ニ依ル
- 第八條 傳染病研究所檢定ヲ了シタルトキハ速ニ其ノ成績ヲ當該地方長官ニ通知シ合格品ニ對シテハ其ノ小分豫定邊數ニ應ジ別記雜形ノ檢定證ヲ送付スヘシ
- 第九條 地方長官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ出願者ニ通知シ當該吏員ヲシテ第四條ニ依リ施シタル封印ヲ解カシメ合格品ニ付テハ其ノ監視ノ下ニ小分セシメ檢定證ヲ以テ其ノ容器又ハ被包ヲ封緘セシムヘシ
- 不合格品ニ付テハ藥品營業並藥品取扱規則第三十八條ノ二ニ依リ處分スヘシ
- 第十條 檢定證ニ過不足ヲ生シタル場合ニ於テハ出願者ハ地方長官ヲ經テ傳染病研究所ニ之ヲ返納又ハ請求スヘシ
- 第十一條 出願者檢定ノ結果ニ對シ不服アルトキハ理由ヲ詳具シ地方長官ヲ經テ再檢定ヲ傳染病研究所ニ請求スルコトヲ得
- 第十二條 傳染病研究所ハ「デフテリア」血清若ハ其ノ製品、製劑又ハ破傷風血清若ハ其ノ製品、製劑ノ製造者、輸入者又ハ移入者ニ對シ無償又ハ有償ニテ「デフテリア」又ハ破傷風標準血清若ハ標準毒素ヲ交付ス
- 第十三條 檢定ヲ出願スル者ハ血清又ハ其ノ製品、製劑番號毎ニ左ノ手續料ヲ納付スヘシ
 - 一 「デフテリア」血清又ハ其ノ製品、製劑ハ金拾五圓

二 破傷風血清又ハ其ノ製品、製劑ハ金八圓
 第十四條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十五條 「チフテリア」血清若ハ其ノ製品、製劑又ハ破傷風血清若ハ其ノ製品、製劑ヲ製造又ハ輸入、移入シテ販賣スル者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 「チフテリア」血清若ハ其ノ製品、製劑又ハ破傷風血清若ハ其ノ製品、製劑ヲ製造又ハ輸入、移入シテ販賣スル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カレルコトヲ得ス
 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス
 法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記雛形)



長 一寸三分
 幅 八分五厘

〔山梨警〕

● 検査委員職務章程

明治三十一年六月
 山梨縣訓令第十八號

第一條 検査委員ハ検査委員設置規則ニ依リ左ノ職員ヲ以テ組織ス
 本廳
 委員長 一人
 副委員長 一人
 委員 若干人
 市
 委員長 一人
 副委員長 若干人
 委員 若干人
 郡
 委員長 一人
 副委員長 若干人
 委員 若干人
 第二條 委員長ハ知事ノ命ヲ承ケ委員ヲ指揮監督シ傳染病豫防救治ニ關スル事務ヲ掌理ス
 第三條 委員事務所長ハ部下ニ屬スル委員ヲ指揮監督シ其管内ニ於ケル傳染病豫防救治ニ關スル事務ヲ掌理ス
 第四條 委員副長ハ委員長ノ委員事務所副長ハ委員事務所ノ事務ヲ補佐シ委員長又ハ委員事務所長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス
 第五條 委員ハ委員長又ハ所長ノ指揮監督ヲ受ケ検査豫防ニ關スル事務ニ從事ス
 第六條 委員長並ニ委員事務所長ハ委員ノ管内出張又ハ事務ノ分擔ヲ命スルコトヲ得
 第七條 委員長並ニ委員事務所長ハ事務ノ都合ニ依リ其所ノ經費豫算ノ範圍内ニ於テ臨時雇ヲ置クコトヲ得
 第八條 本廳事務所並ニ委員事務所ニ左ノ保ヲ置キ委員ヲシテ其事務ヲ分

● 傳染病豫防委員設置ノ件

明治三十年八月
 山梨縣訓令第三十三號

縣下ニ於ケル赤痢病ハ日々其數ヲ増加シ流行ノ兆候有之ニ依リ傳染病豫防法第十五條ニ基キ其有病市町村ニ於テハ傳染病豫防委員ヲ設置シ検査豫防ノ事ニ從フヘシ

● 細菌検査所ニ細菌依頼ニ關スル件

明治四十二年七月
 山梨縣告示第二百七十五號
 山梨縣立病院構内ニ設置セル縣立細菌検査所ニ細菌検査又ハ殺菌ノ效力ニ關スル器具藥品ノ検査ヲ依頼セントスル者ハ検査ノ目的ヲ具シ可檢物ヲ添ヘ直接同所ニ申出ヘシ

● 代用消毒藥品檢定規程

昭和二年一月十七日
 內務省令第三號

傳染病豫防法施行規則第二十四條第二項ノ代用消毒藥品檢定規程左ノ通定
 代用消毒藥品檢定規程
 第一條 傳染病豫防法施行規則第二十四條第二項ニ規定スル檢定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ依リ)ヲ經テ傳染病研究所ニ出願スヘシ

〔山梨警〕

掌セシム但各保ノ事務繁閑ニ依リ便宜補助セシムルコトアルヘシ

- 一 検査 係
- 一 庶務 係
- 一 會計 係

第九條 各保ノ事務擔任ハ左ノ如シ

検査 係

- 一 検査豫防消毒法施行ニ關スル事
- 二 豫防救治ニ關スル事
- 三 傳染病院隔離病舎隔離所及交通遮斷ニ關スル事
- 四 飲食物検査ニ關スル事
- 五 病毒ノ系統調査ニ關スル事
- 六 細菌ノ検査ニ關スル事

庶務 係

- 一 文書ノ接受發送ニ關スル事
- 二 文書ノ成案ニ關スル事
- 三 諸報告並ニ統計其他諸表及圖案ニ關スル事
- 四 書類編輯ニ關スル事
- 五 官印保管ノ事
- 六 他ノ主管ニアラサル庶務ニ關スル事

會計 係

- 一 經費計算ニ關スル事
- 二 經費ニ關スル文書及諸簿整理ノ事
- 三 物品調度授受ニ關スル事
- 第十條 検査委員ニシテ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニ給スヘキ手當又ハ旅費日當ハ別ニ定ムル所ニ依ル

- 一 藥品名
- 二 藥品ノ製造者、輸入者又ハ移入者ノ氏名
- 三 藥品ノ性状、消毒力並ニ成分、成分不明ナルモノハ其ノ本質及製造法
- 四 藥品ノ數量、番號及小分豫定容器數
- 第二條 檢定ヲ受ケムトスル藥品ハ之ヲ封印ヲ施スニ適當ナル容器ニ收メ其ノ容器ニハ藥品名、數量及番號ヲ記入シタル標紙ヲ貼付スヘシ
- 第三條 出願者ハ地方長官ノ派遣シタル當該吏員ノ指示ノ下ニ前條ノ各容器中ヨリ檢定上必要ナル數量ノ試験品ヲ採取シ之ヲ容器ニ收メ其ノ容器ニ出願者名、藥品名及藥品番號ヲ記入シタル標紙ヲ貼付スヘシ
- 第四條 地方長官ハ前條ノ試験品ヲ願書ト共ニ傳染病研究所ニ送付スヘシ
- 第五條 試験品ノ數量檢定上不足ナルトキハ傳染病研究所ハ其ノ所要數量ヲ地方長官ニ通知スヘシ
- 前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ第三條ノ規定ニ準シ所要數量ノ試験品ヲ採取セシメ之ヲ傳染病研究所ニ送付スヘシ
- 第六條 傳染病研究所檢定ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ地方長官ニ通知シ合格品ニ付テハ併セテ其ノ製法及用法ヲ指示スル文書等ニ小分豫定容器數ニ相當スル數ノ別記雛形ノ檢定證書ヲ送付スヘシ
- 第七條 前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ出願者ニ通知シ當該吏員ヲシテ第三條ノ規定ニ依リ施シタル封印ヲ解カシメ合格品ニ付テハ出願者ヲシテ當該吏員ノ監視ノ下ニ之ヲ小分セシメ檢定證書ヲ以テ其ノ容器ヲ封緘セシメ且傳染病研究所ノ指示スル製法及用法ノ全文ヲ鮮明ニ印刷シタル標紙ヲ貼付セシムヘシ
- 第八條 檢定證書過不足ヲ生シタル場合ニ於テハ出願者ハ地方長官ヲ經テ

〔山梨醫〕

傳染病研究所ニ之ヲ返納又ハ請求スヘシ

第九條 檢定ノ結果ニ不服アルトキハ出願者ハ其ノ理由ヲ詳具シ再檢定ヲ出願スルコトヲ得

再檢定ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス

第十條 代用消毒藥品ノ檢定ヲ出願スル者ハ藥品番號毎ニ傳染病研究所長ノ定ムル手数料ヲ納付スヘシ

附則

本令ハ昭和二年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

(別記雛形) 褐色



- 檢定證書種類
- 第一號輪廓 縱 一九、〇「センチメートル」
横 四、〇「センチメートル」
 - 第二號輪廓 縱 一四、四「センチメートル」
横 三、〇「センチメートル」
 - 第三號輪廓 縱 九、五「センチメートル」
横 二、二「センチメートル」

●消毒藥調製方ノ件

大正五年八月 梨衛發第一八七號

本月十二日內務省令第十號ヲ以テ清潔方法消毒方法中改正相成候ニ付テハ石炭酸水、昇汞錠ヲ以テ製スル昇汞水「フオルマリン」水ノ調製方法ハ左記ヲ參考トシテ取扱ハルヘシ

〔山梨醫〕

- 石炭酸水ノ調製法(水ノ一升ハ千八百瓦ニシテ一
分ノ瓦量ハ三瓦七五ニ相當ス)
- 水ノ良否ニヨリ多少輕重アルトモ一升四百八十分ト算定スレハ可ナリ同様
ニ「フオルマリン」水ニ對シテ
- 第一式 3分 120分 = 43分 (石炭酸水100分)
(要スル石炭酸ノ量) (石炭酸量) (要スル水ノ量)
re = 3.680分
- 第二式 480 1 = 3.680分 re = 7分5合
(石炭酸一ポンドニ要スル水ノ量) (水ノ容量)
- 石炭酸三分ニ對シ食鹽五分ノ割合ナルヲ以テ石炭酸一廿ニ對スル食鹽ノ量
ハ次ノ如シ
- 第三式 3 120 = 5分 (石炭酸水100分)
(要スル石炭酸ノ量) (石炭酸水) (要スル食鹽ノ量)
re = 200分
- 食鹽量
- 即チ三十三倍ノ石炭酸水ヲ作ルニハ石炭酸三分ト食鹽五分ニ對水九十二分
ヲ要スルヲ以テ石炭酸一廿(120分)ニ就テハ三貫六百八十分ノ水ト二百分

●消毒藥ノ調製及取扱方

明治二十八年四月 衛生課通報

明治二十三年十月二十九日日本縣訓令第八號別冊傳染病豫防心得書中消毒藥
調製法ヲ登載シアルモ簡單ニシテ實際俗ニ通セサルノ憾アリ今回本縣病院
調劑師ヲシテ別冊(消毒藥調製法及取扱注意)ヲ草セシム依テ茲ニ當事者ノ
參考ニ供ス

消毒藥ノ調製法及取扱ノ注意

明治二十三年內務省訓令第六六八號傳染病豫防心得書ニ據リ各種消毒藥ノ
製法及之レカ取扱ニ關スル注意ヲ述フルコト左ノ如シ

甲 石炭酸水

ノ食鹽トヲ要ス(第一式第三式ニ依ル)而シテ水一升ハ四百八十分ナルヲ以
テ三貫六百八十分ノ水ハ容積ニテ七升五合ニ相當ス可シ即チ石炭酸一廿食
鹽二百分水七升五合ノ割合ナリ(全量凡八升ニテ可ナリ)

昇汞錠ヲ以テ昇汞水ノ調製法

0.155ヲ以テ1リ「トルナ」ヲ以テ500瓦ハ0.155×1 = 0.155分 = 9分27秒 = 9分27秒
一錠ハ2分75ノ水ニ溶解スヘシ

「フオルマリン」水ノ調製法

水一升ハ四百八十分一廿ハ百二十分ト計算スレハ可ナリ

1分 120分 = 34分 re = 4.080分

480 1 = 4.080分 re = 8分5合 (水ノ容量)

故ニ「フオルマリン」水ヲ作ルニハ「フオルマリン」一廿ニ對シテ水八升五合
ヲ加フレバ可ナリ

本品ハ二十倍即チ液百分中ニ五分ノ石炭酸ヲ含ムモノト規定セリ之レヲ製スルニハ左ノ如クスヘシ

石炭酸ハ通常結晶シテ瓶内ニ固結セルヲ以テ先ツ之レヲ溶解セシメシカ爲メ瓶ノ栓ヲ緩メ日光ニ暴露スルカ或ハ温湯ヲ盛リタル器中ニ少時間放置シ全ク溶解シテ透明液トナルヲ俟チ其一定量ヲ適宜大ノ煉鉢内ニ傾注シ攪拌シツ、之レカ必要量ノ熱湯ヲ注加シ尙混濁シテ液面及器底ニ油狀物ヲ認メサル透明ノ液トナルニ至ルヘシ斯クシテ製シ終レハ之レヲ瓶又ハ適宜ノ器ニ改メ二十倍石炭酸水ト記シタル札ヲ貼付スヘシ

石炭酸ヲ秤取スルニハ石炭酸ヲ煉鉢ニ傾斜スルノ前、豫メ其瓶ノ總量ヲ秤リ傾斜ノ後再ヒ瓶ヲ秤量シ其前後ノ差量(減量)ヲ以テ石炭酸ノ量トナスヲ便利トス又規則中ニハ「更ニ鹽酸若クハ酒石酸ノ四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其效著シトス」云々トアリ石炭酸水ニ鹽酸又ハ酒石酸ヲ加フルニハ別ニ一定ノ法式アルニアラズ唯右ノ比例ヲ以テ兩者ヲ混和セシムレハ可ナリ而シテ鹽酸ハ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之レヲ混和シタル石炭酸水ハ金屬製器物及衣類等ノ消毒ニ供スヘカラス又金屬製器具ヲ以テ之レヲ取扱フヘカラス

石炭酸水(併ニ他ノ消毒藥)ヲ調製スルニ當リ主藥及ヒ之レカ溶解藥タル水ヲ秤取スルニハ重量ト容量トヲ併用スルヲ可トス即チ主藥(例ハハ石炭酸)ハ重量ニ據テ秤取シ水ハ容量ニ據テ測ルヲ便利ナリトス然ルニ該規則ニハ兩者ノ分量ヲ重量ノ比例ヲ以テ定メ有ルカ故ニ毎調製ノ際煩雜ヲ感スルコト不勝依テ左ニ水ノ重量ト容量トノ關係ヲ明ニスヘシ水ノ一升ハ四百五十匁(水ノ良否ニ依リ多少輕重アレ共水一升ハ凡テ四百五十匁ト算定シテ可也)ニ相當シ又水一貫匁ハ二升二合二勺強ニ相當ス故ニ今幾千量(例ハハ一廿即チ百二十匁)ノ石炭酸ヲ以テ二十倍(百分十五分ヲ含ム)石炭酸水ヲ製スルニハ幾升ノ水ヲ要スルヤハ左ノ算式ニ依リ容

〔山梨醫〕

易ニ算出スルヲ得ヘシ

5匁	: 95匁 = 120匁	: 96	96 = 2,280匁
I 石炭酸水百匁	同上	石炭酸一匁	石炭酸一匁
要スル水ノ量	水ノ量	要スル水ノ量	要スル水ノ量
450匁	: 1	= 2,280	: 96
II 水ノ重量	水ノ容量	石炭酸一匁	同上
		要スル水ノ量	水ノ容量
			五升
			〇六六

即チ二十倍石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ付九十五分ノ水ヲ要スルヲ以テ石炭酸百二十匁ニ付テハ二貫二百八十匁ノ水ヲ要スヘシ(第一式)而シテ水一升ハ四百五十匁ナルヲ以テ右二貫二百八十匁ノ水ハ容量ニテ五升〇六六餘(第二式)トナルヘシ是レ即チ石炭酸一匁ニ要スル水(熱湯)ノ容量ナリ

又水ノ一貫匁ハ二升二合二勺強ニ相當スルヲ以テ右第二ノ式ヲ轉シテ左式ノ如クスルモ可ナリ

$$1,000匁 : 2,222匁 = 2,280匁 : x \quad x = 5,066.616$$

以上ノ如ク一廿ノ石炭酸ニハ五升〇六六餘ノ水ヲ要スヘシト雖モ然レトモ坊間販賣ノ石炭酸ハ一廿入ト雖モ多少ノ減量アリテ實際百二十匁ニ充タスモノ殆ント之レ無ク又消毒藥ハ醫藥ノ如ク微少ノ量ヲ爭フヲ要セサレハ六匁六才餘ハ之レヲ棄却シ一廿ニ付五升ノ水ヲ要スト記憶シテ可ナリ但シ半比或ハ之レヨリ一層少量ヲ製スル場合ニ於テハ以上ノ算式ニ依リ水量ヲ求ムルヲ要ス

〔山梨醫〕

石炭酸水ハ飲食器及ヒ他ノ諸器具、衣類、敷物、疊、建具、釣臺、釣臺、死體ノ被服其他室内等ヲ消毒スルニ適良ノモノニシテ患者ノ身體、看護人ノ手足等ヲ消毒スルニモ又適切ノ者ナリ但シ石炭酸水ヲ以テ飲食用其他諸器具ヲ消毒シ或ハ身體室内等ヲ拭淨シタル後ハ必ス微温湯等ヲ以テ洗拭清淨スルコトヲ忘ルヘカラス患者ノ身體ヲ拭淨スルノ際ハ眼口及ヒ粘膜ニ觸レシメサル様注意シ又幼少ナル小兒ハ皮膚軟弱ニシテ往々之レニ依テ侵サル、コトアルヲ以テ水ヲ以テ多少稀薄シ用ユルヲ可トス

乙 昇水

本品ハ千倍即チ液千分中ニ昇水一部及鹽酸五分ヲ含ムモノヲ採用セリ之レヲ製スルニハ昇水一匁ヲ秤取シ煉鉢内ニ投入シ二升二合強(九百九十四匁)ノ熱湯及鹽酸五匁ヲ注加シ能ク混濁シテ昇水ノ結晶全ク溶解スルニ至ルヘシ、斯クシテ後之レヲ瓶(暗色ノガラスコトス)ニ容レ千倍昇水ト記シタル札ヲ貼付シ誤用ナキ様尤モ注意シテ貯フヘシ

丙 生石灰

生石灰トハ化學上所謂酸化石灰ニシテ石灰乳トハ酸化石灰ノ水ヲ吸收シテ成レル水酸化石灰ノ謂ナリ共ニ強大ノ殺菌力ヲ有ス而シテ生石灰ハ之レヲ氣中ニ放置スレハ漸々氣中ノ水分及ヒ炭酸ヲ吸收シテ先ツ水酸化石灰(石灰乳ト同一物質)トナリ次第ニ無効ノ炭酸石灰ニ變ス故ニ生石灰ハ製造後月日ヲ經過スルニ隨ヒ消毒力ハ漸次微弱ニ陥ルモノトス之レヲ以テ消毒用石灰ハ可成新鮮ニシテ酸化及水酸化石灰ノ含量過多ナルモノヲ撰ハサルヘカラス規定ニ依レハ生石灰ハ少量ノ水ヲ注ケハ熱ヲ發シ崩壊スルモノヲ用ユヘシトアリ是レ此熱ハ所含ノ酸化石灰水ヲ吸收シテ水酸化石灰ニ變化スルノ際發起スルモノニシテ即チ尤モ新鮮良質ナル生石灰ノ特徴ナル故ニ消毒用ニハ出來得ル限り規定ノ品ヲ撰用スルコトヲ勉

メサルヘカラス坊間ニ販賣スル處ノ生石灰(俵入石灰ヲ指ス)ノ新製ノモノハ能ク規定ニ適合シ消毒ノ目的ニ適スト雖トモ稍々日月ヲ經過スレハ水ニ逢フモ發熱セサルニ至ルモノトス是レ所含ノ酸化石灰ノ多分ハ水酸化石灰及炭酸石灰ニ變シタルカ爲メニシテ彼ノ發熱スルモノニ比スレハ遙カニ效力微弱ナリト謂ハサル可カラス(炭酸石灰ノ多キモノハ隨テ消毒力微弱ナリ)然レ共生石灰ハ假令發熱セサルモ著ク陳久ナラサル限リハ水酸化石灰ノ存在スルニ依リ尙石灰ノ效アルモノトス故ニ規定ノ品ヲ得ル能ハサル止ムヲ得サル場合ニ於テハ其多量ヲ以テモ之レニ代用スルコトヲ得ン

生石灰ハ以上ノ如ク氣中ニ變化スルモノナルニ依リ有效及無效ノ石灰分ヲ定量シテ石灰力ノ強弱ヲ測知スルハ極メテ必要ヲ感スト雖トモ如何セシ其業々化學分析術ニ屬シ多少ノ熟練ト精確ノ天秤ヲ要シ且ツ隨所ニ執行スル能ハサルヲ以テ警察署等ニ於テハ此技術ヲ施行セヨリハ寧ロ新製ノモノヲ撰フニ如カサルナリ若シ分析ノ必要アルニ際シテハ其凡ソ五百匁ヲ箱ニ收メ密閉シテ病院藥局ニ送附セラルヘシ

又生石灰ノ年月ヲ經過シテ殆ント炭酸石灰ニ變シタルモノト雖トモ再ヒ之レヲ爐中ニ燒灼スルカ又ハ鐵鍋(或ハ鐵釜)中ニ燒灼スルトキハ所含ノ水及炭酸ヲ投テ再ヒ酸化石灰ニ復歸スルモノナリ然レ共是レ頗ル高度ノ強熱ヲ要シ且通常ノ鐵鍋等ニテ其多量ヲ製スル能ハサルノ不便アルニ依リ止ムヲ得サルノ外ハ施行スヘカラサルモノトス石灰乳ハ生石灰ニ水ヲ注キテ製シタルモノニシテ即チ桶又ハ甕等適宜ノ器中ニ生石灰ヲ投シ之レヲ攪拌シツ、水ヲ注加シ均同乳狀トナルニ至ル其分量ハ生石灰ヲ百匁ニ付水二升ヲ用ユヘシ

〔山梨醫〕

物質ト混和シ易キノ利アルニ依リ用途極メテ廣シトス
生石灰及石灰乳ハ下水床下、芥瀉吐瀉物糞池等ノ消毒ニ尤モ適切ノモノニシテ本品ヲ以テ消毒シタル糞便ハ肥料ニ供スルモ植物ニ害アルコトナシ但シ石灰及石灰乳ハ硫酸及鹽酸ヲ禁忌トス蓋シ生石灰或ハ石灰乳ノ硫酸又ハ鹽酸ニ逢フヤ互ニ相化合シテ兩者共ニ其ノ效ヲ失シ新ニ硫酸石灰又ハ鹽化「カルシウム」ナル無効物ヲ化生スレハナリ故ニ硫酸又ハ昇水(炭酸ヲ含有ス)ト相觸レサル様注意スヘシ(假令ハ硫酸ヲ以テ消毒中ノ場所ヘ尙石灰ヲ撒布スル等ノコトアルヘカラス)

丁 格魯兒石灰水
グロール石灰ハ石灰ニ「グロール」瓦斯ヲ通シテ製シタル白色ノ粉末ニテ小塊ナリシ窒透性ノ臭氣ヲ有ス、本條二十倍ノ溶液ヲ製スルニハ「グロール」石灰百匁ニ付水四升二合二勺ノ比例ヲ以テ鍊鉢内ニ混攪シテ製スヘシ

本品ハ生石灰ニ同シク消毒用ニ供セラル、モノニシテ就中防臭ノ作用ヲ具フルニ依リ便所糞池等ノ消毒ニハ適當ノモノナリ殊ニ少許ノ硫酸ヲ添加シテ消毒ニ供スルトキハ其ノ效一層顯著ナリトス然レトモ本品ハ諸多機性色素ヲ脱色スルノ性アルヲ以テ變色ヲ嫌フ物品(假令ハ染色美麗ノ衣服)ノ消毒ニハ供セサルヲ可トス又「グロール」石灰中ノ有效成分タル「グロール」ハ揮散シ易キヲ以テ本品ハ常ニ密檢シテ貯フルヲ要ス其溶液ハ分解シ易キ(日光ニ逢ヘハ一層速ニ)ヲ以テ毎用時新ニ調製スルヲ可トス

戊 硫酸
硫酸ハ粗製ノモノヲ取ルヲ常トス消毒用ニハ同量ノ水ヲ以テ稀薄シタルモノヲ採用セリ硫酸ヲ稀薄スルニハ大凡ソ二合六勺強ノ水ヲ可成平坦ナル陶器ニ取り其水ヲ攪拌シツ、極メテ徐々ニ硫酸一匕ヲ注入スヘシ此際

〔山梨醫〕

若シ一頓ニ硫酸ヲ注加スルカ或ハ硫酸中ニ水ヲ注ガカキコトアラハ一局部ニ於テ強熱ヲ發シ爲メニ器ヲ破損シ或ハ意外ノ危害ヲ招クコトアルヘシ

硫酸ハ石灰ニ同シク諸多消毒ノ場合ニ應用セラレ得ヘシト雖トモ強烈ノ酸ニ屬シ諸物ヲ腐蝕スル性強大ナルヲ以テ之レヲ使用スルニ當テハ左ノ件々ヲ注意セシコトヲ要ス

- 一 本品ヲ稀薄シ又ハ消毒ノ際ニ使用スル處ノ器具ハ凡テ陶磁製ノモノヲ用ヒ決シテ金屬及木製ノモノヲ用ユヘカラス又金屬及木製器物竝ニ衣類等大切ナル品ノ消毒用ニ供スヘカラス又糞池尿甕等ノ周邊ニアル漆喰「セメント」ニ灌注スヘカラス(泡沸シテ破壊ニ至ラシム)
- 二 本品ト石灰トハ禁忌ナルカ故ニ此二物ヲ以テ同時ニ同所ヲ消毒シ或ハ本品ヲ以テ消毒中ノ場所ニ生石灰ヲ撒布スルカ如キコトアルヘカラス
- 三 本品ヲ糞池等ニ殊ニ一頓ニ灌注スルトキハ間々強熱ヲ發シ爲メニ甕ヲ破壊シ或ハ糞便ノ器外ニ溢出スルコトアリ能ク注意スヘシ
- 四 本品ハ植物ヲ害スル性アルヲ以テ本品ニテ消毒シタル糞尿ハ可成肥料ニ供セサルヲ可トス
- 五 本品ヲ誤テ衣類或ハ皮膚ニ接觸セシメタルトキハ直チニ過量ノ水(植物ノ灰)或ハ重曹ヲ撒布シ後水ニテ洗淨スヘシ

爾他消毒ノ方法ニ至テハ宜シク傳染病豫防心得書ヲ參照セラルヘシ

●消毒ニ關スル注意ノ件

明治三十七年七月
訓示第六十四號

衛生ト經濟トハ輔車唇齒ノ關係ヲ有スルヲ以テ傳染病消毒ハ須ラク其病毒

●患家消毒ニ關スル注意事項ノ件

明治三十七年七月
衛發第二〇二號

ノ所在ヲ探明シ必要ナル部分ニ對シ消毒ヲ行ヒ消毒物ノ費ノ如キハ努メテ之ヲ避ケ明治三十年五月内務省令第十三號消毒方法ノ規定ニ則リ嚴密適當ナル消毒ノ施行ヲ要ス然ルニ往々此主旨ニ背反シ高價ノ物件ヲ消却シ不必要ナル場所ニ消毒藥ヲ注投シ外觀ヲ街セ形式ニ陥リ經濟上ニ著眼セサルヤノ憾アリ爲メ患家消毒ノ如キ多大ナル消毒費ヲ要スルモ尙且ツ消毒ノ目的ヲ達セサルノミナラス其結果患者ノ届出ヲ嫌忌セシメテ隱蔽ノ勢ヲ助長スル等其弊害ノ及フ處淺少ナラス警察官吏タルモノ宜シク此點ニ深厚ナル注意ヲ拂フヲ要ス右ハ畢竟町村吏員豫防委員等消毒方法ヲ熟知セサルニ起因スルモノト被認ヲ以テ部下巡查ニ調授シ自今患家消毒ニハ必ス巡查ヲ立會セシメ消毒藥費ノ弊ヲ避ケツ、必要ナル箇所ノ消毒ヲ嚴行セシムル様嚴重注意スヘシ

患家消毒ニ關シ今般警部長ヨリ訓示ノ次第モ有之候處患家消毒竝ニ隔離病舍ニ於ケル設備消毒ノ事項中昨年七月衛發第一九三號通牒ノ外左記各項特ニ御注意相成度依命此段及通牒候也

左記

患家消毒ニ關スル注意事項

- 一 光線ノ直射ヲ受ケル乾燥地ノ如キハ病毒ノ附著ヲ確認スルニ非レハ漫リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラサルコト雖、敷石ノ如キモノ亦同シ
- 二 便所ハ糞池ノ周圍ヲ掃除シ生石灰末又ハ石灰乳ヲ撒布シテ消毒シ糞池ハ規定量(即チ生石灰末ニアリテハ容量五十分ノ一石灰乳ニ在リテハ容量十分ノ一)ノ生石灰末又ハ石灰乳ヲ投シ能ク攪拌シ形式ノ消毒ニ

- 終ルカ如キコトナキ様注意スルコト但路板引戸ノ類ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スルコト
- 三 臺所流使用水置場床下ノ如キ濕潤ノ場所ハ必ス生石灰末又ハ石灰乳ヲ以テ消毒スルコト
- 四 塵芥ヲ取除キ塵芥ハ之ヲ燒却シ取除キタル跡ハ生石灰末又ハ石灰乳ヲ以テ消毒スルコト
- 五 患者ノ居室竝ニ患家中病毒附著ノ虞アル場所即チ疊建具敷居板疊ノ如キ石炭酸水ヲ以テ浸シタル濕布ヲ以テ之ヲ拭消スルコト
- 六 患者ノ用ヒタル衣類寢具等病毒附著ノ虞アルモノハ必ス蒸氣消毒ニ付スヘシ但消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキモノハ之ヲ燒却スルコト
- 七 飲食器具ノ如キハ必ス煮沸消毒ニ付シ消毒後ハ蠟類ノ付著セザル装置内へ容納セシムヘシ但漆器其他ノ塗物類糊付品膠付品ノ類ハ蒸氣消毒ニ付セザルコト
- 八 患家ノ塵芥ハ一定ノ場所ニ集メ完全ニ燒却スルコト
- 九 患家ノ被服玩具疊類ハ消毒後ニ在リテハ時々日光ニ曝露シ居室ハ開放シテ光線ヲ射入セシメ空氣ノ流通ヲ能クスルコト
- 一 隔離病舎設備竝ニ消毒ニ關シ注意スヘキ事項
- 二 隔離病舎ニ於ケル健康部病室部ハ本日衛發第二〇四號通牒ニ依リ最モ嚴格ニ區別スルコト
- 三 隔離病舎ニ於ケル炊事ハ凡テ健康部ニ於ケル炊事室ニ於テ之ヲ取扱ヒ病室部健康部ノ境界ニ食器消毒所ヲ設ケ病室部内ヨリ取出モノハ看護婦之ヲ消毒器内ニ容レ消毒後ハ炊事夫ヲシテ蠟類ノ付著セザル装置内ニ容納セシムヘシ
- 四 病室部健康部ノ境界線ニ當リ手足消毒所ヲ設ケシムルコト健康部ヨリ病室内へ入ルモノハ必ス消毒衣ヲ着用セシメ出ルトキハ境界線ニ於

〔山梨警〕

- テ消毒衣ヲ脱シ手足ノ消毒ヲ嚴行セシムルコト
- 四 隔離病舎ニ於テハ蠟類ノ驅除ニ努メシムルコト
- 五 健康部ニ於テハ事務室其他ニ對シ漫リニ石炭酸水ヲ撒布スルカ如キ弊ヲ矯ムルコト
- 六 患者竝ニ付添人及看護婦消毒衣等ハ時々蒸氣消毒ヲ行ハシムヘシ
- 七 病室部ニ居住スルモノニシテ病室部外ニ出入スル等ハ嚴禁スルコト
- 八 病室内ハ常ニ清潔ナラシメ塵芥ハ凡テ燒却スルコト

種痘法

明治四十二年四月十四日 法律第三十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル種痘法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 種痘法
- 第一條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘瘡ヲ經過シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 第一期 出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ
 - 二 第二期 數ハ歲十歲但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ
- 定期前二年以内ニ善感シタル種痘ハ第二期ノ種痘ト看做ス
- 第二條 保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ
- 第三條 左ニ掲ケル者ハ未成年ノ生徒、院生若ハ之ニ準スヘキ者又ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ
 - 一 學校、育兒院又ハ之ニ準スヘキ場所ノ校長、院長其ノ他首長
 - 二 教育、監護又ハ備使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者

〔山梨警〕

- 前項各號ニ掲ケル者ノ法定代理人アルトキハ法定代理人ニ前項ノ規定ヲ適用ス
- 第四條 新ニ保護者ト爲リ又ハ新ニ前條ノ關係ヲ生シタルトキハ種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者ヲシテ六月以内ニ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ
- 前項ノ期間内ニ其ノ手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ市町村長 區長ヲ以テ長以下之ニ準スニ届出ツヘシ
- 未成年者ヲ備使スル雇主ニ關シテハ其ノ之ヲ寄寓セシメサル場合ト雖前二項ノ規定ヲ適用ス
- 前條第二項ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第五條 市町村ハ種痘ヲ施行スヘシ
- 第六條 市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ
- 第七條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ其ノ事由ヲ具シ市町村長ニ猶豫ヲ申請スルコトヲ得
- 前項ニ依リ種痘ヲ猶豫シタルトキハ市町村長ハ其ノ證ヲ交付スヘシ
- 第八條 市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セザルニ至リタル者ヲ戶籍吏ニ通知シ戶籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以テ之ヲ記入スヘシ
- 前項ノ記入ニ關スル事務ニ付テハ戶籍法第五條ノ規定ヲ準用ス
- 第九條 市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケス其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者アルトキハ市町村長ハ更ニ期日ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ
- 第十條 種痘ヲ怠リタル者又ハ種痘ヲ受ケタル證據不明ナル者ノ定期外ニ受ケタル種痘ハ第一條第二項ノ場合ヲ除クノ外其ノ定期種痘ト看做ス
- 第十一條 第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市町村長ノ指定シタル期日ニ於テ檢診ヲ受ケシムヘシ但シ其ノ期日ニ檢診ヲ

- 受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届出ツヘシ
- 市町村長ハ前項ノ檢診ヲ經タル者ハ種痘證ヲ交付スヘシ
- 第一項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ痘瘡ヲ採取スルコトヲ得
- 第十二條 醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘證ヲ交付スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ種痘證ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出ツヘシ
- 第十三條 醫師ハ其ノ診療ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキ之ニ痘瘡經過證ヲ交付スヘシ
- 第十四條 當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘證又ハ種痘證ヲ提示セシムヘシ但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十五條 地方長官ハ痘瘡豫防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受ケヘキ者ノ範圍及期日ヲ指定シテ臨時種痘ヲ命スルコトヲ得
- 臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得
- 第十六條 醫師虛偽ノ種痘證ヲ交付シ又ハ檢診セシメテ種痘證ヲ交付シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十七條 左ニ掲ケル者ハ科料ニ處ス
 - 一 第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者
 - 二 保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ種痘ヲ受ケシメサル者
- 第十八條 第十二條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
- 第十九條 官廳公署及官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項及第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ準シ其ノ措置ヲ爲スヘシ
- 第二十條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶主未成年者又ハ禁

治産者ナルトキハ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ謂フ
本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ
之ニ準スヘキモノニ該當ス

附則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
種痘規則ハ之ヲ廢止ス
本法施行前數ヘ歳七歳以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタルモ其ノ
時期不明ナル者ハ本法ニ依ル第一期ノ種痘數ヘ歳八歳以後ニ種痘ヲ受ケタ
ル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス
本法施行前第一條第一項ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付テハ第四條
ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル者ニ關シテ
之ヲ適用ス

●種痘法施行規則

明治四十二年十二月二十一日
内務省令第二十六號

改正 大正八年内務省令第一〇號
種痘法施行規則左ノ通定ム

種痘法施行規則

第一條 市町村長ハ區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長、市制町村制
以下之ハ每年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ現住人中左記各號ニ該當スル
者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ
一 前年中出生ノ者
二 數ヘ歳十歳ノ者
三 前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者
地方長官東京府ハ警視總ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラズ

種痘期日ヲ指定セシムルコトヲ得

本條ノ指定ハ之ヲ公告スヘシ
第二條 市町村長ハ市町村ニ於テ施行スル種痘ノ場所ヲ公告スヘシ
第三條 保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ種痘定期ニ在ル未成年者ヲシ
テ第一條ノ期日迄ニ醫師ニ就キ又ハ前條ノ種痘所ニ於テ種痘ヲ受ケシム
ヘシ
第四條 市町村長ハ痘瘡、猩紅熱、實布埒利亞、格魯布、丹毒、麻疹、百日
咳ノ患者アル家ノ未成年者ニ付テ必要ト認ムルトキハ別ニ期日ヲ指定シ
又ハ別ニ定メタル場所ニ於テ種痘ヲ行フヘシ
第五條 種痘ヲ猶豫セラレタル者ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ事
故ノ消滅シ又ハ猶豫期間ノ經過シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシ
ムヘシ
第六條 種痘法第九條ノ未成年者アルトキハ市町村長ハ遲クモ次回ノ種痘
施行期ニ於テ種痘期日ヲ指定スヘシ
前項指定ノ期日迄ニ種痘ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ直ニ種痘ヲ行フヘ
シ
第七條 檢診期日ハ種痘ヲ施シタル日ヨリ第六日乃至第八日ノ間ニ於テ之
ヲ指定スヘシ
第八條 種痘濟證、種痘證及種痘猶豫證ハ附錄様式ニ據ルヘシ
第九條 左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ種痘濟證交
付後又ハ届出ヲ受ケタル後二月以内ニ其ノ本籍地ノ戶籍吏ニ通知スヘシ
一 第一期種痘善感シタル者
二 第一期第二回ノ種痘不善感ナル者
三 第一期種痘施行前痘瘡ヲ經過シタル者
第十條 市町村長ハ戶籍吏ヨリ前年中出生ノ本籍人ニシテ種痘法第八條ニ
依ル符號ノ記入ナキ者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ若シ其ノ者カ本籍地
外ニ在ルトキハ直ニ之ヲ其ノ寄留地ノ市町村長ニ通知スヘシ

改(警)二十八版

第十一條

種痘法第十二條第二項ノ届出ハ種痘證ヲ提示シ又ハ醫師ノ證明
書ヲ得テ現住地ノ市町村長ニ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
前項ノ届出ハ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條

種痘法第十四條ニ依リ警察官吏又ハ市町村吏員ノ請求アル場合
ニ於テ左記各號ノ一ニ依リ種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルコトヲ證明ス
ル者ハ種痘濟證又ハ種痘證ヲ提示スルコトヲ要セス

- 一 痘瘡經過證
- 二 種痘猶豫證
- 三 小學校、之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書又ハ
保育證書ニ種痘ニ關スル事項ヲ記入シタルモノ
- 四 第一期種痘ニ付テハ種痘法第八條ニ依レル符號ノ記入アル戶籍簿本
又ハ抄本
- 五 市町村長ノ證明書
- 六 種痘又ハ痘瘡ノ痕痕但シ第二期種痘ニ付テハ其ノ證據

附則

本則ハ明治四十二年法律第三十五號種痘法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治
四十三年一月一日)

様式

第一號(第一期一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)
第一期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某男
何女
年月生 某
年 月種痘(第一回)善感 類
右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス
第七編 衛生 第七章 防疫

年月日

道府縣郡

市町村長 何

某國

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受ケル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アル
トキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十
圓以下ノ科料ニ處セラレヘシ

用紙赤色紙
第二號(第一期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)
第一期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某男
何女

年月生 某

年 月種痘(第二回)不善感
右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

市町村長 何

某國

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受ケル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アル
トキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十
圓以下ノ科料ニ處セラレヘシ

用紙青色紙
第三號(第二期一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)
第二期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某男
何女

年月生 某

年 月種痘(第二回)善感 類
右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス
道府縣郡

年月日

市町村長 何 某
注意 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アル
トキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓
以下ノ科料ニ處セラルヘシ

用紙青色紙 第四號(第二期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第二期種痘證書

住所 道府縣都市區町村某男

何

年月生 某

年 月種痘(第二回)不善感

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

年月日

市町村長 何

某

注意 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アル
トキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓
以下ノ科料ニ處セラルヘシ

用紙白紙 第五號(第一期又ハ第二期ノ第一回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘證書

住所 道府縣都市區町村某男

何

年月生 某

年 月種痘 不善感

右更ニ種痘ヲ受クヘキモノトス

道府縣郡

年月日

市町村長 何

某

注意 此證ハ更ニ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アル
トキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓
以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第六號(第一期第一回又ハ第二期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘證書

住所 道府縣都市區町村某男

何

年月生 某

年 月種痘(第一回)不善感

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

年月日

市町村長 何

某

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アル
トキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓
以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第七號(第一期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘證書

住所 道府縣都市區町村某男

何

年月生 某

年 月種痘(第二回)不善感

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

年月日

市町村長 何

某

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アル
トキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓
以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第八號(第一期第一回又ハ第二期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第二期種痘證書

住所 道府縣都市區町村某男

何

年月生 某

年 月種痘(第一回)不善感

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

年月日

市町村長 何

某

注意 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アル
トキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓
以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第九號(第二期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第二期種痘證書

住所 道府縣都市區町村某男

何

年月生 某

年 月種痘(第二回)不善感

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

年月日

市町村長 何

某

注意 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アル
トキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓
以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第十號(第一期第一回又ハ第二期ノ第一回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘證書

住所 道府縣都市區町村某男

何

年月生 某

第七編 衛生 第七章 防疫

種痘施術心得

明治四十二年十二月二十一日
内務省告示第百七十九號

種痘術心得左ノ通知正ス

種痘術心得

- 第一條 種痘ニ要スル痘苗ハ牛痘苗ヲ用フヘシ
- 第二條 痘苗ハ冷暗所 氷室、地下室ニ貯藏シ製造所ノ指定シタル期間内ニ之ヲ使用スヘシ
- 第三條 痘苗ノ接種量ハ製造所ノ指定ニ從フヘシ
- 第四條 痘苗ハ之ヲ稀釋スヘカラス
- 第五條 痘苗使用ノ際ハ其ノ内容ヲ漿盤上ニ出シ能ク之ヲ攪拌混和スヘシ
- 第六條 痘苗接種ノ部位ハ上膊ノ伸側ヲ可トス
- 第七條 接種ニ臨ミテハ先ツ局部ヲ「アルコール」又ハ他ノ消毒薬液ヲ以テ消毒シ次ニ滅菌シタル「ガーゼ」又ハ脱脂綿ヲ以テ丁寧ニ之ヲ拭淨スヘシ
- 第八條 種痘ノ場所ハ相當廣潤ニシテ清潔ナル場所ヲ選ビ其ノ換氣、採光、暖室ニ注意スヘシ
- 第九條 種痘者ハ成ルヘク上衣ヲ著シ且豫メ手指ヲ消毒スヘシ
- 第十條 漿盤及種痘針ハ使用ニ先チ「アルコール」又ハ他ノ消毒薬液ヲ以テ之ヲ消毒シ次ニ滅菌シタル「ガーゼ」ヲ以テ之ヲ拭淨スヘシ但シ適當ナル他ノ消毒方法ニ依ルモ妨ナシ
- 第十一條 種痘針ハ受痘者一人毎ニ前項ニ依リ之ヲ處置スヘシ
- 第十二條 接種ノ方法ハ切種ニ依ルヘシ即チ局部ノ皮膚ヲ緊張シ相當量ノ痘苗ヲ塗布シタル後切種用種痘針ヲ以テ其ノ部ニ淺キ十字切乃至二分若ハ單線切長サ約一センチニ種痘針ノ平面ヲ以テ痘苗ヲ擦入スヘシ
- 第十三條 切種ニ際シテハ成ルヘク出血セサル様注意スヘシ僅ニ紅痕ヲ呈スルヲ以テ適度トス
- 第十四條 接種數ハ第一期種痘ニ在リテハ右膊四切乃至六切、第二期種痘其ノ他ニ在リテハ左膊六切トシ各切ノ距離ハ五分以上ナルヲ要ス但シ必要アルトキハ他側又ハ他ノ部位ニ接種スルモ妨クナシ

〔山梨警〕

第二條 (戶籍吏)ハ毎年十二月末日迄ニ前年中出生ノ本籍人ニシテ其ノ戶籍ニ前條ノ符號ノ記入ナキモノ、本籍地及ヒ氏名ヲ市町村長ニ通知スヘシ

附則
本令ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●種痘法施行ニ關スル件

明治四十三年三月 梨衛發第八五號

種痘法ノ實施ニ伴ヒ市町村種痘事務整理順序等訓令セラレ更ニ右事務整理並種痘定期ニ在ル者及未種痘者等ノ調査ニ關シ別紙ノ通各郡市長ニ依命通牒ヲ發シタリ之レニ依リ各市町村ニ於テハ種痘脫漏者ヲ防キ得ヘキカ如クナリト雖モ尙出生又ハ寄留届出ヲ怠リ若クハ不就學ナル等ノ事由ニ依リ全ク脱漏者ナキヲ保スヘカラス故ニ戶口調査ノ施行ニ際シテハ常ニ克ク種痘定期ニ在ル者及未種痘者ヲ精査シ市町村長ヨリ種痘期日指定ノ通知ヲ受ケタルトキハ特ニ種痘法第十四條ノ調査ヲ勵行シ種痘脫漏者ヲ發見シタルトキハ之ヲ市町村長ニ通報シ以テ種痘ノ普及ニ努力スヘシ

●種痘法實施ニ關スル件

明治四十三年三月 梨衛發第八三號

今般種痘法實施ニ關シ市町村種痘事務整理順序等訓令相成候處種痘法ニ於テハ第一期種痘ハ數ハ二歳ノ一定時期迄ニ完了ヲ期シ漏レタル者ハ戶籍簿ニ就テ調査シ遅クモ翌年ノ種痘期ニハ種痘ヲ受ケシメ尙萬一漏レタル者

第十一條 種痘者ハ受痘者ノ健康狀態ニ注意シ左ノ各號ニ該當スル者ニハ

- 一 出生後九十日未滿ノ者
 - 二 著シク營養障害ニ陥レル者
 - 三 蔓延性皮膚病ニ罹リ居ル者
 - 四 熱性病又ハ重症疾病ニ罹リ居ル者
- 第十二條 檢診ノ場合ニ於テ注意スヘキ事項左ノ如シ
- 一 定型痘疱二顆以上發痘シタルモノヲ善感トス但シ第二期種痘以後ニ在リテハ接種ノ日ヨリ第三日後ニ於テ一顆以上ノ小結節又ハ水疱ヲ生シタルモノモ亦善感トス
 - 二 接種ノ痕跡消失シタルモノ、不正ナル膿疱ヲ生シタルモノ、潰瘍ニ陥リ若ハ痂皮ヲ結ヒタルモノ又ハ第一期種痘ニ在リテハ發痘一顆ナルモノヲ不善感トス
- 第十三條 種痘者又ハ當該吏員ハ受痘者又ハ其保護者ニ對シ種痘後注意スヘキ事項ヲ指示スヘシ

●種痘法第八條ニ依ル符號記入方

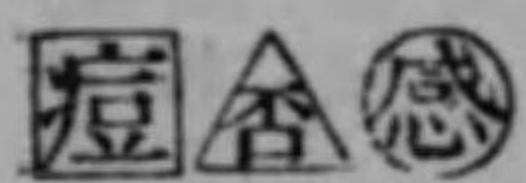
明治四十二年十二月二十四日 司法省令第二十二號

種痘法第八條ニ依ル符號記入方左ノ通相定ム

第一條 (戶籍吏)カ種痘法第八條ノ通知ヲ受ケタルトキハ本人ノ戶籍ノ欄外氏名ノ下ニ左ノ區別ニ從ヒ符號ヲ記入スヘシ

善感者ナルトキ
直徑三分
高サ三分
方三分

不善感者ナルトキ
第一期種痘施行前痘瘡ヲ經過シタル者ナルトキ



アラハ幼稚園小學校ニ入學ノ際調査シ以テ少クモ第一期種痘ノ遺漏ナキヲ期シ又第二期種痘ハ小學校ニ於テ勵行シ其他雇主ヲシテ其ノ義務ヲ負擔セシメ又ハ種痘證書等ノ檢閱ニ依リ未種痘者調査ヲ精確ナラシメ以テ定期種痘ノ普及ヲ期待スルノ趣旨ニ有之候間宜シク町村長ニ御指示ノ上常ニ彼上ノ點ニ留意セシメ種痘事務ヲ整理セシムルト共ニ種痘脫漏者ヲ生セシメサル様御措置相成度依命此段及通牒候也

●種痘濟否ニ關スル件

明治四十三年五月 山梨縣訓令甲第三十六號

本年一月以降改正種痘法實施セラレタルニ依リ市町村ニ備フル學齡簿小學校幼稚園等ノ學籍簿備考欄中ニハ左記ノ事項ヲ記入シ種痘濟否ニ關スル取締ヲ嚴ニシ同法ノ趣旨ヲシテ貫徹セシムル様特ニ注意スベシ

- 一 第一期種痘完了年月日
- 二 第二期種痘完了年月日
- 三 痘瘡經過年月日

●市區町村種痘事務整理順序ノ件

明治四十三年三月 山梨縣訓令甲第十五號

第一條 市區町村長(之レニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ前年中出生ノ者、數ハ歳十歳ノ者及前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者其ノ他ノ種痘ヲ行フ必要アル者(第十條

第三號乃至第五號及第十二條參照ノ種痘期日ヲ指定スルコト
前項ノ種痘期日ハ公種痘(市區町村ニ於テ施行スル種痘ヲ謂フ)施行期
間ノ最終日トスルコト但シ市區町村内ノ字等ニ依リ種痘期日ヲ異ニスル
モ妨ナシ

第二條 市區町村長ハ受痘者ノ豫定員數ニ應シ(醫師一人一日ノ種痘人員
二百人以内ト算シ)公種痘施行ノ期間及其ノ場所ヲ定メ種痘期日ノ指定
ト共ニ豫メ之ヲ公告スルコト

市區町村長ハ前項公告ノ外種痘簿、種痘票、學齡簿等ニ依リ種痘定期ニ
在ル者其ノ他種痘ヲ行フ必要アル者ヲ調査シ其ノ保護者又ハ種痘法第三
條ノ義務者ニ對シ種痘期日ノ指定、公種痘施行ノ期間及其ノ場所ヲ漏ナ
ク通知スルコト

第三條 種痘法施行規則第四條ノ患者(痘瘡、猩紅熱、實布埤利亞「格魯
布ヲ含ム」丹毒、麻疹、百日咳)アル家ノ受痘者ニ付テハ公種痘施行ノ
日時又ハ場所ヲ別ニ定メ之ヲ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ通
報スルコト

第二 公種痘施行ノ準備

第四條 種痘ハ市區町村醫ヲシテ之ヲ施行セシメ又ハ相當技能アル醫師ニ
之ヲ囑托スルコト但シ便宜數町村協議シテ巡回種痘ヲ囑托スルモ妨ナ
シ

第五條 市區町村ハ痘苗ノ外種痘ニ要スル器械藥品ヲ準備スルコト其ノ品
目概左ノ如シ

一 接種用種痘針

二 藥 盤

三 滅菌「ガーゼ」及脱脂綿、同上容器

四 「アルコール」又ハ「クレゾール」水若ハ其ノ他ノ消毒藥液

〔山梨警〕

查シ登載スルコト

三 戶籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタルト
キハ他市區町村ニ轉居シタル者ヲ除キ之ヲ第一期種痘簿ニ登載スル
コト

四 前年種痘ヲ猶豫シタル者及前年一回ノ種痘不善感ナル者其ノ他前年
ノ種痘簿ニ登載ノ者ニシテ前年中ニ痘瘡ヲ經過セシ又ハ種痘ヲ完了
セサルトキハ之ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

五 前各號ノ外、學校、育兒院、製造所等ノ首長、警察官吏又ハ衛生組
合長ノ通報、種痘法第四條第二項ノ届出其ノ他種痘法第十四條ニ依
レル調査等ニ依リ種痘ヲ怠リタル者(種痘ヲ受ケタル證據不明ナル
者ヲ含ム以下同シ)ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

第十一條 市區町村長ハ種痘簿編製後種痘ノ指定期日マテニ前條ニ該當ス
ル者其ノ市區町村内ニ來住シタルトキハ遲滞ナク種痘簿ニ登載スルコト

第十二條 市區町村長ハ前二條ノ外常ニ種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ之ヲ第
一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

前項ノ場合ニ於テ其ノ年内ニ種痘ヲ完了セシメ難シト認ムル者ニ就テハ
其ノ通報書届書調査書等ヲ一括保存シ翌年ノ種痘簿ニ登載スルコト

第十三條 市區町村長ハ種痘簿ニ登載ノ者種痘ノ指定期日マテニ死亡シ又
ハ他市區町村ニ轉住シ若ハ一年以上居所不明ナルトキ又ハ痘瘡ヲ經過シ
タル爲種痘ヲ要セサルトキハ其ノ事由ヲ當該欄内ニ記シ氏名ノ欄ヲ朱線
ニテ抹消スルコト

前項ノ外種痘簿記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ(既ニ種痘ヲ完了シ
タル者ニ付テハ異動ヲ除ク)遲滞ナク之ヲ加除訂正スルコト

第十四條 市區町村長ハ公種痘ヲ施行シタルトキ及種痘法第十二條第二項
私種痘ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ都度遲滞ナク種痘ノ月日成績等ヲ種

五 「バトリ」氏小皿及硝子製圓筒「コップ」ノ類

前項品目ノ數量ハ種痘人員ニ應シ醫師ノ意見ニ依リ之ヲ定ムルコト
第六條 地方長官ハ種痘ヲ行フヘキ人員(受痘者ハ第一期及第二期ヲ合シ
人口千人ニ付毎年五十人内外ヲ普通トス)ニ應シ痘苗具數ヲ豫算シ發送
期日ヲ指定シテ一箇月以前ニ傳染病研究所ニ請求スルコト

第七條 種痘施行ノ場所ハ受痘者ノ集合ニ便利ナル地區ニ於テ相當廣潤ニ
シテ成ル可ク清潔ナル箇所ヲ選定スルコト、授業ヲ妨ケサル限リハ小學
校等ヲ種痘所ニ充ツルヲ便宜トス

前項ノ種痘所ハ地域廣潤ナル市區町村ニ於テハ成ル可ク之ヲ數箇所ニ設
置スルコト
第八條 種痘所ニハ少クモ受痘者控室及手術室ヲ區別シ各室トモ豫メ濕拭
掃除ヲ行ヒ又ハ換氣、採光ニ注意シ寒冷ナル日ニアリテハ相當ノ暖室ノ
設備ヲ爲スコト

第三 種痘簿ノ編製

第九條 種痘簿ハ其ノ年施行スル公種痘ノ用ニ供シ併テ其ノ年ニ於ケル公
私種痘ノ成績ヲ明ニスル目的ヲ以テ編製スルモノトス

第十條 市區町村長ハ毎年二月末日迄ニ左記各號ニ依リ別紙雜形ニ準シ第
一期及第二期種痘簿ヲ編製スルコト

一 戶籍簿、身分登記簿及寄留簿等ニ就キ前年中出生ノ現住人ヲ調査シ
前年中既ニ種痘ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ之ヲ第一期
種痘簿ニ登載スルコト但シ寄留等ノ届出ナキ現住人ハ警察官吏ノ通
報等ニ依リ之ヲ調査シ登載スルコト

二 學齡簿等ニ就キ數ヘ歳十歳ノ現住人ヲ調査シ前年迄ニ痘瘡ヲ經過シ
又ハ第二期種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ之ヲ第二期種痘簿ニ登載スル
コト但シ學齡簿ニ登載ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調

〔山梨警〕

痘簿當該欄内ニ記入シ種痘ヲ猶豫シタル者ニ付テハ備考欄内ニ其ノ事由
ヲ記載スルコト

其ノ年出生ノ者第一期種痘ヲ完了シ又ハ數ヘ歳八歳九歳ノ者第二期種痘
ヲ完了シタルトキ其ノ他種痘簿ニ未登載ノ者種痘ヲ完了シタルトキハ之
ヲ登載記入スルコト

第三十六條ニ依リ種痘施行ノ場合ニ於テ其ノ年内出生者ノ種痘ノ月日成
績等ハ成ル可ク別ニ種痘簿ヲ調製シ之ニ登載記入スルコト

種痘簿編製前(一月一日ヨリ種痘簿編製ニ至ル間)私種痘ノ届出ヲ受ケタ
ルトキハ其ノ届書(口頭届出ナレハ控書ヲ作り)ヲ保存シ種痘簿編製ノ際
之ヲ登載記入スルコト

第十五條 種痘簿ノ記入順序ハ受痘者ノ多數ナル市區町村ニ於テハ町名字
名若ハ番地ニ依リ適當ニ區別シ又ハ氏名ヲ「イロハ」順ニ記入スル等搜索
ニ便ナラシムルコト

種痘定期ニ在ル者及種痘ヲ怠リタル者ニ付テハ成ル可ク各別ニ種痘簿ヲ
調製スルコト

種痘簿ハ十年間之ヲ保存スルコト

第四 種痘票ノ調製

第十六條 市區町村長ハ便宜第九條乃至第十五條ノ種痘簿ヲ編製セズ本條
以下ニ依リ種痘票ヲ調製スルモ妨ナシ

種痘票ハ專ラ公種痘ノ用ニ供スルノ目的ヲ以テ調製スルモノトス但シ第
二十四條ニ依リ併テ私種痘ノ成績ヲ明ニスルノ用ニ供スルモ妨ナシ

第十七條 市區町村長ハ毎年二月末日迄ニ左記各號ニ依リ別紙雜形ニ準シ
第一期及第二期種痘票ヲ調製スルコト
一 戶籍簿身分登記簿及寄留簿等ニ就キ前年中出生ノ現住人ヲ調査シ既
ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ第一期種痘票ヲ調製

- スルコト但シ寄留等ノ届出ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ種痘票ヲ調製スルコト
- 二 學齡簿等ニ就キ數ヘ歳十歳ノ現住人ヲ調査シ前年迄ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ第二期種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ第二期種痘票ヲ調製スルコト但シ學齡簿ニ記載ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ種痘票ヲ調製スルコト
- 三 戶籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタルトキハ他市區町村ニ轉居シタル者ヲ除キ第一期種痘票ヲ調製スルコト
- 四 種痘法第四條第二項ノ届書警察官吏衛生組合長ノ通報書其ノ他種痘ヲ怠リタル者ノ覺書等及種痘猶豫期限ノ經過シタル猶豫願書並私種痘ノ第一回不善感届書ヲ取出シ種痘票ヲ調製スルコト
- 五 前年ノ種痘票中種痘猶豫シタル者及前年第一回ノ種痘不善感ナル者其ノ他未タ種痘ヲ完了セサル者ノ種痘票ヲ取出シ本條各號ノ種痘票ト共ニ整理スルコト
- 六 前各號ノ外種痘ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ其種痘票ヲ調製スルコト
- 第十八條 市區町村長ハ種痘票調製後種痘ノ指定期日迄ニ前條ニ該當スル者其市區町村内ニ來住シタルトキハ遲滞ナク其ノ種痘票ヲ調製スルコト
- 第十九條 種痘票調製後種痘ノ指定期日マテニ死亡シ又ハ痘瘡ヲ經過シ若クハ私種痘ノ届出ヲ爲シタル者ニ付テハ第二十四條ノ場合ヲ除ク外其ノ種痘票ヲ廢棄スルコト又他市區町村ニ轉居シタル者ニ付テハ其ノ種痘票ヲ廢棄シ若クハ便宜之レヲ轉居地ノ市區町村長ニ送致シ轉居通報ノ用ニ供スルコト

〔山梨警〕

- 種痘票調製後種痘ノ指定期日マテニ種痘ヲ猶豫シタル者ニ付テハ其ノ種痘票備考欄内ニ其ノ事由ヲ記入シ他日ノ用ニ供スルコト
- 第二十條 市區町村長ハ常ニ種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ若シ直チニ種痘ヲ完了セシメ難キトキハ其ノ覺書ヲ調製シ他日ノ用ニ供スルコト
- 第二十一條 第三十五條又ハ第三十六條ニ依リ種痘ヲ施行スルトキ種痘票未調製ノ者ニ付テハ其ノ際之レヲ調製シ記入スルコト
- 第二十二條 種痘票ハ使用後善感不善感猶豫不參等ニ依リ區分シ十年間之ヲ保存スルコト
- 第二十三條 種痘法第十二條第二項私種痘ノ届書(口頭届出ナレハ控書ヲ作リ)猶豫申請書種痘法第四條第二項ノ届書警察官吏衛生組合長ノ通報書未種痘者覺書等ハ一括保存スルコト
- 前項書類ノ保存期間ハ私種痘届書ハ十年間其ノ他ハ種痘完了又ハ種痘票調製済マテトス
- 第二十四條 市區町村長ハ事務ノ繁閑ニ依リ前條ノ届書申請書通報書覺書等ニ代ヘ其ノ種痘票ヲ調製シテ保存スルコト此ノ場合ニ於テハ私種痘ノ種痘票ニハ其ノ備考欄内ニ私種痘ト朱書スルコト
- 第五 種痘及檢診ノ施行
- 第二十五條 市區町村長ハ種痘所ニ臨ミ種痘事務ニ從事スルコト
- 種痘所ニハ種痘簿又ハ種痘票ヲ配置シ種痘ノ月日成績等ヲ記入スルコト
- 第二十六條 相當ノ事由ニ依リ種痘所ニ出頭スルコト能ハサル受痘者ニ對シテハ其ノ住所ニ就キ種痘ヲ施行スル等適宜ノ方法ヲ講スルコト
- 第二十七條 種痘所ニハ檢診期日及種痘後注意スヘキ事項ヲ揭示シ且ツ之ヲ口頭及覺書ヲ以テ保護者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ指示スルコト其ノ注意スヘキ事項概ネ左ノ如シ
- 一 清潔ナル襦袢類ヲ着用セシムルコト

〔山梨警〕

- 二 感冒豫防ニ注意シ接種後數日間ハ腰湯ノ類ハ妨ケナキモ成ル可ク全身浴ヲ禁スルコト
- 三 接種ノ部位ハ摩擦搔爬又ハ汚染セサル様注意スルコト
- 四 接種部附近ニ膿腫ヲ生シタルトキ發熱高キトキ又ハ潰瘍ヲ生スルノ傾アルトキハ醫師ノ診察ヲ受ケルコト
- 五 指定セラレタル檢診期日ニハ相違ナク檢診所ニ出頭スヘキコト但シムラ得サル事由アルトキハ其ノ當日マテニ事由ヲ具シ届出ルコト
- 六 種痘済證ハ大切ニ保存スヘキコト
- 第二十八條 檢診ハ種痘後第六日乃至第八日ニ種痘所ニ於テ醫師之ヲ行ヒ市區町村吏員ハ其ノ事務ニ從事スルコト
- 第二十九條 檢診ノ當日相當ノ事由ニ依リ出頭スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ住所ニ就キ檢診ヲ行ヒ又ハ最寄醫師ノ檢診ヲ受ケシメ其ノ種痘證ヲ提示シ又ハ其ノ寫ヲ添ヘ口頭若ハ書面ニテ届出ヲ爲サシムルコト
- 第三十條 種痘済證ハ檢診ノ當日之ヲ交付スルコト
- 第三十一條 市區町村長ハ學校、育兒院、製造所其ノ他多數ノ兒童ヲ集合セシムル場所ノ首長ニ協議シ各自ニ醫師ヲシテ種痘及檢診ヲ行ハシメ又ハ兒童ノ來集スヘキ種痘所及日時等ヲ打合セ種痘及檢診ヲ行フコト
- 第三十二條 市區町村長ハ衛生組合長ヲシテ組合内ノ種痘未了者ヲ調査セシメ其ノ保護者等ニ對シ指定期日マテニ種痘ヲ受ケヘキコトヲ戒告セシメ其ノ種痘所ニ來集スヘキ者ハ成ル可ク之ヲ引率出頭セシムルコト但シ兒童ノ保護者等ニシテ兒童ヲ種痘所ニ出頭セシメ難キ事情アル者アルトキハ其ノ事由氏名住所等ヲ通報セシメ第二十六條ニ依リ種痘ヲ施行スルコト
- 第三十三條 衛生組合ニ於テ種痘ヲ施行シタルトキハ便宜組合長ヲシテ保護者等ニ代リ施術醫師ノ證明ヲ得種痘法第十二條第二項私種痘ノ届出ヲ

- 爲サシムルコト
- 第三十四條 市區町村長ハ種痘簿種痘票等ニ依リ指定期日マテニ種痘ヲ行ハサル者、種痘猶豫期間ヲ經過シタル者其ノ他種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ適當ト認ムル期日ヲ限リ種痘ヲ催告スルコト
- 前項期日マテニ種痘ヲ完了セサルトキハ種痘法施行規則第六條ニ依リ遅クモ次回ノ公種痘施行期ニ於テ更ニ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ種痘期日ヲ指定スルコト
- 前項期日マテニ尙故ナク種痘ヲ行ハサルモノアルトキハ市區町村長ハ警察官吏ト協議シ其ノ居所等ニ於テ種痘ヲ強制施行スルコト
- 第三十五條 受痘者多數ナル市區町村ニ於テハ第二條ニ依ルノ外十月ヨリ十二月ニ至ル間ニ於テ再ヒ公種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ前條第一項ニ該當スル者及種痘定期ニ在リテ種痘ヲ受ケントスル者ニ種痘ヲ施行スルコト
- 第六 人口五萬以上ノ市區ニ於ケル種痘ノ施行
- 第三十六條 人口五萬以上ノ市區ニ於テハ前各條ニ依ルノ外毎月(八月九月ヲ除キ)一回以上公種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ豫メ之ヲ公告シ出生後九十日ヲ經タル者其ノ他種痘定期ニアリテ種痘ヲ受ケントスル者ニ種痘ヲ施行スルコト
- 第三十七條 市區長種痘期日ヲ指定シタルトキハ日傭人等勞働者ノ居住地城ニハ成ル可ク醫師及吏員ヲ派遣シ其ノ住所ニ就キ種痘及檢診ヲ施行スル等適宜ノ方法ヲ講スルコト
- 第七 種痘ニ關スル通知記入
- 第三十八條 市區町村長ハ戶籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ他市區町村ニ轉居シタル者アルトキハ速ニ

第七編 衛生 第七章 防疫

之ヲ轉居先ノ市區町村長ニ通報スルコト

第三十九條 市區町村長ハ公種痘ヲ施行シ又ハ種痘法第十二條第二項私種痘ノ届出ヲ受ケタルトキハ第一期種痘ヲ完了シタル者(善感シタル者不
善感ナルモ二回検診シタルモノニ限ル)ヲ速ニ本籍地ノ戸籍吏ニ通知ス
ルコト第一期種痘前痘瘡ヲ經過シタル者アルトキ亦同シ

第四十條 市區町村長ハ學齡簿編成ノ際之ニ種痘ニ關スル事項(第何期種痘完了第何期第一回不善感、痘瘡經過其ノ年月)ヲ記入スルコト前條ノ場合ニ於テ學齡兒童ナルトキハ其ノ第一期種痘ナルト第二期種痘ナルトニ拘ラス之ヲ學齡簿ニ記入スルコト第二期種痘前痘瘡ヲ經過シタル者アルトキ亦同シ

第四十一條 市區町村長ハ小學校及之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書修業證書又ハ保育證書ニ成ル可ク種痘ニ關スル事項(定期種痘完了又ハ痘瘡經過)ヲ記入セシムルコト

第八 種痘濟證及種痘證等ノ調製

第四十二條 種痘濟證ハ保存ニ便ナラシムル爲成ル可ク厚キ西洋紙ニテ調製シ其ノ大サハ縦五寸五分横四寸五分位ト爲スコト

第四十三條 市區町村ニ於テハ成ル可ク醫師ノ交付スヘキ種痘證用紙ヲ種痘濟證用紙ニ準シテ調製シ醫師ノ請求アルトキハ無償ニテ之ヲ交付スルコト私種痘届用紙モ亦之ニ準シ醫師ニ交付シ置キ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ代リ届出ヲ爲サシムルコト

氏名	生年月	住所及保護者等氏名	種痘月日	善感不感	公種痘私種痘	種痘行ハサル理由	備考
明治 年 第 期種痘簿							
何々 市區役所 町村役場							

〔山梨警〕

●衛生組合同規則

明治三十一年二月 山梨縣令第九號

改正 大正元年八月縣令第七號、一五年六月第六號

第一條 清潔方法消毒方法其他傳染病ノ豫防救治ニ關シ協同施行スル爲メ市町村內ニ衛生組合ヲ設ケヘシ

第二條 衛生組合ノ區域ハ市町村內大小字若クハ區ノ區域ニ依リ市町村長之ヲ指定ス但特別ノ事情アルモノハ適宜其區域ヲ設ケルコトヲ得

第三條 衛生組合ハ其設置區域ノ大小字若クハ區ノ名稱ヲ冠稱ス但第二條但書ニ該當スル衛生組合ハ適宜其名稱ヲ附スヘシ

第四條 衛生組合ハ其區域內住民ニシテ戸ヲ構フル者ヲ以テ組合員トス

第五條 衛生組合ニ組合長一人及組合長代理者一人又ハ數人ヲ置キ組合員ニ於テ選舉スヘシ

第六條 衛生組合ノ協議會ハ組合員過半數ノ出席アルニアラサレハ開會スルコトヲ得

第七條 衛生組合長ノ擔任スヘキ事務左ノ如シ

- 一 組合中ノ取締ヲ爲シ組合員ヲシテ組合同規約履行ノ責ニ任セシムル事
 - 二 組合共有財産ヲ管理スル事
 - 三 組合費用ノ收支ニ關スル事
 - 其他組合規約ニ定メタル事項
- 組合長代理者ハ組合長故障アルトキ其事務ヲ代理ス
- 第八條 衛生組合員ハ清潔方法消毒方法其他傳染病豫防救治ニ關シ協同一致之ニ從事シ相互ニ組合規約ヲ恪守スヘシ
- 第九條 衛生組合ハ組合員ノ協議ニ依リ其規約ヲ定メ市ニ屬スル分ハ市役所ヲ經テ知事ノ認可ヲ受ケ町村ニ屬スル分ハ町村役場ヲ經テ所轄警察署

第七編 衛生 第七章 防疫

明治 年 第 期種痘簿

氏名	生年月	住所 (町名字名 必要アルトキハ番地トモ)	保護者等氏名	種痘月日	發痘顆數
善感	不感				
備考					

用紙ハ縦四寸五分横四寸五分位トシ成ル可ク厚キ西洋紙ヲ可トス又第一期ハ單線第二期ハ複線ノ輪廓ヲ施ス等搜索ニ便ナル様調製スルコト

〔山梨警〕

長ノ認可ヲ受ケヘシ

第十條 組合同規約ニ規定スヘキ事項左ノ如シ

- 一 邸宅内ノ便所井戸上水下水芥溜溝渠等ノ掃除浚深ヲ爲ス事
- 二 傳染病流行ノ兆アルトキハ各自豫防衛生ヲ恪守スル事
- 三 傳染病又ハ其疑アル患者アルトキハ互ニ注意シ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケシムル事
- 四 傳染病患者アリタル家及其近隣ノ家ノ交通ヲ互ニ相戒ムル事
- 五 未種痘者アルトキハ互ニ注意シ種痘ヲ爲サシムル事
- 六 全家傳染病ニ罹リ若クハ患者獨身ニシテ清潔方法消毒方法ヲ實行シ難キモノアルトキハ組合ノ器具藥品ヲ以テ之ヲ爲ス事
- 七 全家傳染病ニ罹リ若クハ患者獨身ニシテ他ニ看護人ナキモノ、看護方法ヲ設ケル事
- 八 清潔方法消毒方法其他豫防方法ヲ施行スル責力ナキモノハ組合ノ費用ヲ以テ之ヲ施行スル事
- 九 組合共有財産ノ管理方法ヲ設ケル事
- 十 組合費用ノ負擔及支出方法ヲ設ケル事
- 十一 組合長組合長代理者ノ定員及其選任方法並任期ヲ定ムル事
- 十二 組合長組合長代理者ニ對スル報酬ノ給否及報酬ヲ給スルトキハ其金額ヲ定ムル事
- 十三 組合ノ區域內ニ居住スルモノ轉居ノ爲メ組合ヲ離ル、モ其組合ノ共有財産ニ對シ分割返還ヲ爲サ、ル事
- 第十一條 衛生組合ニ於テハ組合同規約ノ規定ニ依リ左ノ手續ヲ爲スコトヲ得
- 一 交通遮斷ノ場合ニ於テ一時食品其他需用品供給ノ手續ヲ爲ス事
- 二 傳染病貧民患者ノ收容運搬及埋火葬ニ要スル人夫其他ノ物件供給ノ

- 手續ヲ爲ス事
- 三 組合内ニ於テ發生シタル傳染病貧民患者一時救療看護ノ手續ヲ爲ス事
- 四 傳染病行旅患者アルトキ一時救護ノ手續ヲ爲ス事
- 第十二條 衛生組合ニ於テハ消毒器具及藥品ヲ設備スヘシ
- 第十三條 衛生組合長及組合長代理者ノ氏名ハ所轄警察署及ビ市役所又ハ町村役場ニ届出ベシ

附則

- 第十四條 市町村長ニ於テ衛生組合ノ區域ヲ指定シタルトキハ其區域内ノ住民ニシテ戸ヲ構フル者五名以上ヲ選定シ衛生組合設立委員ヲ命スヘシ
- 衛生組合設立委員ヲ命セラレタルモノハ故ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十五條 衛生組合設立委員ハ組合設立ニ至ル迄組合規約ノ起草其他一切ノ事務ヲ處理スヘシ
- 第十六條 衛生組合長選定ニ至リタルトキハ衛生組合設立委員ハ其事務ヲ組合長ニ引繼クヘシ

●衛生組合規約ニ關スル件

明治三十六年十月 衛發第二五一號ノ二

衛生組合規約ニ關シ別紙ノ通り各郡市長ハ照會相成候ニ付テハ該當事項ト可成規約中ニ加入セシムル様御取計相成度依命此段及通牒候也

(別紙) (衛發第二五一號)

公衆ノ健康ヲ保持スルハ公共ノ施設ニ俟ツヘキモノ少ナカラスト雖モ復各

〔山梨警〕

個人ノ自衛ニ特ツモノ頗ル多シ熟々本縣ニ於ケル個人衛生ノ狀態ヲ觀察スルニ其内面頗ル幼稚ニシテ衛生ハ殆ムト顧慮セサルカ如此際衛生思想ヲ誘發スルニハ幾多ノ方法アルヘシト雖モ須ラク簡易ナル標準ニ依リ著々實行セシムルノ外良策無之ト被存候就テハ自今先ツ以テ左記各項ヲ衛生組合規約中ニ加ヘシメ之レヲ嚴行セシメ以テ衛生的ノ習慣ヲ馴致セシムル様御取計相成度依命此段及照會候也

左記

- 一 早起ヲ爲シ邸ノ内外ヲ清潔ニ掃除シ室内ハ濕布ヲ以テ拭淨スル事
- 一 夜深ヲ爲サ、ル事
- 一 飲料水ハ一旦煮沸シタルモノヲ用キシムル事
- 一 暴飲暴食セシメサルハ勿論消化シ易カラサルモノハ可成食セシメサル事
- 一 身體ヲ清潔ニナスヘキハ勿論衣服ハ可成清潔ナラシムル事
- 一 身體ニ異狀アリタルトキハ可成速ニ醫藥ヲ求ムル事
- 一 身體ニ異狀アリト認ムルモ醫藥ヲ求ムルノ責ニ乏シキモノハ衛生組合長ニ申出ツル事

第八章 特殊傳染病

●結核豫防法

大正八年三月二十七日 法律第二十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル結核豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

結核豫防法

- 第一條 本法ニ於テ結核ト稱スルハ肺結核又ハ喉頭結核ニシテ病毒傳播ノ危険アルモノヲ謂フ
- 第二條 醫師結核患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ患者ノ場合ニ在リテハ患者又ハ其ノ居住ノ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者、死體ノ場合ニ在リテハ死體所在ノ場所ノ管理ヲ爲ス者又ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ命令ノ定ムル所ニ依リ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ
- 前項ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者ハ其ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ
- 第三條 行政官廳ハ結核患者又ハ其ノ死者アリタル場所ニ付家屋物件ノ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ施行シ又ハ其ノ施行ヲ患者又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ命スルコトヲ得
- 第四條 行政官廳ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得
 - 一 業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ従事スル者又ハ病毒蔓延ノ虞アル場所ニ居住シ若ハ其ノ場所ニ於テ職業ニ従事スル者ニ對シ健康診斷ヲ施行スルコト
 - 二 結核患者ニ對シ業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ従事スルヲ禁止スルコト

〔山梨警〕

- 三 學校、病院、製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル場所又ハ旅店、料理店、理髮店其ノ他ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルヘキ事項ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ結核豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト
- 四 古著、古蒲團、古本、紙屑、襤褸、飲食物其ノ他ノ物件ニシテ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アルモノノ賣買若ハ授受ヲ制限シ若ハ禁止シ、其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲ爲サシメ又ハ其ノ物件ノ廢棄ヲ爲スコト
- 地方長官ニ於テ前項ノ規定ニ依リ健康診斷ヲ施行シ又ハ物件ノ廢棄ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
- 第五條 地方長官ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ探光、換氣其ノ他ノ關係ニ於テ衛生上不良ナル建物ノ使用ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ニ因リ生シタル損害ニ對シテハ地方長官必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付ス補償金ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
- 第六條 主務大臣ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノヲ收容セシムル爲人口五萬以上ノ市又ハ特ニ必要ト認ムル其ノ他ノ公共團體ニ對シテ結核療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得
- 第七條 地方長官ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノ及豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル結核療養所ニ入所セシムルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ入所ノ費用ノ負擔及徵收ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第八條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第六條ノ規定ニ依リ結核療養所ヲ設置スル公共團體ニ對シ其ノ結核療養所ニ關シ公共團體ノ支出スル經費ノ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第九條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第六條ノ規定ニ依ラスシテ結核療養所ヲ設置スル公共團體又ハ公益法人ニ對シ其ノ結核療養所ニ關シ公共團體又ハ公益法人ノ支出スル經費ノ二分ノ一以內ヲ補助スルコトヲ得

第十條 結核療養所ヲ設置スル公共團體ニシテ第八條又ハ前條ノ規定ニ依ル補助ヲ受ケルモノハ他ノ公共團體ノ委託アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ途ナキ結核患者ヲ其ノ結核療養所ニ收容スヘシ

第十一條 北海道地方費又ハ府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第四條第一項第二號ノ規定ニ依ル從業禁止又ハ第七條第一項ノ規定ニ依ル入所ニ因リ生活スルコト能ハサル者ニ對シ其ノ生活費ヲ補助スヘシ

第十二條 國庫ハ第四條第二項、第五條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ四分ノ一ヲ補助ス

第十三條 官廳、公署、官立公立ノ學校病院製造所等ニ於テハ其ノ長ハ第四條第一項第三號第四號及第五條第一項ノ規定ニ準シ結核豫防ニ關スル事項ヲ施行スヘシ

第十四條 第二條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十五條 第四條第一項又ハ第五條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年十月勅令第四百四十九號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）
大正三年法律第十六號ハ之ヲ廢止ス
大正三年法律第十六號ニ依リ設置ヲ命シタル肺結核療養所ハ本法ニ依リ設置ヲ命シタル結核療養所ト看做ス

〔山梨警〕

結核豫防法施行令

大正八年十月二十三日
勅令第四百五十號

改正 昭和三年一月勅令第九號
朕結核豫防法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

結核豫防法施行令

第一條 結核豫防法第五條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ因リ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者又ハ使用者ニシテ同條第二項ノ補償金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ制限又ハ禁止アリタル日ヨリ六十日內ニ地方長官ニ交付ヲ申請スヘシ

第二條 補償金ノ額ハ建物ノ使用ノ制限又ハ禁止ニ因リ通常生スヘキ損害ヲ限度トシ地方長官ニ於テ三人以上ノ評價人ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定ス

第三條 地方長官前條ノ規定ニ依リ補償金ノ額ヲ決定シタルトキハ之ヲ建物ノ所有者及使用者ニ通知シ且建物所在地ノ市町村長ヲシテ建物ノ所在地及補償金ノ額ヲ所有者及使用者ヲ除クノ外建物ニ關シ權利ヲ有スル者ニ通知セシメ且相當ノ期間公告セシムヘシ但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ス

第四條 前條ノ規定ニ依ル公告期間ヲ經過シタルトキハ地方長官ハ速ニ補償金ヲ交付スヘシ但シ公告期間內ニ建物ニ關シ權利ヲ有スル者ヨリ申請アリタルトキハ期日ヲ指定シテ其ノ交付ヲ延期スルコトヲ得

第五條 結核豫防法第七條ノ規定ニ依ル入所ノ費用ハ結核療養所ヲ設置スル公共團體ノ負擔トス

第六條 結核療養所ノ管理者ハ前條ノ規定ニ拘ラス本人ヨリ入所ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得管理者本人ヨリ徵收スルコトヲ得スト認ムルトキハ其ノ扶養義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

〔山梨警〕

前項ノ入所ノ費用ノ徵收ハ必要アルトキハ納付義務者ノ居住地又ハ財産所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第一項ノ入所ノ費用ニシテ指定ノ期間內ニ納付ナキモノニ付テハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第七條 結核豫防法第七條ノ規定ニ依リ入所セシメラレタル結核患者入所中死亡シタルトキハ遺留財産ヲ以テ入所ノ費用ノ全部又ハ一部ニ充ツルコトヲ得

第八條 結核豫防法第八條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ左ノ區分ニ依ル

一 結核療養所ノ創設費及擴張費並之ニ伴フ初度調辦費ハ支出額ノ二分ノ一

二 其ノ他ノ諸費ハ支出額ノ四分ノ一

第九條 結核豫防法第九條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ左ノ區分ニ依ル

一 結核療養所ノ創設費及擴張費並之ニ伴フ初度調辦費ハ支出額ノ四分ノ一乃至二分ノ一

二 其ノ他ノ諸費ハ支出額ノ八分ノ一乃至六分ノ一

第十條 前二條ニ於テ支出額トハ事業ニ伴フ收入、國庫以外ノ補助金又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ但シ他ノ公共團體ヨリ受ケタル委託患者收容料ノ額ハ之ヲ控除セス

前項ノ支出精算額ノ算出ニ付テハ公益法人ノ場合ニ於テハ寄附金ノ額ヲ控除セサルコトヲ得

第十一條 結核豫防法第十條ノ規定ニ依リ收容スヘキ委託患者ノ數ハ結核療養所ノ豫定收容人員ノ十分ノ一以內トス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

委託患者ヲ收容シタル公共團體ハ患者ノ收容ヲ委託シタル公共團體ニ對シ委託患者收容料ヲ請求スルコトヲ得

委託患者收容料ノ額ハ患者ヲ收容スル公共團體ニ於テ之ヲ定ム

第十二條 收容シタル委託患者死亡シタルトキハ受託公共團體ハ其ノ旨ヲ委託公共團體ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル公共團體ハ死亡者ノ相續人、扶養義務者又ハ家族ヲシテ直ニ其ノ死體ヲ引取ラシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ死體ヲ引取ルヘキ者引取ヲ爲ササルトキ又ハ死體ヲ引取人ナキトキハ委託公共團體ニ於テ其ノ死體ヲ引取ルヘシ此ノ場合ニ於ケル費用ハ其ノ公共團體ノ負擔トス

第十三條 結核豫防法第十一條ノ規定ニ依リ生活費ノ補助ヲ受ケヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一 從業ヲ禁止セラレタル者

二 從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル者ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ之ト同一ノ家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル

三 前條ニ掲グル者ヲ除クノ外從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル者ニ依リ扶養ヲ受ケヘキ者ニシテ從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

第十四條 生活費ノ補助ハ生活費ノ補助ヲ受ケムトスル者ノ申請ニ依リ地方長官ニ於テ其ノ許否ヲ決定ス

第十五條 生活費ノ補助ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 生活費補助ノ程度、方法、期間、廢止及停止ニ關スル事項ハ地方長官ニ於テ之ヲ定ム

第十七條 結核豫防法第五條第二項ノ補償金ノ額ノ決定ニ對シ不服アル建物ノ所有者又ハ使用者ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ、同法第十一條ノ規定ニ依ル生活費補助ノ申請ヲ拒マレタル者又ハ其ノ生活費ノ補助ヲ廢止若ハ停止セラレタル者ハ處分ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ内務大臣ニ

訴願スルコトヲ得

第十八條 本令中市町村長トアルハ市制第六條ノ市ニ在リテハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ者トス

附則

本令ハ結核豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正八年十一月一日ヨリ施行) 大正四年勅令第百二號ハ之ヲ廢止ス

●結核豫防法施行規則

大正八年十月二十三日 內務省令第二十號

改正 大正一二年二月內務省令第五號 結核豫防法施行規則左ノ通定ム

結核豫防法施行規則

- 第一條 結核豫防法第二條第一項ノ規定ニ依リ醫師ノ指示スヘキ消毒其ノ他ノ豫防方法ハ左ノ各號及第六條ノ規定ニ準據スヘシ
 - 一 唾痰ハ唾壺、布片、紙片又ハ下水、便池其ノ他病毒傳播ノ危険ナキ場所ノ外ニ略出セサルコト
 - 二 唾壺内ノ唾痰ハ消毒シタル後之ヲ便池ニ投棄シ唾痰ノ附着シタル布片、紙片ハ之ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト
 - 三 咳嗽、噴嚏ノ際ハ成ルヘク布片、紙片等ニテ口鼻ヲ覆フコト
 - 四 患者ノ食器、手拭、寢具等ハ專用トシ衣服、寢具ハ時々日光ニ曝スコト
 - 五 患者ノ居室ハ採光換氣ニ注意シ掃除ハ濕布ヲ以テ拭淨スル等塵埃ノ飛散ヲ防クコト
 - 六 患者ノ常用シタル衣服、寢具、書籍其ノ他ノ物件ヲ他人ニ交付シ又ハ

〔山梨警〕

使用セシムトスルトキハ消毒スルコト

七 患者居室又ハ住家ヲ轉シタルトキハ其ノ使用シタル居室又ハ住家ニシテ必要ト認ムル場所ヲ消毒スルコト
八 患者死亡シタルトキハ其ノ使用シタル居室、衣服、寢具、書籍其ノ他ノ物件ハ之ヲ消毒スルコト

第二條 學校、病院、製造所又ハ鐵道電車船舶自動車馬車等ノ發着待合所、劇場、寄席、活動寫眞館、旅店、下宿屋、料理店、理髮店、湯屋其ノ他

地方長官ノ指定シタル多衆ノ集合場所又ハ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニハ液體ヲ入レタル適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ
警察署長又ハ警察分署長ハ前項ノ規定ニ依リ配置シタル唾壺適當ナラス又ハ其ノ箇數十分ナラスト認ムルトキハ期日ヲ指定シテ其ノ變更又ハ増置ヲ命スルコトヲ得

第三條 前條ノ場所ニ於テハ唾壺以外ニ唾痰ヲ略出スルコトヲ得ス
第四條 地方長官ノ指定シタル鑛泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ掲グル事項ヲ遵守スヘシ
一 營業ノ用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト
二 前號ノ白布及洗浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト
三 結核患者若ハ其ノ疑アル患者ノ宿泊シタル室又ハ使用シタル物件ヲ他人ニ使用セシムトスルトキハ消毒スルコト

前項ノ規定ハ前項以外ノ旅店及下宿屋、貸座敷其ノ他ノ場所ニシテ地方長官ノ指定シタルモノニ之ヲ準用ス
第五條 病院其ノ他患者ヲ收容スル場所ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ遵守スヘシ
一 結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト

〔山梨警〕

第二條 醫師消毒其ノ他豫防方法ヲ指示シタル場合之ニ從ハサルカ又ハ診察ヲ中斷シタル者アルトキハ所轄警察官署ニ通報スヘシ

第三條 市町村其ノ他ノ團體ニシテ結核豫防ノ爲メ左記各號ヲ具備スル消毒所ヲ設置シ公衆ノ需メニ應セムトスル場合ハ其ノ設計ヲ考査シ豫算ノ範圍内ニ於テ經費ノ幾分ヲ補助スルコトアルヘシ
一 蒸氣消毒裝置
二 フォルマリン消毒裝置
三 未既消毒物件保管室
四 未既消毒物件運搬箱

第四條 市町村其ノ他ノ團體ニシテ結核豫防ノ爲メフォルマリン消毒器輕便蒸氣消毒器其ノ他ノ器具ヲ設備シ患者又ハ醫師ニ貸與セムトスル場合ハ其ノ器具ヲ考査シ豫算ノ範圍内ニ於テ經費ノ幾分ヲ補助スルコトアルヘシ

第五條 結核豫防ノ爲メ家屋物件ノ消毒ヲ爲シ又ハ消毒器具ヲ貸與シ料金ヲ徵收セムトスル者ハ消毒スヘキ物件消毒方法並料金額ニ付知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 消毒濟ノ物件ニ對シテハ所轄警察官署ノ標示ヲ受クルコトヲ得
第七條 左ニ掲グル者ニ對シテハ法第四條第一項第一號ニ依リ健康診斷ヲ施行ス
一 旅店、下宿屋、貸座敷、料理店、飲食店、理髮店(女髮結ヲ含ム)其ノ他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル從業者
二 產婆、看護婦、鍼灸按摩術業者、藝娼妓、酌婦其ノ他直接客ニ接スル業務ニ從事スル者
三 質屋業者、疊職及貸蒲團、貸本、古著、古道具、紙屑、襪履其ノ他之ニ類スル物件ノ賣買授受ノ業務ニ從事スル者

●結核豫防法施行細則

大正九年六月 山梨縣令第三十四號

第一條 醫師結核豫防法(以下單ニ法ト稱ス)第二條ニ依リ指示スヘキ消毒其ノ他ノ豫防方法ハ結核豫防法施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)第一條ノ規定ニ依リ其ノ事項ヲ記載シ之ヲ交付スヘシ
醫師前項指示ヲ爲シタルトキハ患者又ハ死者ノ男女別職業及年齢ヲ毎月市町村別ニ取盡メ翌月十日迄ニ所轄警察官署ニ通報スヘシ

第七編 衛生 第八章 特殊傳染病

シ略痰検査ヲ爲スノ要アルヲ以テ爾今左記要項ニ依リ受持巡査ヲシテ採取
セシメ本縣細菌検査所宛送付スベシ
追テ採取容器ハ當座ヨリ送付スヘキニ付必要數ヲ示シ請求スヘシ
右指示ス

記

- 一、受持巡査ハ略痰容器ヲ携帶シ早晨患者起床時ニ於テ口内及咽喉等ヨリ
生シタル略痰ヲ容器内へ略出セシメ採取スベシ
- 一、採取シタル略痰ハ腐敗スルノ虞アルヲ以テ直チニ送付ノ手續ヲ爲スベ
シ若シ日時經過ノ爲腐敗ヲ來スコトアル場合ハ菌ヲ溶解シ檢出不能ニ
陥ルコトアルニヨリ豫メ注意ヲ要ス
- 一、略痰容器入箱ニハ所要事項及採取者名ヲ記載スベシ

唾壺配置ニ關スル件

明治三十七年三月
訓示第三〇號

肺結核豫防ノ爲メ巡査派出所及巡査駐在所ニ適當ノ唾壺ヲ配置シ唾壺内ノ
唾痰ハ消毒ノ上一定ノ場所ニ投棄セシムヘシ

結核豫防ニ關スル件

明治三十七年三月
山梨縣告示第六號

本年二月十三日告示第四號ヲ以テ肺結核豫防ニ關スル大綱ヲ示シ尙ホ同年
三月十九日縣令第十四號ヲ以テ肺結核豫防ニ關スル施行細則ヲ發布シタリ
抑肺結核ハ從來肺病肺勞ト稱セシモノニシテ近來醫學ノ進歩ニ因リ一種ノ

〔山梨警〕

〔山梨警〕

- 四 宿屋ノ寢具ハ何時肺結核患者ノ使用セシモノタルヲ知ルヘカラス營
業主ニ於テ相當ノ豫防措置ヲ爲スハ勿論ナレトモ宿泊人タル者モ尙
能ク注意シ寢具ノ襟及枕等ヲシテ直接鼻口ニ觸レシメサルコト
- 五 宿屋、湯屋、理髮店等ニ於テ共用盥中ノ湯水ヲ以テ合嗽ヲ爲シ殊ニ
宿屋ノ不潔ナル嗽茶碗ヲ使用シ又ハ湯屋ノ水掛ヲ以テ合嗽器ニ代用
スル等ノ行爲ハ努メテ之ヲ避ケルコト
- 六 古著古蒲團等ハ病毒傳播ノ媒介ヲ爲ス虞アルヲ以テ其使用前ニ於テ
相當ノ注意ヲ爲スコト
- 七 鐵道停車場汽車乘合神社佛閣其ノ他衆人群集ノ場所ニ於テハ盥ニ唾
液及痰ヲ略出セサル様注意スヘキコト
- 八 牛乳中ニハ結核病毒混在ノ虞アルヲ以テ煮沸シテ之ヲ飲用スルコト
宴會等ノ際酒杯ヲ授受スルハ古來ノ通習ナレトモ肺結核豫防上ヨリ
視レハ甚タ危險ノ行爲ニ付是等ノ慣例ハ可成之ヲ避ケルコト
- 九 肺結核ハ治癒ニ至難ナルモ初期ニ於テ加療ノ方法宜キヲ得ハ其ノ效
果ヲ奏スヘキヲ以テ咳嗽、咯痰持續スル者、胸部ニ疼痛ヲ感スル者、
不時屢發熱スル者、故ナク食慾不振ノ者、倦怠疲勞スル者、羸瘦ス
ル者、盜汗(寢汗)アル者等ハ速ニ醫師ノ診察ヲ受ケ相當ノ手當ヲ爲
シ不治疾病ニ陥ラサル様注意スルコト
- 十 肺結核患者アラサル家ト雖室内ニ空氣及光線ヲ透入セシメ又ハ衣
服寢具等ヲ時々日光ニ曝シ各自ノ身體ヲ健全ニシテ病毒ニ侵サレサ
ル様注意スルコト
- 十一 公衆ノ交通スル場所ニ於ケル唾壺ハ唾液及略痰ノ壺外ニ散逸セサ
ル様扁平ニシテ内部滑澤且稍大ナル構造ヲ良トス壺内ニ入ルヘキ水
量ハ輕廣ノ振動ヲ受クルモ流出セサルヲ適度トスルコト

傳染病ナルコトヲ明カニセリ而シテ本病ハ其ノ病勢急激ナラサルヲ以テ世
人ノ注意ヲ惹クコト甚タ少シ故ニ其ノ病毒ハ全國到ル所ニ蔓延シ之カ爲メ
ニ殫ル、者極テ多シ今山梨縣ニ於ケル一例ヲ示セハ明治三十五年申ノ死亡
總數八千七百三十七人中肺結核ニ依リ死亡シタル者五百六十七人ノ多數
ヲ占ム加フルニ其死亡者ハ老者ヨリハ少壯者ニ多キヲ以テ一國ノ生産力ヲ
減殺スルコト多大ナリ斯ノ如ク肺結核ハ國民ノ健康上及國家ノ經濟上實ニ
容易ナラサル疾患ナリ然ルニ省令及縣令並ニ過キサルカ故ニ一般個人ニ於テ之カ豫防
ニ急務要ナル部分ヲ定メタルニ過キサルカ故ニ一般個人ニ於テ之カ豫防
ノ方法ヲ盡スニ非サレハ傳播上非常ノ潛勢力ヲ有スル肺結核ヲ防遏スル能
ハス依テ省令縣令ノ外各個人ハ曩ノ告諭並左記各號ニ從ヒ本病ノ危險ヲ防
キ各自ノ健康ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

- 一 肺結核患者ノ末期ニ在テハ糞便中ニ往々結核病毒ヲ含有スルカ故ニ
之ニ對シ略痰ト同一ナル注意ヲ與フルコト
- 二 肺結核又ハ其疑アル患者ノ唾液及略痰若クハ之ヲ拭ヒ去リタル紙布
等其他病毒汚染ノ疑アル衣服寢具飲食器具ヲ取扱ヒタルトキハ石鹼
ヲ以テ其ノ手ヲ洗滌シ且ツ二十倍石炭酸水ヲ以テ消毒スルコト
- 三 肺結核又ハ其ノ疑アル患者ノ家ニ於テハ尙左ノ事項ヲ注意スルコト
一 患者ト家人トハ可成寢室ヲ區別スルコト
二 小兒等ハ可成患者ト同衾セシメサルコト
三 患者ト家人トハ飲食器具ヲ共用セサルコト
四 家人ノ寢衣及寢具ノ上敷等ハ時々熱湯ヲ以テ洗滌スルコト
五 家人ノ寢具ハ時々日光ニ曝スコト
六 室内ニ光線ヲ射入セシムルコト
七 室内ノ塵ハ時々濕布ヲ以テ拭フコト
八 患者自ラ家人ニ傳染セシメサル様略痰ニ注意スルコト

結核病患者生活費補給規程

大正十年七月
山梨縣告示第一百十二號

- 結核豫防法施行令第十六條及同法施行細則第十六條ニ依リ從業禁止又ハ結
核療養所入所ニ因リ生活スルコト能ハサル者ニ對シ生活費補給ノ程度、方
法、期間、廢止及停止ニ關スル事項ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 第一條 生活費ノ補給ハ一人一日金三十錢以内トス但シ年齡十歲未滿ノ者
ニ對シテハ其ノ半額トス
 - 第二條 一 家内ニ補給ヲ受ケル者數人アルトキハ總額一日金九十錢ヲ超ヘサル範
圍内ニ於テ之ヲ定ム
 - 第二條 生活費ノ補給ハ從業禁止又ハ療養所入所ノ翌日ヨリ起算シ補給廢
止又ハ停止ノ當日迄日割ヲ以テ支給ス
 - 第三條 生活費補給ノ許可ヲ受ケタル者ハ別記様式ニ依リ翌月三日迄ニ前
月分ノ請求ヲ爲スヘシ但シ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ補給ヲ廢止若ハ停止セ
ラレタルトキハ期日ニ拘ラズ請求スルコトヲ得
 - 第四條 生活費補給ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シタル
トキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フモノトス
 - 一 入所ヲ命セラレ若ハ從業ヲ禁止セラレタル者退所又ハ死亡シタルト
キ
 - 二 從業禁止ヲ解除セラレタルトキ
 - 三 從業ヲ禁止セラレタル者ニシテ縣外ニ轉出シタルトキ
 - 第五條 生活費ノ補給ヲ受ケル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之
カ補給ヲ廢止若ハ減額スルコトアルヘシ
 - 一 結核豫防法施行令第十三條第二號又ハ第三號ニ該當スル者死亡シ若

- ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキ
- 他ニ公私救恤ノ途アルニ至リタルトキ
 - 補給ヲ廢止又ハ減額スルモ生活シ得ル者ト認メタルトキ
 - 補給ヲ受クル者怠惰又ハ素行不良ト認メタルトキ
 - 第六條 生活費ノ補給ヲ受クル者拘留又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若ハ行衛不明トナリ其ノ他一時支給ヲ要セサル事實發生シタルトキハ其ノ期間内補給ノ全部若ハ一部ヲ停止ス
 - 第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ本人、戸主又ハ法定相續人ヨリ三日以内ニ其ノ旨届出シヘシ
 - 第四條第一號若ハ第三號ニ該當シタルトキ
 - 第五條第一號若ハ第二號ニ該當シタルトキ
 - 第八條 生活費補給許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ廢止若ハ減額ノ事由發生シタルモノニシテ前條ニ依ル届出ヲ怠リ補給金ノ支拂ヲ受ケタルモノニ對シテハ其ノ補給金ノ全部又ハ一部ヲ返還セシム
- 生活費ノ補給ヲ停止シタル場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル補給金アルトキ亦前項ニ同シ

結核檢診成績表

種別	性別	檢診スヘキ人員	檢診セシ人員	不參人員	患者	疑症	計數
旅店、下宿屋	女男						
貨座敷	女男						
料理店、飲食店	女男						
理髮店 (女髮結ヲ含ム)	女男						

〔山梨縣〕

(様式)

請求書

一金 何圓

但大正 年 月 日 附山梨縣指令第 號ニ依ル生

活費補給金 自大正 年 月 日何 日分一日金何程

右金額山梨縣本金庫(又ハ何々支金庫)ニ於テ御下渡相成度及請求候也

大正 年 月 日 住所 氏 名

山梨縣知事宛

●結核健康診斷成績報告ニ關スル件

大正十二年五月 衛生第一二一號

結核豫防法施行細則第七條ニ依ル健康診斷成績ハ爾今別紙様式ニ依リ毎年檢診終了後十日以内ニ報告セラルヘシ

警察署名

〔山梨縣〕

種別	性別	檢診スヘキ人員	檢診セシ人員	不參人員	患者	疑症	計數
前四項以外ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ノ從業者	女男						
産婆、看護婦	女男						
鍼灸、按摩業者	女男						
藝妓、娼婦	女男						
前四項以外ノ直接客ニ接スル業務ニ従事スル者	女男						
菓子、餅、煮染、乳等ニ類スルモノノ製造又ハ販賣ニ直接従事スル者	女男						
箸、楊枝、粉類工等ニ類スルモノノ製造又ハ販賣ニ直接従事スル者	女男						
疊屋	女男						
質屋業者	女男						
貸蒲團、貸本屋	女男						
古著、古道具	女男						
紙屑、紙摺、買	女男						
前四項(質屋業者以下)以外ノ之ニ類スル物件ノ賣買授受ノ業務ニ直接従事スル者	女男						
其ノ他必要ト認ムル者	女男						
計	女男						

學校、幼稚園、製造所其ノ他地方長官ノ指定シタル場所ニ於テハ前項各號ノ外洗面器ハ患者用ト健康者用トヲ區別スヘシ

第三條 「トラホーム」豫防法第六條ノ規定ニ依ル北海道地方費又ハ府縣ノ補助ハ左ノ區分ニ依ル但シ市町村ノ支出額三十圓未滿ナルトキハ補助セサルコトヲ得

一 治療ニ關スル費用ハ支出額ノ四分ノ一以上

二 豫防ニ關スル費用ハ支出額ノ六分ノ一以上

前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ

第四條 「トラホーム」豫防法第三條行政官廳ノ職務ハ警察署長又ハ警察分署長、同法第四條行政官廳ノ職務ハ内務大臣又ハ地方長官之ヲ行フ

「トラホーム」豫防法及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

附則

本令ハ「トラホーム」豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正八年九月一日ヨリ施行)

●「トラホーム」豫防法施行細則

大正九年十月
山梨縣令第五十五號

第一條 醫師「トラホーム」豫防法施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)第一條ニ依ル豫防消毒方法ヲ指示シタルトキハ其ノ患者ノ住所氏名年齢ヲ翌月十日限リ所轄警察官署長ニ通報スヘシ

〔山梨警〕

第二條 「トラホーム」豫防法第四條第一項第一號ニ依リ左記ノ者ニ對シ檢診ヲ行フ

一 徵兵適齡一年前ノ者

二 旅店、下宿屋、貸座敷、料理店、飲食店、理髮店(女髮結ヲ含ム)湯屋營業者及其ノ從業者

三 產婆、看護婦、按摩、鍼、灸術業者、藝妓、酌婦其ノ他直接客ニ接スル業務ニ従事スル者

四 其ノ他必要ト認ムル者

前項檢診ノ日時場所ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第三條 市町村長ハ前條ニ依リ「トラホーム」患者ト決定セラレタル者ニ對シ別記様式ノ治療票ヲ交付スヘシ

前項治療票ノ交付ヲ受ケタル者ハ治療ノ都度主治醫ノ證印ヲ受ケヘシ

第四條 規則第二條第二項ニ依リ場所ヲ指定スルコト左ノ如シ

一 社寺佛堂、教會、講社、禮拜所

二 貸座敷、飲食店、遊藝場

三 其ノ他公衆ノ自由ニ使用シ得ヘキ洗面所、手洗所

第五條 市町村ノ支出シタル經費ニ對スル縣費ノ補助額左ノ如シ但シ支出額三十圓未滿ナルトキハ補助セサルコトアルヘシ

一 治療ニ關スル費用ハ支出額ノ三分ノ一

二 豫防ニ關スル費用ハ支出額ノ五分ノ一

特別ノ事由アルトキハ支出金額ノ全部迄補助スルコトヲ得

第六條 前條ノ支出額適當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シ補助スルモノトス

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔山梨警〕

五 寸

樣式 (用紙厚紙)

(面 表)

「ム - ホ ラ ト」		治療票	
第 號	第 症 別	檢 診 年 月 日	全 治 年 月 日
市 町 村 字	症	大 正 年 月 日	大 正 年 月 日
番 地		治 療 醫	檢 診 醫
何 某 年 某 年 某 日			
市 町 村 役 場 所 印			

備 考

指 示 事 項

一 患者手拭ハ專用トシ其ノ清潔ニ注意スルコト

二 洗面器ハ患者用ト健康者用トヲ區分スルコト

三 患者ノ常用シタル手拭洗面器ノ類ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシメムトスルトキハ煮沸スルカ又ハ熱湯ヲ以テ洗淨スルコト

四 眼脂ヲ拭フニハ清潔ナル專用ノ布片類ヲ用フルコト

五 指爪ヲ短剪シ顔面手指ノ清潔ニ注意スルコト

六 病汚染ノ虞アル寢具等ハ時々日光ニ曝スコト

寸 四

第七號様式

控除金内譯書

領收年月日	金額	摘要	納入人住所氏名
計			
年 月 日			

右之通り相違無之候也

市町村長 氏 名 印

「トラホーム」豫防上注意ノ件

大正九年十月 警訓第二四號

大正八年九月一日ヨリ施行セラレタル「トラホーム」豫防及其ノ施行規則等ノ實施ニ當リテハ左記事項ニ注意シ實行上遺憾ナキヲ期スヘシ

- 一 施行規則第一條ニ規定スル醫師ノ指示スヘキ事項ハ醫師ノ指示スヘキ義務ノ最大限ヲ定メタルモノナルト同時ニ醫師ノ指示ヲ遵守スヘキ義務ノ範圍ヲ確定シタルモノナリ尤モ本則ノ定ムル事項以外ニ豫防上必要ナリト認ムル事項ヲ指示スルモ妨ケナク只此場合ニ於テハ指示ヲ受ケタルモノハ法律上之ヲ遵守スヘキ義務ナキモノナルコト
- 二 法律第一條ノ義務不履行ニ對シテハ第九條ニ依リ科料ニ處セラルヘシト雖モ制裁ヲ以テテハ豫防上已ムヲ得サル場合ニ限ルヘク安リニ

〔山梨警〕

- 三 此等ノ者ニ制裁ヲ加ヘサルコト
- 四 法第三條ニ依リ警察官署長ニ於テ治療ヲ受ケル途ナキ「トラホーム」患者ニ對シテ治療ヲ施行スルニ當リテハ豫メ患者所在地ノ市町村長ト親シク協議スヘク若シ協議調ハサル場合ニ於テハ地方長官ノ指揮ヲ受ケヘキコト
- 五 法第四條第一項第二號ニ依リ行政官廳ニ於テ「トラホーム」患者ニ對シテ客ニ接スル業務ニ從事スルコトヲ停止スル場合ニ於テハ安リニ自由ヲ拘束スルカ如キコトナキ慎重之ヲ決セサルヘカラス而シテ從業ヲ停止スヘキ業態及患者ノ症狀ハ大體左ノ標準ニ據ルコト
 - 甲 從業停止ヲ行フヘキ業態
 - 一 旅店、下宿屋、料理店、理髮店、其ノ他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル從業者ニシテ直接客ニ接スル者及看護婦、按摩、鍼、灸術業者、藝妓、娼妓、其ノ他客ニ接スル業務ニ從事スル者
 - 乙 從業停止ノ必要アル患者ノ症狀ノ程度
 - 一 壯丁ノ「トラホーム」檢診事務ハ本籍地市役所町村役場ニ於テ整理報告

「トラホーム」檢診上注意ノ件

大正十五年七月十五日 山梨縣訓令甲第八十五號

- 一 「トラホーム」豫防法施行規則第二條ニ依リ檢診ヲ受ケヘキ者ノ内徴兵適齡一年前ノ者ニシテ往々出稼其ノ他他出中ノ事由ニ依リ是レカ整理ヲ等閑ニ付スルノ傾向アリ軍事上將復國民保健衛生上甚タ寒心ニ堪ヘサルモノアルノミナラス成績表ノ作成ニ當リテハ其ノ取扱區々ニシテ收拾スヘカラサルモノアリ殊ニ郡役所廢止後ニアリテハ直接市町村ヨリ報告ヲ徵スヘキニ付一段ノ意ヲ致シ左記各項ニ基キ整理ノ上遲滞ナク期日迄ニ報告セラルヘシ
- 二 一壯丁ノ「トラホーム」檢診事務ハ本籍地市役所町村役場ニ於テ整理報告

〔山梨警〕

- 一 縣内ニ出寄留中ノモノニアリテハ便宜現居住地ノ屬スル檢診所ニ於テ檢診ヲ受ケシメ本人又ハ其ノ市役所町村役場ヨリ本籍地市役所町村役場ニ通報スルコト
- 二 縣外ニ出寄留中ノ者ニアリテハ便宜最寄醫師ノ診斷ヲ受ケシメ「トラホーム」ノ有無ヲ證シタル書類ヲ徵スルコト
- 三 寄留ノ手續ヲ履行セサル者又ハ修學ノ爲縣内外ニ他出中ノ者ト雖モ前各項ニ準シ整理スルコト

癩豫防法

明治四十年三月十九日 法律第十一號

大正五年三月法律第二二號、昭和四年三月第一〇號、六年四月第五八號 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル癩豫防ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

癩豫防法

- 第一條 醫師癩患者ヲ診斷シタルトキハ患者及家人ニ消毒其ノ他豫防方法ヲ指示シ且三日以内ニ行政官廳ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合及死體ヲ檢案シタルトキ亦同シ
- 第二條 癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他豫防方法ヲ行フヘシ
- 第三條 行政官廳ハ癩豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得
 - 一 癩患者ニ對シ藥劑上病毒傳播ノ虞アル職業ニ從事スルヲ禁止スルコト
 - 二 古著、古蒲團、古本、紙屑、蓋、飲食物其ノ他ノ物件ニシテ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アルモノノ賣買若ハ授受ヲ制限シ若ハ禁止シ、其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲ爲サシメ又ハ其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲ爲スコト

- 第三條 行政官廳ハ癩豫防上必要ト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ癩患者ニシテ病毒傳播ノ虞アルモノヲ國立癩療養所又ハ第四條ノ規定ニ依リ設置スル療養所ニ入所セシムベシ
- 第四條 必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ前項患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲スベシ
- 第五條 前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ市町村長又ハ之ニ準ズベキ者ヲシテ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ヲ一時救護セシムルコトヲ得
- 第六條 前項ノ規定ニ依リ市町村長又ハ之ニ準ズベキ者ニ於テ一時救護ヲ爲ス場合ニ必要ナル費用ハ必要アルトキハ市町村又ハ之ニ準ズベキモノニ於テ繰替支辨スベシ
- 第七條 主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指定シ其ノ道府縣内ニ於ケル前條ノ患者ヲ收容スル爲必要ナル療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得
- 第八條 前項療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム
- 第九條 國立癩療養所及前條ノ療養所ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ入所患者ニ對シ必要ナル懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得
- 第十條 私立ノ癩療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム
- 第十一條 北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ第二條ノ二第一號ノ規定ニ依リ從業禁止又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ入所ニ因リ生活スルコト能ハザル者ニ對シ其ノ生活費ヲ補給スベシ
- 第十二條 左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
 - 一 第二條ノ二第二號ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ物件ノ消毒又ハ廢棄ヲ爲ス場合ニ必要ナル諸費
 - 二 入所患者(國立癩療養所入所患者ヲ除ク)及一時救護ニ關スル諸費

三 検診ニ關スル諸費
 四 其ノ他道府縣ニ於テ癩豫防上施設スル事項ニ關スル諸費
 第四條 第一項ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ關係地方長官ノ協議ニ依リ之ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル
 第七條ノ二 本法ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ニ於テ負擔スベキ費用ハ東京府伊豆七島及小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス
 第八條 國庫ハ第六條及第七條ノ規定ニ依ル道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助スルモノトス
 第九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ癩又ハ其ノ疑アル患者ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得
 癩ト診斷セラレタル者又ハ其ノ親族ハ行政官廳ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ求ムルコトヲ得
 行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ親族ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ檢診ヲ求ムルコトヲ得
 第十條 第一條ノ規定ニ違反シ又ハ第二條ノ二ノ規定ニ依ル行政官廳ノ處分ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第十條ノ二 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
 第十一條 醫師若シテ醫師タリシ者又ハ癩豫防事務ニ關係アル公務員若シテ公務員タリシ者故ナク業務上取扱ヒタル癩患者又ハ其ノ死者ニ關シ氏名、住所、本籍、血統關係又ハ病名其ノ他癩タルコトヲ推知シ得ベキ事項ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十二條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外癩豫防所ニ入所中又ハ第三條第二項及第三項ノ規定ニ依ル一時救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十年八月勅令第二百八十四號ヲ以テ四

〔山梨醫〕

十一年四月一日ヨリ施行ノ旨定メラレタルヲ四十年十二月勅令第三百五十一號ヲ以テ「四十二年」ニ改正セラル

癩豫防法施行規則

明治四十年七月二十日
内務省令第十九號

改正 明治四十年六月内務省令第二四號、大正五年六月第六號、昭和二年二月第四九號、四年一月第三九號、六年七月第一六號

明治四十年法律第十一號癩豫防ニ關スル件施行規則左ノ通定ム

癩豫防法施行規則

第一條 癩豫防法第一條ノ届出ハ患者又ハ死體所在地ノ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ
 第二條 癩患者ニシテ病毒傳播ノ虞アルモノアルトキハ警察官署ハ患者ノ所在、環境及病狀等ヲ具シ地方長官ニ報告スベシ
 地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタル場合癩豫防上必要ト認ムルトキハ所定ノ癩豫防所ニ照會ヲ經テ上送致ノ手續ヲ爲スベシ
 警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者又ハ其ノ同伴者若シ同居者ニ對シ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長若ハ之ニ準ズベキ者ヲシテ之ヲ爲サシムベシ
 第二條ノ二 癩豫防所ノ長ハ病毒傳播ノ虞アル癩患者ニシテ直接入所ヲ申出デタルモノアルトキハ特ニ必要ト認ムル場合ニ限り前條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ直ニ收容スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ收容シタル場合ニ於テ癩豫防所ノ長ハ國立癩豫防所ニ在リテハ内務大臣、道府縣ノ癩豫防所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス
 第三條 第二條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ癩豫防所ハ患者所在地道府縣ノ

〔山梨醫〕

癩豫防所又ハ國立癩豫防所トス但シ癩豫防所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得
 第四條 癩豫防法第四條ノ癩豫防所ハ内務大臣ノ指定シタル地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ
 當該地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ癩豫防所ノ位置ヲ定ムヘシ
 第五條 癩豫防法第六條ニ依リ生活費ノ補助ヲ受クベキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル
 一 從業ヲ禁止セラレタル者
 二 從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル當時本人ノ收入ニ依リ生活費ノ補助ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ズ
 生活費補助ノ程度、方法及期間ニ關スル事項ハ地方長官ニ於テ之ヲ定ム
 第五條ノ二 癩豫防所ノ長ハ入所患者ニ對シ左ノ懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得
 一 誹責
 二 三十日以内ノ謹慎
 三 七日以内常食量二分ノ一マテノ減食
 四 三十日以内ノ監禁
 前項第三號ノ處分ハ第二號又ハ第四號ノ處分ト併科スルコトヲ得
 第一項第四號ノ監禁ニ付テハ情狀ニ依リ國立癩豫防所ニ在リテハ内務大臣、道府縣ノ癩豫防所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ認可ヲ經テ其ノ期間ヲ二箇月マテ延長スルコトヲ得
 第五條ノ三 前條ノ外懲戒又ハ檢束ニ關シ必要ナル細則ハ國立癩豫防所ニ在リテハ内務大臣、道府縣ノ癩豫防所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ認可ヲ經テ癩豫防所ノ長之ヲ定ム

第六條 癩豫防法第九條第一項第二項行政官廳ノ職權ハ警察官署ニ之ヲ行フ
 警察官署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ親族ハ發病以來ノ症候、經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ檢診ノ場所及日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルコトヲ得
 檢診ノ爲病院其ノ他ノ場所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セサルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス
 第七條 檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第八條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外癩豫防所ニ入所中又ハ癩豫防法第三條第二項及第三項ノ規定ニ依ル一時救護中死亡シタル癩患者ニシテ引取者ナキモノノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス但シ市町村長又ハ之ニ準ズベキ者ニ於テ一時救護中死亡シタル場合ヲ除ク外同法中市町村長ノ職務ハ當該行政官廳ニ之ヲ行フ
 癩豫防所入所中死亡シタル癩患者ノ死體ハ之ヲ火葬スルコトヲ得
 第八條ノ二 癩豫防法第二條ノ二ノ行政官廳ノ職權ハ内務大臣又ハ地方長官ニ之ヲ行フ
 第九條 第二條、第六條及前條ノ地方長官ノ職權其ノ他癩豫防上警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ
 本令ニ依リ市長ニ屬スル職務ハ東京市京都市及大阪市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (明治四十二年四月一日ヨリ施行)

●癩豫防法施行細則

昭和七年六月二十三日
山梨縣令第二十號

癩豫防法施行細則左ノ通定ム

癩豫防法施行細則

- 第一條 本則ニ於テ法ト稱スルハ癩豫防法、規則ト稱スルハ癩豫防法施行規則ヲ謂フ
- 第二條 癩ト診斷セラレタル者ハ左ノ職業ニ従事スルコトヲ得ス
 - 一 旅店、下宿屋、貸座敷、料理店、理髮店、其ノ他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル業務ニ従事スルコト
 - 二 産婆、看護婦、鍼灸術、按摩術營業者、藝妓、娼妓、酌婦、其ノ他直接客ニ接スル業務ニ従事スルコト
 - 三 菓子、餡、煮菜、肉、乳、其ノ他食物ノ製造調理又ハ販賣ニ直接従事スル事
 - 四 箸、楊枝、其ノ他ノ飲食器具及玩具ノ調整又ハ販賣ニ直接従事スルコト
 - 五 貨蒲團、貸本、古著、其ノ他之ニ類スル物件ノ販賣授受ノ業務ニ直接従事スルコト
- 第三條 法第一條及規則第一條ノ規定ニ依ル届出ハ左記事項ヲ具シ之ヲ爲スヘシ
 - 一 發生届出事項

〔山梨警〕

- 一、患者本籍、住居所、職業、氏名、生年月日
- 二、癩ノ種別、發病年月日、初診年月日及診斷若ハ檢案年月日
- 三、戸主本籍、住所、氏名及患者トノ續柄

轉歸届出事項

- 一、患者住所氏名
- 二、轉歸種別及其年月日
- 第四條 癩患者アル家ニ於テハ常ニ清潔ヲ保持シ病毒傳播ヲ防ク爲左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 患者ニ於テハ常ニ警察官吏及衛生技術員ノ指示ニ從ヒ適當數量ノ消毒藥ヲ準備スルコト
 - 二 患者使用ノ食器、寢具、衣服、手拭等ノ類ハ專用トシ時々日光ニ曝ス等消毒方法ヲ講スルコト
 - 三 唾痰、鼻汁、膿汁及之等ニ汚染セル物品ハ一定ノ容器ニ集メ置キ消毒スルコト
 - 四 患者ノ使用セル物品ハ消毒シタル後ニ非サレハ他人ニ交附シ又ハ使用セシメサルコト
 - 五 患者死亡セル場合ハ患者ノ使用セル物品、居室、家屋等ハ當該官吏ノ指示ニ從ヒ消毒スルコト
 - 第五條 癩患者ノ死體ハ消毒ヲ行ヒタル後埋葬スヘシ但シ土葬セントスルトキハ大正十二年四月縣令第二十四號傳染病豫防法施行細則第八條ノ規定ニ依リ處置スヘシ
 - 第六條 規則第五條第一項ノ規定ニ依リ生活費ノ補給ヲ受ケントスルトキハ第一號該當者ハ本人ヨリ其ノ診斷書ヲ添ヘ第二號該當者ハ患者戸主又ハ之ニ準スル者ヨリ各被補給者ノ戸籍謄本ヲ添ヘ知事ニ願出ツヘシ

〔山梨警〕

- 第七條 法第九條第二項ノ規定ニ依リ醫師ノ檢診ヲ求メントスル者ハ規則第六條第二項ノ規定ニ依リ醫師ノ診斷後十日以内ニ警察署長ニ願出ツヘシ
- 第八條 法第九條第三項及規則第六條第二項ノ規定ニ依リ更ニ檢診ヲ求メントスル者ハ警察署ノ指定シタル醫師ノ診斷後十五日以内ニ知事ニ願出ツヘシ
 - 一 前項ノ請求者ニシテ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會ハシメントスルトキハ其ノ醫師ノ立會承諾書ヲ添付スヘシ
- 第九條 法第六條及規則第五條ノ規定ニ依ル生活費ノ補給程度、方法期間、廢止及停止ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ告示ス
- 第十條 法、規則及本則ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ
- 第十一條 第四條及第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
 - 一 本則ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本則ニ照シ之ヲ處罰ス

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩豫防法同法施行規則同法施行細則取扱手續

昭和七年六月二十三日
山梨縣訓令甲第八號

市役所 町村役場 警察署

癩豫防法同法施行規則同法施行細則取扱手續左ノ通定ム

癩豫防法同法施行規則取扱手續

第七編 衛生 第八章 特殊傳染病

- 第一條 本令ニ於テ法ト稱スルハ癩豫防法、規則ト稱スルハ同法施行規則、細則ト稱スルハ同法施行細則ヲ謂フ
- 第二條 警察署ニ於テ法第一條ノ届出ヲ受理シタルトキハ患者居住所ニ臨檢シ明治四十二年四月内示第六號癩病豫防消毒ニ關スル件及規則第四條ニ依リ消毒其ノ他豫防方法ヲ指示スルト共ニ患者ノ職業及生活ノ程度、戸主、家族、同居者ノ氏名、生年月日、職業等患者ノ環境ニ付詳細調査ノ上別紙様式第一號ニヨル名簿ヲ調整シ其ノ寫ト共ニ送達スヘシ
 - 一 患者轉歸ノ場合ハ其ノ住所、氏名、轉歸日時及其種別ヲ報告スヘシ
- 第三條 警察署ニ於テハ受持調査ヲシテ少ク共月一回以上患者ニ臨檢セシメ豫防消毒ノ狀況ヲ視察セシムヘシ
 - 一 警察官吏及衛生技術員、癩患者及其ノ疑アル家ニ臨檢セントスルトキハ成ル可ク秘密ニ之ヲ行フヘシ
- 第四條 患者居住所ニ異動ヲ生シタルトキハ警察署ニ於テハ其ノ旨警察部長ニ報告シ尙轉居先縣内ニシテ其ノ所轄ヲ異ニスルトキハ名簿寫ト共ニ所轄警察署ニ通報スヘシ
 - 一 前項後段ノ通報ヲ受ケタル警察署ハ第二條ノ規定ニ依リ處置スヘシ
- 第五條 警察署規則第二條第一項ノ規定ニ依リ療養所ヘ入所セシムル必要アリト認ムル患者アリタルトキハ豫メ本人ニ此ノ旨示達ノ上戸籍謄本、醫師ノ診斷書及別紙様式第二號ニ依ル身元調査書添付ノ上報告スヘシ
- 第六條 警察署法第二條ノ第二號ノ規定ニ依ル處分ヲ必要トスル場合ニ於テハ物件名、所有者住所、氏名、生年月日及其ノ處分ヲ必要トスル事由ヲ詳細シ報告スヘシ
- 第七條 法第三條第三項ノ規定ニ依リ市町村ニ於テ樂替支辨スヘキ救護費用ノ限度ハ左ノ通トス
 - 一、食 費 癩患者生活費補給規程ニ據ル

二、醫療費（診斷書料往診料等ヲ含ム）

實費

- 三、監護人費 一晝夜金壹圓以内
- 四、寢具代 一具金壹圓五拾錢以内ニ於テ夏冬適當ニ取揃ヘルコト救護終了後ハ消毒ヲナシ他日ノ用ニ供スル爲貯藏スヘシ
- 五、小屋掛代 一式金貳圓以内
- 成ル可ク傳染病隔離病舎ヲ使用ノコト其ノ施設無キ場合ニ於テ雨露ヲ凌ク程度ニ於テ築造ノコト
- 六、消毒代 金壹圓五拾錢以内
- 使用器具物品消毒ノ爲要スル諸費ニ充當スルモノ

市町村ニ於テ前項ニ依ル費用ヲ支出シタルトキハ繰替簿ニ登載スヘシ
 救護終了セルトキハ證書類及繰替簿寫添付ノ上知事ニ請求スヘシ
 第八條 細則第六條ノ規定ニ依リ願書ヲ受理セル警察署ハ願人居住市町村長ト其ノ必要ノ有無金額期間等ニ付協議ノ上意見ヲ具シ知事ニ進達スヘシ

第一號

癩患者名簿

本籍住所	氏名	生年月日	職業	診斷月日	種別	年	月	日	備考

〔山梨警〕

〔山梨警〕

視察記事

註

- (一) 備考欄ニハ斑紋癩、神經癩、結節癩等癩ノ種類及病症ノ程度等記入ノコト
- (二) 視察記事欄ニハ視察日時、消毒狀況、監護ノ狀況等豫防上參考トナルヘキ事項ヲ記載ノコト

第二號

要救護癩患者身元調査書

本籍住所	職業	氏名	生年月日

扶養義務者ニ關スル調査	癩以外ノ疾病

刑ノ有無	兵役關係

配偶者ノ有無	救護日時	場所

考 備

●癩豫防ニ關スル法令執行手續

明治四十二年四月 山梨縣訓令甲第二十二號

- 第一條 警察官署ハ癩ニ關スル檢診ヲナサシムル爲メ豫メ醫師ヲ指定シ其ノ住所氏名ヲ知事ニ報告スヘシ
- 第二條 警察官署ハ明治四十年法律第十一號第一條ノ届出ヲ受理シタルトキ若クハ左記各號ノ事實アルトキハ直ニ患者又ハ死體所在ノ場所ニ臨檢シ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示シ其ノ旨知事ニ報告スヘシ
 - 一 癩若クハ其ノ疑アル患者又ハ其ノ死者アルヲ知リタルトキ
 - 二 私宅療養ノ癩患者死亡シ全瘡シ若クハ其ノ居所ヲ移轉シタルトキ
 - 三 一時救護中ノ癩患者ヲ其ノ家族扶養義務者其ノ他ノ保護者ニ於テ引取リタルトキ
- 第三條 警察官吏、衛生技術員ハ癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家ニ臨檢スルトキハ制服ヲ著セス可成人目ヲ避ケ消毒其ノ他豫防方法ノ指示ハ指導誘掖ヲ旨トスヘシ
- 第四條 郡役所、警察官署、市役所、町村役場ハ衛生講話會其ノ他適當ノ機會ヲ利用シ告諭ノ趣旨ヲ周知セシメ持續的ニ豫防方法ヲ實行セシムヘシ
- 第五條 警察官署ハ明治四十年七月内務省令第十九號明治四十年法律第十

〔山梨警〕

- 一 號施行規則第二條ノ患者ヲ發見シタルトキハ之ヲ市町村長ニ引渡シ一時救護セシメ其ノ旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且左ノ事項ヲ調査シテ知事ニ報告スヘシ
 - 一 患者ノ本籍住所又ハ居所族籍氏名(改氏名ナルトキハ其ノ舊氏名共)年齢職業及資産
 - 二 本籍住所又ハ居所ヲ出發シタル年月日經過シタル宿泊並ニ滞在地名及其ノ年月日
 - 三 扶養義務者家族等ノ住所氏名職業資産及其ノ被救護者ニ對スル續柄所持金錢有價證券其ノ他ノ物件
 - 四 醫師診斷書寫
 - 五 救護場所及其ノ他ノ救護ノ狀況
 - 六 其ノ他參考事項
- 第六條 警察官署又ハ市町村長ニ於テ癩患者並ニ其ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテ一時救護ヲ爲ストキハ直チニ所持ノ金錢有價證券其ノ他ノ物件ヲ調査シ別紙第一號様式ノ金員物件簿ニ登記シテ保管シ其ノ金員物件ヲ引渡シ若クハ被救護者ニ於テ使用シ又ハ救護費用ニ充テタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ記載シ證印ヲ押捺シ其ノ保管並ニ出納ヲ明瞭ナラシムヘシ

〔山梨警〕

- 第七條 前條ノ患者ヲ療養所ニ入ラシメントスルトキハ警察官署ハ知事ノ指揮ヲ受テ該患者ヲ救護セル市町村長ニ通知シ金員物件簿ノ際本ト共ニ患者ヲ受領シ便宜ノ方法ニ依リ所定ノ療養所ニ護送スヘシ
- 第八條 患者ノ引取ヲ命セラレタル扶養義務者ニシテ其ノ指定期間内ニ引取ヲ爲サ、ルトキハ警察官署ハ患者ヲ救護セル市町村長ニ通知シ金員物件簿ノ際本ト共ニ該患者ヲ扶養義務者ノ住所ニ護送スルトコトヲ得
- 第九條 癩患者ヲ汽車船舶等ニ乗載セシメントスルトキハ豫メ當該驛長、車掌、船長等ニ協議シ適當ノ處置ヲナスヘシ
- 第十條 癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ノ一時救護ノ爲メ若クハ救護中死亡ノ爲メ繰替支辨シタル費用ハ精算書及證書類ヲ添ヘ扶養義務者ニ請求スヘシ但シ扶養義務者ニ於テ辨償ノ資力ナキトキハ知事ニ請求スルトコトヲ得
- 前項ノ費用ハ左ノ限度ヲ超ユルトコトヲ得サレ得サル場合ニ於テ限度超過ノ支出ヲ要スルトキハ其ノ事由金額數量ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 一 醫師診斷料 一回 金壹圓以内
- 一 醫師手術料 實 費
- 一 醫師旅費日當
 - 車馬賃 一里ニ付 金拾五錢以内
 - 船賃 但シ十八里迄ハ 金拾錢以内
 - 汽車賃 一里ニ付 金五錢以内
 - 日當 但シ六時間迄ハ 金拾錢以内
 - 宿泊料 一泊ニ付 金壹圓以内
- 一 醫師診斷書料 一枚ニ付 金五拾錢以内
- 一 藥 價
 - 外用藥 一日分 金拾錢以内
 - 内用藥 一日分 金拾錢以内
 - 療用品 一日分 金八錢以内

- 一 食 料 一 賄 金五錢以内
 - 但シ十二歳未満ハ金參錢以内
 - 一 看護人費 一晝夜 金參拾錢以内
 - 一 被服料 但シ看護人ヲ要スルモノト認メタルトキハ一人ニ限ル
 - 一 其ノ他雜品費 冬期金壹圓其ノ他ノ期節ハ金五拾錢以内
 - 但シ借入品ナク止ムヲ得サル場合ニ限ル又借入ノ品ニテ用辨シタルトキハ借入料一日金參錢以内
- 一 寢 具 料 一 具 金貳圓以内
 - 但シ借家又ハ小屋掛ヲ爲シタルトキハ借入ノ品ナク止ムヲ得サル場合ニ限ル又借入品ニテ用辨シタルトキハ借入料一日金參錢以内
 - 一 借家料 一 日 金貳錢以内
 - 但シ旅宿店ナキカ又ハ宿泊ヲ引受クルモノナク止ムヲ得サル場合ニ限ル
- 一 小屋掛料 一 式 金壹圓五拾錢以内
 - 但シ借家ナク止ムヲ得サル場合ニ限ル
- 一 護 送 費
 - 食料 一 度ニ付 金八錢以内
 - 宿泊料 一 泊ニ付 金貳拾五錢以内
 - 車馬賃 一 里ニ付 金五錢以内
 - 汽車賃 一 里ニ付 金拾四錢以内
 - 船賃 下 等 實 費
 - 汽船賃 下 等 實 費
- 一 飲食其ノ他必要器具一式新調費實費
 - 但シ借家又ハ小屋掛ヲ爲シタルトキハ借入ノ品ナキ場合ニ限ル若シ借入ノ品ニシテ用辨シタルトキハ其ノ借入料ハ實費トス
- 一 敷 帳 料 金七拾錢以内
 - 但シ借家又ハ小屋掛ヲ爲シ必要アルトキ借入ノ品ナク止ムヲ得サル場合ニ限ル又借入品ニテ用辨シタルトキハ借入料一日金貳錢

癩患者 何 某 生年月日

費目	金額	單價	事由	由	
				何月何日迄	何月何日迄
宿泊料	金何程	一泊	何月何日迄	何月何日迄	何月何日迄
食料	金何程	一膳	何月何日迄	何月何日迄	何月何日迄
車馬賃	金何程	一里	何月何日迄	何月何日迄	何月何日迄
汽船賃	金何程	一哩	同上	同上	同上
汽車賃	金何程	一哩	同上	同上	同上
病人途中	金何程	一品	同上	同上	同上
必要品	金何程	一品	同上	同上	同上
護送人	金何程	一日	同上	同上	同上
計	金何程		同上	同上	同上

備考

一 同伴者同居者護送費計算書ハ本様式ニ準據調製スルコトヲ要ス

第三號様式

癩患者救護費用様式簿

何府縣郡市町村字番戸(地番)族籍職業 又ハ住所居所本籍不詳

〔山梨警署〕

警察分署長 官 氏 名 市町村長 氏 名

癩ニ關スル消毒其他豫防方法ノ件

明治四十二年三月 内務省訓第四十五號

癩ハ古來本邦各地ニ蔓延シ久シク其ノ病性ヲ誤認セラレタルモ癩菌ノ發見ニ依リテ其ノ傳染性ナルコトヲ確定セラレタルモノニシテ主トシテ接觸ニ依リ又ハ患者ノ鼻汁、唾液、潰瘍部ノ膿汁等ニ汚染シタル物件ヲ介シテ病毒ヲ他ニ傳播スルノ危險アルモノトス是ヲ以テ政府ハ明治四十年三月本病ノ豫防ニ關シテ法律第十一號ヲ發布シ癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且ツ救護者ナキモノハ之ヲ府縣ノ療養所ニ隔離シ其ノ他ハ各自ニ於テ消毒其ノ他豫防方法ヲ行ハシメ以テ本病ノ蔓延ヲ防止シ漸次其ノ根絶ヲ圖ラントス然ルニ本病ハ從來非傳染性ト思惟シ來レト其ノ經過緩慢ニシテ長年月ニシテシメ又患者並家人ヲシテ公徳ヲ重シセシムルニ非サレハ隱微ノ間ニ於テ病毒ノ散漫ヲ來タシ所期ノ目的ヲ達セシムルニ非サレハ隱微ノ間ニ於テ病常ニ本病ノ性質豫防ノ方法等ヲ調シシテ之ヲ誘導シテ意ヲサレハ勿論現ニ患者アル家ニ對シテハ特ニ左記各號ノ事項ヲ指示シ學校、病院、製造所、旅店、船舶等ニ於テ患者ヲ發見シ若シ患者ヲ入ラシメタルトキ亦之ニ準シ相當處置セシムル等本病豫防ノ效果ヲ收ムルニ努ムヘシ

- 一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 二 患者ノ衣類、寢具其ノ他日用器具等ハ特ニ專用ノモノヲ備ヘ他ト混同セサル様注意スルコト
- 三 患者ノ常用衣類、敷布、寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルコト
- 四 患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト
- 五 患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルコト

癩患者(同居者) 何 某 生年月日

種目	員數	購入金額	換單金額	單數	却數	事由	
						何月何日迄	何月何日迄
綿入衣	表何地何枚	金何程	金何程	1		年日何々ニ付購入ス年月日本ニ渡ス	前 同 斷
裕衣	同	同	同			年日何々ニ付購入ス使用後本務者若クハ扶養義務者何某ニ渡ス	前 同 斷
寢具	同	同	同			年日何々ニ付購入ス使用後本務者若クハ扶養義務者何某ニ渡ス	前 同 斷
蚊帳	何々地張	同	同			年日何々ニ付購入ス使用後本務者若クハ扶養義務者何某ニ渡ス	前 同 斷
小屋掛料	何々地張	同	同			年日何々ニ付購入ス使用後本務者若クハ扶養義務者何某ニ渡ス	前 同 斷
計	何々何本何個	金何程	金何程			年日何々ニ付購入ス使用後本務者若クハ扶養義務者何某ニ渡ス	前 同 斷

備考

一 本様式モ前様式ト同シ事實ニ依リ記載スルヲ要ス 費用計算書ニ添付スル仕譯書ハ本様式ニ依リ調製シ末尾ニ左ノ通記載スヘシ

- 六 病毒ニ汚染シタル繻帶、手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患者ノ紙屑履類ハ燒却スルコト
- 七 患者ノ外出ハ可成避ケシメ止ムヲ得ス外出セントスルトキハ清潔ナル衣服ヲ着用シ又潰瘍アルモノハ其ノ繻帶ヲ更ムルコト
- 八 患者ハ可成他トノ交通ヲ避ケシメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場、寄席、乗合馬車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラサルコト
- 九 患者ハ牛乳ノ搾取、飲食物、飲食物具(金屬陶器類ヲ除ク)玩具ノ調製又ハ其ノ販賣其ノ他病毒傳播ノ虞アル業ニ從事セサルコト
- 十 患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用、貸與又ハ授與セサルコト
- 十一 患者ノ使用シタル衣類、寢具、器具ハ勿論家人ノ常用衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用、授與、移轉又ハ遺棄セサルコト
- 十二 患者ノ一時滞留シタル場合ニ於テモ其ノ占居シタル室竝其ノ使用シタル衣類、寢具、器具等ニ對シテ亦前二號ヲ適用スルコト
- 十三 看護等ノ爲メ常ニ患者ニ近接シ又ハ病毒汚染物件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又可成上被ヲ着用シ時々之ヲ消毒スルコト
- 十四 癩患者ノ死體ハ消毒ヲ行ヒタル後可成之ヲ火葬スルコト
- 十五 消毒方法ハ明治三十年内務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スルコト

癩患者豫防取締ニ關スル件

明治四十二年四月 訓示第一九號

癩患者ヲ診察シタル醫師ニシテ故ナク其事實ヲ漏洩スルコトヲ得サルハ明治四十年内務省令第十九號第一條第二項ノ規定スル處ニシテ當該吏員ニ對シテハ別ニ明文ナキモ癩ハ從來遺傳性疾患ト誤認セラレ世人ヨリ排斥ヲ受ケルコト甚シク呼フニ天刑病ノ名ヲ以テシ患者ハ外聞ヲ恥チテ極力其事實ヲ秘密ニ付スルノ慣習アルハ人情ノ弱點ナレハ醫師又ハ當該吏員ニ於テ豫

防上此ノ弱點ニ斟酌ヲ加フルハ一面ニ於テ患者ノ告白ヲ促カシ其隱蔽ヲ豫防スル一手段ニ外ナラサルヲ以テ患者届出ノ際等ニ於テモ制服ノ警察官吏ヲ出入セシメ徒ラニ隣保ノ視聽ヲ惹起スルカ如キハ努メテ之ヲ避ケ隨時技手醫員等ヲシテ平穩ノ間ニ其視察ヲ了シ消毒其他豫防方法ノ施行上ニ關シテモ苟モ苛酷ニ渉ルノ處置ニ出テス寧ロ病症等ニ付テハ一般ノ思想ヲ養成スルコトニ努ムルヲ策ノ得タルモノト信スルニ依リ右ノ精神ヲ遵守シ嚴ニ公衆ヲ戒メ豫防取締上失當ノ處置ヲナサ、ル様取計ハルヘシ

癩病毒豫防消毒ニ關スル件

明治四十二年四月 内示第六號

癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家屋物件ニ對シテハ左ニ掲グル消毒其他豫防方法ヲ指示シ癩病毒ノ豫防制遏上遺憾ナキ様措置スヘシ

- 一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家族ト雜居セシメサルコト
二 患者ノ衣類履具其他日用品器具等ハ特ニ専用ノモノヲ備ヘ他ト混同セサル様注意スルコト
三 患者常用ノ衣類敷布履具等ハ特ニ消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルコト
四 患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保ツコト
五 患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備ヘ唾痰ハ必ス之ニ入レシムルコト
六 病毒ニ汚染シタル繻帶又ハ布片等ハ消毒ヲ行ヒ紙屑蓋履ノ類ハ燒却スルコト
七 患者ノ外出ハ可成之ヲ避ケシメ若シ止ムヲ得スシテ外出セントスルトキハ清潔ナル衣服ヲ著用シ又ハ潰瘍アルモノハ其繻帶ヲ更ムルコト
八 患者ハ可成他トノ交通ヲ避ケシメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場、寄席、乗合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラシメサルコト

〔山梨警〕

癩患者生活費補給規程

昭和七年六月二十三日 山梨縣告示第二百三十五號

癩豫防法施行規則第五條及同法施行細則第九條ノ規定ニ依リ從業禁止處分又ハ癩療養所入所處分ニ因リ生活スルコト能ハサル者ニ對シ給與スル生活費ノ程度方法期間廢止及停止ニ關スル事項ハ大正十年七月告示第百十二號結核病患者生活費補給ニ關スル規定ヲ準用ス

〔山梨警〕

寄生蟲病豫防法

昭和六年四月二日 法律第五十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル寄生蟲病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 本法ニ於テ寄生蟲病ト稱スルハ蛔蟲病、十二指腸蟲病、住血吸蟲病、肝臟「アストマ」病及主務大臣ノ指定スル寄生蟲病ヲ謂フ
第二條 地方長官ハ寄生蟲病ノ豫防上必要ト認ムルトキハ健康診斷ヲ行ヒ又ハ糞便検査ヲ爲スコトヲ得
前項ノ健康診斷又ハ糞便検査ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
第三條 地方長官ハ糞便其他寄生蟲病傳播ノ媒介ト爲ルベキ物件ノ處置ニ付寄生蟲病ノ豫防上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
第四條 市町村（町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス以下之ニ同シ）ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ寄生蟲病ノ豫防及治療ニ關スル施設ヲ爲スベシ
第五條 北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ寄生蟲病ノ豫防及

- 九 患者ヲシテ販賣ノ用ニ供スル物品ノ採取調製販賣其他病毒傳播ノ虞アル業務ニ從事セシメサルコト
十 患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用貸與又ハ授與セサルコト
十一 患者ノ使用シタル衣類履具器具ハ勿論家族ノ常用衣類等苟モ病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用授與移轉又ハ遺棄セサルコト
十二 患者ノ一時滞留シタル場合ニ於テモ其占居シタル室竝ニ其使用シタル衣類履具器具ニ對シテハ前第十項第十一項ノ事項ヲ恪守スルコト
十三 看護等ノ爲メ常ニ患者ニ接近シ又ハ病毒傳染物件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又可成上著ヲ著用シ時々之ヲ消毒スルコト
十四 癩患者ノ死體ハ消毒ヲ行ヒタル後可成之ヲ火葬スルコト

癩患者取扱方ニ關スル件

明治四十二年四月 梨衛發第七六號

本年四月以降癩療養所ニ患者ヲ送致スルニ當リ鐵道輸送上ノ便宜ヲ圖ル爲メ相當車輛ノ供給及運賃後拂等ニ關シ義ニ内務省ト鐵道院トノ間ニ於テ協商ノ結果豫メ當該官憲ヨリ申出アルトキハ其人員ニ依リ出來得ル限り客車内ノ一部又ハ相當車輛ヲ專用トシテ供給セラレ又運賃モ官憲ノ請求ニ依リ後拂トスルコトヲ得ヘク決定セル趣ニ候條前以テ取扱上支障無之様當該係員ト協議シ相當御準備置相成度猶亦監獄ニ拘禁セル同病患者出監ノ際ニ於ケル取扱方ニ關シ此際司法大臣ヨリ各監獄ニ訓令ノ結果則チ癩患者ニシテ出監後療養ノ途ナク且ツ救護者ナキトキハ典獄ハ監獄所在地ノ警察官署ニ對シ前以テ出監ノ目的ヲ通報シタル後監獄醫ノ診斷書ヲ添ヘ之ヲ同官署ニ引渡シ其他ノ癩患者ニ關シテハ特ニ消毒其他豫防方法ヲ患者ニ指示シ監獄醫ノ診斷書ヲ添ヘ監獄所在地警察官署ニ其釋放ノ日時ヲ通報スヘキ管ニ候條消毒其他患者取扱方ニ關シ充分御注意相成候様致度依命此段及通牒候也

〔山梨警〕

- 治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス市町村ニ對シ其ノ費用ノ補助ヲ爲スベシ
第六條 北海道地方費又ハ府縣ハ第三條ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令又ハ處分ニ依リ糞便其他ノ物件ノ處置ヲ爲ス者ニ對シ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得
第七條 國庫ハ前二條ノ補助ノ爲其ノ他寄生蟲病ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ六分ノ一ヲ補助ス
第八條 第三條ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和七年勅令第百七十四號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行）

寄生蟲病豫防法施行規則

昭和七年七月二十三日 內務省令第三十號

- 寄生蟲病豫防法施行規則左ノ通定ム
第一條 寄生蟲病豫防法第五條ノ規定ニ依ル北海道地方費又ハ府縣ノ補助ハ市町村ノ支出額ノ六分ノ一乃至四分ノ一トス但シ市町村ノ支出額三十圓未滿ナルトキハ補助セザルコトヲ得
前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金等ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ
第二條 寄生蟲病豫防法第七條ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金等ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ

第三條 寄生蟲病豫防法及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

本令ハ寄生蟲病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和七年八月一日ヨリ施行)

●寄生蟲病豫防法施行細則

昭和八年九月二十五日 山梨縣令第五十二號

寄生蟲病豫防法施行細則左ノ通定ム

寄生蟲病豫防法施行細則

- 第一條 本令ニ於テ家畜ト稱スルハ牛、馬、犬ヲ謂ヒ健康診斷トハ人ニ對シテハ保護者附添フヘシ
第二條 日本住血吸蟲病ノ有病地ハ別ニ之ヲ告示ス
第三條 寄生蟲病豫防法第二條ニ依リ健康診斷又ハ糞便検査ヲ行ハムトスルトキハ其ノ日時地域及施行場所並人畜ノ區別ヲ告示ス
第四條 前條ニ依リ家畜糞便検査ノ告示アリタルトキハ其ノ地域内ニ於テ家畜ヲ飼養スル者ハ検査期日七日前迄ニ市町村長ニ對シ様式第一號ニ依リ現在届ヲナシ且指定ノ日時及場所ニ家畜ノ糞便ヲ提出スヘシ
前條ノ告示カ人ニ對スルモノナルトキハ其ノ地域内ニ居住スル者ハ指定ノ日時及場所ニ糞便検査ノ場合ハ糞便ヲ提出シ健康診斷ノ場合ハ本人自ラ出頭シテ醫師ノ診斷ヲ受クヘシ但シ老幼其ノ他保護ヲ要スル者ニ對シテハ保護者附添フヘシ
前項糞便検査ノ場合家族及同居者ノ糞便ハ世帯主、學校、病院、工場等ニ在リテハ其ノ長若ハ管理者ニ於テ取極メ提出スヘシ

〔山梨縣〕

第五條 病氣、旅行其ノ他ノ故障ニ依リ糞便ヲ提出シ又ハ健康診斷ヲ受ケ難キ者アル場合ハ前條ノ義務者ニ於テ期日前日迄ニ其ノ旨市町村長ニ届出ツヘシ

第六條 市町村必要ニ應ジ寄生蟲病ノ治療又ハ豫防ノ施設ヲ爲サムトスルトキハ左ノ理由並方法ヲ知事ニ具申シ指示ヲ受クヘシ

第七條 日本住血吸蟲病有病地ノ市町村ハ毎年一回以上野鼠ノ驅除ヲ行フヘシ

第八條 日本住血吸蟲病ノ蟲卵ヲ保有スル家畜ノ糞便ハ一定ノ場所ニ集積シ雨露ヲ防クノ裝置ヲ施シテ三十日以上経過シタル後ニ非ラサレハ本病ノ有病地ニ於テ肥料ニ供シ又ハ投棄スヘカラス

第九條 日本住血吸蟲病ノ蟲卵ヲ保有スル牛、馬ハ乗用ノタメ若ハ業務上必要トスル場合ノ外畜舎以外ニ於テ飼養スヘカラス但シ本病ノ有病地以外ニ於テ飼養スルモノ又ハ所轄警察署長ノ認可ヲ經タル一定ノ圍障内ニ於テ飼養スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十條 日本住血吸蟲病ノ蟲卵ヲ保有スル犬ハ繫留スヘシ但シ牽行スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 日本住血吸蟲病ノ蟲卵ヲ保有スル家畜左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ飼養者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出ツヘシ但シ第二號ノ場合ハ新舊飼養者連署ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十二條 飼養地又ハ飼養者ニ異動ヲ生シタルトキ

第十三條 日本住血吸蟲ノ中間宿主タル巻貝ノ棲息セル河川溝渠ノ泥土ヲ採取シ他ニ運搬セムトスル者ハ市町村長ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 野菜取引市場ニハ野菜洗滌所ヲ設置スヘシ

第十五條 野菜取引市場ニハ野菜洗滌所ヲ設置スヘシ

第十六條 野菜取引市場ニハ野菜洗滌所ヲ設置スヘシ

第十七條 野菜取引市場ノ經營者及糞尿貯藏所、游泳池ノ設置者ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ本籍、住所、氏名、生年月日ヲ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ其ノ使用ノ休止若ハ設備ヲ廢止シ又ハ再使用ヲ開始セムトスルトキ亦同シ讓渡ノ場合ハ讓受人連署スヘシ

第十八條 知事ハ本令ニ定ムル野菜洗滌所、糞尿貯藏所、游泳池ノ設備ガ寄生蟲病豫防上適當ナラスト認ムルトキハ其ノ全部若ハ一部ノ改造ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止セシムルコトアルヘシ

第十九條 寄生蟲病豫防ノ爲便所ノ便池ヲ附屬ノ構造ニ準據シテ設置シタル者ニ對シテハ豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ費用精算額ノ三分ノ一以内ヲ補助ス

第二十條 前項ノ便池トハ便溜及之ニ接続スル土管又ハ鉛管ヲ謂フ

第二十一條 一村若ハ一部落ガ前條ノ便池ヲ築造セル地域内又ハ特ニ知事ノ指定シタル地域内ニ於テ前條ニ準據セサル便池ヨリ汲ミ出シタル糞便ヲ處分セムトスルトキハ之ヲ一定ノ便壺ニ貯溜シ九十日以上経過シタルモノ又ハ消毒方法ヲ施行シテ寄生蟲病ノ蟲卵ヲ死滅セシメタル後ニ非サレハ肥料ニ供シ又ハ投棄スヘカラス

第二十二條 本令第十九條ニ依リ補助ヲ受ケムトスル者ハ其ノ築造著手前左記事項ヲ具シ知事ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

〔山梨縣〕

前項ノ洗滌所ヲ設置セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ知事ニ届出テ認可ヲ受クヘシ之ヲ改造又ハ變更セムトスルトキ亦同シ

一 市場經營者ノ本籍、住所、氏名、生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所々在地、代表者ノ本籍、住所、氏名、生年月日)

二 設置場所

三 構造仕様書

四 豫算額

五 使用水ノ種類

六 落成豫定期日

第十四條 尿尿ノ汲取ヲ業トスル者尿尿貯藏所ヲ設置セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出テ許可ヲ受クヘシ之ヲ改造又ハ變更セムトスルトキ亦同シ

一 設置者ノ住所、氏名、生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所々在地及代表者ノ本籍、住所、氏名、生年月日)

二 設置場所ノ位置及附近百米以内ノ模様ヲ見ルヘキ圖面

三 構造仕様書及圖面

四 豫算額

五 貯藏量

六 落成豫定期日

第十五條 日本住血吸蟲病ノ有病地ニ於テ游泳池ヲ設置セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出テ許可ヲ受クヘシ第二號乃至第四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 設置者住所、氏名、生年月日(法人ナルトキハ事務所々在地及代表者ノ本籍、住所、氏名、生年月日)

二 設置場所 周圍五百米以内ニ在ル河川、溝渠、沼、水田ノ位置ヲ示シタル略圖

- 一 設置者住所、職業、氏名
 - 二 設置場所
 - 三 便所使用人員
 - 四 便池ノ平面圖及側断面圖
 - 五 工事材料
 - 六 豫算ノ内譯書
 - 七 工事著手及落成豫定年月日
- 第二十二條 前條ニ依リ設置スル便池ハ其ノ底部及側壁並に中隔完成シタル後被蓋ヲ爲ス以前ニ於テ知事ニ願出テ検査ヲ受ケヘシ
- 前項ノ便所落成シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ
- 第二十三條 本令第十九條ノ補助金ハ前條第二項ノ届出テヲ爲シタル後第二號様式ニ依リ知事ニ請求スヘシ
- 第二十四條 寄生蟲病豫防法施行規則第一條ニ依リ市町村ノ支出シタル費用ニ對シテハ精算額ノ六分ノ一ヲ補助ス但シ一箇年度ノ支出額三十圓ニ滿タサルトキハ補助セズ
- 第二十五條 市町村長前條ノ補助金ヲ受ケムトスルトキハ第三號様式ニ依リ年度經過後三十日以内ニ請求スヘシ
- 第二十六條 本令第十九條及第二十四條ニ依リ補助ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ精算額適當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シ補助ス
- 第二十七條 本令第十三條乃至第十七條、第二十一條乃至第二十三條及第三十條ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ
- 附則
- 第二十八條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二十九條 昭和四年山梨縣令第八號改良便所補助規定ハ之ヲ廢止ス從前其ノ規程ニ依リ爲シタル手續及設置シタル便所ハ本令ニ依リ爲シタルモ

〔山梨縣〕

ノト看做ス

第三十條 從前ヨリ設置セル游泳池ヲ本令公布後引續キ使用セムトスル者ハ本令公布ノ日ヨリ六箇月以内ニ本令第十五條第一號乃至第六號ノ事項及便所開始シタル年月日ヲ記シ知事ニ届出ツヘシ

前項ニ依リ届出テタル游泳池ハ本令ニ基キ許可ヲ得テ設置シタルモノト看做ス

第一號様式

家畜現在届		種別	性	胤種	毛色	年齢	用途	糞便検査結果	備考
								住血吸 蟲卵 其他	
右及御届候也									
昭和年月日									
住所	郡市町村番地								
何市町村長殿	何								某

第二號様式

備考	糞便検査結果欄ハ検査員ニテ記入スルモノニ付届人ニテ記載スヘカラス
請求書	圓也
但シ昭和年月	日山梨縣指令第 號認可昭和年月
日落成届出テニ係ル便池設置費精算額	
内譯	
別紙ノ通	
右之通支出致候間補助金交付相成度此段及請求候也	
昭和年月日	
郡市町村番地	
知事宛	何 某
精算書	
一金	圓也
内譯	工事費精算額

〔山梨縣〕

第三號様式

品名	數量	單價	合價	價摘	要
セメン					
ト					
梓板					
土管					
鐵筋					
鐵網					
防水劑					
職工賃					
何々					
何々					
請求書					
一金	圓也				
内譯	寄生蟲病豫防及治療費補助申請額				
一金	圓				
昭和三十二年	度豫防施設費支出總額金	圓ヨリ支			
對スル六分ノ一	對スル六分ノ一	對スル六分ノ一			
昭和三十二年	度治療施設費支出總額金	圓ヨリ支			
對スル六分ノ一	對スル六分ノ一	對スル六分ノ一			

各取調書別紙ノ通
右補助金交付相成度及請求候也

昭和 年 月 日

市町村長 氏 名印

知事宛

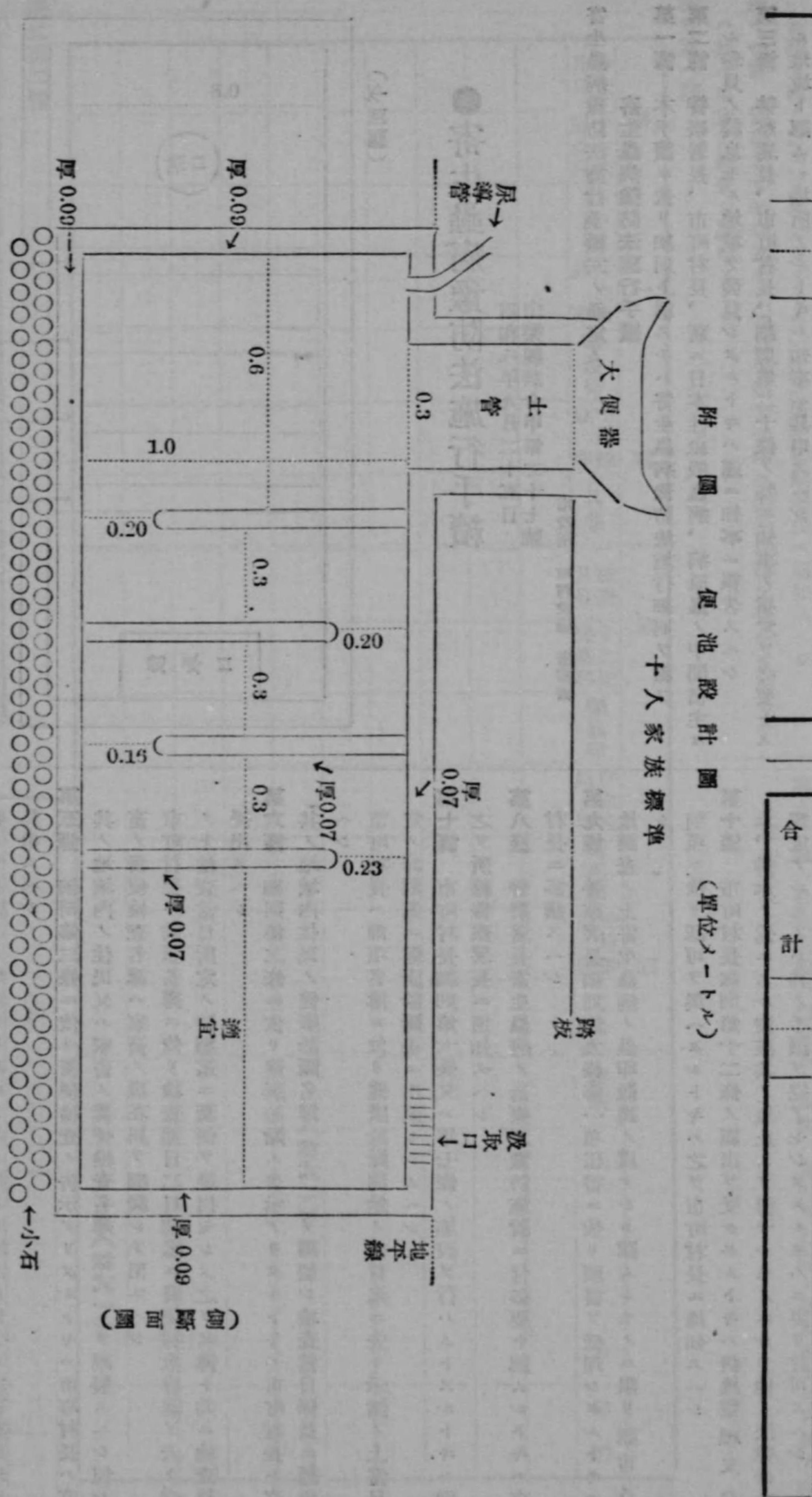
費目	金額	説明
一、寄生蟲病豫防費		
一、醫師給料		何月何日ヨリ何月何日迄何日間何々ノ爲メ勤務一日ニ付何圓旅費 圓 出發地記入ノコト
二、備人料		何月何日何々ノ爲メ人夫何人備入レ延何人一日ニ付一人何十錢
三、備品費		品名毎ニ單價、數量列舉スルコト
四、野鼠驅除費		同上(日本住血吸蟲病有病地ノミ)
五、何々		
二、寄生蟲病治療費		十二指腸蟲病、何人蛔蟲病、何人地方病、何人ノ治療費、何月何日施行
一、醫師給料		豫防費ノ記載例ニ依ル
二、看護婦給料		醫師ノ記載例ニ同シ

〔山梨管〕

三、備人料		豫防費ノ記載例ニ同シ
四、藥品費		サントニン何グラム何圓、マクニン何ポンド何圓、ネマトール何圓
五、其他消耗品費		品名、數量、單價等列舉スルコト
六、何々		
七、何々		

收入別金額	説明
一、豫防費ニ伴フ收入金	
一、寄附	何某ヨリ收入
二、不用品賣拂代	何々
三、何々	
一、治療費ニ伴フ收入金	何某ヨリ收入
一、寄附金	何某ヨリ收入
二、徴收金	患者一人ニ付何程何人分
三、不用品賣拂代	何々
四、何々	

〔山梨管〕



第四條 主務大臣ハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公私立ノ診療所ヲ其ノ承諾ヲ得テ第二條第一項ノ規定ニ依リ設置スル診療所ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條第二項及前條ノ規定ヲ準用ス

第五條 傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レルコトヲ知りテ賣淫ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス
傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レルコトヲ知り又ハ知ルベクシテ賣淫ノ媒合又ハ容止ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前二項ノ場合ニ於テ傳染防止ニ付相當ノ方法ヲ講シタル者ハ其ノ刑ヲ減輕ス

第六條 醫師傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レル者ヲ診斷シタルトキハ傳染ノ危険及傳染防止ノ方法ヲ指示スベシ

第七條 花柳病ニ關スル賣藥ハ其ノ容器又ハ被包ニ其ノ成分及分量、成分不明ナルモノハ其ノ本質及製造法ノ要旨ヲ記載スルニ非ザレバ之ヲ發賣スルコトヲ得ズ
賣藥營業者前項ノ規定ニ違反シタルトキハ地方長官ハ其ノ發賣ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第八條 前條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム (昭和三年六月勅令第二百二十號ヲ以テ第一條、第四條乃至第八條及附則第二項ノ規定ハ昭和三年九月一日ヨリ之ヲ施行シ同法第二條及第三條ノ規定ハ同法第四條ノ規定ニ必要ナル範圍内ニ於テ同日ヨリ之ヲ施行ス)
花柳病ニ關スル賣藥ニシテ本法公布前ヨリ發賣シ來レルモノニ關シテハ當分ノ間第七條ノ規定ヲ適用セズ

〔山梨縣〕

●花柳病豫防法施行令

昭和三年六月二十三日
勅令第二百一十一號

朕花柳病豫防法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

花柳病豫防法施行令

第一條 花柳病豫防法第二條第一項ノ規定ニ依リ設置スル診療所ニ於ケル診療ノ費用ハ當該診療所ヲ設置スル公共團體ノ負擔トシ同法第四條ノ規定ニ依リ代用診療所ニ於ケル診療ノ費用ハ内務大臣ノ指定スル公共團體ノ負擔トス

第二條 診療ノ費用ヲ負擔スル公共團體ハ前條ノ規定ニ拘ラズ被診療者ノ雇主、抱主若ハ之ニ準ズベキ者又ハ雇主、抱主若ハ之ニ準ズベキ者ナキ場合ニ於テハ本人ヨリ診療ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

第三條 前條ノ規定ニ依リ徵收スル診療ノ費用ニシテ指定期限内ニ納付ナキモノニ付テハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第四條 第二條ノ規定ニ依リ診療ノ費用ヲ徵收ハ必要アルトキハ納付義務者ノ居住地又ハ財産所在地ノ市町村長(市制第六條ノ市ニ在リテハ區長、町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村長ニ準ズベキ者)ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第五條 花柳病豫防法第三條ノ規定ニ依リ國庫補助ハ左ノ區分ニ依リ
一 診療所ノ創設費及擴張費並ニ之ニ付初度調辨費 支出額ノ二分ノ一
二 其ノ他ノ諸費 支出額ノ六分ノ一

第六條 花柳病豫防法第四條ノ規定ニ依リ國庫補助ハ代用診療所ニ於ケル診療ノ費用ヲ負擔スル公共團體ノ代用診療所ニ關スル支出額ノ六分ノ一トス

〔山梨縣〕

附則

本令ハ昭和三年勅令第二百二十號ニ依リ花柳病豫防法ヲ施行スルニ付必要ナル範圍内ニ於テ昭和三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●風俗上取締ヲ要スル稼業ヲ爲ス者及行政執行法第三條ノ患者ノ治療設備ニ關スル件

明治四十三年七月十四日
勅令第三百十號

改正 昭和三年四月勅令第六五號

朕風俗上取締ヲ要スル稼業ヲ爲ス者及行政執行法第三條ノ患者ノ治療設備ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ依リ)ハ風俗上取締ヲ要スル稼業ヲ爲ス者ノ疾患ヲ治療スル爲病院ヲ設立シ之ヲ管理スベシ
土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル事由アルトキハ地方長官ハ別段ノ施設ヲ爲スコトヲ得

第二條 地方長官ハ行政執行法第三條ノ患者ヲ收容スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ但シ前條ノ病院ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條 前二條ノ病院又ハ施設ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ特別ノ事情アル地方ニ關シテハ内務大臣ハ地方長官ノ具申ニ依リ期間ヲ定メテ本令ノ全部又ハ一部ノ施行ヲ猶豫スルコトヲ得

●花柳病豫防法施行規則

昭和三年六月二十三日
內務省令第二十七號

花柳病豫防法施行規則左ノ通定ム

花柳病豫防法施行規則

第一條 花柳病豫防法第二條第一項ノ規定ニ依リ診療所ノ設置ヲ命セラレタル公共團體ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ診療所ノ位置及設計ヲ定ムベシ其ノ變更ニ付亦同シ

第二條 地方長官花柳病豫防法第二條第一項ノ規定ニ依リ診療所又ハ同法第四條ノ規定ニ依リ代用診療所ノ必要ヲ認メタルトキハ其ノ旨内務大臣ニ具申スベシ

第三條 花柳病豫防法第六條ノ規定ニ依リ醫師ノ指示ハ左ノ各號ノ事項ニ付口頭及文書ヲ以テ之ヲ爲スベシ
一 病毒ノ危害
二 傳染ノ経路
三 豫防藥品、豫防用具及洗滌器具ノ使用其ノ他ノ豫防方法
四 傳染媒介物ノ消毒方法

第四條 本令ノ規定ニ依リ地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

娼妓健康診断施行規則

明治三十三年十月
山梨縣令第四十九號

- 改正 明治四十二年二月縣令第三一號、昭和七年八月第二九號
- 第一條 娼妓ハ其ノ寄寓貨座敷所在地ノ検査所ニ於テ本則ニ從ヒ検査委員ノ健康診断ヲ受クベシ
 - 第二條 健康診断ヲ分チテ定日及臨時ノ二種トス
 - 第三條 定日健康診断ハ毎週一回土曜日(當日大祭ナルトキハ其ノ前日)ニ之ヲ行フ
 - 第四條 臨時健康診断ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ行フ
 - 一 新ニ稼業ニ就カムトスルトキ
 - 二 疾病又ハ事故ノ爲メ定日健康診断ヲ受クル能ハザリシ者疾病治癒又ハ事故止ミテ稼業ニ就カムトスルトキ
 - 三 入院シタル者退院セムトスルトキ
 - 四 疾病ニ罹リタルコトヲ自覺シタルトキ
 - 五 當該官吏又ハ検査委員ニ於テ必要ト認メタルトキ
 - 第五條 娼妓名簿登録申請者ハ所轄警察官署ノ指示ニ從ヒ検査委員ノ健康診断ヲ受クベシ
 - 第六條 健康診断ノ時間ハ午前十時ヨリ午後三時マテトス但シ時宜ニ依リ變更スルコトアルベシ
 - 第七條 寄寓貨座敷ニ在ル者ハ休業中ト雖モ本則ニ從ヒ健康診断ヲ受クベシ
 - 第八條 疾病ノ爲メ定日健康診断ノ當日検査所ニ出頭シ能ハザル者ハ主治醫ノ診断書ヲ午前十一時マテニ検査醫員ニ差出シ寄寓貨座敷ニ於テ健康診断ヲ受クベシ

〔山梨警〕

娼妓ハ第一號様式ノ受檢簿ヲ受領シ受檢ノ都度検査醫員ノ健康證印ヲ受クベシ

- 第九條 傳染性疾患アリト認メラレタル者ハ直ニ縣立相川病院又ハ同院上野原分院ニ入院スベシ但シ第八條ノ受檢者ニシテ直チニ入院スルコト能ハズト認メラレタル者ハ其ノ輕快ヲ待テ入院スベシ
- 第十條 入院娼妓ハ院長ノ承認ヲ得ルニ非ザレバ退院又ハ他出スルコトヲ得ズ
- 第十一條 本則第九條乃至第十一條ニ違反シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
- 第十二條 本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス
- 第十三條 明治二十七年三月縣令第九號娼妓檢査規則ハ廢止ス
- 第十四條 第一號様式

(寸 六)

自年月日	至年月日
受檢簿	
寄寓貨座敷主氏名 娼妓氏名	

(四寸五分)

受檢日	健康傳染性疾患	備考
何月何日	、、、	

娼妓受檢簿ニ押捺スヘキ疾病符

合ノ件

昭和七年八月九日
内訓第二號

警察部 甲府警察署 上野原警察署 相川病院
相川病院 上野原分院

縣立相川病院並縣立相川病院上野原分院職務規程第二十條ニ基キ娼妓受檢簿ニ押捺スベキ疾病符合印ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 梅毒 ①
 - 二 淋病及淋毒性諸疾患 ②
 - 三 軟性下疳及之ニ因スル疾患 ③
 - 四 陰部及其ノ周圍ノ剥脫、糜爛 ④
 - 五 傳染性皮膚病 ⑤
 - 六 「トラホーム」ニシテ分泌物ノ著明ナルモノ ⑥
 - 七 結核ノ疑アルモノ ⑦
 - 八 癩ノ疑アルモノ ⑧
 - 九 肺結核、喉頭結核 ⑨
 - 十 癩病 ⑩
 - 十一 精神病ニシテ稼業禁止又ハ停止スルノ要アリト認ムルモノ ⑪
 - 十二 以上各號以外ノ傳染性疾患ニシテ稼業ヲ禁止又ハ停止スルノ要アリト認ムルモノ ⑫
- 同一患者ニシテ數種ノ該當疾病アルトキハ病症ノ程度ニ應シ順次符合印ヲ押捺スベシ
- 右内訓ス
- 附錄第一號表

〔山梨警〕

附錄第二號表

種目	例規書類	令達	上達	職員身上關係	統計關係書類	諸表	入院患者關係書類	入退院通知書類	雜書類	往復書類	簿冊名	職員名簿	入院患者名簿	登録申請者検査名簿	病症日誌
保存年	永年	同	同	同	同	同	三	同	同	同	簿冊名	永年	同	同	同
保存年	永年	同	同	同	同	同	三	同	同	同	簿冊名	永年	同	同	同
保存年	永年	同	同	同	同	同	三	同	同	同	簿冊名	永年	同	同	同

娼妓自衛ニ關スル件

明治四十年四月
訓示第二三號

娼妓稼業者ニ對シ左記事項ニ依リ自衛ノ途ヲ講セシムル様訓諭セラルヘシ

左記

- 一 接客後毎回直ニ腔腔、外陰部及肛門等ヲ五十倍ノ微温硼酸水ニテ洗滌セシムルコト
- 一 梅毒、肺結核等ハ他人ノ烟管ヲ用ヒ又ハ接吻ヨリ感染スルコトアリ此點ニ注意セシムルコト
- 一 身體ハ常ニ清潔保持ニ努メ一日一回以上入浴ヲ行ハシメ手指ノ爪ハ短ク切除シ且ツ時々五十倍ノ硼酸水ニテ洗滌セシムルコト
- 一 接客用履具被服等ハ毎日日光ニ曝露セシムルコト
- 一 消毒棉花以外ノモノヲ以テ腔腔内ノ栓塞ニ使用セシメサルコト
- 一 陰部其他ノ部位ニ於テ僅少ノ異常ヲ自覺シタルトキハ直ニ醫師ノ診察ヲ乞ハシムルコト
- 一 受檢前自己ノ病兆ヲ隱蔽スルノ目的ヲ以テ陰部ヲ洗滌、拭淨等ヲナスモ無益ノコトナルヲ以テ之レヲ行ハシメサルコト

有害避妊用器具取締規則

昭和五年十二月二十七日
內務省令第四十號

有害避妊用器具取締規則左ノ通定ム

- 第一條 左ノ物品ハ之ヲ販賣若ハ授與シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列若ハ貯

〔山梨警〕

〔山梨警〕

有害避妊用器具取締規則施行細則左ノ通定ム

有害避妊用器具取締規則施行細則

- 第一條 有害避妊用器具取締規則第一條第二號及第三號ノ物品（以下物品ト稱ス）ヲ醫療用器具トシテ醫師ノ用ニ供スル目的ヲ以テ販賣若ハ授與シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列若ハ貯藏セムトスル者（以下營業者ト稱ス）ハ左記各號ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ其ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ
 - 一、本籍、住所、職業、氏名、生年月日
 - 法人ニ在リテハ名稱、事務所所在地、代表者ノ本籍、住所、氏名、生年月日、定款ノ寫
 - 二、商號及營業所所在地
 - 三、營業開始ノ年月日
 - 四、品名及用法
 - 五、仕入先
- 第二條 營業者廢業シタルトキハ本人（法人解散シタルトキハ其ノ清算人）ヨリ死亡シタルトキハ戸主又ハ相續人ヨリ營業ヲ承繼シタルトキハ新舊營業者又ハ相續人ヨリ其ノ旨十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ
- 營業者六月以上營業ヲ爲サ、ルトキ又ハ所在不明三月ニ及ヒタルトキハ廢業シタルモノト看做ス
- 第三條 營業者ハ醫療用トシテ醫師ノ用ニ供スル目的ナルコトヲ確認シ買主又ハ讓受主ノ住所、職業、氏名、年齢、器具ノ名稱、數量及買受年月日ヲ記載シ捺印アル買受書又ハ讓受書ヲ徵スルニ非サレハ賣渡又ハ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス
- 前項ノ買受書又ハ讓受書ハ三箇年間之ヲ保存スヘシ
- 第四條 營業者ハ第一號様式ノ帳簿ヲ備ヘ物品ノ受拂ヲ爲シタルトキハ其ノ都度之ヲ記入シ三箇年間保存スヘシ
- 前項ノ帳簿ハ使用前營業所々所在地所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

藏スルコトヲ得ズ但シ第二號及第三號ノ物品ニシテ醫療用器具トシテ醫師ノ用ニ供スル目的ヲ以テスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 避妊ピン、避妊リング又ハ之ニ類似スル器具
- 二 子宮注入器其ノ他子宮内ニ挿入スル器具
- 三 其ノ他衛生上危害ヲ生ズルノ虞アル避妊用器具ニシテ內務大臣ノ指定スルモノ

第二條 地方長官ハ前條ノ物品ニ關シテ明治三十三年法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本令ニ違反シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第三條 地方長官ハ本令ノ執行ニ關シ明治三十三年法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第四條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ三月以下ノ懲役若ハ拘留ニ處ス

第五條 營業者カ未成年者、禁治産者又ハ法人ナルトキハ本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ代表者ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

附則

本令ハ昭和六年一月十日ヨリ之ヲ施行ス
東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

有害避妊用器具取締規則施行細則

昭和六年五月十八日
山梨縣令第二十五號

第五條 營業者ハ第二號様式ニ依リ一月、四月、七月、十月ノ各五日迄ニ前三箇月間ニ於ケル物品ノ受拂狀況ヲ營業所々所在地ノ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第六條 本則ニ依リ知事ニ届出ツヘキ書類ハ營業所々所在地所轄警察署ヲ經由スヘシ

第七條 官吏又ハ衛生技術員ハ營業時間内ニ於テ第四條ニ依リ帳簿ヲ檢査スルコトアルヘシ

第八條 第一條、第二條第一項、第三條乃至第五條ノ規定ニ違反シタル者、第四條ノ帳簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者、第七條ノ規定ニ依リ檢査ヲ拒ミタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第九條 營業者カ未成年者、禁治産者又ハ法人ナルトキハ本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ代表者ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限リニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ズ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際第一條該當ノ營業ヲ爲ス者ハ本則公布ノ日ヨリ三十日以内ニ本則ニ依リ手續ヲ爲スヘシ

第一號様式

醫療用避妊器具受拂簿

品名	受拂入	受拂出	殘高	住所又ハ事務所所在地	職業	氏名又ハ法人名稱
年月日	數量	數量				

品名	折目

有害避妊用器具指定

昭和七年四月十三日
内務省告示第七十九號

昭和五年十二月内務省令第四十號有害避妊用器具取締規則第一條第三號ニ依リ左ノ通指定ス

- 一 電氣通經器又ハ之ニ類似スル器具

麻疹豫防ニ關スル件

明治四十二年五月
梨衛發第一〇七號

近來縣下各所ニ麻疹流行シツ、アルヤニ開及ヒ候處同病ハ醫療ヲ怠リ又ハ攝生ヲ誤ルニ依リ往々肺炎腸炎等ノ如キ餘病ヲ誘發シ不幸ノ轉歸ヲ取ルコト尠シトモス殊ニ本年流行ノ麻疹ハ悪性ナル趣ニ付テハ左記豫防心得ニ依リ相當注意警戒セシメ候様御措置相成度依命此段及通察候也

〔山梨警〕

麻疹豫防心得

- 一 麻疹ハ甚々傳播シ易キ傳染病ナリ
- 二 本病ハ甚々傳染力ノ強キモノナレハ一家族中一兒之レニ侵サル、トキハ他兒ノ傳染ヲ豫防スルハ甚々困難ナレハ虛弱質ノ小兒ノ如キハ速カニ患兒ト隔離セシムルヲ肝要トス
- 三 豫防上注意ス可キ要件左ノ如シ
 - 一 患者ノ居室ニハ猥リニ出入スルヲ禁シ殊ニ兒童ハ決シテ立入ラシム可ラス
 - 二 看護人ハ他ノ兒童ト接近セサル様注意ス可シ
 - 三 患者ノ玩具食器等ハ他ノ兒童ト共用セシム可ラス
 - 四 小學校幼稚園ノ如キ兒童ノ群集スル場所ニ於テハ本病ノ傳播ヲ媒介スルコト多キヲ以テ傳染ノ虞アル期間患者ノ登校ヲ禁スヘシ

白癬豫防ニ關スル件

明治四十二年五月
梨衛發第一〇八號

近年兒童間ニ白癬患者發生シ最近該患者漸ク増加ノ傾向有之趣ニ候處人ト度該病ニ侵サル、トキハ非常ニ永キ經過ヲ取ル而已ナラス局處ノ患ヲ除キ難ク少壯有爲ノ時期ニ於テ外貌醜惡ナラシムル等甚々恐ルヘキモノニ有之候條左記豫防心得ニ依リ夫々警戒セシメ候様御措置相成度依命此段及通察候也

白癬豫防心得

- 一 本病ハ俗稱白雲ト云ヒ一種ノ寄生菌ノ爲メニ發スル傳染性皮膚病ニシテ人ヨリ人ニ傳ハルノミナラス又鴉鼠犬猫家兎等ヨリモ之レヲ人類ニ傳染スルコトアリ好テ頭髪部ニ發シ幼年者ヲ犯ス本病ノ經過ハ甚々慢
- 一 加答兒期ニハ鼻加答兒結膜炎咽喉頭及喉頭加答兒アリ結膜ノ充血蒸明流淚ヲ發シ聲音少シク暖ス往々輕キ發熱アリテ食慾不進全身倦怠ヲ來ス此時期ハ一乃至二週ニシテ咳嗽漸次ニ増劇シテ發作性症狀ヲ現シ瘰癧期ニ移行ス
- 二 瘰癧期 本病ノ極期ニシテ瘰癧性咳嗽發作ヲ來ス是レ本病ニ於ケル特有ノ症候ニシテ其發作スルヤ雅鳴様ノ深吸氣ヲ發シ之ニ次テ咳嗽ヲ頻發シ咳嗽ト瘰癧トノ間ニ深吸氣ヲ挟ムコトナシ十秒乃至三十秒以上ヲ經過スレハ深吸氣ヲ發シテ發作終ル咳嗽發作ハ再三反覆シ發作ノ終ニ至レハ透明硝子様ノ粘液痰ヲ喀出ス此際屢々嘔吐スルコトアリ咳嗽發作ノ際ニハ顔面潮紅且ツ腫脹シ其激シキ時ニハ流汗淋漓流淚溢ル、カ如キヲ見ル兩便ハ往々失禁シ膀胱ヲ來シ時々結膜氣管支等ノ出血ヲ來スコトアリ發作ノ度數ハ二十四時間内ニ數回乃至數十回ニ及ヒ特ニ夜間ハ著明ナリ是レ睡眠中ハ粘液ノ氣道内ニ滯留シ易キニヨル居室ノ空氣不潔ナルコト寒風ノ吸入等ハ發作ヲ誘起ス瘰癧期ノ持續ハ四乃至六週ニシテ徐々ニ減退期ニ移行シ咳嗽發作ハ漸次ニ稀少トナリ咳嗽ハ瘰癧性ヲ失ヒ終ニ單純ノ喉頭氣管支加答兒ノミトナル
- 三 豫後 本病自身ハ元來其豫後然リ不良ナルモノニアラサレトモ其經過永ク且ツ毛細氣管支加答兒、氣管支肺炎、肺氣腫、氣胸、直腸脫出或ハ皮膚粘膜炎(衄血結膜出血咯血)等ヲ併發シ又本經過後小兒ノ體質ヲ不良虛弱ナラシメ結核ヲ胎スコトアルヲ以テ注意ヲ要ス
- 四 豫防法 本病ハ瘰癧ノ如ク必スシモ小兒ノ早晚之ヲ免カレサル疾患ニアラサレバ以テ成ルヘク豫防スル必要アリ即チ
 - 一 患者ヲ隔離シ健康兒ト患兒ト共ニ遊戯セシメサルコト
 - 二 痰ハ可成紙ニ取り之ヲ燒却スルコト

〔山梨警〕

性ニシテ二十年乃至三十年ニ互ルコトアリ本病ノ豫後ハ局處ノ患ヲ除クコト決シテ容易ノ業ニアラス又屢々再發ノ患アリ

一 豫防

本病ノ寄生菌ハ乾燥セル健康ノ皮膚ニハ附著繁殖スルコトナク濕潤軟化シタル皮膚ニ遭遇シテ始メテ傳染ヲナスカ又ハ爪甲其他ノ媒介ニヨリ剝脱屑ヨリ傳播シ得ルモノナリ故ニ理髮業者髮結業者湯屋學校家庭等ニ於テ注意ヲ要スルハ勿論個人トシテハ剃刀雲脂取掃帚等各自成ルヘク共用セサル様注意シ未消毒又ハ患者ノ頭髮ニ觸レタル物品ハ使用セシメサルヲ要ス

百日咳豫防ニ關スル件

大正五年六月
梨衛發第一四一號

頃日來縣下各地ニ百日咳患者發生シ漸次蔓延セントスルノ兆アリ本病ハ好シテ小兒及幼年者ヲ犯シ傳染性ヲ有シ其病性頑固ニシテ治療シ難ク種々ノ合併症及貽後症ヲ發シ易ク其攝生看護ニシテ當ヲ失スル時ハ治療後ト雖モ其體質ヲ不良虛弱ナラシムル等甚々恐ルヘキモノナルヲ以テ左記各項ヲ會得シ夫々警戒セシムル様措置セラルヘシ

左記

- 一 原因 本病ハ小兒傳染病ニシテ其感染ハ患者トノ接觸ニヨリ又患者ニ直接セサルモ之ト居室ヲ同ウスルニヨリテモ傳染ス本病ノ病毒ハ患者ノ喀痰中ニ含有ス
- 二 症候 本病ノ潜伏期ハ約一週ナリ其經過ハ病症ノ輕重ニヨリ大ニ差アリ短キハ數週ニシテ永キハ數月ニ互ル普通ハ乃至十二週間ナリ全經過ヲ一加答兒期二瘰癧期三減退期ノ三期ニ區別ス

- 三 本病ハ初期ニ於テハ普通氣管支加答兒ト鑑別シ難キヲ以テ本病流行地ニ於テハ殊ニ幼稚園生下級小學校生徒等ノ氣管支加答兒症狀ヲ呈スルモノニ注意シ掃除等ハ避ケシムルヲ良トス
- 四 既ニ發病シタル小兒ニ對シテハ空氣ノ流通ヨク日光ノ射入充分ナル室ニ臥セシメ食餌ハ輕易ニシテ消化シ易キ物ヲ與ヘ且ツ速ニ醫療ヲ受ケシムヘシ
- 五 患者ノ使用シタル寢具衣服等ハ少クトモ充分ナル日光消毒ヲ行フニ非サルハ他ノ健康者ニ用井シメサルコト

流行性感胃豫防ニ關スル件

大正九年一月 山梨縣告諭第一號

流行性感胃ハ客年縣下全般ニ互リ流行シ其ノ概數患者二十四萬八千餘人死者二千八百餘人ヲ算シ頗ル慘害ヲ極メタリ而シテ一時終熄ノ狀態ニアリシカ昨年十月末頃ヨリ再ヒ發生シ益々蔓延ノ兆アルノミナラス本年ニ入りテ病勢頓ニ熾烈ヲ加ヘムトスルノ傾向ヲ示シ今ニシテ極力豫防撲滅ニ努ムルニアラサレハ其禍害ノ及フ處測リ知ルヘカラス寔ニ寒心ニ堪ヘサル次第ナルヲ以テ縣民相互相警メ左記各號ノ事項ニ就テハ特ニ注意勵行シ各自身體ノ健康ヲ保全スルコトニ努ムヘシ

- 一 醫師、產婆、看護婦、鍼灸術、按摩術業者、理髮業者其ノ他業人ニ接スル業務ニ從事スル者ハ卒先シテ呼吸保護器ヲ使用スルコト
- 二 學校工場其ノ他多衆集合シテ從事スル場所ニアル者ハ呼吸保護器ヲ使用スルコト
- 三 各人成ルヘク雜沓ノ場所ニ出入スルコトヲ避ケ劇場、寄席、活動寫眞其ノ他多衆集合ノ場所ニ至ル場合ハ必ス呼吸保護器ヲ使用スルコト

〔山梨警〕

- 四 各家庭及各團體ニ於テハ常ニ硼酸水、鹽水又ハ微温湯等ヲ用意シ日々數回含嗽スルコト
- 五 各個人及各團體ニ於テハ進テ豫防注射ヲ爲シ病毒ニ侵サレサル様注意スルコト
- 六 常ニ家屋ノ内外ヲ清潔ニ掃除シ室内ニ空氣及光線ヲ透入セシメ衣類寢具ハ時々日光ニ曝スコト
- 七 各人ハ嚴ニ攝生ヲ守リ身體ニ異狀アル場合ハ速ニ醫師ノ診療ヲ受ケルコト
- 八 流行性感胃患者アル家ニ於テハ患者ト健康者トハ可成寢室ヲ區別スルコト

流行性感胃豫防勵行ノ件

大正九年一月 山梨縣訓令甲第五號

流行性感胃ノ豫防ニ就テハ曩ニ屢々之ニ關スル必要事項ヲ通達セル處ナルヲ以テ既ニ相當施設ノ下ニ之カ豫防ニ努メツ、アリト雖モ本年ニ入りテヨリ其ノ病勢漸ク熾烈ヲ加ヘムトスル傾向アルハ深ク遺憾トス若シ不幸ニシテ曩年ノ如キ流行ヲ再ヒスルコトアラムカ其ノ影響寔ニ寒心ニ堪ヘサルナリ内務大臣ニ於テ本月十五日訓令第一號ヲ以テ特ニ督勵セラル、トコロアリ本官亦本月二十三日告諭第一號ヲ以テ縣民一般ニ諭示スルコトアリタリ此際宜シク衛生組合、學校、工場其ノ他公私ノ各種團體並篤志家等ノ活動ヲ促シ一般ノ注意ヲ喚起スルニ就キ有效適切ト認ムル一切ノ方法ヲ盡シテ豫防撲滅ニ努メ若シ夫レ豫防及療養ノ途ナキモノニ對シテハ相當救助ノ方法ヲ講スル等一段ノ努力ヲ以テ施設ノ徹底ニ勉メ特ニ前記告諭ニ列記セル各事項ニ付テハ迅速銳意之カ勵行ヲ圖リ豫防上萬遺算ナキヲ期セラルヘシ

〔山梨警〕

第九章 醫師齒科醫師藥劑師

醫師法

明治三十九年五月二日 法律第四十七號

改正 明治四二年七月法律第四四號、大正三年四月第三八號、八年四月第五七號、一二年三月第一號、昭和八年四月第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル醫師法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醫師法

- 第一條 醫師タラムトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受ケルコトヲ要ス
 - 一 大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者
 - 二 醫師試驗ニ合格シタル者
 - 三 外國醫學科ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者
- 醫師試驗ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國醫學科ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者ニ非サレハ之ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第二條 左ニ掲グル者ハ免許ヲ受ケルコトヲ得ス
 - 一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 二 未成年者、禁治產者、準禁治產者、精神病者、聾者、啞者及盲者
- 第三條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 内務省ニ醫籍ヲ備ヘ醫師免許ニ關スル事項ヲ登錄ス

登錄スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條ノ二 醫師ニ非ザル者(公共團體ヲ除ク)診療所ヲ開設セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ノ許可ヲ受ケベシ

前項ニ規定スルモノノ外診療所ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 醫師ハ自ラ診察セスシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セスシテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診療中ノ患者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條 醫師診療ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク診療ニ關スル事項ヲ診療録ニ記載スベシ

前項ノ診療録ニシテ診療所ニ依リ爲シタル診療ニ關スルモノハ其ノ診療所ノ首長ニ於テ、其ノ他ノ診療ニ關スルモノハ其ノ醫師ニ於テ之ヲ五年間保存スベシ

第六條ノ二 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ衛生官吏ヲシテ診療録ヲ査閱セシムルコトヲ得

第七條 醫業ニ關シテハ何人ト雖モ醫師ノ學位、稱號及命令ヲ以テ定ムル專門科名ヲ除クノ外技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ズ内務大臣ハ前項ニ規定スルモノノ外醫業ニ關スル廣告ヲ制限スル爲ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第八條 醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡市區醫師會ヲ設立スヘシ

郡市區醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣醫師會ヲ設立スヘシ郡市區醫師會及道府縣醫師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第九條 郡市區醫師會ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外郡市區ヲ區域トス
公私立ノ診療所ニ於テ醫業ニ従事スル醫師ハ其ノ診療所ノ所在地ヲ區域トスル郡市區醫師會ノ會員トス
前項以外ノ醫師ハ其ノ住所地ヲ區域トスル郡市區醫師會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第九條ノ二 道府縣醫師會ハ道府縣ヲ區域トス
道府縣内ニ在ル郡市區醫師會ハ其ノ道府縣ヲ區域トスル道府縣醫師會ノ會員トス

第九條ノ三 郡市區醫師會又ハ道府縣醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條ノ四 前四條ニ規定スルモノノ外郡市區醫師會及道府縣醫師會ノ設立ノ手續、機關ノ組織、經費ノ負擔、監督、會員ノ懲戒其ノ他必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條ノ五 道府縣醫師會ハ日本醫師會ヲ設立スルコトヲ得
日本醫師會ハ内地ヲ區域トス

道府縣醫師會ハ日本醫師會ノ會員トス
第八條第三項及前二條ノ規定ハ日本醫師會ニ付之ヲ準用ス

第十條 醫師第二條各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ
醫師六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ醫業ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同シ
本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第二號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ
本條ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ第二項及第三項後段ノ場合ニ於テハ

第十四條 本法施行後八箇年間ハ第一條第二項ノ規定ヲ適用セス醫術開業試験規則ニ依リ醫術開業試験ヲ舉行ス
前項ニ依リ醫術開業前期試験ニ合格シタル者ハ大正三年十月三十一日迄ニ届出テ特ニ定メタル醫術開業後期受驗資格名簿ニ登錄スルヲ要ス
受驗資格名簿ニ登錄シタル者ニ限リ大正五年九月迄醫術開業試験ヲ舉行ス
前三項ノ試験ニ合格シタル者ハ第一條第一項ノ資格ヲ有スル者ト看做ス

附則 (大正八年法律第五十七號)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正八年九月勅令第四百二十八號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法ノ適用ニ付テハ帝國大學醫科大學醫學科ヲ卒業シタル者ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者ト看做ス
本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ同法ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス
本法施行ノ際現ニ存スル醫師會ハ本法施行ノ日ヨリ六月内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

醫師法施行規則

明治三十九年九月三日
內務省令第二十七號

改正 明治四二年內務省令第一七號、大正八年第一五號、昭和八年一〇月第二八號
醫師法施行規則左ノ通定ム

醫師法施行規則

第一條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス
第十一條 免許ヲ受ケズシテ醫業ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者醫師又ハ之ニ類スル名稱ヲ僭稱シタルモノナルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十一條ノ二 醫業停止中ノ醫師ニシテ醫業ヲ爲シタル者、第五條、第六條、第七條第一項若ハ第十三條第三項但書ノ規定ニ違反シタル者又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依リ衛生官吏ノ査閲ヲ拒ミ若ハ妨ゲタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第十一條ノ三 衛生官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第六條ノ二ノ規定ニ依リ診療録ノ査閲ニ關シ知得シタル醫師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
職務上ノ事項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ秘密ヲ漏洩シタルトキ亦前項ニ同シ

附則

第十二條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法施行前ノ醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス
本法施行前第一條第一項第一號ニ該當セサル官立、府縣立醫學科ヲ卒業シタル者ニハ第一條第一項ノ資格ヲ有セサルモ免許ヲ與フルコトアルヘシ
本法施行前醫術假開業免狀ヲ得タル者ハ本法施行ノ後ト雖醫業ヲ爲スコトヲ得但シ免許地域外ニ診療所、治診所又ハ其ノ出張所ヲ設ケルコトヲ得
前項但書ノ規定ハ往診治療ヲ爲スコトヲ妨ケス

二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ提出スヘシ
内務大臣ハ免許ヲ與フルトキハ醫籍ニ登錄シ醫師免許證ヲ下付ス

第二條 醫籍ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ
一 登錄番號及登錄年月日
二 本籍地道府縣名(朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在リテハ其ノ旨)及族稱(外國人ナルトキハ其ノ國籍)、氏名、生年月日並ニ女子ナルトキハ其ノ旨

三 醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月日

四 免許ノ取消、醫業ノ停止其ノ事由、期間及年月日

五 免許證ノ再下付其ノ事由及年月日

六 抹消ノ事由及年月日

第三條 醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證及戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ三十日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條 醫師免許證ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ毀損ノ場合ニ於テハ其ノ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金五圓ヲ納付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ免許證ノ再下付ヲ申請シタル後死亡シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スベシ

第五條 第一條、第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録稅又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スベシ

第六條 醫師醫藥登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スベシ

第七條 醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ヘシ

第八條 醫師死體又ハ四箇月以上ノ死産兒ヲ檢案シ異常アリト認ムルトキハ二十四時間以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第九條 醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書檢案書又ハ死産證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 醫師ハ患者ヨリ藥劑ノ交付ニ代ヘ處方箋ノ交付ノ需アル場合ニ於テ其ノ診療上支障ナキトキハ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第十一條 醫師ハ患者ニ交付スル處方箋ニ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日、使用期間及診療所ノ名稱、所在地又ハ醫師ノ住所ヲ記載シ記名捺印又ハ署名スベシ

第九條ノ四 醫師ハ患者ニ交付スル藥劑ノ容器又ハ被包ニ其ノ用法、用量、交付ノ年月日、患者ノ氏名及診療所ノ名稱、所在地又ハ醫師ノ住所氏名ヲ明記スベシ

第九條ノ五 醫師法第六條ノ規定ニ依リ診療録ニ記載スベキ事項左ノ如シ

一 患者ノ住所、氏名及年齢

二 病名及主要症狀

三 療法(處方及處置)

第九條ノ六 醫師法第六條第二項ノ規定ニ依リ診療録ヲ保存スベキ診療所ノ首長トハ醫師ノ開設スル診療所ニ在リテハ開設者、醫師ニ非ザル者ノ開設スル診療所ニ在リテハ管理者トス

第九條ノ七 地方長官衛生官吏ナシテ醫師法第六條ノ二ノ職權ヲ行ハシムルトキハ別記様式ノ證票ヲ携帯セシムベシ

衛生官吏診療録ヲ査閲セントスルトキハ當該診療所ノ首長又ハ當該醫師ニ前項ノ證票ヲ提示スベシ

診療録ノ査閲ハ現ニ患者診療中ノ場所ニ於テ又ハ已ムナ得ザル場合ヲ除クノ外日出前日没後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 醫師法第七條第一項ノ規定ニ依リ專門科名ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 内科、消化器病科(又ハ胃腸病科)、呼吸器病科、血行器病科(又ハ循環器病科、心臟病科)、新陳代謝病科、腎臟病科、神經病科(又ハ腦病科、腦脊髓病科)、精神病科、傳染病科、外科、口腔外科、内臟外科、整形外科、肛門病科、泌尿生殖器病科(又ハ花柳病科、性病科、泌尿器科)、皮膚科、産婦人科(又ハ産科、婦人科)、小兒科、眼科、耳鼻咽喉科(又ハ耳科、鼻科、咽喉科)、放射線科(又ハ「レントゲン」科、X線科)、物理療法科(又ハ理學療法科)

二 前號以外ノ診療科名ニシテ之ヲ標榜セントスル醫師ニ於テ内務大臣

ノ許可ヲ受ケタルモノ

第十條ノ二 醫業ニ關シテハ何人ト雖モ左ノ事項ヲ廣告スルコトヲ得ズ但シ第一號ノ事項ニ付地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十六條 第八條、第九條又ハ第十條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

一 無料診療、輕費診療、實費診療其ノ他醫業報酬ノ低廉ナルコトヲ示ス事項

二 避妊又ハ墮胎ヲ暗示スル事項

三 虛偽誇大ニ涉ル事項

第十一條 地方長官ハ醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ内務大臣ニ具申スベシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ道府縣醫師會ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第十二條 醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スベシ

第十三條 醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置シ期間満了ノ後之ヲ還付スベシ

第十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ本籍地道府縣名(朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在リテハ其ノ旨)及族稱、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

一 醫籍ニ登録シ又ハ抹消シタルトキ

一 免許證再下付ノトキ

一 醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ

第十五條 第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項、第七條第二項、第九條ノ三、第九條ノ四、第十二條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ

違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十六條 第八條、第九條又ハ第十條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附則 (昭和八年内務省令第二十八號)

本令ハ昭和八年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和八年十一月一日ヨリ施行)

本令施行ノ際現ニ存スル醫業ニ關スル廣告ニ記載シタル診療科名ハ其ノ診療科名ガ第十條ニ規定スル專門科名以外ノモノト雖モ本令施行後六月以内ニ限リ其ノ廣告ニ關シテハ之ヲ第十條ノ規定ニ依リ專門科名ト看做ス (別記様式)

表 診療録査閱員之證

裏 道府縣印

官職氏名

七種

十種

●醫師法施行細則

昭和六年九月三日 山梨縣令第三十五號

改正 昭和八年二月縣令第六〇號

醫師法施行細則左ノ通定ム

醫師法施行細則

- 第一條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法施行規則第一條ニ記載セル書類ノ外資格證書寫並醫師法第二條及第三條ニ關スル身分證明書ヲ添付スベシ
- 第二條 醫師法施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)第七條ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ具備スベシ
 - 一 本籍、族稱、住所、氏名、生年月日
 - 一 前住所
 - 一 異動ノ事由及年月日
 - 一 免狀寫(縣内異動ノ場合ハ添付ヲ要セズ)
 - 一 官公署及公立ノ病院ニ奉職スルモノハ其ノ官公署病院名
- 第三條 規則第十條第二號ノ規定ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ受ケントスル醫師ハ其ノ修業履歷及専門科名ヲ標榜セントスル理由ヲ具シ且ツ之ヲ標榜スルニ付相當技能ヲ有スル旨ヲ疏明スル文書ヲ添ヘ申請書ヲ當廳ニ差出スベシ
- 第三條ノ二 規則第十條ノ二第一號ニ該當スル事項ノ廣告ヲ爲サントスルモノハ許可申請書ニ其ノ目的ヲ詳記スベシ
- 第四條 規則ニ據リ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ提出スベキ書類ニハ別ニ左記書式ノ進達願ヲ添付スベシ
- 第五條 規則ニ據リ提出スベキ書類ハ總テ市町村長ヲ經由スベシ

〔山梨縣〕

第六條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第七條 明治四十一年一月山梨縣令第四號醫師法施行細則ハ之ヲ廢止ス

進達願

右ハ別紙何々(内務大臣ニ提出スヘキ書類ノ名稱ヲ記ス)願屆書御進達相成度及御願候也

年 月 日

知事 宛

本籍族稱 住所 氏名 年月日生

氏名 氏名

●醫師法施行細則ニ關スル書類取扱手續

昭和六年九月三日 山梨縣令甲第十四號

改正 昭和八年二月縣令甲第三一號

醫師法施行細則ニ關スル書類取扱手續左ノ通定ム

- 第一條 醫師法施行規則第一條ノ申請書ヲ受理シタルキハ左ノ各號具備ノ上進達スベシ

市役所 町村役場

〔山梨縣〕

ハ同則所定ノ期間内ニ規定ノ手續ヲ履行セシムベシ

附則 明治四十二年三月訓令甲第十一號醫師法施行細則ニ關スル書類取扱手續ハ之ヲ廢止ス

甲號書式

登錄年月日	登錄番號	族稱	氏名(女子ナルトキハ其ノ旨記入)	生年月日	本籍(外國人ニ在リテハ其ノ國籍)	住居	開業地	犯罪並行政處分ノ要旨	備考
資格及其取得年月	登錄事項	變更ノ内	容更ノ附	各事由並	月各其ノ日				

凡例

- 一、非開業ノモノハ其ノ旨開業地ノ欄ニ記入スルコト
- 二、齒科専門標榜ノ醫師ハ許可年月日及其ノ氏名ヲ明カニスルコト
- 三、住所移轉其ノ他ノ事由ニ依リ名簿ヨリ削除シタルトキハ別ニ削除簿ヲ作製ノ上之ニ移スコト

- 一 申請書ニ記載シタル醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項ノ資格ニ關シテハ添付セル資格證書寫ト本證書ト對照ノ上申請書ノ餘白又ハ資格證書寫ニ資格證書對照濟ノ旨ヲ記入シ且ツ必ズ之ガ取扱者ノ氏名ヲ明記シ官公署印ヲ押捺ノ上各名別箇ニ進達スルコト
- 二 申請書ニ添付セル身分證明書ニ關シ意見アル場合ハ調査書ヲ作製(意見ヲ記入)添付スルコト
- 第二條 醫師法施行規則第三條第二項ノ申請ニ付テハ其ノ變更ニ關スル新資格證書寫ト本證書ト對照シ第一條第一號ニ準シ取扱フベシ
- 第三條 醫師法施行規則第四條ノ申請ニ對シテハ申請者ニ人違ナキヤ其ノ事由ノ眞實ナルヲ等調査シ尙管テ再下附ヲ申請セシ事實アラバ其ノ年月日並ニ申請書提出ノ官公署ヲ明記セシメ進達スルコト
- 第四條 醫師法施行規則第一條、第三條、第四條ノ申請書ニハ同則第五條規定ノ收入印紙ヲ貼用シタルモノニアラザレバ進達スベカラズ
- 第五條 醫師法施行規則第六條ノ申請ニシテ死亡以外ノ事由ニ依ル場合ニ於テ申請者ニ關シ犯罪又ハ不正ノ事實アルトキハ其ノ旨ヲ附記シタル上進達スルコト
- 第六條 醫師法施行規則第七條ノ屆書ヲ受理シタルトキハ記載事項相違ノ有無ヲ精査シ他縣下ヨリ轉住シ來リタル者ニ付テハ免狀寫ト本免狀トヲ照査シ相違ナキコトヲ確認シタル上本證書對照濟ノ旨ヲ記シ取扱者署名捺印シテ進達シ縣内他市町村ヨリノ轉住届出ニ付テハ前住所地ノ市町村長ニ其ノ旨通知スベシ
- 第七條 醫師法施行規則第一條及第七條ノ願届アリタルトキハ甲號書式ノ名簿ニ登載シ同則第三條、第四條、第七條ノ願届アリタル場合ハ其ノ都度整理スベシ
- 第八條 醫師法施行規則第十二條及第十三條ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテ

四、資格及其ノ取得ノ年月欄ニハ何々學校卒業、何試驗及第、限地開業及資格取得ノ年月ヲ記載スベシ

●齒科醫師法

明治三十九年五月二日 法律第四十八號

改正 明治四十二年七月法律第四十五號、大正五年九月第四四號、一四年四月第四五號、昭和八年四月第六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル齒科醫師法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

齒科醫師法

- 第一條 齒科醫師タラムトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス
 - 一 官立、公立又ハ文部大臣ノ指定シタル私立齒科醫學專門學校ヲ卒業シタル者
 - 二 齒科醫師試驗ニ合格シタル者
 - 三 外國齒科醫學學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者
- 第二條 左ニ掲グル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス
 - 一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 二 未成年者、禁治產者、準禁治產者、精神病者、聾者、啞者及盲者
- 第三條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ
- 第四條 内務省ニ齒科醫籍ヲ備ヘ齒科醫師免許ニ關スル事項ヲ登錄ス
- 登錄スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條ノ二 齒科診療所ノ開設、構造、設備及管理ニ關シ必要ナル事項ハ

〔山梨警〕

命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 第五條 齒科醫師ハ自ら診察セスシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ又ハ治療ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 齒科醫師診療ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク診療ニ關スル事項ヲ診療録ニ記載スベシ
- 前項ノ診療録ニシテ齒科診療所ニ依リ爲シタル診療ニ關スルモノハ其ノ診療所ノ首長ニ於テ、其ノ他ノ診療ニ關スルモノハ其ノ齒科醫師ニ於テ之ヲ五年間保存スベシ
- 第六條ノ二 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ必要アルトキハ命令ヲ定ムル所ニ依リ衛生官吏ヲシテ診療録ヲ査閲セシムルコトヲ得
- 第七條 齒科醫學ニ關シテハ何人ト雖モ齒科醫師ノ學位、稱號及命令ヲ以テ定ムル專門科名ヲ除クノ外技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ズ
- 内務大臣ハ前項ニ規定スルモノノ外齒科醫學ニ關スル廣告ヲ制限スル爲ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得
- 第八條 齒科醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣齒科醫師會ヲ設立スヘシ
- 道府縣齒科醫師會ハ日本齒科醫師會ヲ設立スルコトヲ得
- 齒科醫師ハ土地ノ狀況ニ依リ郡市齒科醫師會ヲ設立スルコトヲ得
- 道府縣齒科醫師會日本齒科醫師會及郡市齒科醫師會ハ法人トシ勅令ノ定ムル所ニ依リ齒科醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第九條 道府縣齒科醫師會ハ道府縣區域トス
- 公私立ノ齒科診療所ニ於テ齒科醫學ニ從事スル齒科醫師ハ其ノ齒科診療所ノ所在地ヲ區域トスル道府縣齒科醫師會ノ會員トス
- 前項以外ノ齒科醫師ハ其ノ住所地ヲ區域トスル道府縣齒科醫師會ノ會員トス

下爲ルコトヲ得

- 第九條ノ二 日本齒科醫師會ハ内地ヲ區域トス
- 日本齒科醫師會ハ道府縣齒科醫師會ヲ以テ會員トス
- 第九條ノ三 郡市齒科醫師會ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外郡市ヲ區域トス
- 第九條第二項及第三項ノ規定ハ郡市齒科醫師會ニ之ヲ準用ス
- 第九條ノ四 道府縣齒科醫師會日本齒科醫師會若ハ郡市齒科醫師會ハ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
- 第九條ノ五 道府縣齒科醫師會日本齒科醫師會及郡市齒科醫師會ノ設立ノ手續機關ノ組織經費ノ負擔監督會員ノ懲戒其ノ他必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十條 齒科醫師第二條各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ
- 齒科醫師六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ齒科醫學ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同シ
- 本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第二號ノ原因止ミタルトキ又ハ改換ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ
- 本條ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ第二項及第三項後段ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス
- 第十一條 免許ヲ受ケズシテ齒科醫學ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前項ノ罪ヲ犯シタル者齒科醫師又ハ之ニ類スル名稱ヲ僭稱シタルモノナルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十一條ノ二 齒科醫學停止中ノ齒科醫師ニシテ齒科醫學ヲ爲シタル者、

- 第五條、第六條若ハ第七條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依リ衛生官吏ノ査閲ヲ拒ミ若ハ妨グタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 醫師ニシテ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケズシテ齒科專門ヲ標榜シ又ハ齒科醫學中金屬充填、鑲嵌、義齒、齒冠繼續及架工、齒列矯正並ニ口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ
- 第十一條ノ三 衛生官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第六條ノ二ノ規定ニ依リ診療録ヲ査閲ニ關シ知得シタル齒科醫師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 職務上前項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ秘密ヲ漏洩シタルトキ亦前項ニ同シ
- 第十一條ノ四 醫師ニシテ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケ齒科專門ヲ標榜シ又ハ齒科醫學中金屬充填、鑲嵌、義齒、齒冠繼續及架工、齒列矯正、口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲ス者ハ第八條第一項第三項第九條第二項第三項及第九條ノ三第二項ノ適用ニ付テハ之ヲ齒科醫師ト看做ス
- 附則 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十三條 本法施行前ノ齒科醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス
- 附則 (大正五年法律第四十四號) 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 本法公布前一年以上齒科專門ヲ標榜シ引續キ齒科醫學ヲ爲ス醫師ニ對シテハ第十一條第二項ノ規定ヲ適用セズ
- 附則 (大正十四年法律第四十五號) 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十五年三月勅令第十二號ヲ以テ同年三月

月二十日ヨリ施行) 本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス 本法施行ノ際現ニ存スル齒科醫師會ハ本法施行ノ日ヨリ六月内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

齒科醫師法施行規則

明治三十九年九月三日 內務省令第二十八號

改正 明治四二年七月內務省令第一八號、大正八年九月第一六號、昭和八年一〇月第二九號

齒科醫師法施行規則左ノ通定ム

齒科醫師法施行規則

第一條 齒科醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ齒科醫師法第一條規定ノ資格並住所氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出スヘシ

內務大臣ハ免許ヲ與フルトキハ齒科醫師籍ニ登錄シ齒科醫師免許證ヲ下付ス

第二條 齒科醫師籍ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

一 登錄番號及登錄年月日

二 本籍地道府縣名(朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在リテハ其ノ旨)及族稱(外國人ナルトキハ其ノ國籍)、氏名、生年月日並ニ女子ナルトキハ其ノ旨

三 齒科醫師法第一條規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月日

四 免許ノ取消、齒科醫業ノ停止、其ノ事由、期間及年月日

五 免許證ノ再下付其ノ事由及年月日

六 抹消ノ事由及年月日

第三條 齒科醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證及戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ三十日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ變更事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ齒科醫師籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條 齒科醫師免許證ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ毀損ノ場合ニ於テハ其ノ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金五圓ヲ納付スベシ

第一項ノ規定ニ依リ免許證ノ再下付ヲ申請シタル後亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スベシ

第五條 第一條、第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ

既ニ納付シタル登錄稅又ハ手数料ハ之ヲ還付セズ

第六條 齒科醫師齒科醫師籍登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ內務大臣ニ返納スヘシ

齒科醫師失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ戸籍法ニ依リ届出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 齒科醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ住所ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ住所ノ

ノ地方長官ニ届出ヘシ

後ノ住所ノ地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ前ノ住所ノ地方長官ニ通知スヘシ

第八條 齒科醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

開業ノ齒科醫師ハ診察治療ノ需アル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條ノ二 齒科醫師ハ患者ヨリ藥劑ノ交付ニ代ヘ處方箋ヲ交付ノ需アル場合ニ於テ其ノ診察上支障ナキトキハ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第八條ノ三 齒科醫師ハ患者ニ交付スル處方箋ニ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日、使用期間及齒科診療所ノ名稱、所在地又ハ齒科醫師ノ住所ヲ記載シ記名捺印又ハ署名スベシ

第八條ノ四 齒科醫師ハ患者ニ交付スル藥劑ノ容器又ハ被包ニ其ノ用法、用量、交付ノ年月日、患者ノ氏名及齒科診療所ノ名稱、所在地又ハ齒科醫師ノ住所氏名ヲ明記スベシ

第八條ノ五 齒科醫師法第六條ノ規定ニ依リ診療録ニ記載スベキ事項左ノ如シ

一 患者ノ住所、氏名及年齢

二 病名及主要症狀

三 療法(處方及處置)

第八條ノ六 齒科醫師法第六條第二項ノ規定ニ依リ診療録ヲ保存スベキ齒科診療所ノ首長トハ齒科醫師ノ開設スル齒科診療所ニ在リテハ開設者、齒科醫師ニ非ザル者ノ開設スル齒科診療所ニ在リテハ管理者トス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ齒科專門ヲ標榜スル醫師ハ之ヲ齒科醫師ト看做ス

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第九條 齒科醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ內務大臣ニ返納スヘシ

第十二條 齒科醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所ノ地方長官ニ提出スヘシ

第九條ノ七 地方長官衛生官吏ナシテ齒科醫師法第六條ノ二ノ職權ヲ行ハシムルトキハ別記様式ノ證書ヲ携帶セシムベシ

衛生官吏診療録ヲ査閱セシムルトキハ當該齒科診療所ノ首長又ハ當該齒科醫師ニ前項ノ證書ヲ提示スベシ

診療録ノ査閱ハ現ニ患者診療中ノ場所ニ於テ又ハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外日出前日没後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條 齒科醫師法第七條第一項ノ規定ニ依リ專門科名ヲ定ムルコト左ノ如シ

保存科、齒槽膿漏科、齒科外科(又ハ口腔外科)、拔牙科、補綴科、繼續架工科、顎骨補綴科、口蓋補綴科、齒列矯正科、X線科、(又ハレントゲン科)、小兒齒科

第九條ノ二 齒科醫業ニ關シテハ何人ト雖モ左ノ事項ヲ廣告スルコトヲ得ズ但シ第一號ノ事項ニ付地方長官、東京府ニ在リテハ警視總監)ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 無料診療、輕費診療、實費診療其ノ他齒科醫業報酬ノ低廉ナルコトヲ示ス事項

二 虛偽誇大ニ涉ル事項

第十條 地方長官ハ齒科醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ內務大臣ニ具申スヘシ

前項ノ場合ニ於テ道府縣齒科醫師會アルトキハ豫メ其ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第十一條 齒科醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ內務大臣ニ返納スヘシ

第十二條 齒科醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所ノ地方長官ニ提出スヘシ

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

三一一

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置シ期間満了ノ後之ヲ還付スヘシ

第十三條 左ニ掲ケル場合ニ於テ本籍地道府縣名(朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在リテハ其ノ旨)及族稱、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

- 一 齒科醫師ニ登録シ又ハ抹消シタルトキ
- 一 免許證再下付ノトキ

一 齒科醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ

第十四條 第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項、第七條第一項、第八條ノ三、第八條ノ四、第十一條又ハ第十二條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十五條 第八條又ハ第九條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本則ハ明治三十九年法律第四十八號齒科醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治三十九年十月一日ヨリ施行)

附則

本令ハ昭和八年法律第四十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和八年十一月一日ヨリ施行)

本令施行ノ際現ニ存スル齒科醫業ニ關スル廣告ニ記載シタル診療科名ハ第九條ニ規定スル專門科名以外ノモノト雖モ本令施行後六月以内ニ限り其ノ廣告ニ關シテハ之ヲ第九條ノ規定ニ依リ專門科名ト看做ス

(別記様式)

〔山梨醫〕

表 診療録査閱員之證

官職 氏 名

裏 道府縣 印

齒科醫師法第一條第三號ノ資格

二關スル件

大正十五年三月十八日 勅令第十三號

一 齒科醫師法第一條第三號ノ資格ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一 內務大臣ノ指定シタル外國ノ國籍ヲ有シ其ノ國ニ於テ齒科醫師ノ免

〔山梨醫〕

許ヲ受ケタル者ニシテ內務大臣ニ於テ適當ト認定シタル資格ヲ有スル者

二 外國ノ齒科醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫師免許ヲ受ケタル帝國臣民ニシテ內務大臣ニ於テ適當ト認定シタル者

第二條 前條第一號ノ規定ニ依リ指定ヲ爲スハ帝國ノ齒科醫師ニ對シ試験ヲ要セス齒科醫師ノ免許ヲ爲ス國タルコトヲ要ス

附則

本令ハ大正十四年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十五年三月二十日)

明治三十九年勅令第二百四十五號ハ之ヲ廢止ス

齒科醫師法第一條第三號ノ資格

二關スル件第一條第一號ニ依リ

外國指定

大正十五年三月十九日 內務省令第七號

改正 昭和三年五月內務省令第一六號 大正十五年勅令第十三號第一條第一號ニ依リ左ノ外國ヲ指定ス

附則

本令ハ大正十五年勅令第十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十五年三月二十日ヨリ施行)

齒科醫師法施行細則

昭和六年九月三日 山梨縣令第三十六號

改正 昭和八年二月敕令第六一號

齒科醫師法施行細則左ノ通定ム

齒科醫師法施行細則

第一條 齒科醫師免許ヲ受ケムトスルモノハ齒科醫師法施行規則第一條ニ記載セル書類ノ外資格證書寫並齒科醫師法第二條、第三條ニ關スル身分證明書ヲ添付スベシ

第二條 齒科醫師法施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)第七條ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

- 一 本籍、族稱、住所、氏名、生年月日
 - 一 前住所
 - 一 異動事由及其年月日
 - 一 免狀寫(縣內異動ノ場合ハ添付ヲ要セス)
 - 一 官公署及公立ノ病院ニ奉職スルモノハ其ノ官公署病院名
- 第三條 規則第九條ノ二第一號ニ該當事項ノ廣告ヲ爲サントスルモノハ許可申請書ニ其ノ目的ヲ詳記スヘシ
- 第四條 規則ニ據リ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出スヘキ書類ニハ別ニ左記書式ノ進達願ヲ添付スヘシ
- 第五條 規則ニ據リ提出スヘキ書類ハ總テ市町村長ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書式

進達願

本籍族稱 住所

右ハ別紙何々(内務大臣ニ提出スヘキ書類ノ名稱ヲ記ス)願届書御進達相成度及御願候也
年 月 日

知事宛

右 氏 名
氏 名

●齒科醫師法施行細則ニ關スル書
類取扱手續

昭和六年九月三日
山梨縣訓令甲第十五號

改正 昭和八年二月訓令甲第三二號
齒科醫師法施行細則ニ關スル書類取扱手續左ノ通定ム

齒科醫師法施行細則ニ關スル書類取扱手續

- 第一條 齒科醫師法施行規則第一條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ各號具備ノ上進達スヘシ
- 一 申請書ニ記載シタル齒科醫師第一條ノ資格ニ關シテハ添付セル資格證書寫ト本證書ト對照ノ上申請書ノ餘白又ハ資格證書寫ニ資格證書對照濟ノ旨ヲ記入シ且ツ必ス之カ取扱者ノ氏名ヲ明記シ官公印ヲ押捺ノ上各名別箇ニ進達スルコト
 - 二 申請書ニ添付セル身分證明書ニ關シ意見アル場合ハ調査書ヲ作製(意見ヲ記入)添付スルコト
- 第二條 齒科醫師法施行規則第三條第二項ノ申請ニ付テハ其ノ變更ニ關スル新資格證書寫ト本證書ト對照シ第一條第一號ニ準シ取扱フヘシ
- 第三條 齒科醫師法施行規則第四條ノ申請ニ對シテハ申請者ニ人違ナキヤ

〔山梨警〕

其ノ事由ノ眞實ナルヤ等調査シ尙管テ再下付ヲ申請セシ事實アラハ其ノ年月日並申請書提出ノ官公署名ヲモ明記セシメ進達スルコト

第四條 齒科醫師法施行規則第一條、第三條、第四條ノ申請書ニハ同則第五條規定ノ收入印紙ヲ貼用シタルモノニアラサレハ進達スヘカラス

第五條 齒科醫師法施行規則第六條ノ申請ニシテ死亡以外ノ事由ニ依ル場合ニ於テ申請者ニ關シ犯罪又ハ不正ノ事實アルトキハ其ノ旨附記シタル上進達スルコト

第六條 齒科醫師法施行規則第七條ノ願届書受理シタルトキハ記載事項相違ノ有無ヲ精査シ他府縣下ヨリ轉住シ來リタル者ニ付キテハ免狀寫ト本免狀トヲ照査シ相違ナキコトヲ確認シタル上本證書對照濟ノ旨ヲ記シ取扱者署名捺印シテ進達シ縣内他市町村ヨリノ轉住届ニ付テハ前住所地ノ市町村長ニ其ノ旨通知スヘシ

第七條 齒科醫師法施行規則第一條及第七條ノ願届アリタルトキハ左記様式ノ名簿ニ記載シ同則第三條、第四條、第七條ノ願届アリタル場合ハ之ヲ整理スヘシ

第八條 齒科醫師法施行規則第十一條及第十二條ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ同則所定ノ期間内ニ規定ノ手續ヲ履行セシムヘシ

生 年 月 日	登 録 年 月 日	登 録 番 號	名 氏 (女子ナルトキハ其旨記入)	族 稱	登 録 事 項 (變更ノ内 容再下付 各共ノ年 並)	資 格 及 其 取 得 ノ 月

●藥劑師法

大正十四年四月十四日
法律第四十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル藥劑師法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

藥劑師法

- 第一條 藥劑師トハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方箋ニ依リ調劑ヲ爲ス者ヲ謂フ
- 第二條 藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 藥劑師タラムトスル者ハ内務大臣ノ免許ヲ受ケ藥劑師名簿ニ登錄ヲ受ケヘシ
- 前項ノ免許ヲ受ケルニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有スルコトヲ要ス
- 一 大學令ニ依ル大學ニ於テ藥學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者、官立公立ノ藥學專門學校、醫科大學附屬藥學專門部若ハ醫學專門學校藥學科ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メ指定シタル學校ヲ卒業シタル者
 - 二 藥劑師試驗ニ合格シタル者
 - 三 外國ノ藥學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ藥劑師ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スルモノ
- 第一項ノ登錄及前項第二號ノ藥劑師試驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 内務大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ藥劑師ノ免許ヲ

本籍(外國人ニ在リテハ其ノ國籍)	住 所	開 業 地	犯 罪 並 二 行 政 處 分 要 旨	備 考

凡 例

- 一、非開業ノモノハ其ノ旨開業地ノ欄ニ記入スルコト
- 二、住所移轉其ノ他ノ事由ニ依リ名簿ヨリ削除シタルトキハ別ニ削除簿ヲ作成ノ上之ニ移スコト
- 三、資格及其ノ取得年月日欄ニハ何々學校卒業、何試驗及第及資格取得年月日ヲ記載スヘシ

〔山梨警〕

爲スコトヲ得ス

- 一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 未成年者、禁治産者又ハ準禁治産者
- 三 精神病者、瘖啞者又ハ盲者

第四條 内務大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ藥劑師ノ免許ヲ爲ササルコトヲ得

- 一 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 藥事ニ關シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ不正ノ行爲アリタル者

第五條 藥劑師ニ非サレハ販賣又ハ授與ノ目的ヲ以テ調劑ヲ爲スコトヲ得

藥劑師販賣又ハ授與ノ目的ヲ以テ調劑ヲ爲ス場合ニ於テハ藥局ニ於テ之ヲ行フヘシ

第六條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ管理スルコトヲ得ス藥劑師ト雖二以上ノ藥局ヲ管理スルコトヲ得ス

第八條 藥劑師ハ調劑ノ需アル場合ニ於テハ晝夜ヲ問ハズ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 藥劑師ハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ氏名ヲ自己シ又ハ調劑シタル處方箋ニ依リ調劑スヘキモノトス但シ處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其ノ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ニ質シ證明ヲ得ルニ非サレハ調劑ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 藥劑師ハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方箋ニ記載セラレタル藥品ニ付之ヲ省略シ又ハ他ノ藥品ヲ以テ之ニ代ヘ調劑ヲ爲スコトヲ得ス但シ

藥品ニシテ缺乏セルモノアル場合ニ於テ其ノ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 藥劑師毒藥又ハ劇藥ヲ配伍シタル調劑ヲ爲シタルトキハ處方箋ニ檢印シ其ノ日附ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ但シ處方箋ニ指定スル使用期間ニ對スル調劑ノ全部ヲ了ラサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ處方箋ニ調劑ノ年月日及調劑量ヲ記入シ記名捺印スヘシ

第十二條 藥局開設者ハ藥局ニ調劑録ヲ備フヘシ

藥劑師調劑ヲ爲シタルトキハ直ニ調劑録ニ調劑ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

調劑録ハ三年間之ヲ保存スヘシ

第十三條 藥劑師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣藥劑師會ヲ設立スヘシ

道府縣藥劑師會ハ日本藥劑師會ヲ設立スルコトヲ得

道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ藥事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

道府縣藥劑師會ハ道府縣ヲ、日本藥劑師會ハ内地ヲ區域トス

第十四條 道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十五條 本法ニ規定スルモノノ外道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 藥劑師第三條各號ノ一ニ該當スルトキハ内務大臣ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

藥劑師第四條各號ノ一ニ該當スルトキハ内務大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第三條第二號又ハ第三號ノ原因止ミ

タルトキ又ハ改後ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ爲スコトヲ得

内務大臣第二項ノ處分ヲ行フ場合及改後ノ情顯著ナル者ニ對シ前項ノ再免許ヲ爲ス場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十七條 第五條第一項、第六條第一項、第七條若ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ業務停止中ノ藥劑師ニシテ其ノ業務ヲ爲シタルモノハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條 第五條第二項、第八條若ハ第十條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル者又ハ誤リテ調劑ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年三月勅令第十五號ヲ以テ同年同月二十日ヨリ施行)

藥品營業並藥品取扱規則中第一條乃至第十五條、第十六條乃至第十九條、第四十一條ノ五、第四十三條第一項、第四十四條、第四十六條、第四十六條ノ二第一項及第三項並之ニ伴フ罰則ノ規定ハ之ヲ廢止ス

醫師、齒科醫師又ハ獸醫ハ其ノ診療ニ用フヘキ藥品ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ第五條第一項ノ規定ニ拘ラス調劑ヲ爲スコトヲ得

本法施行ノ際現ニ藥劑師タル者ハ本法ニ依リ藥劑師ノ免許ヲ受ケ藥劑師名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ帝國大學醫科大學藥學科卒業シタル者ハ大學令ニ依リ大學ニ於テ藥學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者、高等中學校醫學部藥學科又ハ高等學校醫學部藥學科卒業シタル者ハ官立藥學專門學校卒業シタル者ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

●藥劑師法施行規則

大正十五年三月十八日 内務省令第六號

藥劑師法施行規則左ノ通定ム

第一章 藥劑師法施行規則

第一條 藥劑師ノ免許及登錄ヲ受ケムトスル者ハ藥劑師法第二條第二項ノ資格、資格ヲ取得シタル年月及住所氏名ヲ記載シタル申請書ニ戶籍抄本ヲ添ヘ住所地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ依リ)ヲ經由シ之ヲ内務大臣ニ提出スヘシ

内務大臣免許ヲ爲シ藥劑師名簿ニ登錄シタルトキハ藥劑師免許證ヲ下付ス

第二條 藥劑師名簿ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

- 一 登錄番號及登錄年月日
- 二 族籍(外國人ナルトキハ其ノ國籍)、氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨
- 三 藥劑師法第二條第二項ノ資格及資格ヲ取得シタル年月
- 四 業務ノ停止其ノ事由、期間及年月日
- 五 免許證ノ再下付其ノ事由及年月日
- 六 登錄抹消ノ事由及年月日

第三條 前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許證及戶籍抄本ヲ添ヘ三十日以内ニ住所地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ登錄ノ變更ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許證ヲ添ヘ住所地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ登錄ノ變更ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條 免許證ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ毀損ノ場合ニ於テハ其ノ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金一圓ヲ納付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ免許證ヲ再下付テ申請シタル後亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第五條 第一條又ハ前二條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録稅又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ

第六條 藥劑師登録ノ抹消ヲ受ケムトスルトキハ免許證ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ申請スヘシ

第七條 藥劑師死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戶籍法ニ依リ死亡又ハ失踪ノ届出義務者ニ於テ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 藥劑師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出シヘシ

第九條 前項ノ届出ヲ受ケタル地方長官前ノ住所地ノ地方長官ト異ナル場合ニ於テハ前ノ住所地ノ地方長官ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十條 藥劑師法第六條第一項但書ノ規定ニ依リ藥局ヲ開設スルコトヲ得ル者左ノ如シ

一 公共團體

二 地方長官ニ於テ特ニ必要ト認メ許可シタル者

第九條 藥局ヲ開設シタルトキハ藥局ノ所在地及名稱並藥局ヲ自ラ管理セサル場合ニ於テハ管理者タル藥劑師ノ氏名ヲ具シ十日以内ニ藥局所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ藥局ヲ廢止シ又ハ藥局ノ名稱若ハ管理者ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十條 藥局ハ其ノ採光換氣ヲ十分ナラシメ且清潔ヲ保ツヘシ

第十一條 藥局ニハ冷暗所ヲ設クヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニハ感量十ミリグラムノ天秤及感量五百ミリグラムノ上皿ヲ秤其ノ他調劑ニ必要ナル器具ヲ備フヘシ

第十四條 地方長官必要アリト認ムルトキハ第十條、第十一條及前條ニ規定スル藥局ノ設備ニ關シ其ノ新設、變更ヲ命シ若ハ其ノ使用ヲ停止シ又

ハ藥局ノ清潔保持ニ付必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十五條 藥劑師法第十二條第二項ノ規定ニ依リ調劑錄ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

一 處方箋ニ記載セル事項

二 調劑ノ年月日

三 調劑者ノ氏名

四 處方箋ニ指定スル使用期間ニ對スル調劑ノ全部ヲ了ラサルトキハ調劑量

五 藥劑師法第九條但書ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ證明ヲ得タルトキハ其ノ旨

六 藥劑師法第十條但書ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ同意ヲ得テ調劑ヲ爲シタルトキハ其ノ旨並藥品名及分量

第十六條 藥劑師販賣又ハ授與ノ目的ヲ以テ調劑ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ藥劑ノ容器又ハ被包ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 處方箋ニ記載セル患者ノ氏名並用法及用量

二 藥局ノ所在地及名稱並調劑者ノ氏名

三 調劑ノ年月日

第十七條 地方長官藥劑師法第十六條第一項乃至第三項ノ規定ニ依リ處分ヲ必要ト認ムルトキハ内務大臣ニ具申スヘシ

第十八條 前項ノ場合ニ於テハ豫メ道府縣藥劑師會ノ意見ヲ徵スヘシ但シ藥劑師法第十六條第一項ノ規定ニ依リ處分ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 藥劑師法第十六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ免許取消ノ處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ

第二十條 藥劑師法第十六條第二項ノ規定ニ依リ業務停止ノ處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ免許證ノ裏面ニ處分ノ要旨ヲ記載シ期間満了ノ後之ヲ還付スヘシ

〔山梨書〕

第二十條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

一 藥劑師名簿ニ登録シ又ハ登録ヲ抹消シタルトキ

二 免許證ヲ再下付シタルトキ

三 業務停止ノ處分ヲ爲シタルトキ

第二十一條 第十二條、第十六條、第十八條若ハ第十九條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ第十四條ノ規定ニ依リ處分ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十二條 第三條第一項、第四條第一項、第三項、第六條第二項、第七條第一項又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ藥劑師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十五年三月二十日)

藥劑師法附則第三項ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ニ於テ調劑ヲ爲ス場合ニ關シテハ第十條、第十一條、第十三條及第十四條並其ノ罰則ノ規定ヲ準用ス

地方長官ハ監視員ヲシテ前項ノ調劑ヲ爲ス場所ヲ巡視セシムルコトヲ得

●藥劑師法第二條第二項第三號ノ資格ニ關スル件

大正十五年三月十八日 勅令第十六號

於藥劑師法第二條第二項第三號ノ資格ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 藥劑師法第二條第二項第三號ノ資格ニ依リ藥劑師ノ免許ヲ受ケル

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

●藥劑師法施行細則

大正十五年七月十九日 山梨縣令第九號

改正 昭和七年七月縣令第二四號

藥劑師法施行細則左ノ通定ム

藥劑師法施行細則

第一條 藥劑師ノ免許及登録ヲ受ケムトスル者ハ藥劑師法施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)第一條ニ依リ書類ニ資格證書寫並藥劑師法第三條及第四條ニ關スル身分證明書ヲ添付スヘシ

第二條 規則第七條ノ届書ハ左ノ各號ノ事項ヲ具備スヘシ但シ縣内ニ於テハ變更ニシテ同一警察署内ノモノニ付テハ第三號ヲ省略スルコトヲ得

一 原籍、族稱、住所、氏名、生年月日

二 前住所地

三 免許證ノ寫

コトヲ得ル者左ノ如シ

一 内務大臣ノ指定シタル外國ノ國籍ヲ有シ其ノ國ニ於テ藥劑師ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ内務大臣ニ於テ適當ト認定シタル資格ヲ有スル者

二 外國ノ藥學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ藥劑師ノ免許ヲ受ケタル帝國臣民ニシテ内務大臣ニ於テ適當ト認定シタル者

第二條 前條第一號ノ規定ニ依リ指定ヲ爲スハ帝國ノ藥劑師ニ對シ試験ヲ要セス藥劑師ノ免許ヲ爲ス國タルコトヲ要ス

附則

本令ハ藥劑師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十五年三月二十日ヨリ施行)

- 四 官公署及官公立私立病院ニ奉職スルモノハ其ノ官公署、病院名
- 第三條 同一府縣内ニ於ケル原籍ノ異動ノ場合ハ十日以内ニ戸籍抄本ヲ添ヘ知事ニ届出ツヘシ
- 第四條 規則第八條第二號ニ依ル藥局開設ヲ許可スル場合左ノ如シ
 - 一 藥局開設者死去シ直ニ藥局ヲ閉鎖スルトキハ其ノ遺族生活ニ苦シム等特別ノ事情アリテ相續人ニ對シ一定ノ期間繼續開設セシムルモ支障ナシト認ムル場合
 - 二 公益ノ目的ヲ以テ藥局ヲ開設スル場合其ノ他公益上必要ト認ムル場合
 - 三 土地ノ狀況ニ依リ公衆衛生上藥局ノ開設ヲ必要ト認ムル場合
 - 四 法人ノ代表者藥劑師ノ資格ヲ有シ自ラ事業經營監督ノ任ニ當リ事實上藥劑師力開設スルト同一視セラルヘキ場合
- 第五條 前條ノ規定ニ依リ藥局開設ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ原籍、住所、氏名、生年月日、藥局開設場所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所在在、藥劑師タル代表者ノ氏名ヲ記シ定款及代表者タル藥劑師免許證書ヲ添付スヘシ）及藥局開設事由ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ
- 第六條 藥局ニハ規則第十三條ノ規定ニ依ル各天秤ノ外左ノ器具ヲ備フヘシ但シ醫師、齒科醫師、獸醫師ノ調劑所ニ付テハ截丸器、成器丸、坐劑器、篩器、剉細器ハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
 - 一 調劑臺
 - 二 十立方センチメートル、二十立方センチメートル、百立方センチメートル、二百立方センチメートルノ各液量器、五百立方センチメートルノ熱湯計、三十立方センチメートルノ滴機（日本藥局方ノ規定ニ依ルモノ）
 - 三 硝子製乳鉢（内用専用ノモノ）磁製乳鉢（外用専用ノモノ）截丸器、成

〔山梨醫〕

- 丸器、浸煎劑器、坐劑器
- 四 匙（金屬製角製）筥（金屬製角製）漏斗（硝子製、磁製）篩器（六ツ組日本藥局方規定ノモノ）剉細器
- 五 滅菌器
- 第七條 當該官吏ヨリ免許證ノ提示ヲ求メタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第八條 第四條、第五條ノ規定ニ依リ藥局開設ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ左ノ一ニ該當スルトキハ藥局ノ使用ヲ停止シ又ハ藥局開設ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 一 業務上犯罪又ハ不正ノ所爲アリタルトキ
 - 二 藥局開設ノ許可ヲ受ケ三十日以上開業セス又ハ九十日以上休業シタルトキ
 - 三 第四條第二號又ハ第三號ニ依ル藥局開設許可後其ノ必要ナシト認メタルトキ
- 第九條 規則ニ依リ内務大臣ニ提出スヘキ書類ニハ別ニ左記様式ノ進達願ヲ添付スヘシ
- 第十條 規則又ハ本則ニ依リ提出スヘキ書類ハ總テ所轄警察署ヲ經由スヘシ
- 第十一條 第七條ノ規定ニ違反シタルモノハ科料ニ處ス
- 附則
 - 第十二條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 - 第十三條 大正十五年七月縣令第九號藥劑師法施行細則ハ之ヲ廢止ス（舊式）

原籍 住所

右ハ別紙何々（内務大臣ニ提出スヘキ書類ノ名稱ヲ記ス）其ノ筋ヘ御進達相成度及御願候也

年 月 日

知事宛

氏 名

氏 名

生年月日

〔山梨醫〕

●藥劑師法施行細則取扱手續

大正十五年七月十九日 山梨縣訓令第八十七號

改正 昭和七年七月訓令第一〇號

警察署

藥劑師法施行細則取扱手續左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 藥劑師法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ
 - 一 藥劑師法第二條第二項規定ノ資格ニ關シテ願書ニ添付シタル卒業證書又ハ試験合格證書寫ト對照ノ上正當ノモノト認定シタルトキハ申請書ノ餘白又ハ資格證書寫ニ資格證書對照濟ノ旨記入シ必ス之カ取扱者ノ氏名ヲ明記シ官公署印ヲ捺捺ノ上進達スヘシ
 - 二 申請書ニ添付シタル身分證明書ニ關シ意見アル場合ハ調査書ヲ作製（意見ヲ記入）添付スヘシ
- 第二條 藥劑師ノ縣内ニ於ケル住所變更ノ場合届書ヲ受理シタル時ハ後ノ住所地ノ警察署長ハ前ノ住所地ノ警察署長ニ其旨通知スヘシ

- 第三條 免許證ノ再下付申請ニ對シテハ申請者ニ人違ナキヤ其ノ事由ノ眞實ナルヤ等調査シ尙警テ再下付ヲ申請セシ事實アラハ其ノ年月日並申請書提出ノ官公署名ヲ明記セシメ進達スヘシ
- 第四條 規則第三條第二項ノ申請ニ付テハ其ノ變更ニ關スル新資格證書寫ト本證書トヲ對照シ第一條ニ準シ取扱フヘシ
- 第五條 規則第一條、第三條、第四條ノ申請書ニハ同則第五條規定ノ收入印紙ヲ貼用シタルモノニアラサレハ進達スヘカラス
- 第六條 規則第八條第二號ニ基キ藥劑師法施行規則第四條、第五條ニ依リ藥局開設願ノ提出アリタル場合ハ意見ヲ付シ進達スヘシ
- 第七條 規則第六條ノ申請ニシテ失踪ノ場合ハ失踪宣告書ノ寫又ハ戸籍抄本ヲ添付セシムヘシ
- 第八條 警察署ハ左記甲號様式ノ藥劑師名簿ヲ備付異動ノ都度整理スヘシ
- 第九條 規則第八條ニ依リ藥局開設ノ許可アリタル時並同則第九條ニ依リ藥局開設ノ届出アリタル時ハ左記乙號様式ノ名簿ヲ備付異動ノ都度整理スヘシ

附則

大正十五年七月縣令第八十七號藥劑師法施行細則取扱手續及大正十五年十月發給第三百四號藥劑師名簿調製之件

昭和四年七月一日警訓第十二號藥局臺帳ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

甲號様式

登錄年月日	年 月 日	資格及
登錄番號	第 號	其ノ取得
族 稱		年 月

氏名 女子ナルト キハ其ノ旨 記入	生年月日	本籍 外國人ナル トキハ其ノ 國籍	住所	開業地	犯罪再 行政處分 要旨	備考	登録事項 變更ノ内 容再下付 ノ事由並 各其ノ年 月日
							山梨縣
藥劑師名簿							
山梨縣							

〔山梨縣〕

- 凡例
- 一、非開業ノモノハ其旨開業地ノ欄ニ記入スルコト
 - 二、住所異動其他ノ事由ニ依リ名簿ヨリ削除シタル時ハ事由ヲ記シ朱線ヲ引キ抹消スヘシ
 - 三、資格及其ノ取得年月欄ニハ何々學校卒業何試験及第及資格取得年月ヲ記載スヘシ

乙種様式

藥局年月日 開設年月日	藥局名稱	住 所	本 籍
藥局年月日 廢止年月日	置藥場 所設	氏 名	生年月日
記事			

醫師齒科醫師藥劑師懲罰報告ノ件

明治四十四年十二月
山梨縣訓令乙第三五五號
醫師齒科醫師ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若クハ不正行爲アリタルトキハ其都度左ノ各項調査報告スヘシ

〔山梨縣〕

醫師會令

大正八年九月二十五日
勅令第四百二十九號

改正 大正十一年八月勅令第三八一號、一二年五月第二七二號、昭和三年四月第六六號、八年一〇月第二七三號

朕醫師會令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醫師會令

- 第一條 醫師法第九條第二項ノ醫師ハ郡市醫師會ヲ設立スヘシ但シ市制第六條ノ市ニシテ內務大臣ノ指定シタルモノニ於テハ市醫師會ヲ設立セズ區醫師會ヲ設立スヘシ
- 第二條 本令ニ於テ醫師會ト稱スルハ郡市區醫師會又ハ道府縣醫師會ヲ謂フ
- 第三條 本令ニ依リ設立シタル醫師會ニ非サレハ郡、市、區、道、府又ハ縣ノ文字ヲ冠スル醫師會ノ名稱又ハ之ニ類スル名稱ヲ附スルコトヲ得ス
- 第四條 郡市區醫師會ノ設立ハ會員ト爲ルヘキ者五人以上設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ヘシ
- 第五條 設立總會ノ召集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ
- 第六條 設立總會ニ於テハ郡市區醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ設立總會ニ出席スルコト能ハサル者ハ豫メ書面ヲ以テ出席者ニ委任シテ表決權ヲ行フコトヲ妨グス
- 第七條 此ノ場合ニ於テハ之ヲ設立總會ニ出席シタル者ト看做ス
- 第八條 道府縣醫師會ノ設立ハ道府縣廳所在地ノ郡市區醫師會ノ會長設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ヘシ
- 第九條 設立總會ノ召集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

- 一 住所氏名年齢
 - 一 行政處分要否ニ關スル意見
 - 一 其所爲ノ動機(例令ハ一定ノ報酬ヲ得ンカ爲ナ
ルカ又ハ情義ノ結果ナルカ等)
 - 一 其所爲ノ影響(主トシテ公衆衛生上ニ及ホシタル影響ヲ云フ、例令
ハ傳染病ヲ隱蔽シタル爲メ一部落ニ傳播シタルカ如
キ記
事)
 - 一 素行
 - 一 附近同業者ノ有無多少等
 - 一 其他參考事項
- 藥劑師其業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アリタルトキハ醫師齒科醫師ノ例ニ準シ其都度報告スヘシ
- 明治四十二年一月内示第三號ハ廢止ス

設立總會ニ於テハ道府縣醫師會ノ會員ト爲ルヘキ郡市區醫師會カ其ノ會員中ヨリ選舉シタル委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス
第三項ノ委員ノ數ハ會員二十人以上ノ郡市區醫師會ニ在リテハ一人トシ會員二十人ヲ超ユルモノニ在リテハ會員三十人又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ一人ヲ加フ

第六條 醫師會ノ設立總會ニ於テ醫師會設立ノ議決ヲ爲シタルトキハ設立委員ハ會則案ヲ添ヘ速ニ其ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ
醫師會ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第九條ノ規定ニ依リ會則ノ設定アリタル時成立スルモノトス

第七條 醫師會成立シタルトキハ地方長官ハ醫師會ノ名稱、區域、事務所ノ所在地及成立ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第八條 (削除)
第九條 地方長官ハ醫師會設立ノ義務ノ生シタル時ヨリ六月内ニ第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ醫師會設立ノ議決ヲキトキハ醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者ニ設立委員ヲ命ジ、會則ノ設定ヲ爲シ其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條 醫師會ノ會則ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スヘシ
一 名稱及區域
二 事務所ノ所在地
三 役員ノ種類、數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
四 道府縣醫師會ニ在リテハ議員又ハ豫備議員ノ選任、解任及任期ニ關

スル規定
五代議員ヲ設クル郡市區醫師會ニ在リテハ代議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定

六 總會其ノ他會議ニ關スル規定
七 經費ノ分賦徵收ニ關スル規定
八 財産及營造物ノ管理及處分ニ關スル規定
九 庶務及會計ニ關スル規定
十 郡市區醫師會ニ在リテハ醫師法第九條第三項ノ醫師ノ入會及退會ノ手續ニ關スル規定

十一 郡市區醫師會ニ在リテハ會員ノ風紀保持ニ關スル規定
第十二條 醫師會ノ會則ノ變更ハ總會ノ議決ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 道府縣醫師會ノ總會ハ道府縣醫師會ノ會員タル郡市區醫師會カ其ノ會員中ヨリ選舉シタル道府縣醫師會議員ヲ以テ之ヲ組織ス
前項ノ議員事故アルトキハ郡市區醫師會カ其ノ會員中ヨリ選舉シタル道府縣醫師會豫備議員道府縣醫師會會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコトヲ得

第十四條 醫師會ノ總會ニ於テ左ニ掲グル事項ヲ議決スル場合ニ於テハ其ノ會員、代議員又ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲

スル規定
一 法令又ハ會則ニ規定スル事項
二 醫事衛生ニ關シ行政廳ヨリ諮問セラレタル事項
三 醫事衛生ニ關シ行政廳ニ建議スル事項
四 醫事衛生ノ研究及施設ニ關スル事項
五 救療ニ關スル事項
六 醫藥報酬ノ標準額ニ關スル事項
第十七條 道府縣醫師會ハ其ノ會員ト診療委嘱者トノ間ニ紛議ヲ生ジタルトキハ當事者ノ請求ニ因リ其ノ調停ヲ爲スコトヲ得

第十八條 行政官廳ハ醫事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ醫師會ニ命スルコトヲ得
第十九條 醫師會ノ經費及醫師會設立ニ關スル經費ハ其ノ會員ノ負擔トス
第二十條 郡市區醫師會ハ會則ヲ以テ新ニ入會シタル會員ニ付其ノ入會ノ時ヨリ三月以内ノ期間ヲ限リ議員、豫備議員又ハ役員ノ選舉權及被選舉權並ニ代議員ノ被選舉權ヲ有セザルコトヲ定ムルコトヲ得

第二十一條 醫師會ハ郡市區醫師會ノ會員中醫師法第二條第二號ニ該當シ又ハ業務ニ關シ不正ノ行爲アリ免許取消又ハ醫業停止ノ處分ヲ必要ト認ムル者アルトキハ總會ノ議決ニ依リ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得醫師法第十條第三項ニ該當スル者アリト認ムルトキ亦同シ

第二十二條 郡市區醫師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ヲ經テ左ノ各號ノ一ニ掲グル懲戒ヲ行フコトヲ得但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ併セ行フコトヲ妨ケス

一 誹責
二 五百圓以下ノ過怠金
三 三年内議員、豫備議員及役員ノ選舉權及被選舉權並ニ代議員ノ被選舉權ノ停止

第十七條 會長ハ會務ヲ總理シ醫師會ヲ代表ス
副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
第十七條ノ二 會長及會長ノ職務ヲ代理スル者故障アルトキハ地方長官ハ會員又ハ議員中ヨリ假役員ヲ定メ臨時會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十八條 醫師會ニ於テ議決シ又ハ施行シ得ル事項左ノ如シ
一 總會ノ議決ニ依リ役員ヲ選舉シタルトキハ速ニ其ノ氏名ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
二 前項ノ規定ニ依リ役員ヲ選舉シタルトキハ速ニ其ノ氏名ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

代議員、議員、準備議員又ハ役員タル者前項第三號ノ規定ニ依リ被選舉權ヲ停止セラレタルトキハ解任セラレタルモノトス

第二十三條 醫師會ノ會則及議決ハ其ノ會員ヲ編東ス

第二十三條ノ二 醫師會ノ經費ノ分賦又ハ懲戒ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ醫師會ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ醫師會ハ二月以内ニ決定ヲ爲シ申立人ニ之ヲ通知スベシ

前項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル地方長官ノ裁決ニ付テハ當該醫師會ヨリモ總會ノ議決ヲ經テ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ規定ニ依リ地方長官ニ訴願セントスルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル醫師會ヲ經由スベシ此ノ場合ニ於テハ訴願法第十一條第一項ノ規定ヲ準用ス

異議ノ申立又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ノ處分ノ通知又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ

異議ノ申立ニ關シテハ訴願法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條 地方長官ハ醫師會ノ議決若ハ選舉又ハ施行スル事項ヲ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命スルコトヲ得

地方長官ハ醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行為ヲ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ三年間醫師會及日本醫師會ノ役員ト爲ルコトヲ得ス

第二十五條 醫師法第十條ノ規定ニ依リ醫業ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止中醫師會ノ總會ニ出席シ若ハ總會ニ於ケル表決權ヲ行ヒ又ハ醫師會ノ役員タルコトヲ得ス

第二十六條 醫師會ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ毎年度ノ豫算、決算及會務ノ狀況ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第二十六條ノ二 地方長官ハ必要ト認ムルトキハ醫師會ニ對シ臨時會務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ會務執行若ハ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第二十六條ノ三 醫師會借入金ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケベシ

第二十七條 地方長官必要ト認ムルトキハ都市區ノ區域ニ依ラズ都市區醫師會ノ區域ヲ定ムルコトヲ得

第二十八條 道府縣市區ノ廢置分合ニ依リ又ハ前條ノ規定ニ依リ醫師會ノ區域ニ變更ヲ生ジタル爲醫師會存立セザル區域ヲ生ジタルトキハ其ノ區域ノ醫師會ノ會員タルヘキ者ハ其ノ區域ニ依リ醫師會ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ假ニ會則ヲ定メ假役員又ハ假議員ヲ選任シテ役員又ハ議員ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

第一項ノ規定ニ依リ設立シタル醫師會ハ會則ヲ議決シ其ノ認可ヲ設立ノ時ヨリ二月以内ニ地方長官ニ申請スヘシ

第二十九條 醫師會ノ區域ニ變更ヲ生ジタル爲財産處分ヲ要スルトキハ關係醫師會ノ協議ニ依リ財産處分方法ヲ定ムベシ

醫師會ノ區域ニ變更ヲ生ジタル爲消滅シタル舊醫師會ハ前項ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍之ヲ存續スルモノト看做ス

人トシ五百人ヲ超ユルモノニ在リテハ五百人又ハ其ノ端數ヲ加フル毎二人ヲ加フ

第三十三條 本令ニ依リ設立シタル日本醫師會ニ非サレハ日本醫師會ノ名稱又ハ之ニ類スル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第三十四條 日本醫師會ノ總會ハ道府縣醫師會カ其ノ會員タル都市區醫師會ノ會員中ヨリ選舉シタル日本醫師會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ議員事故アルトキハ道府縣醫師會カ其ノ會員タル都市區醫師會ノ會員中ヨリ選舉シタル日本醫師會議員日本醫師會會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ選舉スヘキ議員ノ數ハ第三十二條第五項ノ委員ノ數ノ例ニ依ル但シ日本醫師會會則ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三十四條ノ二 日本醫師會ノ經費ノ分賦ヲ受ケタル道府縣醫師會其ノ處分ニ不服アルトキハ日本醫師會ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ日本醫師會ハ二月以内ニ決定ヲ爲シ異議ノ申立ヲ爲シタル道府縣醫師會ニ之ヲ通知スベシ

前項ノ決定ヲ受ケタル道府縣醫師會其ノ決定ニ不服アルトキハ總會ノ議決ヲ經テ内務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ内務大臣ニ訴願セントスルトキハ日本醫師會ヲ經由スベシ此ノ場合ニ於テハ訴願法第十一條第一項ノ規定ヲ準用ス

異議ノ申立又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ノ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ

異議ノ申立ニ關シテハ訴願法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 内務大臣ハ日本醫師會ノ議決又ハ施行スル事項ヲ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決ヲ取消

第一項ノ協議ヲ爲サス又ハ協議調ハサル場合ニ於ケル財産處分方法ハ關係醫師會ノ區域カ道府縣醫師會シクスル場合ニ於テハ地方長官、異ニスル場合ニ於テハ内務大臣ノ之ヲ定ム

第二十九條ノ二 市制第六條ノ市ニ付第一條第一項但書ノ規定ニ依リ内務大臣ノ指定アリタルトキハ其ノ指定ノ時ニ市醫師會ハ消滅シ區醫師會ハ設立セラレタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ第二十八條第二項第三項及前條ノ規定ヲ準用ス

第三十條 醫師會ハ本令ニ依リ地方長官ノ爲シタル處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得訴願スル場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第二十四條第二項ノ規定ニ依リ解任セラレタル役員又ハ假役員其ノ解任ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第三十一條 北海道、沖繩縣及島地ニ關シ本令中ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ地方長官別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 日本醫師會ノ設立ハ五人以上ノ道府縣醫師會ノ會長設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ道府縣醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立總會ヲ開キ其ノ議決ヲ經ヘシ

設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

設立總會ニ於テハ道府縣醫師會カ其ノ會員タル都市區醫師會ノ會員中ヨリ選舉シタル委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス

第三項ノ委員ノ數ハ會員タル都市區醫師會ノ會員總數二百人以上ノ道府縣醫師會ニ在リテハ一人、二百人ヲ超エ五百人以上ノモノニ在リテハ二

シ、其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命シ又ハ其ノ解散ヲ命スルコトヲ得

内務大臣ハ日本醫師會ノ選舉方法令又ハ會則ニ違反スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ選舉ヲ取消スコトヲ得

第三十六條 日本醫師會解散セムトスルトキハ總會ノ議決ニ依リ道府縣醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得事由ヲ具シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項總會ノ會議及議決ハ第十四條ノ例ニ依ル

第三十七條 日本醫師會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

日本醫師會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ内務大臣清算人ヲ選任ス清算人關ケタルトキ亦同シ

清算人ハ日本醫師會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財産處分ニ付テハ内務大臣ニ届出ヅベシ

内務大臣必要ト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十八條 第六條、第七條、第十條、第十一條、第十四條乃至第十八條、第十九條、第二十條、第二十三條、第二十四條第二項第三項、第二十五條、第二十六條乃至第二十六條ノ三及第三十條中醫師會ニ關スル規定及道府縣醫師會ニ關スル規定ハ日本醫師會ニ之ヲ準用ス但シ同條中地方長官又ハ行政官廳トアルハ内務大臣、當該醫師會ノ會員タル郡市區醫師會トアルハ郡市區醫師會トス

〔山梨醫〕

附則 本令ハ大正八年法律第五十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正八年十月一日ヨリ施行)

附則 (昭和八年勅令第二百七十三號)

本令ハ昭和八年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和八年十一月一日ヨリ施行)

醫師會令施行細則

大正八年十二月 山梨縣令第四十九號

改正 昭和八年一月縣令第六二號

第一條 郡市區醫師會又ハ縣醫師會ノ設立認可申請書ニハ會則案ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 設立總會ノ會議錄謄本

二 會員又ハ委員全部ノ住所氏名ヲ記載シタル書類

第二條 醫師會ハ其ノ設立後五日以内ニ事務所ノ位置ヲ知事ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタル場合亦同シ

第三條 醫師會ハ總會ヲ開會セントスルトキハ開會七日前ニ其ノ日時場所及議案ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

臨時總會又ハ議案ニシテ前項ノ期間内ニ届出ルコト能ハサル場合ハ其ノ

〔山梨醫〕

決定ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第四條 醫師會令第十一條ノ規定ニ依ル會則變更ノ認可申請ニハ會議錄ノ謄本ヲ添付スヘシ

第五條 醫師會ニ於テ其ノ財産又ハ營造物ノ處分ヲ爲サムトスル場合ハ其ノ決議錄ヲ添ヘ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 醫師會ニ於テ藥價、診察料、檢案料手術料其ノ他業務上ノ報酬ニ關スル事項ヲ決議シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

第七條 醫師會令第十三條ノ規定ニ依リ縣醫師會議員及豫備議員ヲ選舉シタルトキハ速ニ其ノ氏名ヲ知事ニ届出ツヘシ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第八條 醫師會令第二十二條ノ規定ニ依リ懲戒ノ議決ヲ爲シタルトキハ五日以内ニ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

一 被處分者ノ住所氏名

一 懲戒ノ種別

一 過怠金額又ハ停止期間

第九條 醫師會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル

第十條 醫師會令第二十六條ノ規定ニ依リ届出ツヘキ豫算ハ第一號、第二號様式ニ依リ議決後十日以内ニ決算ハ第三號、第四號様式ニ依リ認定後十日以内ニ會務ノ狀況ハ四月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第十一條 醫師會ハ醫師會令又ハ本則ニ依リ認可申請若ハ届出ヲ要スルモノヲ除ク外總會ノ狀況及議決シタル事項ノ要領ヲ十日以内ニ知事ニ報告スヘシ

第十二條 醫師會令第二十六條ノ三ニ依リ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

一 借入金額

一 借入期間

一 利率

一 借入先

一 償還方法

一 擔保ノ有無及種別

一 借入ヲ要スル事由

第十三條 醫師會ハ左記各號ノ簿冊ヲ備ヘ所要ノ事項ヲ遺漏ナク記入又ハ編綴スヘシ

一 例規書類

二 往復書類

三 收入支出豫算整理簿

四 備品及消耗品發送簿

五 郵便電信發送簿

收入支出豫算整理簿ハ第五號様式ニ備品及消耗品受拂簿ハ第六號様式ニ依ル

附則 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年山梨縣令第五十三號ハ之ヲ廢止ス

第一號様式

昭和何年度何々醫師會收入豫算書

科	目	本年度		前年度		比較	備考
		預算高	決算高	預算高	決算高		
第一款	財産收入						
第一項	基金利子						

各品目別ニ口座ヲ設ケ整理ノコト					
消耗品受拂簿					
年月日	摘要	受入	高拂	高残	高取
					氏名印

各品目別ニ口座ヲ設ケ記入スルコト

改正 昭和三年四月勅令第六七號、八年一〇月第二七五號
朕齒科醫師會令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

齒科醫師會令

- 第一條 本令ニ於テ齒科醫師會ト稱スルハ道府縣齒科醫師會、日本齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ヲ謂フ
- 第二條 本令ニ依リ設立シタル齒科醫師會ニ非サレハ郡、市、道、府、縣又ハ日本ノ文字ヲ冠スル齒科醫師會ノ名稱又ハ之ニ類スル名稱ヲ附スルコトヲ得ス
- 第三條 齒科醫師法第九條第二項及第十一條ノ四ノ規定ニ依リ道府縣齒科醫師會ノ會員タルヘキ者ハ道府縣齒科醫師會ヲ設立スヘシ
- 第四條 土地ノ狀況ニ依リ郡市齒科醫師會ノ區域ハ郡市ノ區域ニ依ラサルコトヲ得
- 第五條 道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ノ設立ハ會員ト爲スヘキ者五人以上設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ヘシ
設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ
設立總會ニ於テハ道府縣齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ設立總會ニ出席スルコト能ハサル者ハ豫メ書面ヲ以テ出席者ニ委任シテ表決權ヲ行フコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ之ヲ設立總會ニ出席シタル者ト看做ス
- 第六條 日本齒科醫師會ノ設立ハ五人以上ノ道府縣齒科醫師會ノ會長設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ道府縣齒科醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立總會ヲ開キ其ノ議決ヲ經ヘシ
設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

●齒科醫師會令

大正十五年三月十八日
勅令第十四號

〔山梨管〕

- 設立總會ニ於テハ道府縣齒科醫師會カ其ノ會員中ヨリ選舉シタル委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス
- 第三項ノ委員ノ數ハ會員總數二百人以上ノ道府縣齒科醫師會ニ在リテハ一人、二百人ヲ超エ五百人以内ノモノニ在リテハ二人トシ五百人ヲ超エルモノニ在リテハ五百人又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ一人ヲ加フ
- 第七條 齒科醫師會ノ設立總會ニ於テ齒科醫師會設立ノ議決ヲ爲シタルトキハ設立委員ハ會則案ヲ添ヘ速ニ其ノ認可ヲ主務官廳ニ申請スヘシ
主務官廳前項ノ規定ニ依リ郡市齒科醫師會ノ設立ヲ認可スル場合ニ於テハ豫メ道府縣齒科醫師會ノ意見ヲ徵スヘシ
- 齒科醫師會ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第九條ノ規定ニ依リ會則ノ設定アリタル時成立スルモノトス
- 第八條 齒科醫師會成立シタルトキハ主務官廳ハ齒科醫師會ノ名稱、區域、事務所ノ所在地及成立ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ
- 第九條 地方長官ハ道府縣齒科醫師會設立ノ義務ノ生シタル時ヨリ六月以内ニ第五條ノ規定ニ依リ道府縣齒科醫師會設立ノ議決ヲキトキハ道府縣齒科醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者ニ設立委員ヲ命ジ、會則ノ設定ヲ爲シ其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 齒科醫師會ノ會則ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ
 - 一 名稱及區域
 - 二 事務所ノ所在地
 - 三 役員ノ種類、數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
 - 四 日本齒科醫師會ニ在リテハ議員、豫備議員ノ選任、解任及任期ニ關

- スル規定
- 五 代議員ヲ設ケル道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ニ在リテハ代議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定
- 六 總會其ノ他會議ニ關スル規定
- 七 經費ノ分賦徵收ニ關スル規定
- 八 財産及營造物ノ管理及處分ニ關スル規定
- 九 庶務及會計ニ關スル規定
- 十 道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ニ在リテハ齒科醫師法第九條第三項又ハ同法第九條ノ三第二項ニ規定スル齒科醫師ノ入會及退會ノ手續ニ關スル規定
- 十一 道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ニ在リテハ會員ノ風紀保持ニ關スル規定
- 第十一條 齒科醫師會ノ會則ノ變更ハ總會ノ議決ニ依リ、主務官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十二條 道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ノ總會ハ其ノ會員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選舉シタル代議員ヲ以テ之ヲ組織スルコトヲ得
- 第十三條 日本齒科醫師會ノ總會ハ道府縣齒科醫師會カ其ノ會員中ヨリ選舉シタル日本齒科醫師會議員ヲ以テ之ヲ組織ス
前項ノ議長故障アルトキハ道府縣齒科醫師會カ其ノ會員中ヨリ選舉シタル日本齒科醫師會豫備議員日本齒科醫師會會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコトヲ得
- 第十四條 第一項ノ規定ニ依リ選舉スヘキ議員ノ數ハ第六條第五項ノ委員ノ數ノ例ニ依リ但シ日本齒科醫師會會則ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ケス
- 第十四條 齒科醫師會ノ總會ニ於テ左ニ掲クル事項ヲ議決スル場合ニ於テ

ハ其ノ會員、代議員又ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 會則變更ノ議決

二 第二十一條又ハ第二十二條第一項ノ議決

三 第二十七條第三項ノ議決

四 第三十條ノ議決

第五條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス

第十五條 齒科醫師會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會長 一人

副會長 一人又ハ二人

前項ノ外會則ノ定ムル所ニ依リ必要ナル役員ヲ置クコトヲ得

第十六條 道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ノ役員ハ其ノ會員中ヨリ、日本齒科醫師會ノ役員ハ道府縣齒科醫師會ノ會員中ヨリ各其ノ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第一回總會ニ於テ前項ノ役員ノ選任アル迄齒科醫師會ハ會則ヲ以テ假役員ヲ定メ會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ役員ヲ選舉シタルトキハ速ニ其ノ氏名ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ

第十七條 會長ハ會務ヲ總理シ齒科醫師會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會事故障アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

會長及會長ノ職務ヲ代理スル者故障アルトキハ主務官廳ハ道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ニ在リテハ其ノ會員中ヨリ、日本齒科醫師會ニ在リテハ道府縣齒科醫師會ノ會員中ヨリ假役員ヲ定メ臨時會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十八條 道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ハ其ノ會員中ヨリ新ニ入會シタル會員ニ付其ノ入會ノ時ヨリ三月以内ノ期間ヲ限リ議員、豫備議員又ハ役員ノ選舉權及被選舉權並ニ代議員ノ被選舉權ヲ有セザルコトヲ定ムルコトヲ得

第十九條 道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ハ其ノ會員中齒科醫師法第二條第二號ニ該當スル者アリ又ハ同法第十條第二項ノ規定ニ依リ免許取消若ハ齒科醫業停止ノ處分ヲ必要トスル者アリト認ムルトキハ總會ノ議決ニ依リ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得齒科醫師法第十條第

二十條 主務官廳ハ齒科醫事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ齒科醫師會ニ命スルコトヲ得

第二十一條 齒科醫師會ノ經費及齒科醫師會設立ニ關スル經費ハ其ノ會員ノ負擔トス

第二十二條 道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ハ會則ヲ以テ新ニ入會シタル會員ニ付其ノ入會ノ時ヨリ三月以内ノ期間ヲ限リ議員、豫備議員又ハ役員ノ選舉權及被選舉權並ニ代議員ノ被選舉權ヲ有セザルコトヲ定ムルコトヲ得

第二十三條 道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ハ其ノ會員中齒科醫師法第二條第二號ニ該當スル者アリ又ハ同法第十條第二項ノ規定ニ依リ免許取消若ハ齒科醫業停止ノ處分ヲ必要トスル者アリト認ムルトキハ總會ノ議決ニ依リ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得齒科醫師法第十條第

三項ノ規定ニ依リ再免許ヲ與フルヲ適當トスル者アリト認ムルトキ亦同シ

第二十二條 道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ニ依リ左ノ各號ノ一ニ掲クル懲戒ヲ行フコトヲ得但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ併セ行フコトヲ妨ケス

一 譴責

二 五百圓以下ノ過怠金

三 三年以内議員、豫備議員及役員ノ選舉權及被選舉權並ニ代議員ノ被選舉權ノ停止

代議員、議員、豫備議員又ハ役員タル者前項第三號ノ規定ニ依リ被選舉權ヲ停止セラレタルトキハ解任セラレタルモノトス

第二十三條 齒科醫師會ノ會則及議決ハ其ノ會員ヲ羈束ス

第二十三條ノ二 道府縣齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ノ經費ノ分賦又ハ懲戒ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ齒科醫師會ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ齒科醫師會ハ二月以内ニ決定ヲ爲シ申立人ニ之ヲ通知スベシ

前項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ裁決ニ付テハ當該齒科醫師會ヨリモ總會ノ議決ヲ經テ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ規定ニ依リ地方長官ニ訴願セントスルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル齒科醫師會ヲ經由スベシ此ノ場合ニ於テハ訴願法第十一條第一項ノ規定ヲ準用ス

異議ノ申立又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書若ハ裁

決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ

異議ノ申立ニ關シテハ訴願法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條 主務官廳ハ齒科醫師會ノ議決若ハ選舉又ハ其ノ施行スル事項ノ裁決若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命スルコトヲ得

主務官廳ハ日本齒科醫師會若ハ郡市齒科醫師會ノ議決又ハ其ノ施行スル事項ノ裁決若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ解散ヲ命スルコトヲ得

主務官廳ハ齒科醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行為若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ

得

主務官廳ハ齒科醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行為若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ

得

主務官廳ハ齒科醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行為若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ

得

主務官廳ハ齒科醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行為若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ

得

主務官廳ハ齒科醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行為若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ

得

主務官廳ハ齒科醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行為若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ

得

得
前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ三年間齒科醫師會ノ役員ト爲ルコトヲ得ス

第二十五條 齒科醫師法第十條第二項ノ規定ニ依リ齒科醫業ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止中齒科醫師會ノ總會ニ出席シ若ハ總會ニ於ケル表決權ヲ行ヒ又ハ齒科醫師會ノ役員タルコトヲ得ス

第二十六條 齒科醫師會ハ主務官廳ノ定ムル所ニ依リ毎年度ノ豫算、決算及會務ノ狀況ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ

第二十七條 主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ齒科醫師會ニ對シ隨時會務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ會務執行若ハ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第二十八條 齒科醫師會借入金ヲ爲サントスルトキハ主務官廳ノ認可ヲ受クベシ

第二十九條 道府縣ノ廢置分合ニ依リ道府縣齒科醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲道府縣齒科醫師會存立セサル區域ヲ生シタルトキハ其ノ區域ノ道府縣齒科醫師會ノ會員タルヘキ者ハ其ノ區域ニ依リ道府縣齒科醫師會ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ假ニ會則ヲ定メ假役員ヲ選任シテ役員ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

第一項ノ規定ニ依リ設立シタル道府縣齒科醫師會ハ會則ヲ議決シ其ノ認可ヲ設立ノ時ヨリ二月以内ニ地方長官ニ申請スヘシ

第三十條 道府縣齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲財産處分ヲ要スルトキハ關係齒科醫師會ノ協議ニ依リ財産處分方法ヲ定ムベシ

道府縣齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲消滅シ

〔山梨會〕

第三十二條 本令ニ於テ主務官廳トアルハ郡市齒科醫師會及道府縣齒科醫師會ニ在リテハ地方長官、日本齒科醫師會ニ在リテハ内務大臣トス

附則
本令ハ大正十四年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十五年三月二十日）

●齒科醫師會令施行細則

大正十五年七月十二日 山梨縣令第六六號

改正 昭和八年二月縣令第六三號
齒科醫師會令施行細則左ノ通定ム

第一條 齒科醫師會令施行細則
一 齒科醫師會ノ設立認可申請書ニハ會則案ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ
二 設立總會ノ會議錄原本
三 會員ノ住所氏名及總會ニ出席シタル會員ノ氏名ヲ記載シタル書類
四 齒科醫師會ハ成立後五日以内ニ事務所ノ位置ヲ知事ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタル場合モ亦同シ

第二條 齒科醫師會ヲ開會セムトスルトキハ七日前ニ其ノ日時場所及議案ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

緊急ニ依リ前項期間内ニ届出ツルコト能ハサル場合ハ其ノ決定ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 齒科醫師會令第十一條ノ規定ニ依ル會則變更ノ認可申請書ニハ會議錄原本ヲ添付スヘシ

第四條 代議員、議員、豫備議員及役員ヲ選舉セムトスル場合ハ期日十日前ニ左ノ事項ヲ知事ニ届出ツヘシ

一 日時、場所
二 選舉スヘキ代議員、豫備議員、役員ノ員數
三 選舉人ノ員數

タル舊齒科醫師會ハ前項ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第一項ノ協議ヲ爲サス又ハ協議調ハサル場合ニ於ケル財産處分方法ハ關係齒科醫師會ノ區域カ道府縣ヲ同シケル場合ニ於テハ地方長官、異ニスル場合ニ於テハ内務大臣之ヲ定ム

第三十條 齒科醫師會ハ本令ニ依リ主務官廳ノ爲シタル處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得訴願スル場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第三十一條 日本齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會解散セムトスルトキハ總會ノ議決ニ依リ、事由ヲ具シ主務官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ日本齒科醫師會ニ在リテハ道府縣齒科醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三十二條 日本齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

日本齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ主務官廳清算人ヲ選任ス清算人關ケタルトキ亦同シ

清算人ハ日本齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財産處分ニ付テハ主務官廳ニ届出ツベシ

主務官廳必要ト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ選舉終リタルトキハ選舉錄原本ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ五日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

第六條 齒科醫師會令第二十一條ニ基キ意見ヲ具申セムトスル場合ハ其ノ事由ヲ詳具シタル書類ニ總會ノ會議錄原本ヲ添付スヘシ

第七條 齒科醫師會令第二十二條ニ依リ懲戒ノ處分ヲ議決シタルトキハ左記各號ノ書類ニ總會ノ會議錄原本ヲ添付シ知事ニ報告スヘシ

一 被處分者ノ住所氏名
一 懲戒ノ事由種別及内容

第八條 齒科醫師會令第二十六條ノ規定ニ依リ豫算ノ届出ハ別表第一號、第二號ニ決算ノ届出ハ第三號、第四號ニ依リ決議又ハ承認後十日以内ニ會務狀況ノ届出ハ四月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第九條 齒科醫師會ニ於テ齒科醫業報酬ニ關スル事項ヲ決議シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

第十條 齒科醫師會令第二十六條ノ三ニ依リ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

一 借入金額
一 借入期間
一 利率
一 借入先
一 償還方法
一 擔保ノ有無及種別
一 借入ヲ要スル事由

第十一條 財産及營造物ヲ處分セントスル場合ハ其ノ處分方法ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 齒科醫師會總會ニハ當該官吏ヲ臨席セシムルコトアルヘシ

第十三條 齒科醫師會ハ齒科醫師會令又ハ本則ニ由リ認可若ハ届出ヲ要スルモノヲ除ク外總會ノ狀況及議決シタル事項ハ十日以内ニ知事ニ報告ス

ヲ組織スルコトヲ得

第十四條 日本藥劑師會ノ總會ハ道府縣藥劑師會カ其ノ會員中ヨリ選舉シタル日本藥劑師會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ議員故障アルトキハ道府縣藥劑師會カ其ノ會員中ヨリ選舉シタル日本藥劑師會豫備議員日本藥劑師會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ選舉スヘキ議員ノ數ハ第七條第五項ノ委員ノ數ノ例ニ依ル但シ日本藥劑師會則ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十五條 藥劑師會ノ總會ニ於テ左ニ掲ケル事項ヲ議決スル場合ニ於テハ其ノ會員、代議員又ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 會則變更ノ議決

二 第二十二條又ハ第二十三條第一項ノ議決

三 第二十八條第三項ノ議決

四 第三十一條ノ議決

第六條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス

第十六條 藥劑師會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會長 一人

副會長 一人又ハ二人

前項ノ外會則ノ定ムル所ニ依リ必要ナル役員ヲ置クコトヲ得

第十七條 道府縣藥劑師會ノ役員ハ其ノ會員中ヨリ、日本藥劑師會ノ役員ハ道府縣藥劑師會ノ會員中ヨリ各其ノ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第一回總會ニ於テ前項ノ役員ノ選任アル迄藥劑師會ハ會則ヲ以テ假役員ヲ定メ會務ヲ處理セシムルコトヲ得

〔山梨管〕

第一項ノ規定ニ依リ役員ヲ選舉シタルトキハ速ニ其ノ氏名ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ

第十八條 會長ハ會務ヲ總理シ藥劑師會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長故障アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

會長及會長ノ職務ヲ代理スル者故障アルトキハ主務官廳ハ道府縣藥劑師會ニ在リテハ其ノ會員中ヨリ、日本藥劑師會ニ在リテハ道府縣藥劑師會ノ會員中ヨリ假役員ヲ定メ臨時會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十九條 藥劑師會ニ於テ議決シ又ハ施行シ得ル事項左ノ如シ

一 法令又ハ會則ニ規定スル事項

二 藥事衛生ニ關シ行政廳ヨリ諮問セラレタル事項

三 藥事衛生ニ關シ行政廳ニ建議スル事項

四 藥事衛生ノ研究及施設ニ關スル事項

五 施藥ニ關スル事項

第二十條 主務官廳ハ藥事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ藥劑師會ニ命スルコトヲ得

第二十一條 藥劑師會ノ經費及藥劑師會設立ニ關スル經費ハ其ノ會員ノ負擔トス

第二十二條 道府縣藥劑師會ハ其ノ會員中藥劑師法第三條第二號若ハ第三號ニ該當スル者アリ又ハ同法第十六條第二項ノ規定ニ依リ免許取消若ハ業務停止ノ處分ヲ必要トスル者アリト認ムルトキハ總會ノ議決ニ依リ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得

藥劑師法第十六條第三項ノ規定ニ依リ再免許ヲ爲スヲ適當トスル者アリト認ムルトキ亦同シ

第二十三條 道府縣藥劑師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ニ依リ左ノ各號ノ一ニ掲ケル懲戒ヲ行フコトヲ得但シ特別ノ事由

〔山梨管〕

アルトキハ之ヲ併セ行フコトヲ妨ケス

一 誣責

二 五百圓以下ノ過怠金

三 三年以内議員、豫備議員及役員ノ選舉權及被選舉權並代議員ノ被選舉權ノ停止

代議員、議員、豫備議員又ハ役員タル者前項第三號ノ規定ニ依リ被選舉權ヲ停止セラレタルトキハ解任セラレタルモノトス

第二十四條 藥劑師會ノ會則及議決ハ其ノ會員ヲ羈束ス

第二十五條 主務官廳ハ藥劑師會ノ議決若ハ選舉又ハ其ノ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命スルコトヲ得

内務大臣ハ日本藥劑師會ノ議決又ハ其ノ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其解散ヲ命スルコトヲ得

主務官廳ハ藥劑師會ノ役員又ハ假役員ノ行為カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ三年間藥劑師會ノ役員ト爲ルコトヲ得ス

第二十六條 藥劑師法第十六條第二項ノ規定ニ依リ業務ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止中藥劑師會ノ總會ニ出席シ若ハ總會ニ於ケル表決權ヲ行ヒ又ハ藥劑師會ノ役員タルコトヲ得ス

第二十七條 藥劑師會ハ主務官廳ノ定ムル所ニ依リ毎年度ノ豫算、決算及會務ノ狀況ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ

第二十八條 道府縣ノ廢置分合ニ依リ道府縣藥劑師會ノ區域ニ變更ヲ生シ

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

第七編 衛生 第九章 醫師齒科醫師藥劑師

ニ在ラス
前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ内務大臣清算人ヲ選任ス清算人關ケタルトキ亦同シ
清算人ハ日本藥劑師會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
清算方法及財産處分ニ付テハ内務大臣ニ届出ヅベシ
内務大臣必要ト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得
第三十三條 本令ニ於テ主務官廳トアルハ道府縣藥劑師會ニ在リテハ地方長官、日本藥劑師會ニ在リテハ内務大臣トス

附則
本令ハ藥劑師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十五年三月二十日ヨリ施行)
本令施行ノ際現ニ存スル藥劑師會ニ對シテハ本令施行ノ日ヨリ六月間第二條ノ規定ヲ適用セス

●藥劑師會令施行細則

大正十五年七月十二日
山梨縣令第七號

藥劑師會令施行細則左ノ通定ム
藥劑師會令施行細則
第一條 藥劑師會ノ設立認可申請書ニハ會則案ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ
一、設立總會ノ會議錄謄本
二、會員ノ住所、氏名及總會ニ出席シタル會員ノ氏名ヲ記載シタル書類
第二條 藥劑師會ハ成立後五日以内ニ事務所ノ位置ヲ知事ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタル場合亦同シ

〔山梨警〕

第三條 藥劑師會總會ヲ開會セムトスルトキハ七日前ニ其ノ日時、場所及議案ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ
緊急ニ依リ前項期間内ニ届出ツルコト能ハサル場合ハ其ノ決定ト同時ニ之ヲ爲スヘシ
第四條 藥劑師會令第十二條ノ規定ニ依ル會則變更ノ認可申請書ニハ會議錄謄本ヲ添付スヘシ
第五條 代議員、議員、豫備議員及役員ヲ選舉セムトスル場合ハ期日十日前ニ左ノ事項ヲ知事ニ届出ツヘシ
一、日時、場所
二、選舉スヘキ代議員、議員、豫備議員、役員ノ員數
三、選舉人ノ員數
前項ノ選舉終リタルトキハ選舉錄謄本ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ五日以内ニ知事ニ届出ツヘシ
第六條 藥劑師會令第二十二條ニ基キ意見ヲ具申セムトスル場合ハ其ノ事由ヲ詳具シタル書類ニ會議錄謄本ヲ添付スヘシ
第七條 藥劑師會令第二十三條ニ依リ懲戒處分ヲ議決シタルトキハ左記各號ノ書類ニ總會ノ會議錄謄本ヲ添付シ知事ニ報告スヘシ
一、被處分者ノ住所氏名
二、懲戒ノ事由種別及其ノ内容
第八條 藥劑師會令第二十七條ノ規定ニ依ル豫算ノ届出ハ別表第一號第二號ニ決算ノ届出ハ第三號、第四號ニ依リ決議又ハ承認後十日以内ニ會務狀況ノ届出ハ四月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ
第九條 會員ニ對シ業務ニ關スル規定ヲ設ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
第十條 財産及營造物ヲ處分セントスル場合ハ其ノ處分方法ヲ詳具シ知事

〔山梨警〕

ノ認可ヲ受クヘシ
第十一條 藥劑師會總會ニハ當該官吏ヲ臨席セシムルコトアルヘシ
第十二條 藥劑師會ハ藥劑師會令又ハ本則ニ依リ認可若ハ届出ヲ要スルモノヲ除ク外總會ノ狀況及議決シタル事項ハ十日以内ニ知事ニ報告スヘシ
別表

(第一號)

大正 年度(何々)藥劑師會收入豫算書

科	目	本年度		前年度	比	備考
		豫算高	豫算高			
計						

(第二號)

大正 年度(何々)藥劑師會支出豫算書

科	目	本年度		前年度	比	備考
		豫算高	豫算高			
計						

(第三號)

大正 年度(何々)藥劑師會收入決算書

科	目	決算高		豫算高		比	備考
		増	減	増	減		
計							

(第四號)

大正 年度(何々)藥劑師會支出決算書

科	目	決算高		豫算高		比	備考
		増	減	増	減		
計							

●入齒拔齒口中治療接骨等ニ關スル件

明治十八年三月二十三日
內務省達甲第七號

入齒拔齒口中治療接骨等營業ノ者ハ明治十六年十月第三十四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來之營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相違候事但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本文之手續ヲ爲スニ及ハス

●入齒拔齒口中治療接骨營業取締

規則

明治十八年七月
甲第六四號布達

- 第一條 入齒拔齒口中治療接骨ハ從前營業ノ者ニ限リ今後尙ホ此規則ニ從テ營業スルコトヲ許スヘシ但シ以後新規營業ヲ許サス
- 第二條 前條營業ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ從前營業ノ履歴ヲ具シ縣廳ヘ願出免許證札ヲ受ケ營業ノ爲メ居宅ヲ出ツルトキハ之ヲ携帶スヘシ廢業又ハ他府縣ヘ移轉シタルトキハ十日以内ニ證札ヲ返納スヘシ但本人死亡シタルトキハ其家人若クハ親族ノ者ヨリ返納スヘシ
- 第三條 免許證札ハ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸與スルコトヲ得ス
- 第四條 水火盜難又ハ過誤ニ依リ證札ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ十日以内ニ更ニ證札ノ下付ヲ請フヘシ
- 轉住又ハ改姓名等ニ依リ證札面ニ變更ヲ生シタルトキハ十日以内ニ證札書換ヲ請フヘシ但シ寄留ハ書換ヲ要セスト雖モ寄留後十日以内ニ縣廳ヘ届出ツヘシ
- 第五條 他府縣ニ於テ免許ヲ得タル者當縣下ヘ移轉シテ尙ホ其ノ營業ヲ爲サントスルトキハ原管轄ノ證明書ヲ添ヘ當廳ニ願出免許證札ヲ受ケヘシ
- 第六條 施術上如何ナル場合ト雖モ受療者ニ内服藥ヲ與フルコトヲ許サス且外用藥ト雖モ明治二十二年內務省令第五號ニ掲クル毒劇藥ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第七條 左ノ各號ニ該當スルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ
 - 一 本則ニ違背シタルトキ
 - 一 業務上ニ不正ノ行爲アリ必要ト認メタルトキ
- 第八條 此ノ規則ニ依リ縣廳ヘ差出ス願届書ハ總テ所轄警察官署ヲ經由ス

〔山梨警〕

第九條 本則第二條乃至第六條ニ違背シタル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

附則

本則第二條ニ依リ營業免許ヲ得ント欲スルモノハ本年九月三十日迄ニ管轄郡役所ヲ經テ願出ヘシ此期日ヲ過グルトキハ一切之ヲ免許セス

●醫術假開業免狀下付願取扱手續

明治三十四年九月
衛第一六三三號

- 一 市町村長ニ於テ醫術假開業免狀下付願ヲ受理シタル時ハ左ノ各項ヲ調査シ進達セラルヘシ但シ必要ナシト認メタルトキハ單ニ其意見ヲ具シ進達セラルヘシ
- 一 開業セントスル區域地ノ郡村名一圖又ハ何村何組
- 二 同上區域内ノ戶數人口
- 三 同上區域内ノ廣狹東西何里何丁南北何里何丁
- 四 近傍開業醫師アル村落ニ至ル道路ノ種類交通上ノ險易及里程
- 五 出願者ハ斯業ニ相當經驗アリテ危險ノ虞ナキモノナルヤ否ヤ
- 六 開業セントスル地域内ノ人民ハ常ニ如何ナル方法ニ依リ治病シヤトシヤ及其重ナル病症ノ種類員數
- 七 同上地域内ノ人民ハ醫師ノ移住ヲ希望スルヤ否ヤ
- 八 同上區域内ノ山間僻處ノ地ニシテ到底本免狀ヲ有スル醫師移住ノ目途ナク萬止ムヲ得サル場所ナルヤ否
- 九 同上區域内ニ於ケル最近年内出死亡者ノ員數
- 二 醫術假開業免狀下付セラレタル者ヨリ其開業區域ノ變更ヲ出願シタルヘシ

〔山梨警〕

- ルトキハ其理由並ニ前號各項ノ事實ヲ調査進達セラルヘシ
- 獸醫蹄鐵工假開業免狀下付願取扱手續
- 一 市町村長ニ於テ獸醫又ハ蹄鐵工假開業免狀下付願書ヲ受理シタル時ハ左ノ各項ヲ調査進達セラルヘシ
 - 一 開業セントスル區域地ノ郡村名一圖又ハ何村何組
 - 二 同上區域内ノ地勢及道路險易ノ狀況
 - 三 同上區域内ノ廣狹東西何里何丁南北何里何丁
 - 四 同上區域内ノ牛馬頭數馬何頭牛何頭
 - 五 出願者ハ斯業ニ相當ノ經驗ヲ有スルモノナルヤ否
 - 六 營業年限
 - 二 獸醫又ハ蹄鐵工假開業免狀下付セラレタル者ヨリ其開業區域ノ變更ヲ出願シタルトキハ其理由並前號各項ノ事實ヲ調査進達セラルヘシ

第十章 獸醫師蹄鐵工

〔山梨警〕

●獸醫師法

大正十五年四月七日
法律第五十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル獸醫師法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

獸醫師法

第一條 獸醫師タラムトスル者ハ農林大臣ノ免許ヲ受ケ獸醫師名簿ニ登錄ヲ受クヘシ

獸醫師ノ免許ヲ受クルニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有スルコトヲ要ス

一 大學令ニ依ル大學ニ於テ獸醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者、東京帝國大學農學部獸醫學科ヲ卒業シタル者又ハ官立公立ノ專門學校若ハ文部大臣力之ト同等以上ト認メ指定シタル學校ニ於テ獸醫學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二 獸醫師試驗ニ合格シタル者

三 外國ノ獸醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ獸醫師ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

第一項ノ登錄及前項第二號ノ獸醫師試驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 農林大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ獸醫師ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 未成年者、禁治産者又ハ準禁治産者

三 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者

第三條 農林大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ獸醫師ノ免許ヲ

爲ササルコトヲ得

一 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

二 獸醫事ニ關シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ不正ノ行爲アリタル者

第四條 獸醫師ニ非サレハ家畜ノ疾病ニ關スル診察又ハ治療ヲ業務ト爲スコトヲ得ス

前項ノ家畜ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 獸醫師ハ自ら診察セスシテ診斷書ヲ交付シ又ハ檢案セスシテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診療中斃死シタル場合ニ交付スル斃死診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條 開業ノ獸醫師ハ診察又ハ治療ノ需アル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

獸醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書、檢案書又ハ死産證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 獸醫師ハ診療簿ヲ備ヘ三年間之ヲ保存スヘシ

第八條 獸醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位、稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 獸醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣獸醫師會ヲ設立スヘシ、道府縣獸醫師會ハ日本獸醫師會ヲ設立スルコトヲ得

道府縣獸醫師會ハ日本獸醫師會ノ會員トス

道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ獸醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

道府縣獸醫師會ハ道府縣ヲ、日本獸醫師會ハ内地ヲ區域トス

第十條 道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ノ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

- 第十一條 本法ニ規定スルモノノ外道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十二條 獸醫師第二條各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ
- 獸醫師第三條各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得
- 前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第二號又ハ第三號ノ原因止ミタルトキ又ハ改換ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ爲スコトヲ得
- 農林大臣第二項ノ處分ヲ行フ場合及改換ノ情顯著ナル者ニ對シ前項ノ再免許ヲ爲ス場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス
- 第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 - 一 第四條ノ規定ニ違反シタル者
 - 二 業務停止中ノ獸醫師ニシテ其ノ業務ヲ爲シタル者
 - 三 第五條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者
- 第十四條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和二年四月勅令第七十二號ヲ以テ同年同月十日ヨリ施行)

獸醫免許規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前獸醫免許ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ獸醫師ノ免許ヲ受ケ獸醫師名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ未成年者タルノ故ヲ以テ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得ス

本法施行前交付シタル獸醫假免狀ハ本法施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

〔山梨管〕

獸醫師法施行規則

昭和二年四月九日 農林省令第六號

- 獸醫師法施行規則左ノ通定ム
- 第一條 獸醫師ノ免許及登錄ヲ受ケムトスル者ハ獸醫師法第一條第二項又ハ附則第八項ノ資格、資格ヲ取得シタル年月及住所氏名ヲ記載シタル申請書ニ戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ提出スベシ
- 農林大臣免許ヲ爲シ獸醫師名簿ニ登錄シタルトキハ獸醫師免許證ヲ下付ス
- 第二條 獸醫師名簿ニ登錄スベキ事項左ノ如シ
 - 一 登錄番號及登錄年月日
 - 二 氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨
 - 三 獸醫師法第一條第二項又ハ附則第八項ノ資格及資格ヲ取得シタル年

〔山梨管〕

- 月
- 四 業務ノ停止、其ノ事由、期間及年月日
 - 五 免許證ノ再下付、其ノ事由及年月日
 - 六 登錄抹消ノ事由及年月日
 - 第三條 前條第二號ノ事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許證及戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添ヘ三十日以内ニ農林大臣ニ登錄ノ變更ヲ申請スベシ
 - 前條第三號ノ事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許證ヲ添ヘ農林大臣ニ登錄ノ變更ヲ申請スルコトヲ得
 - 前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス
 - 第四條 免許證ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ毀損ノ場合ニ於テハ其ノ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ農林大臣ニ再下付ヲ申請スベシ
 - 前項ノ規定ニ依リ免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料五十錢ヲ納付スベシ
 - 第一項ノ規定ニ依リ免許證ノ再下付ヲ申請シタル後亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ農林大臣ニ返納スベシ
 - 第五條 第一條又ハ前二條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スベシ
 - 既ニ納付シタル登錄稅又ハ手数料ハ之ヲ還付セズ
 - 第六條 獸醫師登錄ノ抹消ヲ受ケムトスルトキハ免許證ヲ添ヘ農林大臣ニ申請スベシ
 - 獸醫師死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戶籍法ニ依ル死亡又ハ失踪ノ届出義務者ニ於テ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スベシ
 - 第七條 獸醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ住所地ノ地方長官ニ届出ズベシ

- 前項ノ届出ヲ受ケタル地方長官前ノ住所地ノ地方長官ト異ナル場合ニ於テハ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スベシ
- 第八條 獸醫師開業シタルトキハ十日以内ニ其ノ診療所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ノ所在地ノ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ズベシ休業シ又ハ廢業シ若ハ診療治療ノ場所ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 前條第二項ノ規定ハ診療治療ノ場所ノ變更ノ届出アリタル場合ニ付之ヲ準用ス
- 第九條 獸醫師ハ診療簿ニ其ノ治療シタル患者ノ種類、性、年齢ノ明ナルモノハ其ノ年齢、名號アルモノハ其ノ名號、所有者又ハ管理者ノ住所氏名、病名及療法ヲ記載スベシ但シ其ノ不明ナルモノハ患者廢療ノ時其ノ旨ヲ記載スベシ
- 第十條 地方長官獸醫師法第十二條第一項及第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ必要ト認ムルトキハ農林大臣ニ具申スベシ
- 第十一條 獸醫師法第十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ農林大臣ニ返納スベシ
- 第十二條 獸醫師法第十二條第二項ノ規定ニ依リ業務ヲ停止セラレタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スベシ
- 前項ノ規定ニ依リ提出シタル免許證ハ業務停止期間滿了ノ後之ヲ還付スベシ
- 第十三條 左ニ掲グル場合ニ於テハ氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス
 - 一 獸醫師名簿ニ登錄シ又ハ登錄ヲ抹消シタルトキ
 - 二 免許取消又ハ業務停止ノ處分ヲ爲シタルトキ
- 第十四條 本則ニ依リ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ住所地ノ地方長官ヲ經由スベシ

第十五條 第九條、第十一條又ハ第十二條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十六條 第三條第一項、第四條第一項若ハ第三項、第六條第二項、第七條第一項又ハ第八條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ獸醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和二年四月十日)
本令施行ノ際現ニ開業セル獸醫師ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第八條第一項ノ届出ヲ爲スベシ
本令ハ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

●獸醫師法施行細則

昭和二年十一月七日
山梨縣令第五十七號

獸醫師法施行細則左ノ通定ム

獸醫師法施行細則

- 第一條 獸醫師法施行規則(以下單ニ施行規則ト稱ス)
第一條ノ申請書ニハ獸醫師法第二條及第三條ニ該當ノ有無ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ
- 第二條 施行規則第七條ノ届書ニハ左ノ各號ノ事項ヲ具スヘシ但シ縣内ニ於ケル變更ノ届書ニハ免許證寫ヲ省略スルコトヲ得
 - 一 原籍、族籍、住所、氏名、生年月日
 - 二 前住所在地
 - 三 免許證寫
- 四 官公署ニ奉職スル者ハ其ノ官公署名

〔山梨縣〕

第三條 施行規則又ハ本則ニ依リ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十四年山梨縣令第三十八號獸醫蹄鐵工開業試驗及免狀下付書換願届ニ關スル手續及明治三十四年山梨縣令第三十九號獸醫蹄鐵工開業及出張所設置並其ノ他異動届出規則中獸醫ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

●獸醫師法施行規則取扱手續

昭和二年十一月七日
山梨縣訓令甲第四十五號

警察部 警察署

獸醫師法施行規則取扱手續左ノ通定ム

獸醫師法施行規則取扱手續

- 第一條 獸醫師法施行規則(以下單ニ施行規則ト稱ス)第一條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ
 - 一 獸醫師法第一條各號ノ規定ノ資格ヲ證スル爲本證書ト對照シ正當ナルモノト認定シタルトキハ申請書餘白ニ資格證書對照濟ノ旨ヲ附記シ取扱者捺印スルコト
 - 二 獸醫師法第二條、第三條ニ該當スル者ナルトキハ當該事實ヲ詳記シ許否ニ關スル意見ヲ具シ進達スルコト
- 第二條 施行規則第三條第二項ノ申請アリタルトキハ其ノ變更ニ對スル新資格證書ト對照シ前條第一號ニ準シ取扱フヘシ
- 第三條 施行規則第一條、第三條、第四條第一項ノ申請書ニハ同則第五條

〔山梨縣〕

規定ノ收入印紙ヲ貼用シタルモノニ非サレハ進達スヘカラス

第四條 獸醫師法施行細則第二條ノ届書ヲ受理シタルトキハ免許證ト對照シ本手續第一條第一號ニ準シ取扱フヘシ

第五條 施行規則第十一條、第十二條ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ規定ノ期間内ニ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第六條 施行規則第一條ノ免許證交付ノ場合又ハ同則第七條第一項、第八條ノ届出アリタルトキハ左記様式ノ名簿ニ記載スヘシ

第七條 現ニ獸醫師免許證ヲ有スル者ハ前條ニ準シ名簿ニ記載スヘシ様式

獸醫師名簿

免許資格	登錄年月日	所住		族籍	氏名	年齢	年月日生	異動	記事
		籍原	所住						

● 獸醫師會令

昭和二年四月九日 勅令第七十五號

朕獸醫師會令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

獸醫師會令

第一條 本令ニ於テ獸醫師會ト稱スルハ道府縣獸醫師會又ハ日本獸醫師會ヲ謂フ

第二條 本令ニ依リ設立シタル獸醫師會ニ非ザレバ道府、府、縣若ハ日本ノ文字ヲ冠スル獸醫師會ノ名稱又ハ之ニ類スル名稱ヲ附スルコトヲ得ズ

第三條 公私立ノ診療所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ニ於テ診療又ハ治療ニ従事スル獸醫師ハ其ノ診療所、治療所又ハ出張所ノ所在地ヲ區域トスル道府縣獸醫師會ノ會員トス

前項以外ノ獸醫師ハ其ノ住所地ヲ區域トスル道府縣獸醫師會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第四條 道府縣獸醫師會ヲ設立セントスルトキハ會員ト爲ルベキ者五人以上設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ベシ

設立委員設立總會ヲ招集セントスルトキハ少クモ十四日前ニ會議ノ日時、場所及目的タル事項ヲ會員ト爲ルベキ者ニ通知スベシ

設立總會ニ於テハ第一回總會ニ於テ役員ノ選任アル迄獸醫師會ノ會務ヲ處理スル爲會員ト爲ルベキ者ノ中ヨリ假役員ヲ選任シ左ニ掲グル事項ヲ議決スベシ

〔山梨警〕

一 初年度經費ノ收支豫算

二 設立總會ニ於テハ會員ト爲ルベキ者半数以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

會員ト爲ルベキ者ハ豫メ書面ヲ以テ出席者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席シタル者ト看做ス

前條第二項ノ獸醫師ニシテ設立委員ニ對シ會員タラントスル意思ヲ表示シタル者ハ第二項乃至前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ會員ト爲ルベキ者ト看做ス

第五條 日本獸醫師會ヲ設立セントスルトキハ五人以上道府縣獸醫師會ノ會長設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ道府縣獸醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立總會ヲ開キ其ノ議決ヲ經ベシ

設立委員設立總會ヲ招集セントスルトキハ少クモ三十日前ニ會議ノ日時、場所及目的タル事項ヲ會員ト爲ルベキ者ニ通知スベシ

設立總會ニ於テハ第一回總會ニ於テ役員ノ選任アル迄獸醫師會ノ會務ヲ處理スル爲道府縣獸醫師會ノ委員中ヨリ假役員ヲ選任シ左ニ掲グル事項ヲ議決スベシ

一 初年度經費ノ收支豫算
二 設立總會ニ於テハ道府縣獸醫師會ガ其ノ會員中ヨリ選任シタル委員半数

以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

前條第五項ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス

第四項ノ委員ノ數ハ會員總數百人以内ノ道府縣獸醫師會ニ在リテハ一人、百人ヲ超エ二百人以内ノモノニ在リテハ二人トシ二百人ヲ超ユルモノニ在リテハ二百人又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ一人ヲ加フ

第六條 獸醫師會ノ設立總會ニ於テ會則案ヲ議決シタルトキハ設立委員ハ其ノ認可ヲ主務官廳ニ申請スベシ

獸醫師會ハ前項ノ認可アリタル時又ハ第八條ノ規定ニ依リ會則ノ設定アリタル時成立スルモノトス

第七條 獸醫師會成立シタルトキハ主務官廳ハ獸醫師會ノ名稱、區域、事務所ノ所在地及成立ノ年月日ヲ告示スベシ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第八條 地方長官ハ道府縣獸醫師會設立ノ義務ノ生ジタル時ヨリ六月以内ニ第四條第一項ノ規定ニ依リ議決ナキトキハ道府縣獸醫師會ノ會員ト爲ルベキ者ニ設立委員ヲ命ジ、會則ノ設定ヲ爲シ其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 獸醫師會ノ會則ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 名稱及區域
- 二 事業
- 三 事務所ノ所在地
- 四 役員ノ種類、數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
- 五 日本獸醫師會ニ在リテハ議員、豫備議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定
- 六 代議員ヲ設クル道府縣獸醫師會ニ在リテハ代議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定

七 總會其ノ他會議ニ關スル規定

八 經費ノ分賦徵收ニ關スル規定

九 財產及營造物ノ管理及處分ニ關スル規定

十 庶務及會計ニ關スル規定

第十一條 獸醫師會ノ會則ノ變更ハ總會ノ議決ニ依リ、主務官廳ノ認可ヲ受ケベシ

第十二條 道府縣獸醫師會ノ總會ハ其ノ會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十三條 道府縣獸醫師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選舉シタル代議員ヲ以テ組織スル總會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

道府縣獸醫師會ノ總會ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第十四條 日本獸醫師會ノ總會ハ道府縣獸醫師會ガ其ノ會員中ヨリ選任シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ議員故障アルトキハ道府縣獸醫師會ガ其ノ會員中ヨリ選任シタル豫備議員日本獸醫師會會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ選任スベキ議員ノ數ハ第五條第六項ノ委員ノ數ノ例ニ依ル但シ日本獸醫師會會則ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨グズ

第十四條 獸醫師會ノ總會ニ於テ左ニ掲グル事項ヲ議決スル場合ニ於テハ其ノ會員又ハ議員半数以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

一 會則變更ノ議決

二 第二十一條又ハ第二十二條第一項ノ議決

三 第二十六條第三項ノ議決

四 第二十九條ノ議決

第四條第五項ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス

第十五條 獸醫師會ニハ左ノ役員ヲ置ケベシ

會長 一人

副會長 一人又ハ二人

前項ノ役員ノ外會則ノ定ムル所ニ依リ必要ナル役員ヲ置クコトヲ得

第十六條 道府縣獸醫師會ノ役員ハ其ノ會員中ヨリ、日本獸醫師會ノ役員

ハ道府縣獸醫師會ノ會員中ヨリ各其ノ總會ニ於テ之ヲ選任スベシ

第十七條 會長ハ會務ヲ總理シ獸醫師會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長故障アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

會長及會長ノ職務ヲ代理スル者故障アルトキハ主務官廳ハ道府縣獸醫師

會ニ在リテハ其ノ會員中ヨリ、日本獸醫師會ニ在リテハ道府縣獸醫師會

ノ會員中ヨリ假役員ヲ定メ臨時會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十八條 獸醫師會ニ於テ議決シ又ハ施行シ得ル事項左ノ如シ

一 法令又ハ會則ニ規定スル事項

二 獸醫事衛生ニ關シ行政廳ヨリ諮問セラレタル事項

三 獸醫事衛生ニ關シ行政廳ニ建議スル事項

四 獸醫事衛生ノ研究及施設ニ關スル事項

五 救療ニ關スル事項

第十九條 主務官廳ハ獸醫事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ獸醫師會ニ命ズ

ルコトヲ得

第二十條 獸醫師會ノ經費及獸醫師會設立ニ關スル經費ハ其ノ會員ノ負擔

トス

第二十一條 道府縣獸醫師會ハ其ノ會員中獸醫師法第二條第二號若ハ第三

號ニ該當スル者アリ又ハ同法第十二條第二項ノ規定ニ依リ免許取消又ハ

業務停止ノ處分ヲ必要トスル者アリト認ムルトキハ總會ノ議決ニ依リ其

ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得獸醫師法第十二條第三項ノ規定ニ

依リ再免許ヲ爲スヲ適當トスル者アリト認ムルトキ亦同シ

第二十二條 道府縣獸醫師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ總會

ノ議決ニ依リ左ノ各號ノ一ニ掲グル懲戒ヲ行フコトヲ得但シ特別ノ事由

〔山梨縣〕

縣獸醫師會ノ會員タルベキ者ハ其ノ區域ニ依リ道府縣獸醫師會ヲ設立シ

タルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ假ニ會則ヲ定メ會員中ヨリ假役員ヲ選任

シ役員ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムベシ

第一項ノ規定ニ依リ設立シタル道府縣獸醫師會ハ會則ヲ議決シ其ノ認可

ヲ設立ノ時ヨリ二月以内ニ地方長官ニ申請スベシ

第二十七條 道府縣獸醫師會ノ區域ニ變更ヲ生ジタル爲メ財產處分ヲ要スル

トキハ關係道府縣獸醫師會ノ協議ニ依リ財產處分方法ヲ定メ農林大臣ニ

其ノ認可ヲ申請スベシ

道府縣獸醫師會ノ區域ニ變更ヲ生ジタル爲メ消滅シタル舊道府縣獸醫師會

ハ前項ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第一項ノ協議ヲ爲サズ又ハ協議調ハザル場合ニ於ケル財產處分方法ハ農

林大臣之ヲ定ム

第二十八條 獸醫師會本令ニ依リ主務官廳ノ爲シタル處分ニ不服アルトキ

ハ農林大臣ニ訴願スルコトヲ得訴願スル場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經ル

コトヲ要ス

第二十三條第三項ノ規定ニ依リ解任セラレタル役員又ハ假役員其ノ解任

ニ不服アルトキハ農林大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二十九條 日本獸醫師會解散セントスルトキハ總會ノ議決ニ依リ、道府

縣獸醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受ク

ベシ

第三十條 日本獸醫師會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍

存續スルモノト看做ス

日本獸醫師會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ

會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限

アルトキハ之ヲ併セ行フコトヲ妨ゲズ

一 譴責

二 三百圓以下ノ過怠金

三 三年以内議員、豫備議員及役員ノ選舉權及被選舉權並ニ代議員ノ被

選舉權ノ停止

代議員、議員、豫備議員、役員又ハ假役員タル者前項第三號ノ規定ニ依

リ被選舉權ヲ停止セラレタルトキハ解任セラレタルモノトス

第一項第三號ノ規定ニ依リ被選舉權ヲ停止セラレタル者ハ其ノ期間内假

役員ト爲ルコトヲ得ズ

第二十三條 主務官廳ハ獸醫師會ノ議決若ハ選舉又ハ其ノ施行スル事項ガ

法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ

議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命

ズルコトヲ得

農林大臣ハ日本獸醫師會ノ議決又ハ其ノ施行スル事項ガ法令若ハ會則ニ

違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ解散ヲ命ズルコ

トヲ得

主務官廳ハ獸醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行爲ガ法令若ハ會則ニ違反シ又

ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ三年間獸醫師會ノ役員又ハ假役員

ト爲ルコトヲ得ズ

第二十四條 獸醫師法第十二條第二項ノ規定ニ依リ業務ヲ停止セラレタル

者ハ其ノ停止中獸醫師會ノ總會ニ出席シ若ハ總會ニ於ケル議決權ヲ行ヒ

又ハ獸醫師會ノ役員若ハ假役員タルコトヲ得ズ

第二十五條 獸醫師會ハ主務官廳ノ定ムル所ニ依リ毎年度ノ豫算、決算及

會務ノ狀況ヲ主務官廳ニ報告スベシ

第二十六條 道府縣ノ廢置分合ニ因リ道府縣獸醫師會ノ區域ニ變更ヲ生ジ

タル爲メ道府縣獸醫師會存立セザル區域ヲ生ジタルトキハ其ノ區域ノ道府

ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ農林大臣清算人ヲ選任ス清算

人關ケタルトキ亦同シ

清算人ハ日本獸醫師會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス

權限ヲ有ス

清算方法及財產處分ニ付テハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

農林大臣必要ト認ムルトキハ清算方法及財產處分ノ變更ヲ命ジ又ハ清算

人ヲ解任スルコトヲ得

第三十一條 本令ニ於テ主務官廳トアルハ道府縣獸醫師會ニ在リテハ地方

長官、日本獸醫師會ニ在リテハ農林大臣トス

附則

本令ハ獸醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和二年四月十日)

本令施行ノ際現ニ存スル獸醫師ノ團體ニ對シテハ本令施行ノ日ヨリ六月

第二條ノ規定ヲ適用セズ

●獸醫師會令施行細則

昭和二年十一月七日 山梨縣令第五十六號

獸醫師會令施行細則

獸醫師會令施行細則

第一條 獸醫師會ノ設立認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 會則案

二 設立總會ノ會議錄謄本

三 會員ノ住所、氏名及總會ニ出席シタル會員ノ氏名ヲ記載シタル書類

- 第二條 獸醫師會ハ成立後五日以内ニ事務所ノ位置ヲ知事ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタル場合亦同シ
- 第三條 獸醫師會總會ヲ開催セムトスルトキハ七日前ニ其ノ日時、場所及議案ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ但シ緊急ニ依リ前項期間前ニ届出ツルコト能ハサル場合ハ其ノ決定後直ニ之ヲ爲スヘシ
- 第四條 獸醫師會令第十條ノ規定ニ依ル會則變更ノ認可申請書ニハ理由書及會議錄原本ヲ添付スヘシ
- 第五條 代議員、議員、豫備議員及役員ヲ選舉セムトスル場合ハ期日七日前ニ左ノ事項ヲ知事ニ届出ツヘシ
 - 一 日時、場所
 - 二 選舉スヘキ代議員、議員、豫備議員、役員ノ員數
 - 三 選舉人ノ員數
- 前項ノ選舉終リタルトキハ選舉錄原本ヲ添へ當選者ノ住所氏名ヲ五日以内ニ知事ニ届出ツヘシ
- 第六條 獸醫師會令第二十一條ニ基キ意見ヲ具申セムトスル場合ハ其ノ事由ヲ詳具シタル書類ニ會議錄原本ヲ添付スヘシ
- 第七條 獸醫師會令第二十二條ニ依リ懲戒處分ヲ議決シタルトキハ左記各號ノ書類ニ總會ノ會議錄原本ヲ添付シ知事ニ報告スヘシ
 - 一 被處分者住所氏名
 - 二 懲戒ノ事由、種別及其ノ内容
- 第八條 獸醫師會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル
- 第九條 獸醫師會令第二十五條ノ規定ニ依ル豫算ノ届出ハ別表第一號第二號ニ、決算ノ届出ハ第三號、第四號ニ依リ決議又ハ承認後十日以内ニ、會務狀況ノ届出ハ四月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ

〔山梨管〕

- 第十條 獸醫師會ニ於テ會員ニ對シ業務ニ關スル規程ヲ設ケタルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ
 - 第十一條 財産及營造物ヲ處分セムトスル場合ハ其ノ處分方法ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
 - 第十二條 獸醫師會總會ニハ當該官吏ヲ臨席セシムルコトアルヘシ
 - 第十三條 獸醫師會ハ獸醫師會令又ハ本則ニ依リ認可若ハ届出ヲ要スルモノヲ除ク外總會ノ狀況及議決シタル事項ハ十日以内ニ知事ニ報告スヘシ
- 附則
本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表 第一號

昭和 年度何々 獸醫師會收入豫算書

科 目	本年度		前年度		比 較	備 考
	豫算高	決算高	豫算高	決算高		
計						

第二號

昭和 年度何々 獸醫師會支出豫算書

科 目	本年度		前年度		比 較	備 考
	豫算高	決算高	豫算高	決算高		
計						

〔山梨管〕

蹄鐵工免許規則

- 第一條 蹄鐵工ハ農商務大臣ヨリ蹄鐵工免許受ケタル者ニ限ル
蹄鐵工トハ他人ノ依頼ニ應ジ蹄鐵ヲ裝シ又ハ蹄ヲ剪ルヲ以テ其ノ業ト爲ス者ヲ謂フ
- 第二條 蹄鐵工免許受ケルコトヲ得ル者左ノ如シ
 - 一 蹄鐵工免許試験ニ合格シ其及第證書ヲ有スル者
 - 一 官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校又ハ陸軍部内ニ於テ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
- 第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ蹄鐵工免許受ケント欲スルトキハ試験及第證書又ハ卒業證書若クハ獸醫學免狀ノ寫ヲ添へ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第四條 蹄鐵工免許受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ蹄鐵工籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ
- 第五條 蹄鐵工履業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ
- 第六條 蹄鐵工免許受ケル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手數料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ(登録稅法第八條ニ依リ(金壹圓)ヲ(金五圓)ニ改正)
- 第七條 蹄鐵工免許受ケ損亡失シ若クハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

蹄鐵工免許規則

明治二十三年四月五日 法律第三十一號

蹄鐵工免許規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第三號

昭和 年度何々 獸醫師會收入決算書

科 目	本年度		前年度		比 較	備 考
	決算高	豫算高	決算高	豫算高		
計						

第四號

昭和 年度何々 獸醫師會支出決算書

科 目	本年度		前年度		比 較	備 考
	決算高	豫算高	決算高	豫算高		
計						